

# 第 5 5 回

## 日本生態学会プログラム

会 期 2008年3月14日(金)～17日(月)  
会 場 福岡国際会議場

学会会長 矢原 徹一  
企画委員長 齊藤 隆

大会会長 巖佐 庸  
実行委員長 粕谷 英一



日本生態学会第55回大会(ESJ55)実行委員会

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部生物学教室

TEL: (092)642-2624 FAX: (092)642-2645

電子メール [taikai@mail.esj.ne.jp](mailto:taikai@mail.esj.ne.jp)

大会公式ホームページ <http://www.esj.ne.jp/meeting/55/>

## 目 次

### 第 55 回日本生態学会大会

● 大会日程概略	3
● 注意事項	4
● 大会会場への交通案内	9
● 会場案内図	1 0
● 大会日程一覧表	1 2
● 学会賞授賞式・受賞記念講演	1 4
● 公開講演会	1 5
● シンポジウム・フォーラム・企画集会・自由集会一覧	1 6
● シンポジウム	1 9
● フォーラム	2 9
● 企画集会	3 1
● 一般講演（口頭発表）	4 6
● ポスター発表	6 0
● 自由集会	8 4
● 参加登録者一覧	9 4

第 56 回日本生態学会大会（2009 年 3 月 盛岡）のご案内	1 1 0
-----------------------------------	-------

# 大会日程概略

## 各種委員会 3月14日(金)

外来種検討作業部会	10:00~12:00	Room G(4階)
生態系管理専門委員会	10:00~12:00	Room H(サンパレス2階)
将来計画専門委員会	10:00~12:00	Room I(サンパレス2階)
自然保護専門委員会	12:15~16:00	Room F(4階)
保全生態学研究刊行協議会	12:15~13:45	Room G(4階)
大会企画委員会	12:15~13:45	Room H(サンパレス2階)
大規模長期生態学専門委員会	12:15~13:45	Room I(サンパレス2階)
日本生態学会誌刊行協議会	14:00~16:00	Room G(4階)
Ecological Research 刊行協議会	14:00~16:00	Room H(サンパレス2階)
生態学教育専門委員会	14:00~16:00	Room I(サンパレス2階)
全国委員会	16:15~20:30	Room I(サンパレス2階)

## 受賞講演・総会 3月16日(日) 8:30~12:30 メインホール(3階、Room M) 13:00~14:00 Room A(5階)

生態学会功労賞/生態学会宮地賞/生態学会大島賞/ER 論文賞授賞式  
生態学会功労賞受賞者挨拶  
生態学会宮地賞受賞記念講演および生態学会大島賞受賞記念講演  
総会

## 公開講演会 3月16日(日) 13:00~17:00 メインホール(3階、Room M)

日本生態学会第11回公開講演会  
「エコロジー入門：森の不思議を解き明かす」

## 一般講演・シンポジウム・フォーラム・企画集会・自由集会

シンポジウム	3月15日(土)、17日(月)
フォーラム	3月15日(土)、16日(日)
企画集会	3月14日(金)、15日(土)、16日(日)
自由集会	3月14日(金)、16日(日)
一般講演(口頭発表)	3月15日(土)、17日(月)
一般講演(ポスター発表)	3月15日(土)、16日(日)、17日(月)

## 懇親会 3月17日(月) 18:00~20:00 福岡国際センター

「エコカップ2008福岡大会」のご案内  
生態学会に合わせて開催されてきた親善フットサル大会(5人制のミニサッカー)を、3月18日(火)に開催します。会場はホークスタウンフットサルスタジアム(福岡市、予定)です。詳しくは、エコカップ・ホームページ(大会公式ホームページからのリンクをご利用ください)をご覧ください。

## 注意事項

- 受付
- 3月14日(金)12時から受付を開始します。
- 受付は国際会議場1階エントランスホールで行います。
- 会場では必ず名札を付けてください。
- シンポジウムならびに一般講演が始まる3月15日(土)朝は受付の混雑が予想されます。当日受付の方はお早めにお越しになることをお勧めします。3月15日~17日は、朝8時から受付を始めます。
- ウェブでの参加申込みは <http://www.esj.ne.jp/meeting/55/> で引き続き受け付けています。当日受付(一般9,000円、学生6,000円)も可能ですが、できる限り事前の申込みと振込をお願いします。なお、2月23日(土)以降に振り込まれた方は、必ず“郵便振込の受領書”をご持参ください。
- Room H および Room I は国際会議場のすぐ隣にある福岡サンパレス2階にあります。ほかのすべての講演会場、委員会会場は国際会議場にあります。サンパレス2階と国際会議場の2階は渡り廊下でつながっています。
- 一般講演(口頭発表)
- 口頭発表は、すべて会場備え付けのパソコン(OSはWindowsXP)と液晶プロジェクター(解像度1024×768)を使用したマイクロソフト・パワーポイント(Windows版PowerPoint2003で動作可能なファイル)あるいはPDFによる発表に限定させていただきます。コンピューターの持ち込み使用はできません。
- 発表用ファイルの作成方法:上記の使用機器類及び「事前にお送りいただいた発表用ファイルを各会場のパソコンのハードディスクにあらかじめインストールしておく」ことをふまえ、発表用ファイルを準備される際は以下の点にご注意下さい。
  1. パワーポイントファイルはWindows版PowerPoint2003で動作可能なこと。標準的なフォントを使用し、アニメーションを設定しないこと。なお、Mac OSで作成した場合、必ずWindowsファイルに変換し、各自Windows機で動作確認をしてください。
  2. PowerPoint2007などでファイルを作成する場合は、ファイルの保存時にファイルの種類として「PowerPoint プレゼンテーション(\*.pptx)」ではなく「PowerPoint97-2003 プレゼンテーション(\*.ppt)」を選択して、\*.ppt形式のファイルを準備してください。
  3. パワーポイントあるいはPDFファイルはファイルサイズができるだけ小さいこと(上限5MB、推奨2MB以下/写真を多用される方は液晶プロジェクターの解像度(1024×768)を考慮して必要最小限の解像度に変更してから使用)。
- 提出期限:2008年3月4日(火)17:00です。大会公式ホームページにて登録してください。各自のファイル名は自動で作成されます。期限までに発表用ファイルが登録されない場合には、“発表ができません”のでご注意ください。なお、パソコンと液晶プロジェクターを使用しないで発表される場合は、同期日までに電子メールで、その旨を [taikai@mail.esj.ne.jp](mailto:taikai@mail.esj.ne.jp) にご連絡下さい。



- 講演時間は、発表 12 分、質疑応答 3 分の合計 15 分です。一鈴 10 分、二鈴 12 分、三鈴 14 分 30 秒です。時間は厳守して下さい。
- パソコンの操作は、最初のスライドを表示するところまではオペレーター（会場係）が行います。その後の操作（スライドの進行）は、講演者自身で行うことも、会場のオペレーター（会場係）に指示することも可能です。
- 座長：各講演者が次の講演の座長をしてください。最初の座長は、大会実行委員会で対応します。

- 一般講演（ポスター発表）

- ポスター会場（2 階、多目的ホール、Room P）は 8 時から利用可能です。ポスターは、15 日発表分については当日の 8 時から 10 時まで、16 日と 17 日発表分については発表前日 17 時 30 分（ただし会場は 20 時には施錠されます）から当日 10 時までに展示を完了し、当日 17 時 30 分までに撤去してください。ポスター賞に応募している方は、できるだけ前日もしくは当日の 9 時までに掲示してください。
- 展示場所は、「ポスター発表案内デスク」（ポスター会場前のロビーに設置）付近の展示ボードに講演番号で指示されています。わからない場合は案内デスクにてお問い合わせください。
- ポスター展示ボードの大きさは 90cm×210cm（縦長）です。
- ポスター貼り付け用のピンや画鋏は各自でご用意下さい。セロハンテープは使用できません。
- ポスター発表のコア・タイムは、日によって異なります。3 月 15 日が 12:15～13:45、16 日が 14:00～15:30、17 日が 12:15～13:45 です。この時間帯に発表者はポスターの前で説明をしてください。
- ポスター賞の対象となる発表には、ボードに応募を示す表示が貼り付けてあります。ポスター賞に応募しているにもかかわらず表示がない場合にはすぐに「ポスター発表案内デスク」（ポスター会場前のロビーに設置）に連絡ください。
- ポスター賞の発表、表彰は 16 時から 17 時にポスター会場の案内デスクで行います。応募された方はこの時間においでください。「最優秀賞」受賞ポスターは特設掲示板（ポスター会場前のロビーに設置）に特別展示されます。受賞者の方は展示の移動にご協力ください。

- ポスター賞に応募された皆さんへ

日本生態学会は、若手研究者を奨励するために、優秀なポスター発表に賞を贈ります。ポスター賞は新潟大会以降、生態学会大会企画委員会が中心となって運営されています。大会実行委員会ではなく、日本生態学会が公認した表彰となったことをご承知おきください。

ポスター賞の運営方法の要点は下記の通りです。以下の点に注意して発表ポスターを準備ください。

### 1. 選考および受賞の単位

分野ごとに審査を行い、各分野で「最優秀賞」（1 名；“該当者なし”もある）および「優秀賞」（1、2 名）を選出します。

### 2. 分野

原則としてプログラムに記載されている分野ごとに審査されますが、応募数の非常に少ない分野の発表については、発表申し込み時に登録していただいた第 2 希望分野と合わせて審査される

こともあります。また、応募数が少ない分野では、「最優秀賞」(あるいは「優秀賞」)だけとなることもあります。

### 3. 展示時間と発表時間

一般のポスターを掲示する時間は、15日発表分については当日の8時から10時まで、16日と17日発表分については前日の17時30分から当日10時までですが、審査を迅速に進めるためにポスター賞対象ポスターはできるだけ前日の17時30分から20時の間(16、17日発表分)または発表日の9時までに展示してください。また、発表者はコア・タイムには必ずポスターのそばにいて、質問などに対応してください。この2点は審査上必須の条件です。守っていただけない場合は審査対象外となりますので、十分に注意ください。

### 4. 審査の要点

以下のような観点から審査されますので、十分に理解して準備ください。

#### < 第1段階審査 >

##### (A) 短時間でポスター発表の魅力を伝える能力

ポスター発表の重要な特徴のひとつに、数多くある発表の中から「選んでもらえる」(見てもらえる、説明を聞いてもらえる)能力が問われることがあります。参加者に足を止めてもらえなければポスター発表は始まりません。「選んでもらう」ためには、良いタイトル、良い要旨は不可欠ですし、視線を引きつける工夫も必要でしょう。また、短時間でおおまかな内容を伝える「わかりやすさ」も重要でしょう。第1次審査では限られた時間内で聴衆をキャッチする能力が問われます。「キャッチ能力」に優れた発表だけが第2段階審査の対象となります。

#### < 第2段階審査 >

第2段階では発表技術点、研究の質にわけて審査されます。

##### (B) 発表技術 は、

(ポスターを見て)

(1) 字・図表が遠くからでもわかる、(2) 情報過多でない、(3) 説明なしでも要点が理解できる、(4) 話の流れ(文章構造・論理展開)

(説明を聞いて)

(5) 説明がわかりやすい、(6) 説明時間が適度、(7) 質問への応答が端的かつ的確、(8) 聴衆全体に対する気配り、

について審査されます。

##### (C) 研究の質 は、

(1) 新規性・独創性、(2) データの質・量、(3) 解析方法の妥当性、(4) 議論・結論の妥当性、

について審査されます。

第1段階審査に発表者は立ち会う必要はありません。審査員の方に余裕をもって審査していただくために、展示開始時間を早めました。第1段階審査で絞り込まれた発表は(B)と(C)について

評価されます。第2段階審査はコア・タイムを中心に行われます。この時間には必ずポスターのそばにいてください。この時間外にもポスターのそばにいてくださることは審査員の方に余裕をもって審査いただけるので歓迎します。(B)、(C)の合計点に基づき、分野ごとに「最優秀賞」および「優秀賞」を選出します。

- シンポジウム・フォーラム

- 設定された時間内に終了するように進行をお願いします。時間延長はできません。
- シンポジウム・フォーラムの発表には液晶プロジェクターが使用できます。液晶プロジェクターに接続するコンピューターおよび発表用ファイルは、シンポジウム企画者の責任で準備してください。

- 企画集会・自由集会

- 設定された時間内に終了するように進行をお願いします。時間延長はできません。
- 企画・自由集会で使用できる機器は、液晶プロジェクターのみです。液晶プロジェクターに接続するコンピューターおよび発表用ファイルは、集会代表者の責任で準備してください。
- 企画・自由集会には会場係がつきません。問題がありましたら大会本部までご連絡ください。
- 14日に開催の企画・自由集会に参加される方は、14日のうちに受付(14日12時~)をお済ませください。15日朝は受付の混雑が予想されますのでご協力御願います。

- 懇親会

- 懇親会は3月17日(月)18時から、福岡国際センターにて行います。大会会場から近い、徒歩約2分のところにあります。懇親会会場は、大相撲九州場所の会場としても使われる大きなホールです。
- 現在、大会参加の受付を継続していますが、大会開始時点において懇親会の定員に達していない場合のみ当日参加可能となります。早めの申し込みをお奨めします。

- 会場での飲食等

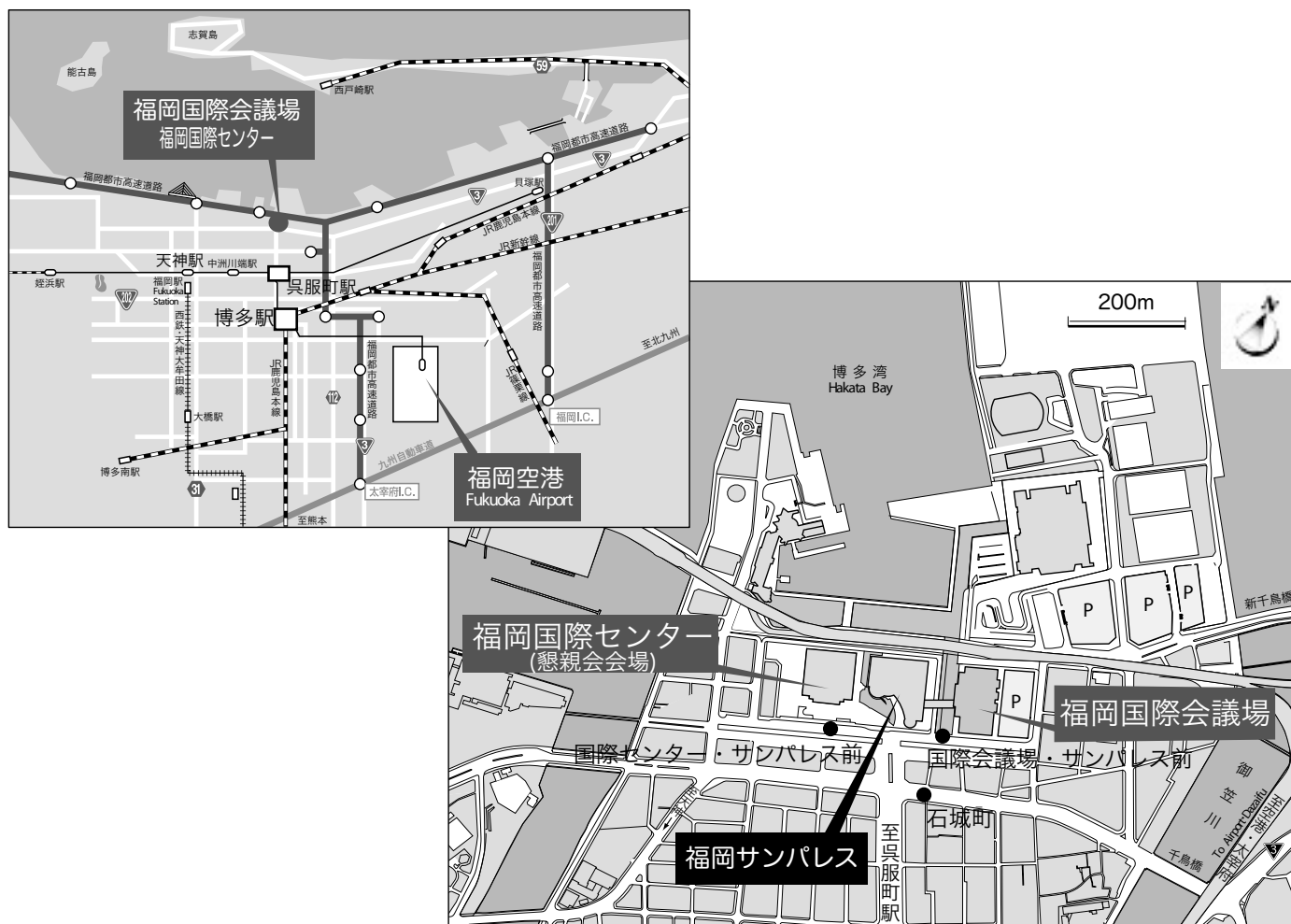
- 各階のロビーのスペースやポスター会場にはお茶などを用意します。
- 会場内には飲料などの自動販売機(各階)もあります。
- 会場近くでの食事ができる店の収容能力は非常に限られています。14日~17日の4日間、お弁当の販売を会場内で行う予定です。
- 会場は指定場所を除き全館禁煙となっています。喫煙は決められた場所をお願いします(1、2、4階に喫煙所があります)。

- 要旨集

- 大会に参加できない方で講演要旨集をご希望の方は、大会実行委員会にお申し込み下さい。一冊3,000円(送料込)で承ります。代金は郵便振替で、振替口座番号:01730-2-118970、口座名称:日本生態学会第55回大会実行委員会にお振り込みください。大会終了後に郵送します。

- 託児所の案内
- 大会参加者が同伴するお子さんの託児を行います。ただし、事前に申込みをされた方に限りません。
- 対象年齢は、生後 6 ヶ月から小学校 3 年生までです。
- 託児時間は原則として、3 月 14 日（金）～17 日（月）の 9 時から 17 時までです。
- 託児場所は、福岡国際会議場内（5 階 506 号室）に設けます。
- 申込みは電子メールで、[taikai@mail.esj.ne.jp](mailto:taikai@mail.esj.ne.jp) までお願いします。託児を希望されるお子さんの年齢（学年）・人数と託児希望日時をご連絡下さい。追って、同意書等の申込みに必要な書類と詳細な内容をご連絡します。申込みの〆切は、2 月 22 日（金）です。メールの表題は「託児所利用希望」とご入力下さい。
  
- 駐車場
- 自家用車でのご来場は一切できませんのでご注意ください。
  
- 会場までの交通及び宿泊
- 宿泊の予約については、以下の HP をご覧ください。  
<http://www.esj.ne.jp/meeting/55/circular/index.html#accommodation>

# 会場への交通案内



## 大会会場 福岡国際会議場

〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1 TEL:092-262-4111

## 懇親会会場 福岡国際センター

〒812-0021 博多区築港本町2-2 TEL:092-272-1111

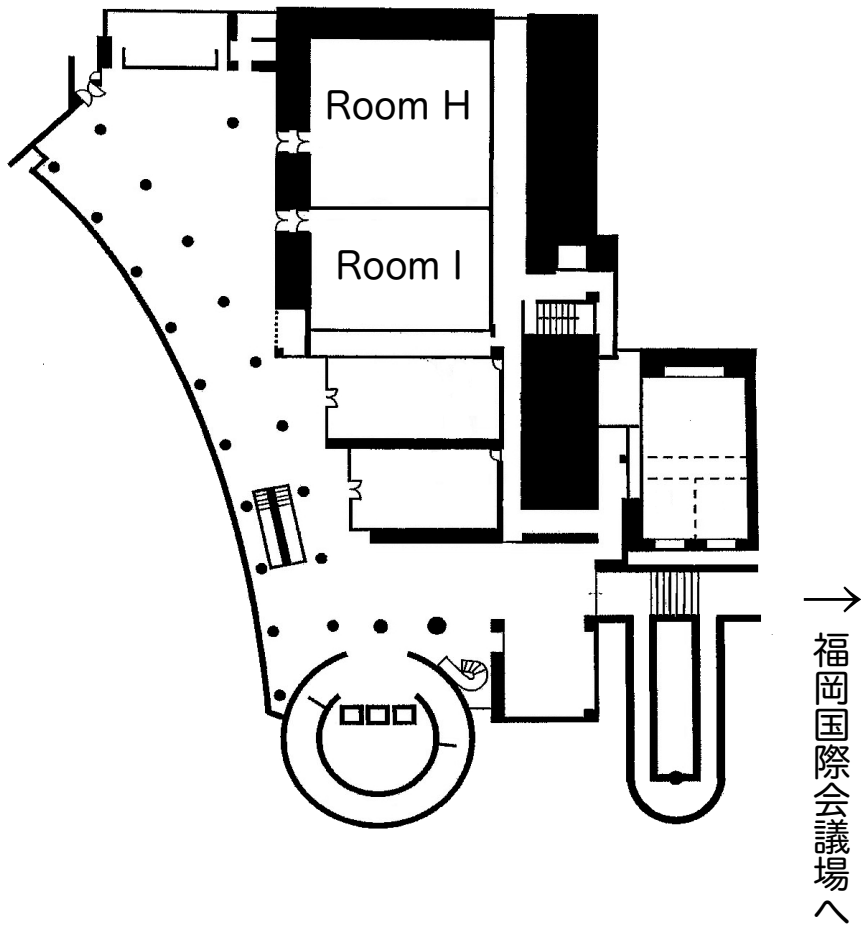
### 交通アクセス

- 福岡市営地下鉄 『呉服町』 3番出口より徒歩約15分
- にしていバス ※博多駅方面より：行先番号 11、19、47、48、50  
『国際センター・サンパレス前』下車すぐ  
※天神方面より：行先番号 80  
『国際会議場・サンパレス前』下車すぐ  
行先番号 21、25  
『石城町』下車 北へ約1分

\*会場までの詳しい交通案内についてはウェブサイトをご覧ください\*  
福岡国際会議場 <http://www.marinemesse.or.jp/kaigi/index.html>  
福岡市交通局 <http://subway.city.fukuoka.jp/index.html>  
にしていグループ <http://www.nishitetsu.co.jp/>

# 福岡サンパレス

福岡サンパレスホテル 2F





## 大会日程一覧表

3/14(FRI) ① 福岡国際会議場 ② サンパレス2階 ③ メインホール ④ 多目的ホール

			10:00-12:00	12:15-13:45	14:00-16:00	16:15-18:15	18:30-20:30	
①	5F	Room A			W01 外来種分布拡大予報	T01 メタ群集	W06 化学物質の生態影響	
	5F	Room B			W02 陸域生態系とリン制限	T02 植物生理生態企画集会	W07 Rプログラミングの基礎	
	4F	Room C			W03 農村計画	T03 博物館の生態学4	W08 外来植物の防除法	
	4F	Room D			W04 里の生物多様性インプリ	T04 DNAバーコーディング	W09 マルチスケール	
	4F	Room E			W05 溪流の生物と物質循環	T05 種間競争・繁殖干渉	W10 水辺植物フェノロジー	
	4F	Room F		自然保護			W11 カエルツボカビ	
	4F	Room G		外来種	保全誌	生態誌	W12 群落談話会・植生地理	
②	2F	Room H	生態系管理	大会企画	Ecological Research		W13 JapanFlux 熱帯林	
	2F	Room I	将来計画	大規模長期	生態学教育	全国委員会		
③	3F	Room M						
④	2F	Room P						

3/15(SAT) ① 福岡国際会議場 ② サンパレス2階 ③ メインホール ④ 多目的ホール

			08:30-11:30	12:15-13:45	14:00-17:30	18:00-20:00
①	5F	Room A	S01 ゲノム進化学と生態学		保全1	T06 個体ベースモデル
	5F	Room B	S02 Ecology and social sciences		植物生理生態・植物繁殖	T07 時と生殖隔離
	4F	Room C	S03 外来生物法		群落/植物個体群	T08 生物と生態系恒常性
	4F	Room D	S04 景観の生態学的修復		動物繁殖/動物個体群	T09 ベイズ入門
	4F	Room E	S05 森林水文学・生態学		動物群集1	T10 植生の分布と分化
	4F	Room F	S06 日本の半自然草原の再生		行動/社会生態	U01 生態学会の社会的役割
	4F	Room G	S07 南硫黄島の自然		English 1	U02 野外調査と安全
②	2F	Room H				
	2F	Room I				
③	3F	Room M				
④	2F	Room P	ポスター 1	ポスター 1 コアタイム	ポスター 1	ポスター 2



## 大会日程一覧表

3/16(SUN) ① 福岡国際会議場 ② サンプルス2階 ③ メインホール ④ 多目的ホール

			08:30-10:15	10:30-12:30	13:00-14:00	14:00-15:30	15:45-17:45	18:00-20:00
①	5F	Room A			受賞講演 2		T11 山岳生態系の環境応答	T16 侵入の分子生態学
	5F	Room B		W14 外来アリ			T12 安定同位体アプローチ	T17 生態学と経済学
	4F	Room C		W15 群集を形作る形質変化			T13 雑食	T18 マターロー
	4F	Room D		W16 長野県の狩猟			T14 現場からみたRDB	T19 材の解剖特性と水利用
	4F	Room E		W17 絶滅リスクと遺伝要因			T15 21世紀の熱帯林管理	T20 アグロエコロジー研究会
	4F	Room F		W18 性選択による種分化			U03 生態学実習書	U05 ネットワーク研究
	4F	Room G		W19 地形のスケール			U04 男女共同と若手支援	
②	2F	Room H						
	2F	Room I						
③	3F	Room M	総会・授賞式 受賞講演 1		公開講演会(13:00-17:00)			
④	2F	Room P	ポスター 2			ポスター 2 コアタイム	ポスター 2	ポスター 3

3/17(MON) ① 福岡国際会議場 ② サンプルス2階 ③ メインホール ④ 多目的ホール

			08:30-11:30	12:15-13:45	14:00-17:30	18:00-20:00
①	5F	Room A	S08 Phylogenetic community ecology		景観生態/保全2	懇親会 福岡国際センター
	5F	Room B	S09 野生動物の再導入		生態系管理	
	4F	Room C	S10 生態学と持続可能な農業		外来種	
	4F	Room D	S11 鳥獣害を考える		遷移・更新/動物生活史	
	4F	Room E	S12 Speciation		動物と植物の相互作用/動物群集2	
	4F	Room F	S13 交尾行動の新しい理解		分子/進化	
	4F	Room G	S14 Bamboo開花習性の進化		菌類/English2	
②	2F	Room H	S15 中山間地問題		物質生産/物質循環	
	2F	Room I			数理/古生態	
③	3F	Room M				
④	2F	Room P	ポスター 3	ポスター 3 コアタイム	ポスター 3	

●「功労賞」「宮地賞」「大島賞」「論文賞」授賞式・受賞記念講演

3月16日(日) 08:30より 福岡国際会議場 メインホール (Room M)  
13:00より 福岡国際会議場 Room A

第12回日本生態学会宮地賞受賞者・受賞記念講演演題

石井 博 (東京大学大学院農学生命科学研究科保全生態学研究室)  
「花の進化を花序の機能から読み解く」

鏡味麻衣子 (東邦大学理学部生命圏環境科学科)  
「ツボカビを考慮に入れた湖沼食物網動態の解析」

沓掛展之 (総合研究大学院大学先導科学研究科生命共生体進化学専攻)  
「哺乳類における社会行動の多様性とその進化生態学的基盤」

森田健太郎 (水産総合研究センター北海道区水産研究所)  
生息場所の分断化がイワナ(サケ科魚類)の個体群に与える効果

第1回日本生態学会大島賞受賞者・受賞記念講演演題

古賀庸憲 (和歌山大学教育学部)  
「干潟のカニ類に見られる代替交尾行動 そのコストと利益」

正木 隆 (森林総合研究所森林植生研究領域)  
「種子散布をめぐる植物 - 動物の相互作用とその年変動」

## 第11回 日本生態学会 公開講演会

平成19年度 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）補助事業

3月16日（日）13：00～17：00 福岡国際会議場 メインホール（Room M）

### 「エコロジー入門：森の不思議を解き明かす」

企画責任者：矢原徹一（九州大学）・公開講演会委員会

地球温暖化の原因のひとつが森林の減少であるという理解が国民の間に普及し、森づくり活動が活発に展開されている。また、身近な里山の減少に注目が集まり、里山の森を守る活動もさかんになっている。しかし、このような活動の中で、「森」に関する正確な知識は、必ずしも普及していないのが現状である。たとえば、世界各国で森林が減少している中で、日本だけは過去100年間、森林面積が減少していない。したがって、日本での森作り活動の課題は、単に面積を増やすことではなく、森の多面的な機能を高めることにあるだろう。この課題を達成するためには、森作り活動の主体となる市民が、森に関する豊かな知識を持つ必要がある。

このシンポジウムの目的は、森に関する生態学の研究成果をわかりやすく市民に伝えることにある。とくに、森が持つ「不思議さ」に焦点をあて、「森にはこんな不思議な生き物がいるのか」「森にはこんな不思議な機能があるのか」「森とはこんな不思議な世界だったのか」といった感動を市民に伝えたい。

森林生態学は、生態学の諸分野の中でも長い伝統を持ち、森に関する多くの「不思議」を解き明かしてきた。そして、わが国の森林生態学の研究水準は、世界でもトップレベルにある。この公開講演会を通じて、森林生態学の研究成果を少しでも広く、市民に伝えたい。

1) 中静 透（東北大生命科学）：「森は動いている」

2) 竹中明夫（国立環境研）：「木という生き方」

3) 熊谷朝臣（九大農演習林）：「森と水の関係」

4) 北山兼弘（京大生態研センター）：

「巨大な熱帯林を支える栄養 大きくなることのジレンマ」

休憩

5) 加藤 真（京大総合人間）：「森の4つの共生系」

6) 島田卓哉（森林総研東北支所）・齊藤 隆（北大FSC）：

「野ねずみとドングリの不思議な関係」

7) 鎌田直人（東大農学生命科学）：「生物間の相互作用と森の昆虫のダイナミクス」

8) 矢原徹一（九大理）：「森を再生する試み」

## ● シンポジウム・フォーラム・企画集会・自由集会 一覧

◎ 3/14 (FRI)

自由集会 (14:00-16:00)		Room
W01	外来生物の分布拡大予報	A
W02	第三弾：陸域生態系におけるリン制限仮説と生物の適応	B
W03	農村計画を知っている？～計画なくして農村の生物多様性は守れない！～	C
W04	里地・里山・里海の生物多様性インタープリテーション - 合意形成と環境整備 -	D
W05	溪流の物質循環と生物群集の動態を絡めて考える	E
企画集会 (16:15-18:15)		
T01	メタ群集研究における理論的・実証的アプローチ	A
T02	根がからむ水と栄養塩吸収の生理生態 ～地上部と地下部のネットワークのために～	B
T03	博物館の生態学4～たくさんの眼による地域モニタリング～	C
T04	DNA バーコーディングと生態学研究	D
T05	繁殖干渉が拓く種間競争の新たな世界 寄主選択から外来種のリスクまで	E
自由集会 (18:30-20:30)		
W06	化学物質の生態影響パート2：生態リスク評価の理想と現実	A
W07	データ解析で出会う統計的問題 -- R プログラミングの基礎	B
W08	蔓延しつつある外来植物をどのようにして抑制するか	C
W09	病原体と人間社会、生態系を結ぶマルチスケールデータベース構築に向けて	D
W10	フェノロジー研究会「水辺環境の季節性と植物のフェノロジー特性」	E
W11	カエルツボカビとカエルの未来	F
W12	植物群落からみたシカ食害問題（群落談話会・植生地理学の視点）	G
W13	JapanFlux/AsiaFlux 東南アジア熱帯林タワー観測ネットワーク	H

◎ 3/15 (SAT)

シンポジウム (8:30-11:30)		Room
S01	ゲノム進化学と生態学	A
S02	Interface between ecology and social sciences in global environmental change	B
S03	外来生物法の光と陰～制定5年後の見直しに向けて	C
S04	景観の生態学的修復と創造	D
S05	森林生態系の理解に向けて - 森林水文学・生態学からのアプローチ	E
S06	日本の半自然草原の再生に向けて - その成立と現状、そして再生に向けた各地での取り組み -	F

S07	南硫黄島の自然とその現状 - 25年ぶりの調査結果から	G
企画集会 (18:00-20:00)		Room
T06	「個体」を単位とするモデルの実装	A
T07	時を操る遺伝子の分子機構と生殖隔離	B
T08	生物は生態系の恒常性をもたらすか？	C
T09	始めよう！ベイズ推定によるデータ解析	D
T10	アジア・太平洋地域の植生の分布と分化	E
フォーラム (18:00-20:00)		
U01	公益社団法人化をめざす生態学会の社会的役割： 生物多様性と企業活動を例に	F
U02	野外調査における危険と安全 - 安全な野外調査マニュアル案の議論の場	G
◎ 3/16 (SUN)		
自由集会 (10:30-12:30)		Room
W14	侵略的外来アリ類の脅威	B
W15	生物間相互作用における形質変化の役割：その統合的な理解を目指して	C
W16	長野県における狩猟による鳥獣の捕獲	D
W17	希少植物の絶滅リスクに影響する遺伝的要因 - 近交弱勢・自家不和合性・交雑の影響を探る -	E
W18	sexual conflict や配偶者選択がもたらす種分化～最近の動向～	F
W19	植物生態学のための地形の扱い方 - 木本植物の生活史と地形のスケール -	G
企画集会 (15:45-17:45)		
T11	生物間相互作用に着目した山岳山生態系の脆弱性評価にむけて	A
T12	安定同位体アプローチによる河川環境と生態系の評価	B
T13	雑食：食物網における直接効果と間接効果をつなぐ	C
T14	保全の現場からみたレッドリスト・レッドデータブック	D
T15	21世紀の熱帯林管理 - 生物多様性保全における森林認証制度の効果	E
フォーラム (15:45-17:45)		
U03	高校大学連携による生態学実習書の編集	F
U04	男女共同参画から若手支援へ	G
企画集会 (18:00-20:00)		
T16	生物学的侵入の分子生態学：分子遺伝マーカーを用いて外来生物の侵入生態 を探る	A
T17	環境保全とゲーム理論	B
T18	MAFES：物質循環をマルチスケールで攻める	C
T19	材の解剖特性と樹木の水利用	D
T20	アグロエコロジー研究会：農村自然再生を群集生態学から考える	E

フォーラム (18:00-20:00)

U05 ネットワーク研究の可能性 - 大規模長期研究の展開 - F

◎ 3/17 (MON)

シンポジウム (8:30-11:30)

	Room
S08 Phylogenetic approaches to community ecology	A
S09 野生動物再導入計画の現状と課題	B
S10 基礎生態学からみた持続可能な農業の方向性 - 有機農業は自然にも人にもやさしいか? -	C
S11 野生動物と共存するための生態学 - イノシシ被害を考える	D
S12 Ecological Genomics of Speciation	E
S13 交尾行動の新しい理解	F
S14 Bamboo はなぜ一斉開花するのか? ~ 熱帯から温帯へのクローナル特性と開花更新習性の進化を探る	G
S15 日本の国土の超長期ビジョン 中山間地問題	H

**S01 ゲノム進化学と生態学**

企画者：舘田 英典（九大・院理）

生物の環境適応機構を明らかにすることは、生態学のみならず生物学全体の重要な研究課題である。このためにはそれぞれの生物の表現型や遺伝子とその生物が生息する環境との関係を統合的に理解することが求められる。現在、原核生物で数百種、真核生物でも20種以上の生物でゲノムの塩基配列が決定されており、生物が環境に適応する際に使われている道具（遺伝子）の全レパートリーが明らかとなりつつある。このような情報を基礎にして、生態学と、種内・種間の遺伝的変異から生物の適応進化機構の解明を目指してきた集団遺伝学・分子進化学が協同することにより、生物適応の全体像にせまることが可能な時代となっている。このシンポジウムでは早くからゲノム情報を使って生物の適応進化の問題を考えてこられた研究者や、ゲノム情報を使った生態学的研究を進めておられる研究者にこれまでの成果を話して戴き、ゲノム時代の生態学の方向性について議論したい。

**S01-1 生態ゲノミクス：**

清水 健太郎（チューリッヒ大学）

**S01-2 植物の自然集団を用いた適応的遺伝子の検出の試み**

津村 義彦（森林総研）

**S01-3 DNAから見たシャモとナガナキドリの起源**

五條堀 孝（国立遺伝学研究所）

**S01-4 環境とゲノム**

高畑 尚之（総研大・先導科学）

**S02 Interface between ecology and social sciences in global environmental change**

Organizers: Iwasa Yoh (Kyusyu Univ.), Akiko Satake (EAWAG)

Ecologists are increasingly interacting with social scientists to address questions related to global environmental change. Most ecosystems are strongly influenced by human activities. Human activities in turn dynamically change in response to degradation of ecosystems. Because of this feedback, the study of coupled social and ecological dynamics has become an important research field.

Studies in social sciences have reported that human decision-making is greatly influenced by social and psychological factors as well as economic payoffs. The importance of social factors in human decision-making also has been emphasized in theoretical studies of the evolution of cooperation. These findings encourage us to integrate economic, social, and psychological factors in models of human decision-making, in order to inform successful ecosystem management. We will introduce several examples at the interface of ecology and social sciences.

Commentator: Ayumi Onuma (Keio Univ.)

**S02-1 Evolution of cooperation and ecosystem conservation: coupled social and ecological dynamics for lake water management**

Yoh Iwasa (Kyusyu Univ.)

**S02-2 Agent-based modeling of resilience in a social-ecological water use system**

Maja Schlueter (Helmholtz Centre for Environmental Research, Germany)

- S02-3 Integrating human behavior in ecological models with stated choice models - Theory and Applications  
Wolfgang Haider (Simon Fraser Univ., Germany)
- S02-4 Terrestrial ecosystems with human activity in Sarawak, Malaysia and Mongolia  
Shoko Sakai (Kyoto Univ.)
- S02-5 Modelling scale mismatches for pollination and carbon storage services  
Akiko Satake (EAWAG)

シンポジウム 3月15日 8:30-11:30 会場 Room C

### S03 外来生物法の光と陰～制定5年後の見直しに向けて

企画者：五箇公一（国立環境研），草刈秀紀（WWFジャパン），山田文雄（森林総合研究所），小谷浩示（国際大学）

外来生物法が施行されてから間もなく3年を迎えようとしている。同法は施行後5年目を目途に改訂が予定されており、2008年度は同法の見直しをする年となる。この重要な年度を迎えるにあたり、法制度上の生態学的問題点について具体的事例を含めて解説し、それらの問題点を克服するための手法を議論し、法制度を実際に改正する指針を導き出す。「ホワイトリスト」等という、当面実効性のない提案ではなく、至近に迫った問題点の解決と対策を議論する。具体的には、1) 外来生物リスク評価の見直し、および2) 防除指針と防除事業の評価に焦点を当て、外来生物対策の実態と問題点を現場研究者陣に解説していただき、問題点の整理と解決を図る。

- S03-1 オオクチバスはどうする？～外来生物法の目玉のその後  
中井克樹（琵琶湖博物館）
- S03-2 アライグマはどうする？～防除事業全国展開の行く末  
池田透（北海道大学）
- S03-3 外来雑草はどうする？～緑化植物の巨大な壁  
村中孝司（牛久自然観察の森）
- S03-4 グリーンアノールはどうする？～世界遺産を目指して  
大河内勇（森林総研）
- S03-5 寄生生物はどうする？～カエルツボカビまで来た  
五箇公一（国立環境研）
- S03-6 外来種リスク評価はどうする？  
\*小池文人（横浜国大），西田智子（農業環境技術研究所），森本信生（中央農業総合研究センター）
- S03-7 お金はどうする？～防除の経済試算  
小谷浩示（国際大学）

シンポジウム 3月15日 8:30-11:30 会場 Room D

### S04 景観の生態学的修復と創造

企画者：鎌田磨人（徳島大学），江崎保男（兵庫県立大学），藤原宣夫（岐阜県立国際園芸アカデミー）

「景観」とは、異質な生態系がモザイク状に分布する空間の全体的なシステムである。「景観の生態学的修



復・創造」とは、地域全体の自然環境を向上させることを共通の目標とし、個々の場で生物の生息・生育環境を構成する要素や要素間のつながりを再構築していく営みである。

そのための理念や原則を現場に適用していくためには、事業の計画段階と実施段階それぞれで、現実的な解を与えていくための論理と、それを実現するための技術が必要である。日本景観生態学会、応用生態工学会、日本緑化工学会は、その道筋を示そうとしている応用系の学会である。景観生態学会は、「生態的土地利用施策、国土・地域のエコロジカル・プランニング、生態系管理の基礎となる景観生態学を発展させ、その理論やツールを様々な場での問題解決に使えるようにしていくこと」を目指している。応用生態工学会は、「人と生物の共存、生物多様性の保全、健全な生態系の持続を共通の目標に、生態学と土木工学の基礎知識および実際の問題についての研究成果をもとに、両分野の関係者が共同してそれらの境界領域に新しい理論・知識・技術体系を発展・展開させること」を目的としている。日本緑化工学会は、「景観・生態系の修復に向けて、特に緑を回復するための技術開発に取り組んでいること、また、産業界の会員が多いこと」が特徴である。本シンポジウムでは、これら3学会の幹事長でもあるオーガナイザーが講演者を集め、「景観の生態学的修復・創造」に向けての現時点での到達点と、これからの課題について検討する。

#### S04-1 生態系の繋がりの把握と土地利用計画への応用

夏原由博（京都大学）

#### S04-2 ネットワーク構造の再生による氾濫原環境の修復

河口洋一（九州大学大学院工学研究院）

#### S04-3 川の蛇行と流量は一次生産過程に影響するのか？

萱場祐一（〔独〕土木研究所・自然共生研究センター）

#### S04-4 在来野草種苗を利用した外来植物の防除と植生回復

入山義久（雪印種苗〔株〕北海道研究農場）

#### S04-5 森林表土を利用した法面緑化工で成立する植生

細木大輔（国土交通省国土技術政策総合研究所）

#### S04-6 “風土”の再構築は可能かープロセスプランニングの展望

伊東啓太郎（九州工業大学）

シンポジウム

3月15日 8:30-11:30

会場 Room E

### S05 森林生態系の理解に向けてー森林水文学・生態学からのアプローチー

企画者：榎木勉（九州大・演習林）

森林生態系は、生物とそれを取りまく環境との相互作用系である。森林生態系に見られる諸現象を理解するためには、そこで生じている物質・エネルギーの循環を把握し、生態学的事象との相互関係を評価する事が有効な方法の一つとなる。これまでに、このような手法でなされた優れた研究も数多くあるが、「生物学」と「物理化学」と表現されることもある異なる分野間に小さからぬ垣根が存在している間は否めない。一方、近年では、地球温暖化に対する生態系の反応に関する研究など、その解決のためには両分野の共同研究が必須と考えられる課題が多く挙げられるようになってきた。

本シンポジウムでは、森林水文学の研究成果を中心に話題を提供し、それらについて、生態学的視点を加えるという形で、森林生態系の理解をより進めていこうという議論を行いたい。

コメンテータ：金子信博（横浜国立大学環境情報研究院）、日浦 勉（北海道大学苫小牧研究林）

#### S05-1 福岡市近郊の森林流域における生物地球化学 一窒素化合物の沈着と流出の計測事例から一

\* 智和正明, 井手淳一郎, 大槻恭一（九州大・演習林）

- S05-2 森林生態系の蒸発散 —単木スケールの樹液流計測からのアプローチ—  
久米朋宣（九州大・演習林）
- S05-3 水の動きから森林生態系の成り立ちを考える  
熊谷朝臣（九州大・演習林）
- S05-4 方々で蓄積された水文データをどう活用するか？  
小松光（九州大・演習林）

シンポジウム                      3月15日 8:30-11:30                      会場 Room F

## S06 日本の半自然草原の再生に向けて—その成立と現状、そして再生に向けた各地での取り組み—

企画者：湯本貴和（総合地球環境学研究所），小路 敦（九州沖縄農業研究センター）

かつて日本の全国土面積の1割以上を占めていた半自然草原は、高度経済成長期以降急速に減少し、多くの草原性生物が絶滅の危機に瀕している。阿蘇に代表されるような半自然草原の成立時期や過程については不明な点が多く、植生史研究の分野では、最終氷期終了後の約1万年前～6000年前にかけて微粒炭が多く検出され、この時期に火事が多く起こっていたことが明らかになりつつある。このような火事と、日本の半自然草原の起源とが深くかかわっている可能性も指摘されている。

一方、阿蘇地域においても、畜産の担い手不足等によって草原の維持・管理が困難になってきており、多くの草原性生物が絶滅の危機に瀕している。このような状況のもと、自然再生推進法に基づいて「阿蘇草原再生協議会」が設立され、草原再生に向けた各種取り組みが開始されている。

本シンポジウムでは、半自然草原に特徴的な生物相の成立と維持に、人間がどうかかわってきたのかを考えるとともに、これまでの阿蘇、中国・四国地方などでの草原再生の事例を紹介し、かつて「草原国」でもあったわが国における今後の保全・再生のあり方について、問題を投げかけたい。

- S06-1 微粒炭分析からみた阿蘇の半自然草原の成立  
小椋純一（京都精華大学）
- S06-2 日本列島および中部山岳域における半自然草原の変遷史に向けて  
須賀丈（長野県環境保全研究所）
- S06-3 阿蘇の草原植物の現状と花野再生  
瀬井純雄（NPO 法人阿蘇花野協会）
- S06-4 刈り取りは希少植物サクラソウ、ケルリソウの個体群増大に有効か？  
小路 敦（九州沖縄農業研究センター）
- S06-5 火入れ草原を題材とした環境教育の試み—広島北部，雲月山での取り組み—  
白川勝信（芸北 高原の自然館）
- S06-6 草原再生を支える社会システムの解析  
小串重治（徳島大学）

**S07 南硫黄島の自然とその現状— 25年ぶりの調査結果から**

企画者：加藤英寿（首都大・理），藤田卓（九大・理），川上和人（森林総研）

南硫黄島は小笠原諸島の固有種の種分化の初期過程を解明する上で重要な島であるとともに、有史以来人類の永住記録がなく原生の自然が残る貴重な島である。南硫黄島における地質・生物相とその起源を明らかにするために、25年ぶりに総合調査が行われた。本調査の結果、新種および新産の確認、オガサワラオオコウモリやアカガシラカラスバトなどの絶滅危惧種の確認、絶滅種とされていた種の再発見（タマゴナリエリマキガイ）などの成果が得られた。また、クマネズミなどの侵略的外来種が確認されず、人為がおよぶ前の貴重な生態系が残されていることがわかった。本シンポジウムではこれらの調査結果と前回の調査結果を比較し、その間に生じた変化についても考察する。一方、本調査では1種も外来種を持ち込まない、持ち帰らないという原則を守るために、徹底した外来種対策を行った（検疫ルームの設置、荷物の冷凍・乾燥処理、排泄物の持ち帰り等）。調査前後で検疫を行った結果、外来生物を防ぐ上で見過ごしやすい点や課題が明らかになった。これらの結果から、人為が及んでいない地域への調査にあたって配慮すべき点についても紹介する。

**S07-1 南硫黄島調査の意義**

藤田卓\*（九大・理）

**S07-2 植物相と絶滅危惧種の25年間の個体群変遷**

加藤英寿\*（首都大・理工），藤田卓（九大・理），高山浩司（千葉大・理）

**S07-3 雲霧の形成と標高傾度に沿った植生パターン**

朱宮丈晴\*（日本自然保護協会）

**S07-4 晴れ、ときどき、クロウミツバメ**

川上和人\*（森林総研），鈴木創（小笠原自然文化研究所）

**S07-5 南硫黄島における陸産貝類相**

千葉聡\*（東北大・生命）

**S07-6 固有化、単純さ、分布の欠如が特徴：南硫黄の昆虫と土壤動物**

荻部治紀\*（神奈川県博）

**S07-7 南硫黄島調査における外来種対策と今後の課題**

加藤朗子\*（首都大・理工）・荻部治紀（神奈川県博）

**S07-8 総括 ”小笠原の自然再生・世界遺産登録へ向けて、本調査の成果が貢献できること”**

可知直毅\*（首都大・理工）

**S08 Phylogenetic approaches to community ecology**

企画者：矢原徹一（九大理生物）

All traits of all species in a biological community have been changed and shaped through the history of evolution. Furthermore, coexistence of those species has been established through the history of migration and differentiation. Thus, nothing in community ecology makes sense except in the light of evolutionary history. However, it is rather recent that evolutionary and phylogenetic approaches have been applied to community ecology. The purpose of this symposium is to overview recent progress through cutting-edge studies in phylogenetic approaches to community ecology and to discuss perspectives for future development in this promising research field.

- S08-1 A comparative phylogenetic approach to diversified flowering phenologies in forest communities  
Tetsukazu Yahara (Department of Biology, Kyushu University)
- S08-2 Measuring phylogenetic diversity – some statistical and computational problems  
Nobuhiro Minaka (NIAES / University of Tokyo)
- S08-3 Properties of different community-level phylogenetic indices  
Daniel P. Faith (The Australian Museum)
- S08-4 Emerging patterns in the comparative analysis of phylogenetic community structure  
Campbell O. Webb (Arnold Arboretum of Harvard University)
- S08-5 Phylogenetic perspectives on community assembly and the competition-divergence-coexistence conundrum  
John J. Wiens (Department of Ecology and Evolution, Stony Brook University)
- S08-6 A biogeographic perspective on community assembly  
Michael J. Donoghue (Department of Ecology and Evolutionary Biology, Yale University)

シンポジウム                      3月17日 8:30-11:30                      会場 Room B

## S09 野生動物再導入計画の現状と課題

企画者：関島恒夫（新潟大・院・自然科学），山岸哲（（財）山階鳥類研究所）

世界的に自然環境の劣化が進む中、生物多様性に関する条約の締結にも拘わらず、地球上の生物多様性は低下の一途を辿っている。その対応策として、生息環境の保全とともに、絶滅種あるいは絶滅個体群の復元も生物多様性を高める有効な施策として位置づけられている。野生生物の再導入は、1907年に15頭まで減少したアメリカバイソンをオクラホマ州の保護区に放したことに始まるが、今や対象となる動物群は無脊椎動物から哺乳類まで多岐にわたり、再導入計画が実施された種数は500種以上にも及ぶ。我が国でも、2005年兵庫県豊岡市で8羽のコウノトリが放鳥され、2008年には新潟県佐渡島でトキの放鳥計画が予定されている。このように国内で野生絶滅した種の再導入事業が、国の手厚い支援のもと着々と進められる一方、再導入の意義や必要性に対し、いまだに戸惑いを覚える研究者も多く、再導入事業に対する生態学研究者の合意形成が図られているとはいえない状況にある。また、野生絶滅した種の再導入より、現在絶滅に瀕している希少種への対応を優先すべきとの意見も多い。そこで、トキの放鳥が間近に迫る今、再導入の意義について今一度多角的な視点から議論し、その必要性について理解を深めたい。シンポジウムでは、先行して進められている再導入計画については報告と課題の整理、今後予定されている再導入計画については現在の取り組みについてご紹介いただき、最後に環境省から国としての再導入指針をご紹介いただくという流れを考えている。

趣旨説明：関島恒夫（新潟大・院・自然科学）

コメンテータ：鷺谷いづみ（東京大学・院・保全生態）

総合討論

- S09-1 コウノトリの再導入 ー現状と課題ー  
池田啓（兵庫県立コウノトリの郷公園）
- S09-2 韓国におけるツキノワグマの再導入  
韓尚勳（Wildlife Institute of Korea）
- S09-3 トキの再導入 ー中国の取り組みと日本の現状ー  
山岸哲（（財）山階鳥類研究所）

#### S09-4 ヤンバルクイナの現状

尾崎清明 ((財) 山階鳥類研究所)

#### S09-5 国としての再導入計画の位置づけ

西山理行 (環境省・自然環境局・野生生物課)

シンポジウム

3月17日 8:30-11:30

会場 Room C

### S10 基礎生態学からみた持続可能な農業の方向性 - 有機農業は自然にも人にもやさしいか? -

企画者: 日鷹一雅, 嶺田拓也

有機農業は、ヒト、自然環境、生態系に良い食料生産技術体系のように思われているが本当だろうか? 最近わが国では有機農業推進法が成立したが、農業環境政策の先進国 EU ではすでに同様の法律があり、有機農業に関する基礎研究は以前から行なわれている。日本やアジア諸国の現状はどうであろうか? 最近の Ecology 誌で、福岡で開発されたスクミリンゴガイを活用して除草に使う手法がアジア諸国に普及し、その結果生じた生態系攪乱が紹介されている。有機農業の名の下に不用意に生物を利用することは、生態系や生物多様性を攪乱し、場合によっては農業の持続可能性に障害をもたらす可能性さえある。

本企画では、持続的農業の在り方について、農生態学の世界的リーダーである Gliessman 教授 (UC Santa Cruz) を招聘し、持続可能な農業の最新の理論について話題提供をいただくとともに、我が国とアジアの有機農業技術を題材に、環境影響評価、景観生態学、あるいは文化的視点からの総合的議論の場を企画した。

我が国、アジアの持続可能な農業の方向性や研究のあり方について、基礎生態学をベースとした方向性について考えてみたい。

(コメンテーター予定)

村本穰司 (UC Santa Cruz) : Gliessman 教授講演解題

上田哲行 (石川県立大) : IPM によるアカトンボの激減

ほか

#### S10-1 はじめに: 日本とアジアにおける有機農業の技術的展開と生態学から見た諸問題

日鷹一雅 (愛媛大・農)・村本穰司 (UC Santa Cruz)・嶺田拓也 (農村工学研究所)

#### S10-2 Agroecology: Ecological foundations for transition to sustainable food systems

Stephen R. Gliessman (UC Santa Cruz)

#### S10-3 近代有機農業技術下の水田生態系の変容とその持続可能性

嶺田拓也 (農村工学研究所)・日鷹一雅 (愛媛大・農)

#### S10-4 持続的農業に必要な景観生態学の視点: 有機農業だけではどうにもならない

山本勝利 (農業環境技術研究所)

シンポジウム

3月17日 8:30-11:30

会場 Room D

### S11 野生動物と共存するための生態学—イノシシ被害を考える

企画者: 江口和洋 (九大院・理・生物), 仲谷淳 (中央農研)

鳥獣類による森林や農作地への被害増加が問題となっている。現在とられている防除対策は、有害鳥獣駆除や防護柵の設置など、被害現場での対処に限られているが、鳥獣害発生の構造的側面を理解し、総合的な被害軽減策を講ずることが必要であろう。鳥獣害が生じる背景として、森林開発、里山の荒廃、耕作放棄地



の増加，農業形態の変化などの社会的諸問題があることが指摘されている。しかし，社会的諸問題がどのように関わっているかは，必ずしも明確ではない。動物の特性だけでなく，地域住民や行政の事情などの社会的背景は，防除対策を考える際に重要である。また，農林業人口や農山村構造の将来的変遷は，政策決定を左右する。

本シンポジウムでは，最近増加しているイノシシによる被害について，被害の傾向と地域特性との関係を明らかにし，被害発生に集中する中山間地域の農業構造と動態の現状と将来予測をもとに，地域に応じた有効な被害軽減対策は何かを考える。

#### S11-1 趣旨説明

江口和洋（九大院・理・生物）

#### S11-2 イノシシ被害対策の歴史（シシ垣）と GPS テレメトリーからみた近年の被害地におけるイノシシの動向

高橋春成（奈良大・文・地理）

#### S11-3 イノシシ被害の発生と集落特性—島根県を事例として—

作野広和（島根大・教育・共生社会教育）

#### S11-4 中山間地域の農林業構造の変容と資源管理

佐藤宣子（九大院・農・森林政策）

#### S11-5 イノシシの総合的管理

小寺祐二（長崎県）

#### S11-6 獣害対策研究の現状と今後の方向性

仲谷淳（中央農研）

シンポジウム

3月17日 8:30-11:30

会場 Room E

## S12 Ecological Genomics of Speciation

Organizer: Hiroshi Kudoh

This symposium aims to highlight and tackle ecological issues in the processes and consequences of speciation by using the approach of ecological genomics. The field has attracted researchers with broad background and interests. Examples include reconstruction of past ecological interactions during speciation, elucidation of character and niche shifts during speciation, identification of genes that contribute to reproductive isolation, and recreation of ancestral character states.

#### S12-1 How genomic studies promote understanding of speciation mechanisms

Masakado Kawata (Tohoku University, Japan)

#### S12-2 The role of a pigmentation gene and mating preference in *Drosophila* speciation

Aya Takahashi (National Institute of Genetics, Japan)

#### S12-3 Genetic dissection of pollination syndromes

Cris Kuhlemeier (Institute of Plant Sciences, Switzerland)

#### S12-4 Habitat exploitation and adaptive radiation through inter-niche allo-polyploidization

Hiroshi Kudoh (Kobe University, Japan)

#### S12-5 Macroevolutionary consequences of coevolution in the *Phyllanthus*-*Epicephala* pollination mutualism

Atsushi Kawakita (Kyoto University, Japan)

### S13 交尾行動の新しい理解

企画者：粕谷 英一（九大・理・生物），上田 恵介（立教大学・理），狩野 賢司（東京学芸大学・生物）

動物の交尾行動の生態学的研究は、交尾の際に、オスがメスに対してコストを与えていることが相次いで示されたのをきっかけとして、次々に新しい現象が発見されています。従来メスの利益の観点から説明されてきたメスの複数回交尾なども実証的見直しが行われて、交尾行動の新しい理解に至ろうとしています。

現在、ハンディキャップ（good genes）理論に沿ってメスによる選り好みが進んで研究にされていた時期に続く新しい研究の高まりを迎えています。どんなことが明らかになってきたのかわかりやすく提示するとともに、親による子の世話をめぐらさるべきか、交尾の際のメスとオスの関係やライバルオス同士の関係はどうとらえられるのか、未解明の方向性は何かなどを明らかにしたいと思います。

#### S13-1 交尾行動の新しい理解に向けて

粕谷 英一（九大・理・生物）

#### S13-2 モズの雌雄の育雛におけるコンフリクト

高木 昌興

#### S13-3 カジカ類からみた魚類の交尾行動

早川洋一（国際基督教大学）

#### S13-4 グッピーの配偶行動と雌雄の駆け引き

狩野 賢司（東京学芸大学・生物）

#### S13-5 交尾の損得：トゲがもたらしたマメゾウムシの研究の進展と混乱

原野 智広（岡山大学院・環境）

#### S13-6 オサムシの交尾行動：攻めと守りの多様性

高見 泰興（京大・理）

### S14 Bamboo はなぜ一斉開花するのか？～熱帯から温帯へのクローナル特性と開花更新習性の進化を探る

企画者：蒔田明史（秋田県立大・生物資源）

長寿命一回繁殖性で、しかも一斉開花するというタケササ類の開花習性はどのように進化してきたのだろうか。

タケササ類は熱帯起源で温帯に広がってきたと考えられている。熱帯のタケは仮軸タイプ型の地下茎をもち叢生するのに対し、温帯では水平に広がる地下茎をもつ。一方、開花習性に関しては、一般に温帯の方が同調性が高く、開花周期は長い。すなわち、“株立ち型”から“水平展開型”への変化に伴って開花習性も変わってきたのではないかと考えられる。

ここで問題になるのは、個体群内のクローナル構造と開花結実期における遺伝子流動の実態である。“株立ち型”から“水平展開型”への変化に伴って、クローナル間の相互関係や開花の際の交配様式はどう変化したのか？そして、どのようにして遺伝的多様性を保ちながら更新しているのか？

こうした疑問に対し、本シンポジウムでは、開花更新に関するレビューに加え、熱帯・温帯の双方で蓄積しつつある分子生態学的手法を用いたクローナル構造や開花更新を巡る最新の解析結果を交え、Bambooが一斉開花することの意味を考えてみたい。

このことは、一斉開花性やクローナル特性の進化に関しても示唆を与えるものとなる。

（司会）鈴木準一郎（首都大東京）

- S14-1 趣旨説明・・・Bambooの開花習性とクローン構造に関するミニレビュー  
蒔田明史（秋田県立大・生資）
- S14-2 チシマザサとチュウゴクザサのクローン構造  
松尾歩（東北大・農）ら
- S14-3 クマイザサのクローン構造と開花様式  
宮崎祐子（奈良県森林技術セ）ら
- S14-4 日本とオーストラリアにおけるタケのクローン構造と開花パターン  
井鷲裕司（京大・農）ら
- S14-5 タイ熱帯季節林での熱帯性タケ類の一斉開花と更新プロセス  
田中浩（森林総研）ら
- S14-6 48年ごとに咲くタケ・・・インド・ミゾラム地方のメロカンナの一斉開花・更新  
柴田昌三（京大・フィールド研）ら
- S14-7 タケササ類の開花・更新時を対象とした分子生態学的解析  
陶山佳久（東北大・農）

シンポジウム                      3月17日 8:30-11:30                      会場 Room H

## S15 日本の国土の超長期ビジョン 中山間地問題

企画者：松田裕之（横浜国大）

2010年の生物多様性条約締約国会議を前に、2050年の日本の国土と自然のあり方を問う動きが各方面で見られる。その最大の焦点は、今後の人口減少時代を見据えた中山間地のあり方である。第3次生物多様性国家戦略案でも中山間地などの放置が生物多様性に与える危機について指摘されているが、今後人口減少と高齢化が進む中で、すべての中山間地の人間活動を維持することは極めて困難に見える。また、100年後という時間スケールで見れば、中山間地がいったん荒廃したとしても、やがては二次林が回復してくるという指摘もある。

そこで、本集会では、放置された中山間地が生物多様性と生態系サービスに関してどのように変化するか、その問題点は何かについて議論する。また、中山間地の人間活動を維持するための条件などについて議論する。さらに、関連するさまざまな国際的な取り組みとして、2008年生物多様性条約国会議、ミレニアム生態系評価里山里海サブグローバル評価などの取り組みについても紹介する。

- S15-1 2つの超長期シナリオ：里山保全と里山撤退作戦  
松田裕之（横浜国大・環境情報）
- S15-2 里山林と人：後は野となれ山となれとはいかぬが定め  
大住克博（森林総研関西）
- S15-3 中山間地問題の整理  
酒井暁子（横浜国大・環境情報）
- S15-4 中山間地の持続可能性と農業政策  
嘉田良平（横浜国大・環境情報）
- S15-5 中山間地域の植物の多様性と土地利用との関係からみた将来予測  
根本真理（東京農工大）



フォーラム

3月15日 18:00-20:00

会場 Room F

## U01 公益社団法人化をめざす生態学会の社会的役割：生物多様性と企業活動を例に

主催：日本生態学会常任委員会 石川真一（群馬大・社会情報），矢原徹一（九大・理），足立直樹（（株）レスポンスアビリティ），可知直毅（首都大・都市教養）

法人化後の日本生態学会には、その専門性を生かして、公益的な事業に取り組むことが求められる。このフォーラムでは、生物多様性をテーマにとりあげ、企業や行政の方々にもご参加いただいて、法人化後の生態学会が果たすべき社会的役割と、その事業のあり方について考えたい。

2007年秋に改訂された第三次生物多様性国家戦略は、生物多様性の保全において民間、特に企業の力に大きく期待する内容になっている。また2007年6月改訂の環境省の環境報告ガイドラインでは、企業等が報告すべき項目の一つとして、生物多様性の保全が新しく追加された。

このように生物多様性の保全に関して、企業に一定の責任と貢献を求める社会的な声が、今まで以上に高まっている。諸外国では10年以上前から、企業が生物多様性の保全に積極的に参画してきている。日本では残念ながら、このような動きが決して活発と言える状態ではなかった。それは、企業や行政側の事情に加えて、学界から企業へのアプローチが不足していたことに起因する。

生態学的基礎研究の成果である数々の学術的知見は、企業・行政の緒活動において直接役立つものも多いはずである。また企業・行政にしても、必ずしも即金的な応用研究ばかりを望んでいるのではなく、真の社会的貢献のためには、基礎研究成果を必ず活用しなくてはならなくなっている。学会がこれら関係者の橋渡し役を担うことを、真摯に検討すべき時期にきていると言える。

コメンテータ：鈴木渉（環境省・生物多様性地球戦略企画室）

<主な内容>

- ・生物多様性の保全プログラムを持つ企業による発表
  - ・環境省・生物多様性地球戦略企画室よりコメント
  - ・日本生態学会法人化WGからの提案
  - ・総合討論（パネル・ディスカッション形式）：今後の企業・行政と連携した生態学会の活動のあり方
- ※さらに討論を深めるために、当日夜に宴席を設けますので、こちらへもふるってご参加ください。

フォーラム

3月15日 18:00-20:00

会場 Room G

## U02 野外調査における危険と安全—安全な野外調査マニュアル案の議論の場

主催：野外安全管理委員会 粕谷 英一（九大・理・生物）

生態学では野外調査が大きな比重を占めています。野外での調査では、残念ながら、過去、重大な事故が起こっており、事故を起りにくくし安全な野外での調査ができるようにしていくことは、生態学者のつとめです。

野外調査はそれぞれ調査場所や対象生物、調査項目や条件などさまざま異なる、多様なものですが、安全上の留意点には共通したものも多く、他の研究機関での経験や教訓には参考になるものが多数あります。また、自分の野外調査でとくに危険な部分や注意すべき部分を認識しておくことも重要です。そこで、野外調査で安全上注意すべき点をまとめたもの（マニュアル）が必要になります。野外安全管理委員会では、現在、案をまとめる作業を行なっています。このマニュアルが実際に役立ち事故を起りにくくするには学会員ひとりひとりの意見や経験を反映させることが必要です。

福岡での大会以前にウェブ上で案を公開して、学会員のみなさんの意見をいただくとともに、このフォーラムでマニュアル案について説明し、学会員からの生の声をいただき、議論を行なっていきます。

### U03 高校大学連携による生態学実習書の編集

主催：生態学教育専門委員会 嶋田正和

当委員会は、これまで2004年に『生態学入門』を編纂しました。それに引き続いて、2005年から日本生物教育会の年次大会に参加して、展示会に当委員会のブースを設けてもらい、そこで『生態学入門』の予約購入チラシや、都生研や日本生物教育会・近畿地区と共催で開いた生態教育シンポの報告書などを配布してきました。

そのなかで、高校の生物教師から生態学実習書を望む声があちこちから聞かれるようになりました。また、生態学実習書は日本生態学会でも過去に幾度となくアイデアが出されたこともありましたが、ここ10年ほど理科離れが顕在化して、2007年12月に発表になったOECDの学習到達度調査(PISA、2006年実施)の結果でも、理科に対する関心そのものが薄れている現状が浮き彫りになってきました。

このような背景を受けて、生態学教育専門委員会では、全国の高校生物教師、大学教養課程担当の大学教員向けに、高校から大学教養課程レベルまで使える「生態学実習指針書」を編集する計画を立てています。これは、高校と大学の教員達が連携して、オンライン(HP)上で編集していきます。

(1) 広くテーマを募集する。応募者は、テーマごとに実習ガイドを数ページにまとめ、PDFファイルで提出する。

(2) 当委員会が査読に回し、応募者の改訂を経て、完成されたテーマごとに順に本学会のHPにアップする。

当分は印刷体を作らず、日本生態学会のHPで展開する予定なので、バージョンアップは容易でしょう。企画フォーラムでは、委員長の嶋田が「生態学実習書」の方針を説明し、それに続いていくつかの実習テーマについてサンプルを示す予定です。

### U04 男女共同参画から若手支援へ

主催：将来計画専門委員会 可知直毅(首都大院・理工・生命科学)

将来計画専門委員会では、生態学分野の若手研究者支援や男女共同参画に生態学会としていかに貢献できるかについて検討をしてきました。その一環として、男女共同参画と若手支援をテーマにしたフォーラムを企画しました。

このフォーラムでは、「男女共同参画」にむけた取組みが「若手支援」につながるという考えのもと、さまざまな立場の会員による話題提供をとおして、生態学分野での男女共同参画の推進と若手支援のための課題と方策について考えたいと思います。

生態学会も加盟している「男女共同参画学協会」が2007年秋に実施した大規模ウェブアンケートには、483名(個人会員の12.1%)の学会員が回答しました。このアンケート結果の速報もご紹介します。

将来について漠然とした不安を感じている若手会員、男女共同参画や若手支援について関心のある会員の参加を期待しています。

#### 男女共同参画大規模アンケートから生態学会員の意識を読み取る

可知直毅(将来計画専門委員長)

#### (独) 森林総合研究所における文科省「女性研究者支援事業」の取り組み

金指あや子(森林総合研究所・エンカレッジ推進室長)

#### 日本学術振興会特別研究員 RPD に採択されて

向草世香(九州大学・特別研究員 RPD)

#### 若手にエールを！：アカデミックキャリアをめざしてがんばろう

酒井暁子(横浜国立大学・助教)

育児も研究も：妥協？ 30%の力で研究する→そのうち全力で出来るよ

増田理子（名古屋工業大学・准教授）

育児も研究も：子供を味方に付けて研究の成果を上げる？！

柴尾晴信（東京大学・任期付き助教）

フォーラム

3月16日 18:00-20:00

会場 Room F

## U05 ネットワーク研究の可能性 – 大規模長期研究の展開 –

主催：大規模長期生態学専門委員会 日浦勉（北大・苫小牧研究林），中村誠宏（北大・苫小牧研究林）

日本長期生態学研究ネットワーク（JaLTER）が正式発足し、昨年夏に国際長期生態学研究ネットワーク（ILTER）に加盟した。JaLTERには日本列島をほぼカバーする約40サイトが現時点で登録されており、様々な生態系を含んでいる。個々の生態系での個別研究やメタ解析だけからはとらえきれない、直接的な広域比較研究を展開する良い基盤となりうるものである。このフォーラムではネットワーク研究の面白さや必要性について森林生態系と沿岸生態系からそれぞれ話題提供していただくとともに、現在進行中のJaLTERデータベースの構築状況を紹介し、それを活用した研究についてもコメントしていただく。総合討論ではネットワーク研究を中心にJaLTERの今後の可能性や方向性について参加者と議論を深めたい。

コメンテーター：近藤倫生（龍谷大・理）

司会：日浦勉

森林生態系の構造と機能の研究ネットワーク：高山サイトを拠点とした展開

村岡弘由（岐阜大・流域圏）

沿岸生態系におけるネットワーク研究：基礎研究、応用研究、教育への効用

仲岡雅裕（千葉大・理）

JaLTER データベース管理システムの紹介

真板英一（東大・農学生命）

企画集会

3月14日 16:15-18:15

会場 Room A

## T01 メタ群集研究における理論的・実証的アプローチ

企画者：奥田武弘（北大・環境）

メタ群集とは、生息地間の個体の移動分散によって相互作用している局所群集の集まりと定義される。自然界の生物群集の多くは他の生物群集と生物個体や物質のやりとりをしている開放系である。したがって、生物群集の構造や動態が示すパターンを記述したり、その決定プロセスを研究するにはメタ群集という概念が有効となる。とりわけ複数の空間スケールを横断する研究にはメタ群集概念が不可欠である。保全生物学においても、例えば生息地分断化が個々の種や生物群集全体に与える影響を予測するうえで、メタ群集概念は重要な示唆を与えることができるだろう。

メタ群集研究においては、(1) 生息地間の環境勾配に対応した生物間相互作用の変化、(2) 生息地間の生物の移動の程度、の二つが群集構造の決定に強く影響すると考えられている。しかし野外では、生息地間の環境勾配や生物間相互作用、生息地の空間構造、生物の分散能力などを正確に評価するのは困難である場合が多い。そのためメタ群集研究では、理論研究の先行が顕著である。本集会では、地域多様性の違いや生物による物質輸送を考慮した現実に近いメタ群集を表現した理論モデルや、景観構造の変化や生物の行動特性が群集構造に及ぼす影響やメタ群集における食物網動態を扱った実証研究の紹介を通して、理論研究と実証

研究のギャップを埋めることを目指す。

コメンテーター：宮下直（東大・農学生命）、野田隆史（北大・地球環境）

**T01-1 趣旨説明：メタ群集という概念**

奥田武弘（北大・環境）

**T01-2 ガンマ多様性はメタ群集の存続可能性を高めるか？**

瀧本岳（東邦大・理）

**T01-3 細菌のメタ群集動態と生物ポンプ：鉛直混合モデル**

三木健（京大・生態研），Luca A. Giuggioli（Princeton Univ.）

**T01-4 部分食物網と食物網：メタ群集の視点から食物網を考える**

土居秀幸（愛媛大・農）

**T01-5 琵琶湖周辺内湖における大型動物プランクトンの群集構造：湖内環境と空間ネットワークの影響**

山口真奈，柴田淳也，大石麻美子，合田幸子，奥田昇（京大・生態研）

**T01-6 ランドスケープスケールでの行動特性が水域へのトンボの移入に与える影響**

角谷拓（東大・農学生命）

企画集会

3月14日 16:15-18:15

会場 Room B

**T02 根がからむ水と栄養塩吸収の生理生態～地上部と地下部のネットワークのために～**

企画者：小口理一（東大・院・理），齋藤隆実（東大・院・理），谷友和（東大・植物園），宮沢良行（九大・熱帯農学研究センター），鍋嶋絵里（東京農工大）

植物体の地下部は、地上部に水分と養分を供給し個体を支持する重要な役割を持つ。水分供給は、気孔の開閉を介した光合成生産速度への影響、細胞の膨圧を介した成長への影響等様々な面で地上部に影響する。栄養塩供給は、窒素やリンを中心として、地上部および個体全体の生産・成長速度をしばしば律速する。また、光合成活性の変化など、環境の変化に対する地上部の応答は水分や養分の需要変化をもたらすため、これに合わせた地下部の応答が求められるはずである。このように植物個体の地上部と地下部には相互に密接な結びつきがある一方で、地上部と地下部を結びつける研究は進んでいないのが現状だと言える。これを進めるためには、根のどのような生理的・形態的性質が水や栄養塩の吸収能力を決定するのか、水や栄養塩の吸収にかかるコストはどのようなものなのか、菌根菌・根粒菌等の土壌生物との関係がこれらにどのように影響するのかを知る必要がある。近年これらのアプローチにおいて、地上部と地下部の生理的な結びつきに示唆を与える重要な結果がいくつか発表されている。本集会では、その中から4人の方々にお集まり頂き、根の水分と養分の吸収機能に関連した最新の研究を紹介して頂くとともに、地上部の研究者がどのように地下部の影響を考慮しなくてはならないか議論して行きたいと考える。

コメンテーター：

石田厚（森林総研）

小山里奈（京大・院・情報）

**T02-1 植物の吸水機能に着目して地上部と地下部の結びつきを考える**

村井麻里（東北農研）

**T02-2 葉っぱと根っこはつながっている！：根の呼吸速度の日中低下とその要因**

別宮（坂田）有紀子（都留文科大）



T02-3 根粒形成制御における地上部と地下部のコミュニケーション

吉良 (岡) 恵利佳 (東大・院・理)

T02-4 樹木細根系の生理機能と生態系機能における異質性 ～根には葉と枝のような機能ユニットはあるのか?～

菱拓雄 (九大・演習林)

企画集会

3月14日 16:15-18:15

会場 Room C

T03 博物館の生態学4～たくさんの眼による地域モニタリング～

企画者：金尾滋史 (多賀町立博)，佐久間大輔 (大阪自然史博)，永野昌博 (里山科学館キョロロ)，三橋弘宗 (兵庫県立人と自然の博物館)

現代の生態学において、環境変動や生物群集の変化を知るための長期野外研究は、大きなトピックのひとつとなっている。特に、生物多様性の維持などのきわめて重要な保全生態学的課題に取り組むための基盤として、身近な自然環境における近年の大きな変化を記述することの必要性は広く認識されるようになり、「モニタリングサイト1000」など大規模なプロジェクトが始まるに至っている。

これまで全国各地の博物館は、地域に根ざした研究機関として、身近な自然の調査を継続的に実施してきた。博物館のモニタリング調査の特徴として、地域住民と協働して活動を展開していること、調査結果を展示や講座等の啓発活動、ひいては生態学的観点に立った地域づくりにも展開させていることが挙げられる。これらのことから博物館は今後も地域の自然環境のモニタリングにおいて重要な役割を担っていくものと考えられる。

しかし、現在行われているこうしたモニタリング活動の多くは、成果の総合的あるいは学問的な活用という点においては、いまだ不十分な状況にあると言わざるを得ない。

この集会では、各地の博物館によるモニタリングや観察事例の積み重ねが明らかにしてきた知見を見つめ直し、その意義と生態学的利用の可能性について検討したい。その上で、博物館と地域住民による調査の成果を、より広く活用するために必要な手法や観点、さらに博物館活動の一環としてのモニタリングの意味や、今後の展開について考えてみたい。

コメンテータ：中静 透 (東北大生命科学)

T03-1 趣旨説明：たくさんの眼による地域モニタリング

永野昌博 (里山科学館キョロロ)

T03-2 モニタリングは誰がする?—八幡湿原自然再生事業からの回答—

白川勝信 (高原の自然館)

T03-3 馬堀自然教育園における身近な自然の保全活動Ⅰ 二次林の変遷と市民による森林育成の試み

大森雄治 (横須賀市博)

T03-4 馬堀自然教育園における身近な自然の保全活動Ⅱ ホタルの養殖実験から河川環境の再生とビオトープ作りへ

大場信義 (横須賀市博)

T03-5 希少生物のモニタリング～続けてきたからみえてきたもの

真鍋徹 (北九州自・歴博)

企画集会

3月14日 16:15-18:15

会場 Room D

## T04 DNA バーコーディングと生態学研究

企画者：伊藤元己（東大・院・総合文化）

本集会では、生物同定法として実用段階に入ってきたDNAバーコーディング技術が、どのように生態学研究で利用可能かについて、さまざまな分野における利用例を紹介し、今後の基盤充実について議論を行う。

### T04-1 森林プロット樹木の同定におけるDNAバーコーディングの可能性

伊藤元己（東大・院・総合文化・広域システム）

### T04-2 植食性昆虫の系統・進化的研究とDNAバーコーディング

吉武 啓（東大・院・総合文化）

### T04-3 タマバエ類の生態学的研究における分子情報の利用

徳田 誠（農業生物研）

### T04-4 害虫防除におけるDNAバーコーディングの利用

三浦一芸（近中四農研）・前藤 薫（神戸大・院・農）

### T04-5 JBOLI-DS: Japanese Barcoding of Life Initiative Data System の使用法

神保宇嗣（東大・院・総合文化）

企画集会

3月14日 16:15-18:15

会場 Room E

## T05 繁殖干渉が拓く種間競争の新たな世界 寄主選択から外来種のリスクまで

企画者：本間淳（京大・昆虫生態）、岸茂樹（京大・生態研）

種間競争のことなどいまさら議論する必要などないと思っていないだろうか？生態系のなかで種間競争は、捕食-被食関係とならんで膨大な種間相互作用の中の基本の「き」なのである。種間競争には、資源をめぐる消費型競争のほかにも個体間相互作用で起きる干渉型競争がある。このとき、ある生態学的現象の背後ではたらく競争のタイプがどのようなものであるのかによって、その帰結は全く異なるものになるはずなのである。

繁殖において、メスが近縁種のおスから受ける干渉を繁殖干渉という(Reproductive Interference: RI)。RIは、消費型の資源競争(Resource competition)に比べてはるかに強力な影響を相手種に与えることがすでに理論的に示されていたにもかかわらず(Kuno 1992)、これまでほとんど注目されてこなかった。

本集会では、まずRIの特徴を他の消費型・干渉型競争と比較しながら紹介する。その上で、室内実験系(競争実験)、野外に見られるパターン(寄主利用、近縁種の分布)、野外で現在進行中の現象(侵入外来種)について、RIに着目した研究例を紹介する。また、資源競争ではうまく説明できなかった雑多な現象や実験結果がRIの観点からより合理的に理解できることを説明する。

本集会の内容は特定の対象生物や研究テーマに限らないものであるが、外来種のリスクや近縁種の分布パターン、寄主利用(specializationとgeneralization)、セクシャルハラスメントなどに関心のある方には、特に興味を持って頂けると思う。

### T05-1 繁殖干渉による種間競争の特徴

本間淳

### T05-2 温故知新：マメゾウムシの種間競争をとらえなおす

岸茂樹

### T05-3 寄主特異性の進化を近縁種間の繁殖干渉で説明する

西田隆義

#### T05-4 外来種問題に潜む繁殖干渉と干渉が無くならない理由

高倉耕一

企画集会

3月15日 18:00-20:00

会場 Room A

#### T06 「個体」を単位とするモデルの実装

企画者：高須夫悟（奈良女子大・理）

近年、生物個体の出生・死亡・移動といった過程をアルゴリズムとして記述する、いわゆる個体ベースモデルを用いたシミュレーション研究が生態学の様々な分野で普及しつつある。「個体」を単位とするシミュレーション研究は、生態学者が取り扱う生物個体の生き様のアルゴリズム的記述を通じ、対象系をボトムアップ的に構成して系の振る舞いを調べる手法である。ある意味、解析的記述による数理モデル研究の対極にあるといえる。

出生・死亡・移動は各個体が局所的に経験する過程である。これらの局所的な過程の総体として、集団・群集・生態系といった高次レベルの現象を我々は観察する。個体レベルの局所的な過程が如何にして高次集団レベルの現象として具現化するかはこれまでに数多くの研究者が取り組んできた問題であり、様々なアプローチによる研究が続いている。個体ベースモデルを用いたボトムアップ的シミュレーション研究はその1つである。

しかし、個体ベースモデルを用いたモデル研究の多くは、プログラミング実装上の困難さやプログラム実行効率を優先して、総個体数が一定に保たれる、個体の位置が格子状に制約される、といった生物学的に不自然な単純化を設定している。こうした不自然な単純化を設定せず、もっと自由気ままに「個体」を出生・死亡・移動させることが出来る個体ベースモデルは実現できないものだろうか？

本集会では、1) 個体ベースモデルの一つとしての格子モデルの研究例、2) 格子モデルの実装方法、さらに、3) 不自然な制約の無い普遍的な個体ベースモデルを構築する枠組みについて話題を提供する。今後のシミュレーション研究のあり方について参加者を交えて議論・討論を行いたい。本集会は、生態学における個体ベースモデラーの裾野を広げることを目的としている。自分が取り組む対象系をアルゴリズム的に検証してみたい方の参加を期待する。

##### T06-1 格子モデル 生かすも殺すも モデル次第

中丸麻由子（東工大・価値システム）

##### T06-2 格子モデルはこうしなさい - How to 格子モデル -

江副日出夫（大阪府立大・生物科学）

##### T06-3 こうでありたい個体ベースモデルの実装

高須夫悟（奈良女子大・理）

企画集会

3月15日 18:00-20:00

会場 Room B

#### T07 時を操る遺伝子の分子機構と生殖隔離

企画者：宮竹貴久（岡大院・環境・進化生態）

体内時計を支配する分子制御メカニズムについては、近年その理解が急速に進んでいる。一方、生殖隔離の生態学的な研究において、生物の異時性（アロクロニー）と生殖隔離の関係が再び注目されつつある。しかし時間を制御する分子生物学的メカニズムに関する研究と、異時的な生殖隔離に関する生態学の研究とのあいだにはほとんど接点がなく、大きなギャップがある。

本企画集会では、生物が繁殖するタイミングを支配する時計遺伝子の分子メカニズムの理解と、その生態学への展開について、昆虫と植物の両面から話題と議論を提供する。

集会の具体的なスケジュールは、繁殖のタイミングと生殖隔離に関する簡単なレビュー、主にハエ目昆虫で進んだ交尾時刻と時計遺伝子および生殖隔離との関係についての理解、モデル生物としての昆虫の代表選手ショウジョウバエと植物の代表選手シロイヌナズナのゲノム解析によって次々と分子機構が解き明かされつつある体内時計仕掛けの分子機構、そして野外で夜に開花するキスゲと昼に咲くハマカンゾウの生殖隔離についての生態と開花時間の遺伝的基盤へと話しを進める。そして分子メカニズムから生態学へと通じる道、今後のアロクロニック（異時的）な生殖隔離の研究、しいては新たな時間生態学のセットセイルに向けた研究の方向性についても議論しちやいたい。

**T07-1 繁殖のタイミングと生殖隔離：ミバエの研究で進んだ理解**

宮竹 貴久（岡大院・環境・進化生態）

**T07-2 キイロショウジョウバエにおけるゲノムワイドな時計遺伝子解析**

松本 顕（九大・高等教育セ）

**T07-3 植物の概日時計と形態形成制御**

溝口 剛（筑波大・遺伝子実験セ）

**T07-4 夜咲き種キスゲと昼咲き種ハマカンゾウから開花時間の遺伝的基礎に迫る**

\* 新田 梢・安元 暁子・矢原 徹一（九州大・院理・生物）

企画集会                      3月15日 18:00-20:00                      会場 Room C

**T08 生物は生態系の恒常性をもたらすか？**

企画者：瀬戸 繭美（九大・理・地球惑星）

植物が二酸化炭素の固定に影響を与えることで地球温暖化の抑制に寄与している。このように、生物は様々なあり方で環境状態に影響を与えている。生物と環境とが相互作用する過程で、環境の状態は常に変化し続けて生物の存在を脅かすものとなるのであろうか、それともなんらかの制御が働いて生物が存在しうる状態が保たれるのであろうか。この問いに答えるために、生物によって生態系がどのように形成されてきたのかを知り、生態系の安定性、恒常性が生物の存在でどのように変化しうるのかを考える。

本自由集会においては、生物が物質循環を駆動することによって生物自身を取り巻く環境に対してもたらす変化と改変後の環境に対する生物の応答とのフィードバック作用に関して、生物地球化学的な見解から2人の講演者に話題を提供していただき、生物が物質循環に寄与することで環境の恒常性をもたらされる可能性について議論する。

コメンテーター：河田雅圭（東北大学生命科学研究科）

**T08-1 環境変動下における生物と非生物の相互作用がうみだす森林の生態系機能**

\* 柴田 英昭（北大・森林圏ステーション）

**T08-2 生態学と地球科学との接点—陸上生物による生物圏へのグレートフィードバックの可能性を探る**

\* 赤木 右（九大・理・地球惑星）

企画集会                      3月15日 18:00-20:00                      会場 Room D

**T09 始めよう！ベイズ推定によるデータ解析**

企画者：深澤圭太（横国大）、角谷拓（東大）

近年、ベイズ推定が生態学における有用な解析ツールとして認知されつつある。ベイズ推定の魅力の1つ



は、背後にある不確実性や観測できないプロセスを明示的に取り扱うことで、データが持つ情報を最大限引き出せることである。このような高い自由度は、移動分散・観測手法の違い・階層構造など生態学でよくある複雑なデータを分析する際に大きな力を発揮する。しかし一方で、この高い柔軟性ゆえに分析を実行するためには、モデルの構造やパラメータなどの詳細な設定をユーザー自身で行なうことが必要となり、このことがベイズを用いたデータ解析を始める敷居を高くする一因にもなっている。

本集会では、生態学のフィールドで良くとられるデータタイプの一つである生物の空間分布データを扱い、空間的自己相関を考慮した移動分散の解析、複数のプロセスからなるモデルの推定など、ベイズ推定のご利益を実感できる事例とともに、その考え方や具体的な使い方をできるだけわかりやすく説明する。本集会での講演者は、いずれもベイズを使い始めて1年未満の初学者である。講演者が経験した試行錯誤の経過なども紹介しながら、ベイズをこれから使い始める人が、一見難しそうなおベイズ統計学も直感的な理解と試行錯誤によって十分身につけられる、と思えるような集会を目指したい。

なお、講演に先立って演者全員で準備したベイズ統計の考え方の概説を行なう予定である。

コメンテーター：

久保拓弥（北大）・島谷健一郎（統教研）

**T09-1 階層ベイズモデルによる外来樹木アカギの分布予測**

深澤圭太，小池文人（横国大），田中信行（森林総研），大津佳代（日林協）

**T09-2 空間自己相関モデルをもちいた花粉散布の空間パターン推定：ブナの花粉は本当に風で飛んでいるのか？**

\* 富田基史（東北大・院・農），花岡創（岐阜大・院・農）

**T09-3 空間自己相関を考慮した湿地における絶滅危惧植物の分布予測モデル**

\* 石濱史子，小熊宏之，武田知己，竹中明夫（国環研）

**T09-4 分布拡大するシカ個体群における分散速度のベイズ推定**

山道真人（総研大）

**T09-5 ベイズキャリブレーションによる外来生物の分布拡大予測：セイヨウオオマルハナバチを事例に角谷拓（東大）**

企画集会                      3月15日 18:00-20:00                      会場 Room E

**T10 アジア・太平洋地域の植生の分布と分化 III**

企画者：村上雄秀（IGES 国際生態学センター），中村幸人（東京農大）

本多静六が日本の植生帯を図化して約100年が経とうとしている。その間多くの国内の植生の分布・分化の研究がなされてきたが、小さな島国である日本の植生を客観的に位置づけし、その系譜を探るためには近接したアジア・太平洋地域の広域植生研究が不可欠である。主要な森林植生であっても、比較的独自性の強いブナクラス；夏緑広葉樹林もさることながら、ヤブツバキクラス；常緑広葉樹林やコケモモトウヒクラス；常緑針葉樹林にいたっては大陸や日本と近接した島嶼の植生との比較無しには日本の植生の分布の位置づけすら流動的と判断される。本集会は植生研究の場をアジア・太平洋地域に設定し、日本の植生の分布と分化をその中で位置づけることを目的として、広域研究成果を基に考察する。

今回は近年の研究成果の充実を機会に、第3回として日本の植生の最寒冷地域に発達するコケモモトウヒクラス（亜高山針葉樹林）およびカラフトイワスゲヒゲハリスゲクラス（高山草原）などを中心にBoreal帯以上の植生について理解を深め、議論したい。

**T10-1 北東アジアのコケモモトウヒクラス針葉樹林の組成と分布**

中村幸人（東京農大）

## T10-2 北東アジアの高山植生に関する植物地理的研究

佐藤 謙 (北海学園大学)

## T10-3 ロシア沿海部と日本の植生地理

沖津 進 (千葉大学)

企画集会

3月16日 15:45-17:45

会場 Room A

## T11 生物間相互作用に着目した山岳山生態系の脆弱性評価にむけて

企画者：工藤岳 (北大・地球環境)，彦坂幸毅 (東北大・生命科学)，占部城太郎 (東北大・生命科学)

温暖化などの地球規模の環境変動により、生物進化史上かつてないほどの勢いで生物多様性の脆弱化が進行している。これまでの地球環境変化に対する生態系の将来予測のほとんどは定常状態を想定しており、生態系の変化プロセスは考慮されていない。生態系は食物網を構成する多様な生物の進化的応答とそれら種間の相互作用によって成立しており、環境変動の影響はそれらを介して緩和されたり、増幅されたりすることが知られている。

我々は、生物多様性とそれを支える種間相互作用や食物網構造を考慮した、環境変化に対する生態系の脆弱性を評価するシステムを構築することをめざしてプロジェクトを組織し、2005年から研究を行ってきた。対象として、重要な景観・観光資源であり、遺存種など特有の生物種も多い山岳生態系を選んだ。高山植物群落・高層湿原・亜高山針葉樹林などの陸域生態系と湖沼などの陸水生態系において環境特性・生理生態的特性・遺伝子流動・物質循環などについて包括的な研究を行った。本集会ではこれまで3年間の成果をまとめ、報告し、これからの可能性を探りたい。各成果発表に先立ち、全体の趣旨説明を行い、最後に総合討論を行う。

### T11-1 高山帯のユニークな生態系構造と高山植物群集の気候変動への応答

\* 工藤岳・平尾章・亀山慶晃・川合由加 (北大・地球環境)

### T11-2 亜高山帯の標高傾度に沿ったアカエゾマツ林冠木の成長履歴

\* 甲山隆司・長谷川成明 (北大・地球環境)

### T11-3 湿原植物群集内における資源獲得競争とその環境応答

\* 彦坂幸毅・神山 千穂・及川真平・長田典之 (東北大・生命科学)・久保拓也 (北大・地球環境)

### T11-4 高山帯湖沼生態系のバクテリア群集構造

\* 小島久弥・藤井正典・福井学 (北大・低温研)・小泉嘉一 (玉川大・学術)

### T11-5 高山・亜高山帯における陸域-水域間の連結：湖沼食物網への陸上炭素の流入

\* 岩田智也・保坂啓太・望月菜穂香 (山梨大・工)・占部城太郎・鈴木孝男・八神遥介・加藤恵理子・加藤聡史 (東北大・生命科学)・福井学・小島久弥・藤井正典・堤正純・末松耕平 (北大・低温研)・高津文人 (科学技術振興機構)

企画集会

3月16日 15:45-17:45

会場 Room B

## T12 安定同位体アプローチによる河川環境と生態系の評価

企画者：陀安一郎 (京大・生態研センター)

集水域を単位とした河川生態系の理解には、物質動態および生物間相互作用両方の視点を持つ必要がある。しかし河川の状態は刻々と変化するため、河川環境を適確に把握するための方法論が必要となる。元素および分子のもつ安定同位体情報は、物質の起源や反応の履歴情報を含むため、河川環境の把握から集水域単位の物質循環研究までに利用可能である。河川に生息する生物の安定同位体比は、環境中の資源の情報に加え

食物網上の位置を示すため、生物群集の解析に用いることができる。本企画集会では、河川環境の継時的変動を追った研究から生態系解析の研究までにわたる最新の知見を紹介する。これらを元に、集水域を単位とした生態学研究における安定同位体解析の今後の展開について議論を深めたい。

**T12-1 安定同位体解析を用いた集水域研究**

永田 俊（京大・生態研）

**T12-2 硝酸の窒素・酸素同位体比同時測定による栄養塩動態解析**

大手信人（東大・農学生命科学）

**T12-3 河川における一酸化二窒素の動態 - 硝化・脱窒におけるアイソトポマー比を利用して -**

\* 眞壁明子（東工大・総合理工），木庭啓介（農工大・共科技院）

**T12-4 モンゴル国ウランバートル近郊河川における各種同位体比の日変動**

陀安一郎（京大・生態研）

**T12-5 河川環境と生物の安定同位体比**

高津文人（科学技術振興機構）

企画集会

3月16日 15:45-17:45

会場 Room C

**T13 雑食：食物網における直接効果と間接効果をつなぐ**

企画者：難波利幸（阪府大・理），瀧本 岳（東邦大・理）

雑食，特に，同じ資源を利用する種間でのギルド内捕食については，1990年前後から活発に研究が行われてきた。数理的研究では，ギルド内被食者とギルド内捕食者の資源利用効率の差と資源の生産性，そして，資源から捕食者に至る直接経路と被食者を經由する間接経路の間のエネルギー伝達効率の比が，多様な多重安定性や複雑な個体群動態の出現を左右することが明らかになっている。

一方，実証研究では，ギルド内被食者を利用した場合と資源を利用した場合の成長効率のトレードオフが，ギルド内捕食の存在を理解する鍵であることが示唆されている。陸生昆虫群集では，宿主内の寄生蜂が宿主ごと捕食者に食べられるギルド内捕食が生じるが，ギルド内捕食を回避する寄生蜂の産卵行動が資源量に影響されることが明らかになっている。また，河川群集では，雑食性の魚類と水生昆虫類の間にギルド内捕食が生じ，それが底生藻類への栄養カスケードを生むことや，この栄養カスケードによって，本来競争関係にあるはずの雑食性魚種間に片利関係が認められることが注目されている。

また，3種ギルド内捕食系が食物網の構造や安定性に果たす役割は，より大きな食物網や群集の研究においても注目されている。

この企画集会では，実証と理論の双方から，雑食に関する最新の研究の成果を紹介していただき，「直接効果と間接効果をつなぐ」ことを意識しながら，幅広くギルド内捕食や雑食が生物群集の構造と動態に及ぼす影響について議論したい。この集会についての情報は，<http://www.b.s.osakafu-u.ac.jp/~tnamba/omnivory/index.html> で提供する。

**T13-1 ギルド内捕食系研究の現状と課題**

瀧本 岳（東邦大・理）

**T13-2 ギルド内捕食者になることの代価**

\* 佐藤 智（山形大・農），安田弘法（山形大・農）

**T13-3 寄生蜂 - 捕食者間のギルド内捕食とギルド内捕食の回避行動**

仲島義貴（帯広畜産大）

**T13-4 河川中流域の食物網における間接効果が魚種間関係に与える影響**

片野 修（中央水研）

T13-5 ギルド内捕食系の安定性と個体群動態  
難波利幸（阪府大・理）

企画集会 3月16日 15:45-17:45 会場 Room D

T14 保全の現場からみたレッドリスト・レッドデータブック

企画者：西廣淳（東大・農学生命科学）

レッドリスト・レッドデータブック（以下 RDB）は、野生生物の大量絶滅の危機を科学的に指摘し、開発などの人間活動において特に配慮すべき対象を明らかにする上で重要な役割を果たしている。特に日本の RDB は、強力なボランティア基盤に支えられた充実したデータに基づいている点や数的手法を活用した絶滅確率の推定を判定に用いている点などにおいて、世界に誇るべきものである。

RDB は、日本における環境影響評価や自然再生の現場において絶大な影響力をもっている。たとえば、RDB 掲載種が分布していることが、その地域の保全措置を実施するための条件になる場合も多い。したがって RDB は、生態学を含めた最新の科学的知見を十分に反映した内容になるべきである。一方、RDB に頼り過ぎる評価も生物多様性の保全にとっては十分ではないだろう。

本企画集会では、まず、保全の現場において RDB がどのように活用されており、どのような課題があるのかについて解説する。次に維管束植物とトンボ類を題材に、絶滅危惧判定の手法における課題についての話題提供を行う。最後に、RDB のみに頼らない評価手法について、2つの事例紹介を踏まえた議論を行う。

T14-1 保全の現場における RDB 活用の現状と課題

梅原徹

T14-2 レッドリスト（植物 I）での評価における課題

西廣淳（東大・農学生命科学）

T14-3 絶滅回避率：トンボ類レッドリストでの工夫

須田真一（東大・農学生命科学）

T14-4 生態系の多様性を保全するため RDB 種以外の種をどう評価するか？標津川の例

富士田裕子（北大・植物園）

T14-5 RDB 記載種から見た中国山地の小規模湿地

日置佳之（鳥取大）

企画集会 3月16日 15:45-17:45 会場 Room E

T15 21世紀の熱帯林管理 - 生物多様性保全における森林認証制度の効果

企画者：今井伸夫（京大・生態研），鮫島弘光（京大・生態研），喜多智（京大・生態研），北山兼弘（京大・生態研）

アジアの熱帯林では、過去 30 年で急激にその面積が減少した。残された森林のうち、一部は自然保護区として原生状態が維持されているが、大部分は生産林として利用されている。生産林は今後も木材生産の役割が期待されているが、一方で、多くの貴重な生物種の生息地となっていることが明らかになりつつある。生産林の面積は広大であるため、地域の生物多様性保全のために今後その適切な管理が強く求められる。

木材生産をしながら森林を持続的に管理する手段のひとつとして、「森林認証制度」が注目されている。森林認証制度は、環境に対して持続的で低インパクトな伐採システムがとられているかを評価・認証する制度で、認証による木材製品の差別化と持続的な森林管理の促進を目指している。しかし熱帯地域においては、その生物多様性保全に対する効果の評価は限定的なものに留まっている。ここで森林認証制度が保障する低



インパクト伐採システムが地域の生物多様性に及ぼすプラスの効果を明示することができれば、認証製品の市場競争力をさらに高め、制度普及への強い動機付けとなりうる。

本集会では、1997年にマレーシアで初めて認証を受けたサバ州デラマコット森林管理区を例に、森林認証における低インパクト伐採が地域の生物多様性に与える影響を紹介する。大型哺乳類、絶滅危惧種のオランウータン、土壤動物、土壤微生物、植物など様々な分類群から制度導入の効果を紹介するとともに、これからの熱帯林管理システムと生物多様性保全について幅広く議論したい。

**T15-1 熱帯地域における森林認証制度の現状と課題**

内藤大輔（京大院・アジアアフリカ研）

**T15-2 低インパクト伐採による樹木多様性と林分構造への影響**

\* 今井伸夫（京大・生態研），清野達之（筑波大・生命環境）

**T15-3 低インパクト伐採による土壤動物、土壤微生物への影響**

\* 吉田智弘，長谷川元洋（森林総研・木曾），喜多智（京大・生態研）

**T15-4 認証林と非認証林における野生動物相の比較研究**

\* 小野口剛（京大院・生態研），松林尚志（東農大・地域）

**T15-5 森林認証制度のための大型動物モニタリングシステムの開発**

\* 鮫島弘光（京大・生態研），松林尚志（東農大・地域）

企画集会

3月16日 18:00-20:00

会場 Room A

**T16 生物学的侵入の分子生態学：分子遺伝マーカーを用いて外来生物の侵入生態を探る**

企画者：西川 潮（国環研），米倉竜次（岐阜河川研）

従来、外来生物は創始者効果や遺伝的浮動の影響を受けて、侵入先で遺伝的多様性が低下し、その結果、新たな環境への適応能が制限されると考えられてきた。しかしながら、実際には、遺伝的多様性が低下しても定着に成功する外来生物は存在するし、繰り返し侵入することで遺伝的多様性が増加する例もある。外来種（集団）と在来種（集団）とのあいだに、“雑種”が形成されることもある。分子遺伝マーカーに基づく外来生物の分子生態学的研究は、近年、海外で急速に増えてきたが、国内では交雑などの遺伝的攪乱の研究例はあるものの、外来生物そのものを対象とした研究は稀である。本集会では、水域の外来生物（藻類、魚類、甲殻類）を対象として、海外から国内、そして国内から海外に渡った侵入者たちが、どこから、どのように侵入し、また、侵入先でどのように分布拡大してきたか、分子遺伝マーカーを用いて遺伝子（遺伝子浸透）もしくは個体群レベルで明らかにした研究を紹介する。次に、外来生物は定着先で遺伝的多様性がどのように変化しているのか、遺伝的変異と定着成功の間には関係性があるのか、そして、侵入先で遺伝的多様性が減少している分類群は定着成功に際してどのような生物学的特性を持つのかを考察し、外来生物の定着成功の鍵となる遺伝的・生態的特性について議論を上下したい。

コメンテーター：岩崎敬二（奈良大），西田睦（東大）

**T16-1 タイリクバラタナゴとニッポンバラタナゴの関係に見る外来種の遺伝子浸透**

片山雅人，\*河村功一（三重大）

**T16-2 ミトコンドリア DNA 解析に基づく外来ザリガニ類の遺伝的変異と分散様式**

\* 西川潮（国環研），東典子（北大），高村典子，高村健二（国環研）

**T16-3 AFLP 法に基づく日本に定着したニジマスとテラピアの集団構造分析**

高橋洋（水産大）

**T16-4 遺伝子マーカーを用いた褐藻ワカメ、緑藻アオサ類移入集団の起源と動態の解析**

\* 川井浩史 (神戸大), 上井進也 (新潟大), 羽生田岳昭 (神戸大), Judie Broom (オタゴ大), Wendy Nelson (NIWA)

**T16-5 中立遺伝マーカーと量的遺伝解析から外来魚ブルーギルの定着成功を探る**

\* 米倉竜次 (岐阜河川研), 河村功一 (三重大)

企画集会                      3月16日 18:00-20:00                      会場 Room B

**T17 環境保全とゲーム理論**

企画者: 大野 (鈴木) ゆかり (九大・理), 三谷羊平 (早稲田大・経済)

最近の生態学会の中心話題のひとつとして、生物多様性保全があげられる。保全を研究する生態学者は増え始めているが、日本生態学第51回大会企画シンポジウム「日本生態学のめざすところ」では、「生物多様性保全は、自然科学の規範の範囲内か?」という疑問が投げかけられた。保全というものは目的があり、人間の価値観がどうしても入ってしまう。自然科学が客観性や論理性に基づくものだとすると、保全は自然科学ではなくなってしまう。これが、社会的ニーズが高いにもかかわらず、生態学者が保全になかなか踏み込めなかった要因の一つである。

しかし現在、生物多様性保全は生態学者が取り組まなくてはいけない重要な課題である。一方で、人間の価値観を研究対象として扱ってきたのが、社会科学である。今回の自由集会では、保全や公共財に対する人間の行動・価値観やゲーム理論を扱っている経済学の若手研究者の方をお招きし、人間の行動・価値観をどのように科学として扱うのか、また、どのような性質があるのか、お話を伺う。具体的には、人にとっての環境の価値 (健全な生態系から便益を得たり、環境汚染から負の効用を得たりなど) や、公共財ゲームにおける人間行動の理論と実験 (どうしたら公共のために協力するかなど) について、発表していただく。また、この集会を通して、経済学者と生態学者との環境保全についての共同研究の可能性を探りたい。

司会: 大野 (鈴木) ゆかり (九大・理)

コメンテーター: 巖佐庸 (九大・理)

**T17-1 環境保全の便益: 環境評価は何をどこまで明らかにすることができるか?**

三谷羊平 (早稲田大・経済)

**T17-2 自発的な生態系保全行動を誘発する経済メカニズムの可能性**

小谷浩示 (国際大・国際関係学)

**T17-3 環境問題と人間の協力行動: 公共財ゲームの被験者実験より**

鈴木真介 (筑波大・システム情報工学)

**T17-4 湖の水質汚染と人々の協力モデル: 生態系ダイナミクスと社会経済学的選択ダイナミクスのカップリングの例として**

\* 大野 (鈴木) ゆかり (九大・理), 巖佐庸 (九大・理)

企画集会                      3月16日 18:00-20:00                      会場 Room C

**T18 MAFES: 物質循環をマルチスケールで攻める**

企画者: 大塚 俊之 (茨城大理学部), 伊藤 昭彦 (国環研)

生態系の物質循環研究には2つの方向性がある。一方は地点スケールで生じている現象を掘り下げてプロセス解明を目指すものであり、もう一方は地域スケールに展開して気候との相互作用を評価しようとするも

のである。そこには、炭素循環の変化が地球温暖化に相当の影響を与えることが明らかにされつつあるように、現在の生態学にはメカニズム理解の深化とともに広域的な視点が求められているという背景がある。それぞれのスケールにおいて現地観測だけでなく衛星データ解析、モデリング、メタ分析など新たな手法が次々と発生しており、この分野の研究進展には著しいものがある。そこで今回の MAFES では、それぞれのアプローチで生態系の物質循環に挑んでいる気鋭の若手研究者に、最新の研究成果を発表していただく。それを踏まえ、異なるスケール、異なる手法で行われている研究をいかにして統合し、生態学的な理解の深化につなげるか、あるいは地球温暖化問題などの社会要請に応えられる知見にまとめるか、について参加者全員で議論を行いたい。特に、この分野の研究者を目指す学生からポスドクの参加を期待している。

T18-1 分光計測を利用したプロセス研究 - 個葉からサイトスケールの詳細化  
中路 達郎 (国環研)

T18-2 数値モデルとメタ分析 - 地域からグローバルスケールへの展開  
加藤 知道 (地球フロンティア)

企画集会 3月16日 18:00-20:00 会場 Room D

## T19 材の解剖特性と樹木の水利用

企画者：岡田直紀（京大・農），清野達之（筑波大・生命環境）

広葉樹の年輪をみると、成長期の初期に年輪界に沿って大きな道管を形成する環孔材と、年輪内で径が比較的そろった道管を形成する散孔材がある。この木材解剖学的な観点にたった区分からは両者の生態的な違いは見えてこないが、道管の水輸送効率や木部の通導面積の違い、道管形成時期の違いなどを比較すると、両者の生理生態的な違いが明らかになってくる。環孔材樹種は散孔材樹種に比べて材の水輸送効率が高い一方で、一般に木部形成の開始時期が遅い。木部の水輸送効率は葉での水利用に直結し、光合成の効率に影響を及ぼすので、こうした違いは落葉広葉樹林において両者が共存しうる理由と関係しているかもしれないし、環孔材樹種の分布が冷温帯の落葉広葉樹林に集中している理由を示すのかもしれない。実際に、常緑の環孔材樹種は存在せず、温帯と同様に生育不適期間が存在する熱帯季節林には環孔材樹種がほとんど出現しない。したがって、環孔材樹種は温帯落葉広葉樹林の環境にもっとも適応していると言える。

この集会では、水利用の観点から環孔材と散孔材の構造と機能をとらえ直し、両樹種の木部構造にどのような機能的、適応的意味があるかを考える。

当企画集会 URL

[http://www.geocities.jp/web\\_seino/research/esj55/eoanatomy3.html](http://www.geocities.jp/web_seino/research/esj55/eoanatomy3.html)

T19-1 趣旨説明：環孔材の機能的定義に関する話題  
岡田直紀（京大・農）

T19-2 散孔材と環孔材における Huber value の違いとその意味  
東郷真波（京大・農）

T19-3 高 CO<sub>2</sub> 濃度環境下で生育させた落葉広葉樹の解剖特性  
渡邊陽子（北大・北方生物圏フィールド科学セ）

T19-4 落葉広葉樹における通水性と葉のフェノロジーの関係  
高橋さやか（京大・農）

T19-5 熱帯と温帯のブナ科樹種の解剖特性の比較と生態的意義  
清野達之（筑波大・生命環境）

**T20 アグロエコロジー研究会： 農村自然再生を群集生態学から考える**

企画者：日鷹一雅，嶺田拓也

農村における自然再生や保全は、今や危急の課題のように取り扱われだした。たしかに農村部における耕作生活者の激減、不在の状況にあつては、里地・里山の二次的自然の維持管理の先行きは暗い。そこで絶滅種、絶滅の心配される種の保全や再生にあやかって、農村地域の再生に持っていこうとする計画が各地で進められている。そう RDB 種は今や農村再生の切り札として、key-stone species あるいはアンブレラ種なのだと言わんばかりだ。しかしながら、本当に、トキ・コウノトリ、メダカ、タガメ、ゲンゴロウなど RDB 種を保全したり再生すれば、生物多様性は回復するのだろうか？

まともな生態学者なら、そう単純で容易くないと考えるだろう。しかし、実際に現場に携わる研究者は、理論と環境整備をどう進めたらいいか、科学的な見解を求められている。そこで、論点は3つあるだろう。

(論点1) 群集生態学の知見で考えてどうなのか？

(論点2) そもそも農村依存性の生物種、群集とは？

(論点3) そして思惑どおり、とくに僻地の疲弊し出した農村は再生できる目途がつくのだろうか？

以上三つの論点について、この分野で現場で基礎研究を進めている有識者に講演いただき、群集生態学の視点から冷徹で熱い議論を行いたいと考えている。

コメント予定：松田裕之（横国大）：最新の群集生態学の知見から

**T20-1 農村生態系を再生するためのキーハビタットと指標種の抽出**

三橋弘宗（兵庫県人博）

**T20-2 能登半島におけるトキ再生と里山の生物多様性保全**

\*宇都宮大輔，小路晋作，赤石大輔，木村一也，井下田寛，大脇 淳，笠木哲也，中村浩二(金沢大・能登里山・能登里山里海学校)

**T20-3 水田農業依存性 RDB 種が残存する農村で起こった普通種激減**

日鷹一雅・猪谷信忠（愛媛大・農）・嶺田拓也（農工研）





## 口頭発表 3月15日(土)(Oral Presentation, 15 March, Saturday Afternoon)

Time	Room A 保全 (1)	Room B 植物生理生態	Room C 群落	Room D 動物繁殖
14:00	A1-01 日本産リュウノヒゲモの遺伝的多様性について *金子有子 (琵琶湖環境科学研究セ), 浜端悦治 (滋賀県立大), 川瀬大樹 (京大生態研), 神谷要 (米子水鳥セ)	B1-01 大気CO2濃度と生物的窒素固定の相互作用がダイズの繁殖収量に及ぼす影響 *及川真平 (京工繊大・生物資源フ), 宮城佳明, 彦坂幸毅 (東北大・院・生命), 衣笠利彦 (鳥取大・農), 松波寿典, 岡田益己 (東北農研セ・寒冷地), 国分牧衛 (東北大・院・農), 広瀬忠樹 (東京農大・国際食料)	C1-01 日本の中庸立地における温帯夏緑広葉樹林の植生体系について(予報) 鈴木伸一	D1-01 The dynamics of sexual conflict over mating rate with endosymbiont infection that affects reproductive phenotypes *林岳彦 (産総研), Marshall, JL (カンザス州立大), Gavrillets, S (テネシー大)
14:15	A1-02 木曾川感潮域における絶滅危惧植物タコノアシの生存にかかる環境要因 *比嘉基紀, 師井茂倫, 大野啓一 (横国大・院・環情)	B1-02 西オーストラリアの塩害地におけるユーカリ植林木の葉の水分特性 齋藤隆実, 曾根恒星 (東大院・理), 栗本耕平, 林和典 (日本製紙・森林研), 野口航, 寺島一郎 (東大院・理)	C1-02 日本と韓国の暖温帯に分布するコナラ林の群落体系 *大野啓一 (横国大・院・環情), 宋 鍾碩 (韓国・安東大)	D1-02 卵黄内のテストステロンは雛間競争を緩和するのか? 富田直樹 (大阪市大・院理), 酒井秀嗣, 佐藤恵 (日大・歯), 日阪万里子, 高木昌興 (大阪市大・院理)
14:30	A1-03 日光白根山のシラネアオイ保全に対するアプローチ: オルガネラDNA多型による地域間差異 *墨谷祐子 (栃林セ), 上野晴子 (栃宇林), 天谷正行 (栃農試)	B1-03 海岸砂丘に生育するグンバイヒルガオもSkototropismの性質を有する? 古川昭雄 (奈良女・共生センター)	C1-03 日本とその周辺域に分布する落葉広葉樹林の植生地理構造 沖津 進 (千葉大学園芸学研究科)	D1-03 気まぐれに見えるサンゴの性転換 *酒井一彦 (琉球大, 熱生研), Yossi Loya (Tel Aviv Univ., Zoology)
14:45	A1-04 日本産希少ラン科植物エビネ及びキエビネにおけるウイルス発生状況 *川上清久 (秋田県大・生物資源科学研究科), 藤晋一 (秋田県大・生物資源科学研究科および生物資源科学部), 三吉一光 (秋田県大・生物資源科学研究科および生物資源科学部)	B1-04 光合成型による気孔のCO2応答性の違い *鎌倉真依 (奈良女大・院・人間文化), 古川昭雄 (奈良女・共生センター)	C1-04 国後島古釜布湿原の植生と微地形 *加藤ゆき恵 (北大・院・農), 富士田裕子 (北大植物園), 近藤誠司 (北大・院・農), 東隆行 (北大植物園)	D1-04 高知県南西部の島嶼部におけるシーボルトミズノ形態に関する研究 *南谷幸雄 (愛媛大・院・連合農), 福田達哉 (高知大・農)
15:00	A1-05 農村環境変化による絶滅危惧植物個体群への影響評価—キキョウを指標として— *吉田聡子 (横浜国大・環), 日鷹一雅 (愛媛大・農), 渡邊修 (信州大・農), 松田裕之 (横浜国大・環)	B1-05 栄養条件の異なる土壌に生育する広葉樹の葉と材構造の比較 *高橋直大, 岡田直紀 (京都大学農学部森林科学科)	C1-05 断崖における生物多様性とその固有性 鹿野雄一 (九大工院)	D1-05 動物プランクトンの休眠卵と富栄養化の逆説 仲澤剛史 (京大・生態研セ), 桑村雅隆 (神大・発達科学), 山村則男 (地球研)

**動物個体群**

口頭発表 3月15日(土)(Oral Presentation, 15 March, Saturday Afternoon)

Time	Room E 動物群集	Room F 行動	Room G English
14:00	E1-01 ミドリイシ属サンゴ幼生の選択的着生について *鈴木豪(京大・農), 林原毅(西水研・石垣), 白山義久, 深見裕伸(京大フィールド研・瀬戸)	F1-01 サーモグラフィによる温度計測に必要な放射率値 *大塚公雄(東医歯大・生材研), 金沢至(大阪市自然史博)	G1-01 Land use change in Irrigated Rice Field on East Java Province, Indonesia *Wicaksono, K (Hiroshima Univ.), Nakagoshi, N (Hiroshima Univ)
14:15	E1-02 Community structure of coral-associated assemblages *Daud J, Tokeshi M (AMBL- Kyushu University)	F1-02 マングロープスズの概潮リズム: 同調因子の解明 *佐藤綾(琉球大・理), 吉岡英二(神戸山手大)・沼田英治(大阪市立大・院理)	G1-02 Effects of Climate Change on Landscape Ecology of Bangladesh *Talukder, B (Hiroshima Univ.), Nobukazu, N (Hiroshima Univ.), Rashid, Md. S (JU, Bangladesh)
14:30	E1-03 ヨロイソギンチャクとムラサキイノコの関係は: 競争or共生? *石川恵, 河井崇(九大・理・生態研)	F1-03 アズキゾウムシにおけるオスの求愛頻度に応じたメスの産卵戦略 *岸茂樹(京大・生態研)	G1-03 Re-evaluating stream restoration in Aichi Prefecture *Yoshinori Taniguchi, Shinya Takahashi, Toshimasa Takeuchi, Akie Yamazaki, and Chihiro Miyazaki (Meijo Univ.)
14:45	E1-04 アマモ場葉上動物群集の空間変異に対する環境要因と捕食者の効果 *恵良拓哉(千葉大・自然科学), 仲岡雅裕(千葉大・理), 石井光廣(千葉県水産総合研究センター), 大藤友季子(千葉県水産総合研究センター), 堀正和(瀬戸内海区水産研究所)	F1-04 ネムノキマメゾウムシは大きくなるマメを予測できるか *坂田はな(東大・広シ), 石原道博(大阪府大院), 嶋田正和(東大・広シ)	G1-04 Fish Assemblage Structure of Alluvial Lakes in the Yazoo River Basin, Mississippi *Miyazono, S. (Mississippi State Univ.), Aycock, J.N. (Mississippi State Univ.), Miranda, L.E. (Mississippi State Univ.), Steffen, C.J. (Mississippi State Univ.), Tietjen, T.E. (Mississippi State Univ.)
15:00	E1-05 岩礁潮間帯固着動物群集における種多様性の緯度勾配の維持機構: 生態学的プロセスの重要性の検証 *奥田武弘(北大・環境), 野田隆史(北大・地球環境), 山本智子(鹿児島大・水産), 堀正和(瀬戸内水研), 仲岡雅裕(千葉大・自然科学)	F1-05 記録型標識を使ったミナミマグロの行動追跡 *高橋紀夫, 伊藤智幸, 黒田啓行, 境磨	G1-05 Validity of statistical analysis and quantification of non-random process affecting local species richness: effect of relative abundance distribution in regional community and sampling effort *Hagino, T. (Hokkaido Univ.), Noda, T. (Hokkaido Univ.)

## 口頭発表 3月15日(土)(Oral Presentation, 15 March, Saturday Afternoon)

Time	Room A 保全 (1)	Room B 植物生理生態	Room C 群落	Room D 動物個体群
15:15	A1-06 Invasive mutualismによる小笠原諸島の送粉系崩壊 安部哲人(森林総研)	B1-06 散孔材と環孔材の当年枝における葉-枝間の資源配分の違い *東郷真波(京大・農),岡田直紀(京大・農)	C1-06 河川敷における自然攪乱と人為攪乱が植物の出現に与える影響 一連年モニタリングによる評価 - *石田真也(新潟大院・自然科学), 稲川貢(国土交通省信濃川河川事務所), 野口将之(建設技術研究所), 紙谷智彦(新潟大院・自然科学)	D1-06 ホンヤドカリにおける貝殻種選好性の地域変異 *長谷川洋美(奈良女子大・理), 青木優和(筑波大・下田臨海), 和田哲(北大・水産), 和田恵次(奈良女子大・理)
15:30	A1-07 飛行船による海洋生物調査の検討 *立川賢一(横国大・研究情報), 白木原國雄(東大・海洋研)	B1-07 林冠ギャップを想定した光環境下における木本4樹種の成長および葉の特性 米田吉宏(奈良県森技セ)	C1-07 ラオス移動耕作地の植生回復モデル *千葉幸弘, 清野嘉之, 落合幸仁(森林総研), 浅井英利(京大農), 井上吉雄(農環研)	D1-07 東京湾産シャコに起きた生活史変化と個体群動態 *中嶋美冬(ハワイ大), 田中嘉成(国環研), 児玉圭太(国環研), 堀口敏宏(国環研)
15:45	A1-08 市民参加による干潟底生動物の調査 1. 継続性のある調査手法 *鈴木孝男(東北大院・生命科学), 佐々木美貴(日本国際湿地保全連合)	B1-08 林床低木種の光環境に応じた樹冠形成の可塑性発現パターン *河村耕史(森林総研・関西), 武田博清(京大・農)	C1-08 熱帯雨林のサイズ生命表 *山倉拓夫, 名波哲, 伊東明(阪市大・院・理), 神崎護(京大・院・農), 大久保達弘(宇都宮大・農)	D1-08 オオユスリカ幼虫の炭素安定同位体比の季節的変動 *鹿野秀一(東北大・東北アジア), 安野翔(東北大・院・生命), 村岡歩(東北大・院・生命), 千葉友紀(東北大・院・生命), 嶋田哲郎(伊豆沼・内沼環境保全財), 原浩太(東北大・院・農), 菊地永祐(東北大・東北アジア)
16:00	A1-09 ハマグリの生活史と資源管理 *逸見泰久(熊本大・沿岸域センター), 梶原信輔(熊本大・院・自然科学), 小林哲(佐賀大・農)	B1-09 リン制限は光合成におけるリン利用効率を増加させるのか? *日高周, 北山兼弘(京大・生態学研究センター)	C1-09 函南原生林における常緑広葉樹林から落葉広葉樹林への林冠優占種実生の発芽・定着数の変化 *澤田佳美(東京農大・院・林学), 中村幸人(東京農大・院・林学), 武生雅明(東京農大・地域環境), 吉田圭一郎(横浜国立大), 磯谷達宏(国土館大学・文)	D1-09 アサギマダラの移動調査における問題点の検討 藤井 恒(日本チョウ類保全協会・京都学園大学)
<b>植物繁殖</b>				
16:15	A1-10 小富士海岸におけるカブトガニ生息環境の保全と創出 *大平裕(福岡県温防セ), 柴田幸次(九環協)	B1-10 本邦産カエデ属10種の種子発芽に関する比較生態 鈴木和次郎(森林総研)	C1-10 常緑-夏緑広葉樹林帯Ecotoneにおける林冠優占種の幹生長量の標高による変化 *吉田圭一郎(横浜国立大・教育人間科学), 武生雅明(東京農大・地域環境), 磯谷達宏(国土館大学・文), 澤田佳美(東京農大・院・林学)	D1-10 昆虫による卵食と種子食の比較生態学 広瀬義躬(九大)

## 口頭発表 3月15日(土)(Oral Presentation, 15 March, Saturday Afternoon)

Time	Room E	Room F	Room G
	動物群集	行動	English
15:15	E1-06 ダム試験湛水および出水による底生動物群集の構成変化 *藤野 毅(埼玉大学理工学研究科), 浅枝隆(同), ニンウィリ(同), 高橋陽一(財団法人水資源協会)	F1-06 トウヨシノボリにおけるフィリアルカニバリズムと雌による雄への同型的選好性 *野間口真太郎, 中村拓洋, 松永くるみ(佐大農)	G1-06 Derivation of yearly transition matrix of land-use dynamics and its applications *Takada, T. (Hokkaido Univ.)
15:30	E1-07 琵琶湖の低酸素化に伴う底生動物群集の変化について 西野麻知子(琵琶湖環境科学研究センター)・大高明史(弘前大・教育)	F1-07 何がニジカジカ <i>Alcichthys elongatus</i> の父性に影響を与えているのか? 精子数および交尾順番の実験的検証 *八幡知基(北大院・環境科学)・宗原弘幸(北大・FSC)	G1-07 Random community model with resource competition *Kei Tokita (Osaka U.), Yoshimi Yoshino (Osaka U.), Tobias Galla (U. Manchester)
15:45	E1-08 高層湿原の植生に応じた底生動物群集の食物網 *加藤義和(京大・院・理), 奥田昇(京大・生態研センター), 陀安一郎(京大・生態研センター), 竹門康弘(京大・防災研), 堀道雄(京大・院・理)	F1-08 カエルの雌は攻撃的か 福山欣司(慶応大・生物), 沼澤マヤ(フロッグハウス)	G1-08 A biologically-based model: Alternative to the 'negative binomial' for quantifying macroparasite aggregation Koketsu, W. (OYO corporation), Rossignol, P. (Oregon State Univ.), Ninomiya, I. (Ehime Univ.)
16:00	E1-09 湖沼の規模、食物網構造、動物の適応行動とレジームシフト *加藤元海(京大生態研)	F1-09 生息範囲に影響する雌の産卵場所選択の効果—海岸環境を利用する両生類の場合— 原村隆司(京大・理・動物行動)	G1-09 A mathematical model for biotic regulation of physicochemical conditions. *Seto, M. (Kyushu Univ.), Akagi, T. (Kyushu Univ.), Iwasa, Y. (Kyushu Univ.)
16:15	E1-10 複雑な食物網を構成する栄養モジュールの安定性とその配置 近藤倫生(龍谷大・理工)	F1-10 ニホンヤモリの社会行動 城野哲平(京大・理), 乾陽子(大教大・教養)	G1-10 Molecular basis underlying the sexual dimorphism of body color in the ponerinae ant <i>Diacamma</i> sp. *Satoshi Miyazaki (Hokkaido Univ.), Yasukazu Okada (Hokkaido Univ.), Richard Cornette (NIAS), Shigeyuki Koshikawa (Hokkaido Univ.), Toru Miura (Hokkaido Univ.)

## 口頭発表 3月15日(土)(Oral Presentation, 15 March, Saturday Afternoon)

Time	Room A 保全 (1)	Room B 植物繁殖	Room C 群落	Room D 動物個体群
16:30	A1-11 飼育下トゲスギドリイシから産まれた胚・幼生の健康状態 *大久保 奈弥(横浜国立大学)・山本 広美(沖縄美ら海水族館)・仲矢 史雄(お茶の水女子大学)・岡地 賢((有)コーラルクエスト)	B1-11 シオジ天然林における20年間の開花結実周期 崎尾均(埼玉県農総研)	C1-11 純一次生産を最適化する, 多種共存・生産構造としての植物群落 菊地 亜希良(広島大・院・国際協力)	D1-11 被食者の形態防御が捕食者の共食いを強める *岸田治(京大・生態研セ), Trussell, G (Northeastern Univ), 西村欣也(北大・院・水産科学), 大串隆之(京大・生態研セ)
16:45	A1-12 石の隙間スケールにおける河川性魚類の生息場所利用 *佐川志朗(土研・自然共生セ), 矢崎博芳(岐阜県郡上土木), 秋野淳一(土研・自然共生セ), 菅場祐一(土研・自然共生セ)	B1-12 タネツケバナ属における異質倍数化による新たな水分環境への適応 *稲継理恵(チューリヒ大, 理), 工藤洋(神大, 理), 清水健太郎(チューリヒ大, 理)	C1-12 植生モデルSEIB-DGVMによる, 東シベリアカラマツ林の植生構造と物質循環のモデリング *佐藤永(海洋研究開発機構), 小林秀樹(海洋研究開発機構), ニコラ・デルバール(CESBIO)	D1-12 標識放流による魚の移動率と漁獲率のベイズ推定: 大西洋クロマグロへの適用 黒田啓行(水研セ・遠洋水研), Murdoch McAllister(プリティッシュ・コロンビア大), Barbara Block, Gareth Lawson, Jake Nogueira, Steven Teo(スタンフォード大)
<b>植物個体群</b>				
17:00	A1-13 琵琶湖におけるニゴロブナの農業水路への遡上要因の検討 *水野敏明(琵琶湖博物館), 前畑政善(琵琶湖博物館), 小川雅広(琵琶湖博物館), 舟尾俊範(滋賀県立大学)	B1-13 セイヨウタンポポによる繁殖干渉がカンサイタンポポを駆逐する(1) 柱頭上のセイヨウ花粉率と結実率の関係 *松本崇(京大・人環), 高倉耕一(大阪市環境研), 西田隆義(京大・農・昆虫), 西田 佐知子(名大・博)	C1-13 南九州におけるシイ類の垂直分布について *小林悟志(新領域融合研究センター)	D1-13 水系ネットワークにおけるフナ個体群の繁殖タイミングおよび再生産量: 水田水路・河川・湖間の比較 *小関右介(中央水研), 川之辺素一(長野水試), 箱山 洋(中央水研)
17:15	A1-14 オオサンショウウオの移動特性を考慮した河川改修の時期 *田口勇輝(京大院・地球環境/兵庫県博), 夏原由博(京大院・地球環境), 三橋弘宗(兵庫県立大/兵庫県博)	B1-14 雄性両性異株の維持機構: マルバアオダモ雄株花粉は両性花株花粉より多くの種子を残せるのか *岡崎純子(大阪教育大・教員養成), 原綾子(大阪教育大・教員養成), 石田清(森林総研・関西)	C1-14 異なる立地に生息したフネミノキの個体群動態 *山田俊弘(広大院総合科学)ズイデマ ピーター(ユトレヒト大)	D1-14 ブナ豊作後の野ネズミ個体群の増加と繁殖成功 *三田瞬一, 増谷優(秋田県立大学・森林科学), 星野大介(森林総研東北), 藤晋一, 星崎和彦(秋田県立大学・森林科学)
17:30	A1-15 水田の耕起方法と水田内の生物の保全との関係について *佐賀井寛(東大・農), 中元朋実(東大・農), 雑賀正人(宇大・農), 前田忠信(宇大・農)	B1-15 胚珠の余剰生産と選択的中絶の進化条件: 受粉時間のずれの影響の解析 酒井聡樹(東北大・生命科学)	C1-15 二年草コホート間の負のフィードバック: フクドの例 *荒木悟, 國井秀伸(島根大・汽水域研究セ)	D1-15 東北~近畿の連続個体群におけるツキノワグマの遺伝構成 *大西尚樹(森林総研・関西), 鶴野レイナ(慶大・先端生命), 石橋靖幸(森林総研・北海道), 玉手英利(山形大・理), 大井徹(森林総研・関西)

## 口頭発表 3月15日(土)(Oral Presentation, 15 March, Saturday Afternoon)

Time	Room E	Room F	Room G
	動物群集	行動	English
16:30	E1-11 捕食者としてのヒト: 食物網におけるその生態学的特徴 *高井健太(龍谷大・理工), 近藤倫生(龍谷大・理工)	F1-11 子育て中に日本海から太平洋へ通う海鳥オオミズナギドリ *岡 奈理子(山階鳥類研究所), 藤永 彩(東京農大), 山本麻希(長岡技大), 白井正樹(長岡技大)	G1-11 Distribution of <i>Gekko yakuensis</i> and <i>G. hokouensis</i> , and their hybridization status Kawai, U (Kyoto Univ.)

16:45	E1-12 Facilitation研究のこれまで, そしてこれから 河井 崇(九大院・理・生態研)	F1-12 協力行動と罰の反応関数の進化について 中丸麻由子(東工大), Ulf Dieckmann (IIASA)	G1-12 Effect of Hsp70 on developmental stability under environmental stresses Takahashi, KH (National Institute of Genetics), Daborn, P (Melbourne Univ.), Hoffmann, AA (Melbourne Univ.), Takano-Shimizu, T (National Institute of Genetics).
-------	--	--	--

### 社会生態

17:00	E1-13 生殖干渉による蝶の寄主利用と分布の統一的説明 *西田隆義(京大農), 高倉耕一(大阪市環境研), 巖圭介(桃山学院大)	F1-13 シロアリ卵認識フェロモンの同定: 進化的合理性という同定への近道 松浦健二(岡大院・環境・昆虫生態)	G1-13 Re-ingestion of faecal pellets affects soil organic matter decomposition: laboratory experiments with the millipede <i>Parafontaria laminata</i> (Diplopoda: Polydesmida: Xystodesmidae), the collembolan <i>Folsomia candida</i> (Isotomidae) *Mariani, L (Yokohama National Univ.), Kaneko, N. (Yokohama National Univ.)
-------	---	--	--

17:15	E1-14 無機人工土壌上に発達した土壌小型節足動物群集 *齋藤星耕, 武田博清	F1-14 ヤマトシロアリ野外巣におけるワーカーとニフの性比 北出理・寺崎慧介(茨城大・理)	G1-14 Is bushfire an advantageous factor for bird's breeding in northern Australia? *Yamashita, D (Kyushu Univ.), Eguchi, K (Kyushu Univ.)
-------	--	--	--

17:30	E1-15 土壌食物網における食物の腐植化に伴う15Nの濃縮: 15Nと食物年齢の関係 兵藤不二夫(スウェーデン農科大学), 陀安一郎(京大), Souleymane KONATE (アボボアジャメ大学), Jerome Ebagneri TONDOH (アボボアジャメ大学), Patrick LAVELLE (フランス熱帯土壌研究所), 和田英太郎(地球フロンティア)	F1-15 カンモンシロアリ集団の遺伝構造 初見聡子・北出理(茨城大・理)	
-------	--	---------------------------------------	--

口頭発表 3月17日(月)(Oral Presentation, 17 March, Monday Afternoon)

Time	Room A	Room B	Room C	Room D
	景観生態	生態系管理	外来種	遷移・更新
14:00	A2-01 河畔域に存在する埋土種子集団の空間分布は水散布によって決まるのか? *伊藤浩二, 加藤和弘(東大院・農・緑地植物実験所)	B2-01 ニホンジカの過増加を示す指標 *梶光一(農工大・農), 宮木雅美(道環境研), 寺澤和彦(道立林試), 明石信廣(道立林試), 宇野裕之(道環境研)	C2-01 自然水域に侵入した外来病原ウイルス *内井喜美子, 川端善一郎(総合地球環境学研究所)	D2-01 東シベリアにおけるLarix cajanderiの成長過程 城田徹央(北大農), 斎藤秀之(北大農), 高橋邦秀(北大農), T.C.Maximov( IBPC,RAS-SD)
14:15	A2-02 竹林の拡大特性とそれに基づく持続可能な管理手法の開発 *鈴木重雄(広島大・院・国際協力)	B2-02 オニヒトデの順応的管理に向けた数値的研究 *管家千誠(横浜国大・環境情報学府), 松田裕之(横浜国大・環境情報学府)	C2-02 宇治川における外来腹口吸虫類の動態 — 経年変動と分布拡大— *浦部美佐子(滋賀県立大・環境科学), 田中正治(大阪府環境農林水産総合研究所・水生生物セ), 中村大悟(滋賀県立大・環境科学)	D2-02 西スマトラでの択伐が林分構造に及ぼす影響とその修復過程 米田健・館野隆之輔(鹿児島大・農), 久保田康裕(琉球大・理), 水永博己(静岡大・農), 藤井伸二(人間環境大), 西村千(京都大・地域研究統合情報センター), Chairul・E. Mukhtar(アングララス大・理)
14:30	A2-03 ギャップの時空間動態が種多様性に与える効果:岩礁潮間帯固着生物群集を対象にして *西澤まり(千葉大・自然), 熊谷直喜・仲岡雅裕(千葉大・理), 堀正和(瀬戸内水研), 山本智子(鹿大・水産), 野田隆史(北大・環境)	B2-03 湖の水質汚染と人々の協力モデル:環境保護における集団間の対立 *大野(鈴木)ゆかり(九大・理), 巖佐庸(九大・理)	C2-03 都市近郊農業排水路におけるカダヤシとメダカの種間関係 *宮崎智博(名城大院・農), 谷口義則(名城大・理工)	D2-03 四国地方のヒノキ人工林における間伐後の林床植生の経年変化 *野口麻穂子(森林総研・四国), 酒井敦(国際農林水産業研究セ), 奥田史郎, 稲垣善之(森林総研・四国), 深田英久(高知県立森林技術セ)
14:45	A2-04 都市近郊におけるノウサギの生息適地を現在と過去の森林ランドスケープから予測する *斎藤昌幸, 小池文人(横国大・環境情報)	B2-04 伊勢湾櫛田川河口域における塩生湿地の環境要因と生態系機能評価 野原精一, 井上智美, 広木幹也(国環研)	C2-04 諏訪湖におけるオクチバスの移動 川之辺素一(長野県水産試験場諏訪支場)	D2-04 アオサギの繁殖コロニーの存在と消失が林床植物群落に及ぼす影響 *上野裕介(北大・水産), 野田隆史(北大・地球環境), 堀正和(瀬戸内水研)



口頭発表 3月17日(月)(Oral Presentation, 17 March, Monday Afternoon)

Time	Room E 動物と植物の相互関係	Room F 分子	Room G 菌類	Room H 物質生産	Room I 数理
14:00	E2-01 Analysing aspects of 'pseudo-herbivory' Miyoko Kurimoto, Mutsunori Tokeshi (AMBL, Kyushu University)	F2-01 白樺湖におけるカブトミジンコの遺伝的解析 渋谷浩之, 小林拓, 時下進一, (東薬大・生命) 坂本正樹, 河鎮龍, 花里孝幸, (信州大学山岳科学総合研) 伴修平, (滋賀県立大・環境) 太田敏博, 山形秀夫, (東薬大・生命)	G2-01 亜熱帯常緑広葉樹林における落葉分解性大型菌類の種多様性と季節消長 *大園享司(京大・農), 広瀬大(筑波大・菅平セ)	H2-01 逆数式による樹木個体呼吸と重量の一般化 森茂太(森林総研東北), 山路恵子(筑波大), 諏訪錬平, A.T.M. Rafiqul, 萩原秋男(琉球大), S.G. Prokushkin, O.V. Masuyagina, O.A. Zyranova, A.P. Abaimov (スカチョフ森林研), 上田龍四郎(北海道ダルトン), 宮城健, 金城勝(沖縄研森林資源研), 石田厚, 西園朋広, 梶本卓也, 千葉幸仁, 松浦陽次郎, 藤間剛, 荒木眞岳, 川崎達郎(森林総研), 小池孝良(北大), Marjnah Umari (ムラワルマン大)	I2-01 人間移動の数理モデル: 都会と田舎 *山村則男(地球研)
14:15	E2-02 東欧産マメゾウムシの寄主決定要因: 植物の形態、化学・季節生態、系統の効果 *津田みどり, 山田直隆(九大院農), G.J. Kergoat (INRA), G.J. Kenicer (王立植物園), Z. Gyorgy (ハンガリー-自然史博), A. Szentesi (Lorand Eotvos 大), T. Jermy (ハンガリー-科学アカデミー)	F2-02 移動分散に果たすニッチ幅の役割; 浮遊生物ヒゲナガケンミジンコを例として *牧野 渡(東北大・生命科学), 占部 城太郎(東北大・生命科学)	G2-02 ブナ殻斗の分解過程とそれに関与する菌類 *館野納(京大・農), 大園享司(京大・農), 武田博清(京大・農)	H2-02 ブナ林のGPP-新しい手法による推定 *菊沢喜八郎, 小山耕平(石川県立大)	I2-02 「破堤の輪廻」におけるレジスタンスとレジリアンスのトレードオフ・メカニズム 谷内茂雄(地球研)
14:30	E2-03 セントウソウの葉のフェノロジーと被害 大野啓一(千葉県立中央博物館)	F2-03 ジーンフローとドリフトの相対強度を調べる新しい集団遺伝解析 小泉逸郎(北大・地球環境)	G2-03 ブナ粗大枯死材の分解にともなう微小菌類群集の動態 *深澤遊, 大園享司, 武田博清(京大・農)	H2-03 森林における炭素利用効率(Carbon Use Efficiency, CUE)の林分発達に伴う変化: ヒノキを例として 小川一治(名大・生命農学)	I2-03 富栄養化のパラドックスの解消要因を探る *舞木昭彦(北大水産), 西村欣也(北大水産)
<b>English</b>					
14:45	E2-04 常緑広葉樹と落葉広葉樹の葉の量的防御水準と食葉性昆虫 *長井宏賢(高知大・農・暖地FSセ), 今安清光(高知大・農・暖地FSセ), 川野浩一(高知大・院・農), 米山仰(高知大・院・農)	F2-04 国内におけるツキノワグマのMHC Class II DQB遺伝子座の遺伝的多様性 *安河内彦輝(九大・比文), 黒崎敏文(自然研), 米田政明(自然研), 小池裕子(九大・比文)	G2-04 Effect of Black Bears Ingestion on Seed Germination of fleshy-fruited Uwamizuzakura *Bainah Sari Dewi (Tokyo Noko Univ.), Norio Tokita (Nippon VLS Univ.), Kengo Furubayashi (Tokyo Noko Univ.), Masaaki Koganezawa (Utsunomiya Univ.)	H2-04 コナラ葉群における落葉期の気象要因と葉の生理特性 右田千春, 千葉幸弘, 韓慶民(森林総研)	I2-04 抽水植物の刈り取りは湖沼の富栄養化を改善できるか?: 数理モデルを用いた検討 *小嶋雄太(横浜国大・院・環境情報), 松田裕之(横浜国大・院・環境情報)

## 口頭発表 3月17日(月)(Oral Presentation, 17 March, Monday Afternoon)

Time	Room A 景観生態	Room B 生態系管理	Room C 外来種	Room D 遷移・更新
15:00	A2-05 国際協力分野COEの分担での生態学の成果 中越信和(広島大・院・国際協力)	B2-05 霞ヶ浦における植物プランクトンの長期変動 *高村典子, 中川恵(国立環境研究所)	C2-05 長崎県五島列島青方ダムにおけるオオクチバスの食性とその季節変化 *白岩豊和(広大・教), 鳥越兼治(広大・教)	D2-05 早池峰山のコムツガ・オオシラビソ林における種子の豊凶と実生の消長 *杉田久志(森林総研東北), 高橋利彦(木工舎「ゆい」)

### 保全(2)

15:15	A2-06 不完全な生息データから生息適地を推定する: 奄美大島のイシカワガエル鳴き声調査から *川崎菜実, 巨悠哉(東大院・農), 山下亮, 落合智, 戸田敏久, 西真弘, 野口浩人, 登博志, 福田稔, 松田悦郎, 山室一樹, 山口良彦, 吉原隆太, 琉子盛夫(奄美マンガースバスターズ), 迫田拓, 永井弓子(奄美野生生物保護センター), 宮下直(東大院・農)	B2-06 排水路の三面コンクリート化がイシガイ類に及ぼす影響: 底質および魚類宿主生息環境改変を介した負の効果 *根岸淳二郎, 佐川志朗, 大森徹治, 萱場祐一(独)土木研究所自然共生研究センター	C2-06 水域の物理的構造が改変する外来種アメリカザリガニからトンボ類への捕食圧 *保崎有香・宮下直(東大・院・農)	D2-06 アメリカブナとサトウカエデの稚樹の成長特性の種間差は2種の共存に重要か? 高橋耕一(信大・理), Lechowicz, M.J. (McGill Univ.)
15:30	A2-07 風力発電におけるマガンの衝突リスク評価 杉本寛(横浜国大), 松田裕之(横浜国大)	B2-07 河床堆積物に含まれる種子と土砂粒子の沈降速度の関係 *吉川正人, 星野義延(東京農工大・共生科学技術), 岩田直人(東京農工大・農)	C2-07 オオヒキガエルが大型土壌動物群集に与える影響 - 小笠原母島の事例 - 岸本年郎, 戸田光彦, 鋤柄直純(自然環境研究セ), 八巻明香(横浜国大・環境情報)	D2-07 常緑広葉樹と落葉広葉樹の葉の量的防御水準と大型土壌動物 *川野浩一, 米山仰(高知大院・農), 塚本次郎(高知大・農), 長井宏賢(高知大・暖地FSセ)

### 動物生活史

15:45	A2-08 生息環境モデルとPVAを用いたオオタカ個体群存続のための保護区の抽出法 *尾崎研一, 山浦悠一(森林総研), 堀江玲子(オオタカ保護基金)	B2-08 樹林化が進行中の砂州内における樹木の生長と洪水冠水頻度との相互関係について *武田英祐(埼玉大院), 坂本健太郎(株式会社 建設技術研究所), 浅枝隆(埼玉大院)	C2-08 外来種カミツキガメの根絶可能性: 不確実性を考慮した個体群動態モデルによる予測 *小林頼太(東大・農・生物多様性), 長谷川雅美(東邦大・理・生物), 宮下直(東大・農・生物多様性)	D2-08 長野県松本市におけるヘイケボタル( <i>Luciola lateralis</i> )の生活史 *関口伸一(信州大学 工学系研究科 地球生物圏科学専攻) 山本雅道(信州大学 山岳科学総合研究所)
-------	---	---	---	--

口頭発表 3月17日(月)(Oral Presentation, 17 March, Monday Afternoon)

Time	Room E 動物と植物の相互関係	Room F 進化	Room G English	Room H 物質循環	Room I 数値
15:00	E2-05 ヤナギ7種を用いた間接防御の群集内比較 *米谷衣代(京大・生態研), 高林純示(京大・生態研)	F2-05 盗み寄生者チリイソウロウグモの宿主利用はどのように変化したか? :mtDNACO1領域を用いた系統地理学的アプローチ *馬場 友希, 宮下直(東大院・農・生物多様性)	G2-05 Assessing fine root dynamics with manipulated soil cylinders Osawa, A. (Grad. School Agr., Kyoto U)	H2-05 生態系炭素循環への温暖化影響をフラックス観測データから検出するモデル解析手法の検討 伊藤昭彦(国立環境研究所)	I2-05 相模湖・津久井湖の藍藻類発生の数値モデル解析 *雨宮隆(横国大・環境情報), 芹沢浩(横国大・環境情報), 柴田賢一(横国大・環境情報), 伊藤公紀(横国大・環境情報)
15:15	E2-06 ミズナラ樹木地下部の温暖化が林冠部の昆虫群集に与える影響 *中村誠宏(北大苫小牧), 日浦勉(北大苫小牧)	F2-06 mtDNA変異からみたコノハクragの集団構造解析 小林亜玲(京大・院・理), 五箇公一(環境研), 深見裕伸(京大・瀬戸臨海), 久保田信(京大・瀬戸臨海)	G2-06 Vegetation dynamics and the relationship of soil salinity, water pH and distance with the height distribution of <i>Kandelia candel</i> (L.) Druce in Tanegashima Island, Kagoshima Southern, Japan *Rotaquio, E. L. Jr., Nakagoshi, N.	H2-06 開放系大気CO2増加・水温上昇がイネおよび土壌のCO2交換速度に及ぼす影響 *安立美奈子, 常田岳志, 程為国(農環研), 松波寿典, 中村浩史, 岡田益己(東北農研), 長谷川利弘(農環研)	I2-06 複雑なモデルは予測に適しているか? 箱山 洋(中央水研)
15:30	E2-07 セイタカアワダチソウ上の優占種であった外来昆虫アブラムシに何が起こったか? *安東義乃(京大生態研セ), 内海俊介(京大生態研セ), 大串隆之(京大生態研セ), Timothy P. Craig (Minnesota Univ.)	F2-07 アズキゾウムシにおける骨片の機能の検証と系統間比較 *櫻井玄(九州大学), 日室千尋(京都大学), 粕谷英一(九州大学)	G2-07 Spatial distribution and growth characteristics of <i>Eragrostis Curvular</i> in a flood meadow: Effect of soil morphology, water content and water stress *Gomes, P. I. A. (Saitama Uni.), Asaeda, T. (Saitama Uni.)	H2-07 モンゴル草原におけるCO2フラックスの季節変動~実測とモデル推定~ *浦野忠朗(筑波大・生命環境), 浅沼順(筑波大・生命環境), 吉井英治(筑波大・生命環境), 杉田倫明(筑波大・生命環境), 鞠子茂(筑波大・生命環境)	I2-07 アリー効果が及ぼすメタ個体群動態への影響 佐藤一憲(静大・工)
15:45	E2-08 在来植物は外来植物より喰われやすいか? *黒川紘子(東北大・生命), Peltzer, D. (Landcare Research, NZ), Wardle, D. (Swedish Univ. of Agri. Sci., SE)	F2-08 緯度勾配にそった警告色の多様性の進化 持田浩治(京大・理・動物)	G2-08 Estimating crown information in plantation forests using Airborne LiDAR data *Tohru Nakajima, Satoshi Tatsuhara (The University of Tokyo), Yasumasa Hirata, Naoyuki Furuya (Forestry and Forest Products Research Institute)	H2-08 東アジア森林生態系の炭素収支に影響を与える環境要因 *平田竜一(環境研), 三枝信子(産総研), 山本晋(岡大・環), 大谷義一(森林総研), 浅沼順(筑大・陸セ), 蒲生稔(産総研), 平野高司(北大・農), 近藤裕昭(産総研), 小杉緑子(京大・農), 中井裕一郎(森林総研), 高木健太郎(北大・FSC), 谷誠(京大・農), 王輝民(中国科学院)	I2-08 航空機リモートセンシング画像上の足跡を用いた野生動物の個体数推定 *大石優(上智大・地球環境), 松永恒雄(国立環境研究所), 中杉修身(上智大・地球環境)

口頭発表 3月17日(月)(Oral Presentation, 17 March, Monday Afternoon)

Time	Room A 保全 (2)	Room B 生態系管理	Room C 外来種	Room D 動物生活史
16:00	A2-09 Translocation(移殖)によるシマフクロウのつがい形成 *早矢仕 有子, 杉野 諒輔, 西森 智彦 (札幌大・法), 山本 純郎 (根室市)	B2-09 地中工事による地下水流動変状による植物への影響予測手法に関する研究 *大西智佳 (岡山大・院・環境学), 今井紀和 ( (有)アイジオール), 西垣誠 (岡山大・環境学)	C2-09 グリーンアノールの個体群構造と効率的な捕獲方法 *戸田光彦, 中川直美, 鋤柄直純 (自然環境研究センター)	D2-09 ヌルデミフシに含まれるタンニン量の地理的変異 *林珠乃 (龍谷大学里山ORC)
16:15	A2-10 広島県におけるブッポウソウの個体群保全の成功例 飯田 知彦 (広島希少鳥類研究会)	B2-10 薪炭林施業は里山の生物多様性を高める *日野輝明 (森林総研関西), 西中康明 (大阪府大), 斉藤 三郎, 阿部晃久・新妻靖章 (名城大), 伊東宏樹・松本和馬 (森林総研多摩)	C2-10 セイヨウオオマルハナバチの巣の発達と花粉消費量 *米田昌浩 (環境研), 神戸裕哉 (アリスト), 土田浩治 (岐阜大), 五箇公一 (環境研)	D2-10 カタツムリの一年生と多年生 同胞種の意外な生活史変異 *入村信博 (千葉・磯辺高校), 浅見崇比呂 (信州大・理)
16:30	A2-11 どのようにしてホットスポットを見つけられよいか?—鳥類センサスデータを用いた試み 杉村 乾 (森林総研)	B2-11 CDM植林が熱帯林の生物多様性に与える影響 福山 研二, 岡 輝樹, 榎原寛, 松本 和馬, 川上 和人, 安田 雅俊, 五十嵐 哲也, 上田 明良, 高橋正義 (森林総研), 前藤 薫 (神戸大), シンボロン ヘルウィット, ネルジト ウォロ, プラフィラヂラガ デビ (RCB-LIPI), プラセティオ リリック (ポゴール農科大学), ポア チャンドラ (PPHT)	C2-11 神奈川県におけるアライグマの空間分布の推定 石井宏昌 (横浜国大), 岡野美佐夫 (野生動物保護管理事務所), 松田裕之 (横浜国大)	D2-11 固着性海洋生物における体サイズ依存の資源分配と性表現 *山口幸 (奈良女大院・人間文化), 遊佐陽一 (奈良女大・理), 高橋智 (奈良女大院・人間文化)
16:45	A2-12 外来種がいる森林鳥類群集の種多様性(2つの異なる場合) 石田健 (東大・院農生命)	B2-12 土壌中の銅の毒性変化—時間効果と生物影響の比較— *藤井芳一, 金子信博 (横浜国大・環境情報)	C2-12 衛星画像を用いた尖閣諸島魚釣島のヤギによる植生変化の追跡 *横畑泰志 (富山大院・理工学), 横田昌嗣 (琉球大・理), 星野仏方, 金子正美 (酪農大・環境システム)	D2-12 大きい魚は冷たい水を好む:体サイズに依存した最適成長水温 *森田健太郎 (北水研), 福若雅章 (北水研), 谷全尚樹 (北大院水), 山村織 (北水研)

口頭発表 3月17日(月)(Oral Presentation, 17 March, Monday Afternoon)

Time	Room E 動物と植物の相互関係	Room F 進化	Room G English	Room H 物質循環	Room I 数理
16:00	E2-09 三宅島の噴火がヤブツバキの繁殖をめぐる花粉媒介系に与えた影響—鳥類が運ぶ花粉粒の直接遺伝解析 阿部晴恵(日本モンキーセンター), 上野真義(森林総研・樹木遺伝), 山本裕(日本野鳥の会・サンクチュアリ室), 陶山佳久(東北大院・農), 津村義彦(森林総研・樹木遺伝), 長谷川雅美(東邦大・理・地理生態)	F2-09 インドネシア産マダラテントウ <i>Henosepilachna</i> sp.3 における同所的種分化のプロセス *中野進(広島修道大), Sih Kahono(インドネシア科学院), Idrus Abbas(アンダラス大), 片倉晴雄(北大), 中村浩二(金沢大)	G2-09 Ecophysiological differences between a summer-deciduous shrub ( <i>Daphne pseudo-mezereum</i> ) and its winter-deciduous close relative ( <i>Daphne pseudo-mezereum</i> var. <i>koreana</i> ) *Thomas Lei (Ryukoku University), Naoko Yamashita (FFPRI), Tomiyasu Miyaura (Ryukoku University)	H2-09 泥炭地の炭素循環と気候変動: 変化のメカニズムの解明 伊勢武史, Paul R. Moorcroft (ハーバード大学)	I2-09 共生関係を持つ生物の生息地拡大におけるトンネル効果 山内 淳(京大・生態研センター)
16:15	E2-10 シロハラによる種子散布 *平田令子(鹿児島農連大), 平井周作(鹿大院・農), 畑 邦彦, 曾根晃一(鹿大・農)	F2-10 近畿地方におけるオオセンチコガネの色彩変異の定量的解析 *赤嶺真由美(滋賀県立大・院), 近雅博(滋賀県立大・環境)	G2-10 Effect of light limitation on chemical defense of marine macroalgae Kazuhiro Bessho (Chiba Univ), Andreas Kubicek (Univ of Giessen), Mark Lenz (Univ of Kiel), Martin Wahl (Univ of Kiel), Masahiro Nakaoka (Chiba Univ)	H2-10 土壤炭素動態に微生物群集の組成は関係するのか? ~熱帯林生態系における検証 和穎 朗太(京大・生態研), 北山 兼弘(京大・生態研), Teri Balsler (U.of Wisconsin-Madison)	I2-10 非対称ゲームにおいて突然変異が形質の進化に与える影響 *上原隆司(九大・理), 巖佐庸(九大・理)
16:30	E2-11 マレーシア、ランビルヒルズ国立公園における小型鳥類2群の異なる果実選択 *鴨井環(愛媛大・農), Oswald Braken (Sarawak Forest Corporations), 百瀬邦泰(愛媛大・農), 酒井章子(京大・生態研)	F2-11 溪流沿い植物の葉形態変異: 共通圃場での比較試験 *野村尚史(地球研), 高相徳志郎(地球研), 瀬戸口浩彰(京大)	G2-11 EFFECTS OF SIMULTANEOUS OZONE AND FLUORANTHENE EXPOSURE ON THE EVERGREEN CONIFER JAPANESE RED PINE ( <i>Pinus densiflora</i> sieb et zucc.) *Oguntimihin Ilenobayo, Sakugawa Hiroshi	H2-11 マレーシア、ボルネオ島の熱帯多雨林における土壌呼吸の年変動 *大橋瑞江(兵衛大・環境人間), 久米朋宣(九大・農), 鈴木雅一(東大・農)	I2-11 甲虫の負け記憶保持の数理モデル *佐々木徹(岡山大), 梶原毅(岡山大), 岡田賢祐(岡山大), 宮竹貴久(岡山大)

動物群集

16:45	E2-12 ムースによるバルサムモミの食害が虫こぶ形成性タバエとその寄居者に及ぼす間接効果: 生息密度と適応度への影響 *田淵 研(学振 PD/Univ. of New Brunswick), Dan Quiring (Univ. of New Brunswick)	F2-12 メダガ属魚類の異時性 *川尻舞子, 山平寿智(新潟大・院・自然科学)	G2-12 Epidemic dynamics and control of pine wilt disease - The role of genetic polymorphism in nematode virulence on host-parasite-vector dynamics. *Iseki, N (Kyushu Univ.) Suzuki, S (Kyushu Univ.) Sasaki, A (Grad. Univ. Adv. Stud.)	H2-12 核磁気共鳴法(NMR)による有機物分解過程におけるリター成分組成の経時的解析 - スギ、ヒノキ、ブナ、ミズナラ落葉を対象にして - 小野賢二, 平井敬三(森林総研東北), 森田沙綾香, 大瀬健嗣, 平館俊太郎(農環研)	I2-12 インフルエンザウイルスの断続平衡進化は抗原連続変異モデルで説明できるか? 佐々木顕(総研大・生命共生体進化学)
-------	---	--	--	---	---

## 口頭発表 3月17日(月)(Oral Presentation, 17 March, Monday Afternoon)

Time	Room A 保全 (2)	Room B 生態系管理	Room C 外来種	Room D 動物生活史
<b>17:00</b>	A2-13 スマトラカワウソウの分布と保全 佐々木 浩 (筑紫女学園大学短期大学部)	B2-13 農耕地の土壌棲息性節足動物の発生量: 除草管理と殺虫剤散布の影響 *白井洋一, 中谷至伸 (農環研)	C2-13 都井岬草原における外来牧草の雑草化の成否を左右する要因 西脇亜也 (宮崎大・農)	D2-13 魚の卵はなぜ小さいか *西村欣也 (北大・水産), 星野昇 (北海道中央水試)
<b>17:15</b>	A2-14 樹上動物が道路を渡るためのアニマルパステイの実証研究 *湊秋作 (1: キープやまねミュージアム), 岩淵真奈美 (1), 饗場葉留果 (1), 佐藤良春 (2: 大成建設), 世知原順子 (2), 大竹公一 (2), 岡田美穂 (2), 岩本和明 (3: 清水建設), 小田信治 (3), 小松裕幸 (3), 若林千賀子 (4: 若林環境教育事務所)	B2-14 栽培管理の違いがスイートコーンの収量・虫害に及ぼす影響 *藤田正雄 (自然農法セ・農試), 藤山静雄 (信大・理)	C2-14 福岡県筑後地域のクリークに侵入したブラジルチドメグサの分布と生育状況 *須田隆一, 山崎正敏 (福岡県保健環境研究所)	D2-14 GPSテレメで見る冬眠期・冬眠明けのヒグマの行動 *小平真佐夫, 中西将尚, 葛西真輔, 岡田秀明, 山中正実 (知床財団)
<b>17:30</b>		B2-15 姫路城のマツのこも巻き調査 (2002年-2007年) *新穂千賀子, 中居裕美, 村上諒, 松村和典 (姫路工業大・環境人間)		D2-15 性比1/2または偏った性比の進化の最適性 *吉村仁, 泰中啓一, 林太郎 (静岡大学)

口頭発表 3月17日(月)(Oral Presentation, 17 March, Monday Afternoon)

Time	Room E 動物群集	Room F 進化	Room G English	Room H 物質循環	Room I 古生態
17:00	E2-13 減らない餌資源が引き起こす外来種とシカの“hyperpredation” *宮下直, 小林頼太, 巨悠哉, 美濃和駿(東大・農・生物多様性)	F2-13 左利きホモはなぜ存在しない? 魚類左右性の遺伝システムの進化 岡本里花(奈良女・理), 川崎友子(奈良女・理), 堀道雄(京大・理), *高橋智(奈良女・人間文化)	G2-13 Genet structure revealed by SSR in sporadic flowering of a dwarf bamboo species, <i>Sasa cernua</i> Kitamura, K., Kawahara, T. (FFPRI Hokkaido)	H2-13 土壌動物の窒素無機化への影響の再検討 *金子信博, 藤巻玲路, 丹羽慈, 川口達也, 岡井尚之, 佐藤由衣, 甘楽法(横浜国大環境情報)	I2-13 八甲田山における花粉の散布・堆積のシミュレーションモデルを用いた定量的植生復元 中村琢磨(横浜国大・院・環境情報), 高原光(京都府大・院・農), 大野啓一(横浜国大・院・農)
17:15	E2-14 ヤンバルの育成天然林施業が材食・菌食ガガンボ類の多様性に与える影響 *末吉昌宏, 後藤秀章, 佐藤大樹(森林総研九州)	F2-14 インフルエンザウイルスにおける多系統間の共存条件 *大森亮介(九州大学数理生物学研究室)		H2-14 源頭部における溪畔域からの有機物の流入特性 *河内香織(埼玉大学理工学研究科), 三島啓雄(Natural Resources Research), 長坂晶子(北海道立林業試験場)	I2-14 北海道根室半島 湿原群における晩氷期以降の植生変遷 *鈴木孝治(千葉大院), 百原新(千葉大), 守田益宗(岡山理大), 林成多((財)ホシザキグリーン財団), 那須浩郎(総合研究大院)
17:30	E2-15 砂質干潟ベントス群集の植物プランクトン摂食ギルドにおける空間分割 *玉置昭夫(長崎大・水産), 安形仁宏(長崎大・院・生産科学)	F2-15 「ND」自然選択の棄却、「科学的進化論」MPRの採択! 水幡正蔵(在野の研究者)		H2-15 極域生態系において養分添加が溶存有機物(DOM)動態に与える影響 保原達(酪農学園大), 阿江教治(神戸大), 木庭啓介(東京農工大)	I2-15 新潟県南部の前期更新世の環境変化と植物の種多様性の変化 *百原新(千葉大・園芸), 植木岳雪(産総研), 斎藤毅(名城大)

# ポスター発表 3月15日(土)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

## 群 落

- P1-001 関東平野における管理停止の長期化した耕作放棄地の植物群落構造** 徳岡良則(農環研, 広大院・国際協力), 楠本良延(農環研), 森田沙綾香(農環研), 平館俊太郎(農環研), 山田晋(農環研), 山本勝利(農環研), 中越信和(広大院・国際協力)
- P1-002 北海道中央部における針広混交林の10年間の森林構造の変化と動態** 清野 達之\*(筑波大・生命環境)・和田直也(富山大・極東地域研)
- P1-003 貧栄養環境下に生育する熱帯性針葉樹 *Dacrydium pectinatum* の実生定着様式** \*宮本和樹(森林総研四国), Reuben Nilus(サバ森林研究センター)
- P1-004# 屋久島西部における植生の垂直分布帯構造と常緑広葉樹の分布様式** \*出本和也, 大澤雅彦(東大・院・新領域)
- P1-005 釧路湿原に生育するハンノキ群落の構造とリン利用特性** \*松本隆史(北大・環境科学), 植村滋(北大・フィールド科学センター), 矢部和夫(札幌市大・デザイン), 中村隆俊(東農大・生物産業)
- P1-006# 高山矮性低木の生育特性とシュート内物質移動** \*柿木里美, 増沢武弘(静岡大・理・生)
- P1-007 Plant soecies coexistence in two-patch model** \*Kohyama, T., Takada, T. (Hokkaido Univ.)
- P1-008 丘陵地二次林の林床植生と埋土種子組成: 微地形の違い** 大久保悟(東大院・農), 北川淑子(東大院・農), 山田晋(農環研)
- P1-009 シカ食害下の丹沢山地の植生変遷について** \*村上雄秀(IGES 国際生態学センター), 鈴木伸一(IGES 国際生態学センター)
- P1-010# 伐採後9年経過した落葉広葉樹林における林分構造と成長特性** \*志津庸子(岐阜大学), 小泉博(早稲田大学)
- P1-011# 分布北限域におけるブナ優占林分の齢構造** \*後藤亮太(北教大・札幌), 松井哲哉・倉本恵生(森林総研・北海道), 小林誠(北大・環境科学), 並川寛司(北教大・札幌)
- P1-012 モンゴルステップにおける持続可能な放牧利用法の開発-調査地の初期植生と現存量の推定-** \*下田勝久(畜草研), 山崎正史, 平野聡, 鳥山和伸, 進藤和政(国際農研セ), Baasanjalbuu B., Pagmaa D., Nasangerel L., Tumenjargal D. (モンゴル国農大)
- P1-013# 宮島弥山原始林におけるモミの分布と更新** 沖宗一郎(広島大・総科), 奥田敏統(広島大・院・総科)
- P1-014 多雪環境下における樹木の力学的特性 2** \*目黒伸一, 鈴木伸一, 林寿則(国際生態学センター)
- P1-015 植物の分布に基づく赤井谷地の植生** 竹原明秀(岩手大・人文社会・生物)
- P1-016# 照葉樹林に生育する維管束着生植物のハビタット特性** \*平田晶子, 上條隆志(筑波大・生命環境), 齊藤 哲(森林総研)
- P1-017 約40年間における尾瀬ヶ原湿原の植生の変化** \*森井悠, 藤原一繪
- P1-018 太平洋側地域の落葉樹自然林における樹木の動態** 森広信子(所属無)
- P1-019# 火入れ地における微地形と植物の分布** 増井太樹(鳥取大・農), 佐野淳之(鳥取大・農・FSC)
- P1-020 北海道胆振地方におけるコナラ優占林の森林属性-南北斜面間の比較-** \*石岡 亮, 並川寛司(北教大・札幌・生物)
- P1-021# 栃木県益子町高館山におけるスタジイの分布様**

式 \*加部祐介, 西尾孝佳(宇都宮大・雑草セ), Siegm W. Breckle (University of Bielefeld, Germany)

- P1-022# 扇状地河川における植生と環境条件との関係** \*白水由季(信州大・理), 島野光司(信州大・理)
- P1-023# タイ北部の熱帯山地林における焼畑二次植生の出現パターン** \*福島万紀(京大・農), 神崎護(京大・農), J.F. Maxwell (CMU Herbarium), P. Saipothong (ICRAF)
- P1-024 植物利用の民間伝承、記載に基づく植物群落の資源性評価** 矢ヶ崎朋樹(IGES 国際生態学セ)
- P1-025 千葉県印旛郡本埜村に存在する半自然草地における絶滅危惧植物の分布と結実状況** \*大橋賢(明治大・院・農), 倉本宣(明治大・農)
- P1-026# 砂礫地における植生構造と粒度組成の関係-高山風衝砂礫地・河床・海浜について-** \*塩野貴之, 持田幸良(横国大・院・環境情報)
- P1-027 内湖の湿地植物群落とその分布** 西川博章((株)ラーゴ), 村上雄秀(国際生態学センター), 藤井伸二(人間環境大・環境)
- P1-028 上高地梓川における河畔林への氾濫が林床植生の構造・種組成に及ぼす影響-氾濫による攪乱と一年後の植生回復-** \*川西基博(立正大・ORC), 石川慎吾(高知大・理)
- P1-029# 東京都に残る大規模緑地における42年間の樹木変遷-国立科学博物館付属自然教育園の場合-** \*村山卓郎(東京農工・農), 萩原信介(国立科学博物館付属自然教育園), 福嶋司(東京農工・農)
- P1-030# 山口県周東・大島地区における異なる常緑広葉樹林と二次林の植生学的研究** 村中希望, 藤原一繪(横浜国立大学・院・環境情報)
- P1-031# 高分解能衛星データを用いた森林優占型判別と植生凶化-千葉県の里山地域を例として-** \*長谷川奈美(農工大・農), 星野義延(農工大), 原慶太郎(東京情報大), 鎌形哲稔(東京情報大)
- P1-032# 韓国と九州北部の森林植生分布と群落組成の比較研究** 尹 鍾学(東京農工大学大学院連合農学研究科), 東京農工大学大学院共生科学技術研究科, 済州大学校自然科学大学生生命科学科
- P1-033# 平野部河辺林に分布する山地性植物と環境要因** \*横川昌史(滋賀県大・環境), 森小夜子(滋賀植物同好会), 近雅博, 野間直彦(滋賀県大・環境)
- P1-034# 分布フロントのブナ林にブナのスペシャリスト植食性鱗翅目は追従分布しているか?-森林帯境界域における樹木群集の地理的推移と植食性鱗翅目の種組成-** \*小林誠(北大・環境科学), 吉田国吉(芽室町), 甲山隆司(北大・環境科学)
- P1-035# ナイロビ近郊の熱帯乾燥林における攪乱強度の違いによる種組成変化** 古川拓哉, 藤原一繪(横国大・環情), Kiboi, S., Mathenge, S.G., Mutiso, P.B.C. (Univ. of Nairobi)
- P1-036 神奈川県伊勢原市郊外にあるコナラ・クヌギが優占する雑木林の変遷** 櫻井一彦(成城大学社会イノベーション学部)
- P1-037 淡路島における人為的攪乱タイプの違いが海浜植生の組成およびゾーネーションに及ぼす影響** \*三浦弘之(淡路景観園芸学校), 澤田佳宏, 藤原道郎, 大藪崇司, 山本聡(兵庫県大・自然研/淡路景観園芸学校)
- P1-038# 立山・弥陀ヶ原は高層湿原か?** \*前田由香・久米篤・佐竹洋(富山大・理・生物圏), 渡辺幸一(富山県立大), 朴木英治・坂井奈緒子(富山市科学博物館)
- P1-039# 熱帯低地林生態系のバイオマスと生元素比-サバ州デラマコットの伐採強度が異なる森林間での比較-** \*今井伸夫, 喜多智, 北山兼弘(京大・生態学研究セ)



# ポスター発表 3月15日(土)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

**P1-040** 富士山北西麓の半自然草地の群落構造と動態 \*安田泰輔, 北原正彦, 杉田幹夫, 池口仁, 中野隆志 (山梨県環境科学研究所)

**P1-041** 照葉樹林域における微地形単位ごとの夏緑広葉樹二次林の発達の相違 \*持田幸良, 村嶋秀明 (横国大教育人間科学部)

**P1-042** 千曲川中流域における高水敷掘削前後の植生の変化 島野 光司 (信州大・理), 岩田 直人, 星野 義延, 吉川 正人 (東京農工大・農)

**P1-043#** 森林の被陰関係ネットワークとその構造 \*近藤健太, 近藤倫生 (龍大・理工)

**P1-044** 長野県秋山地域における植物分布と人間による利用 \*辻野亮 (地球研), 名倉京子, 高橋淳子, 川瀬大樹 (京大・生態研), 湯本貴和 (地球研)

**P1-045#** 荒原生態系における土壌微生物群集の制限要因: 海岸砂丘の土壌微生物に対する炭素・窒素制限 吉竹晋平 (広島大・院・生物圏), 中坪孝之 (広島大・院・生物圏)

## 植物個体群

**P1-046** 多年生草本レンゲショウマ個体群の3年間の動態と年齢構造 \*鈴木まほろ (岩手県博), 木村恵 (東大ア生セ)

**P1-047** 多雪地域におけるミヤマビゴケとイクビゴケ個体群の分布に影響する環境要因 白崎 仁 (新潟薬大・薬・生物)

**P1-048#** 縮枯れ林分構造のばらつきとその森林発達に伴う変化: 「縮内」 「縮間」の比較 \*鈴木智之, 可知直毅, 鈴木準一郎 (首都大・理工)

**P1-049#** クローナル植物スズランにおけるラメットの成長・更新とジェネット成長の関係 \*荒木希和子 (北大・院・環境科学), 島谷健一郎 (統計数理研究所), 大原雅 (北大・院・環境科学)

**P1-050#** 増水が河川の岩場に生育するユキヤナギ個体群に与える影響 芦澤 和也 (明治大・院・農)

**P1-051** 絶滅危惧種タデスミレの実生の発生サイトと定着条件 \*尾関雅章, 大塚孝一, 須賀丈 (長野県環境保全研)

**P1-052** ミクラザサー斉開花後10年目の個体群の回復 \*小林幹夫 (宇都宮大・農・森林), 久本洋子 (東京農工大・連合農学)

**P1-053#** 給水パターンが植物の成長におよぼす影響の個体群密度による変化 \*萩原陽介, 可知直毅, 鈴木準一郎 (首都大・院・生命)

**P1-054#** 大規模集約化圃場の圃場内部とあぜにおけるネズミムギ種子捕食率および種子捕食者の推定 \*市原実 (岐阜大院・連合農学, 静岡大・農), 鈴木智子, 山下雅幸, 澤田均 (静岡大・農), 石田義樹, 木田揚一 (静岡県農林技研), 浅井元朗 (中央農研)

**P1-055** 林床草本クルマバハグマの個体群動態-13年間の観測と推移行列- 河原崎里子 (情報シ融合セ), 島谷健一郎 (統数研)

**P1-056** アカマツ天然集団における遺伝子流動 - 4交配イベントにわたる解析結果から - \*岩泉正和, 高橋誠, 渡邊敦史, 宮本尚子, 矢野慶介 (森林総研林育セ)

**P1-057** 年輪解析による知床針広混交林トドマツ個体群のパッチ動態 島谷健一郎 (統数研)\*, 久保田康裕 (琉球大)

**P1-058#** 都市近郊林におけるミヤマナルコユリの生育地特性 粕谷絵美子 (明治大・院・農), 倉本宣 (明治大・農)

**P1-059#** 西表島仲間川におけるヤエヤマヒルギとオヒルギの定着戦略とその環境 \*浦田悦子, 鴨田清志, 藤原一絵

**P1-060#** マイクロサテライトマーカーを用いた小笠原諸島西島の在来樹種集団における遺伝子流動の解明 \*大谷雅人 (森林総研), 谷尚樹 (森林総研), 吉丸博志 (森林総研)

**P1-061#** 森林の分断化が徳之島亜熱帯林におけるオキナワウラジロガシの個体群構造に与える影響 \*北岡和彦, 館野隆之輔, 米田健 (鹿児島大・農)

**P1-062#** サラワク州ランビル国立公園におけるホンバリウノウジュの遺伝構造 \*小椋剛・名波哲・伊東明・山倉拓夫 (大阪市大・院・理)

**P1-063#** 奈良県春日山原始林におけるコジイの遺伝構造 \*久山尊息・名波哲・伊東明・山倉拓夫 (大阪市大・理)

**P1-064#** バイケイソウの繁殖特性と個体群構造 \*加藤優希, 荒木希和子, 大原雅 (北大・院・環境科学)

**P1-065#** 海進の影響を受けた石狩低地帯におけるオオバナノエンレイソウの集団分化に関する研究 \*内藤弥生, 佐藤志津子, 大原雅 (北大・院・環境科学)

**P1-066** トリコームの集団内多型は適応的か? - 3年間の調査から - 川越哲博 (神戸大・理・生物)

**P1-067#** 10年間の個体モニタリングによるキンランの個体群動態の解析 寺井学 (大林組技術研究所)

**P1-068#** 水俣の照葉樹林におけるアオキの集中分布は生息地ニッチへの特化によるものか? \*竹下雄平 (熊本大院), Muller Onno (東北大院), 山田俊弘 (広大院)

**P1-069#** 熱帯多雨林における樹木200種の樹冠構造の種間変異 \*矢澤佳子 (北大・環境科学), 甲山隆司, 久保拓弥 (北大・地球環境)

**P1-070** 海岸クロマツ林内におけるニセアカシア個体群の構造と分布拡大 \*浦野翔吾 (秋県大・生資科), 高田克彦 (秋県大・生資科), 蒔田明史 (秋県大・生資科), 三嶋賢太郎 (秋県大・木高研), 平尾知士 (秋県大・木高研)

**P1-071** 葉緑体SNPによるブナの系統地理学的な研究-分布域全体をほぼ網羅したハプロタイプ地図の作成- \*高橋誠 (林育セ), 原正利 (千葉中央博物館), 藤井紀行 (熊本大院自然科学), 陶山佳久 (東北大院農), 津田吉晃 (森林総研), 小山泰弘 (長野県林総セ), 片井秀幸 (静岡県農林技研森林研セ), 小谷二郎 (石川県林試), 斎藤真己 (富山県林技セ), 上野満 (山形県森研セ), 伊藤聡 (山形県環研セ), 小山浩正 (山形大農), 西川浩己 (山梨県森林総研), 小澤創 (福島県林研セ), 宮崎祐子 (奈良県森技セ), 瀧井忠人 (和歌山林試), 和田覚 (秋田農技セ森林), 島田博匡 (三重県科技セ), 花岡創 (岐阜大院連農), 吉丸博志, 松本麻子 (森林総研), 渡邊敦史, 武津英太郎, 岩泉正和 (林育セ), 福田陽子 (林育セ北海道), 橋本光司 (林育セ関西), 戸丸信弘 (名大院生命農)

**P1-072#** 生育地の孤立・分断化によるエッジ効果が林床性多年生草本の個体群動態に与える影響 \*山岸 洋貴 (北大・院・環境科学), 富松 裕 (プリティッシュ・コロンビア大学), 大原 雅 (北大・院・地球環境)

**P1-073#** 土壌栄養塩がパッチ状に分布する環境下でのホンムギ (*Lolium perenne*) 個体の資源探索: 根長・根重・SRL および個体成長の経時変化 \*中村亮二, 可知直毅, 鈴木準一郎 (首都大・理)

**P1-074#** Crown structure dynamics of *Kandelia obovata* stands in Manko Wetland, Okinawa Island \*Kangkuso Analuddin, Rempei Suwa and Akio Hagihara (Univ. of The Ryukyus)

**P1-075** 千葉県小櫃川河口干潟周辺におけるヨシ (*Phragmites australis*) の地上部シュート成長様式 西尾孝佳 (宇都宮大・雑草セ)・Siegmar W. Breckle (University of Bielefeld, Germany)

**P1-076#** スギ人工林に侵入した広葉樹の生産量に及ぼす地形の影響 井上貴文, 榎木勉, 井上晋 (九州大院・農)

# ポスター発表 3月15日(土)9:00-17:30

(# : ポスター賞対象発表)

- P1-077# 天然生北限カラマツ小集団における交配実態と実生集団の遺伝的変異** \*宗原慶恵,磯田,渡邊(森林総研林育セ)
- P1-078 山地流域におけるトチノキの遺伝構造から推測される対立遺伝子の拡散過程** \*川口英之,幸田怜子(鳥根大・生物資源),名波哲(大阪市立大・理),館野隆之輔(鹿児島大・農),井鷲裕司(京大・農)
- P1-079# 早池峰山のアカエゾマツ孤立小集団の更新メカニズム:種子散布・近交弱勢は稚樹の個体群構造に影響するか?** \*富田基史,陶山佳久(東北大・院・農),関剛,杉田久志(森林総研東北)
- P1-080# 一流域におけるツル植物の分布と森林構造の関係** \*楠本開太郎(九大生資),榎木勉(九大農),渡邊康志(GIS沖縄),久保田康裕(琉大理)
- P1-081# EST-由来のDNAマーカーを用いたウダイカンパの保全系統地理学的研究** \*津田吉晃(森林総研),井出雄二(東大院農),津村義彦(森林総研)
- P1-082 台風攪乱にともなう照葉樹林構成樹種の生活史パラメータ変化** \*永松大(鳥取大・地域),齊藤哲(森林総研),小南陽亮(静岡大・教育),真鍋徹(北九州自・歴博),佐藤保(森林総研)
- P1-083# ミズキの生育段階に伴う空間分布パターンの変化-母樹からの距離依存的な病害の影響-** \*山崎実希,清和研二(東北大院・農)
- P1-084 タケ類の一斉開花直前の個体群構造-インド・ミゾラム州における *Melocanna baccifera*** \*齋藤智之(森林総研木曾),池田邦彦(京大農),C.H.モンブイヤ(ミゾラム州園芸省),陶山佳久(東北大院農),西脇亜也(宮崎大農),蒔田明史(秋田県大),柴田昌三(京大フィールド研)
- P1-085# モンゴル国草原地帯に分布する灌木の成長量と被食量の分布パターン** \*山田義裕(岡大・環境学),高山晴夫(鹿島技術研究所),ジャムスラン・ウングルマ(モンゴル農大),廣部宗(岡大・環境学),坂本圭児(岡大・環境学),吉川賢(岡大・環境学)
- P1-086# 喰われたら減るだけなのか~ヤクシカ採食圧下で根萌芽が樹木の個体群維持に果たす役割~** \*幸田良介(京大・生態研),辻野亮(地球研),藤田昇(京大・生態研)
- P1-087 屋久島固有の溪流沿い植物ホソバハグマの個体群動態** 三井裕樹\*(京大人・環),井鷲裕司(京大農),瀬戸口浩彰(京大人・環)
- P1-088# Simulating three-dimensional structure of plant shoots and roots using Lindenmayer system (L-system)** \*Yagasaki, Y (NIES), Kobayashi, S (NIES), Chen, L.J. (IAECAS), Xu, Z.Z (IBCAS), Shimizu, H (NIES)

## フェノロジー

- P1-089 シダ植物の胞子形成フェノロジーと胞子食者の生活史** \*澤村 恵(京大院・人環),川北 篤(京大院・人環),加藤 真(京大院・人環)
- P1-090# 標高によるミズナラ堅果成熟のフェノロジーの違い** 中島亜美(東京農工大・農),小池伸介(東京農工大・院・連合農学),正木隆(森林総研),島田卓哉(森林総研東北),梶光一(東京農工大)
- P1-091 北方林樹木グイマツの *LEAFY* 相同遺伝子による開花制御** \*岩崎(葉田野)郁(岡山県生物科学総合研究所),内山和子(北海道林試),小野清美(北大・低温研),渡辺一郎,八坂通泰,来田和人(北海道林試),原登志彦,小川健一(岡山県生物科学総合研究所)
- P1-092# フェノロジー特性を利用した土地被覆分類手法の検討** 酒井徹,栗屋善雄,高橋與明,古家直行(森林総研)
- P1-093 分布上限と下限のシラビソとオオシラビソの肥大**

生長におよぼす気象の影響 \*奥原勲(信大・理),安江恒(信大・農),高橋耕一(信大・理)

- P1-094 シラビソとオオシラビソの標高傾度による肥大成長の季節変化** \*小池繁幸(信大院・工),安江恒(信大・農),高橋耕一(信大・理)
- P1-095# カンコノキ-ハナホソガの絶対送粉共生系における開花フェノロジーの多様性** \*後藤龍太郎(京大・人環),岡本朋子(京大・人環),川北篤(京大・人環),加藤真(京大・人環)
- P1-096 乾燥フタバガキ林主要樹種の6年間のフェノロジー** \*伊東明・S. Whitchaphart・名波哲・山倉拓夫(大阪市大・院・理),K. Sringeriyuang(メジョー大)
- P1-097# シロイヌナズナ属多年草における開花抑制遺伝子 FLC の発現フェノロジー** 相川慎一郎,工藤洋(神戸大・院理),清水健太郎(チューリヒ大・理)
- P1-098 暖温帯における絞め殺しイチジクの周年結実** 大谷達也(森林総研九州)
- P1-099# 葉のフェノロジーの異なるクリとミズナラの防御投資量の季節的変化** \*今治安弥,清和研二(東北大・院・農)
- P1-100# ニホンアマガエル繁殖開始日の年変動** \*高井 孝太郎,岩熊 敏夫
- P1-101# ミズナラ樹木個体のフェノロジーと種子の死亡率要因との関係** 夏目暁子(名大院生命農),水谷瑞希(福井県自然保護センター),肘井直樹(名大院生命農)
- P1-102 同所的に生育するガマズミ属2種の開花と落下果実の季節性** 吉本敦子(金沢大・院),\*木村一也,木下栄一郎(金沢大・環日本海域環境セ)
- P1-103# アマモにおける葉面積の環境変化に対する応答** \*細川真也(港空研),中村由行(港空研),桑江朝比呂(港空研)
- P1-104 冬緑性低木オニシバリ (*Daphne pseudo-mezereum*) の環境適応の解析** \*渡辺卓也(龍谷大学),Thomas Lei(龍谷大学)
- P1-105 発芽実験における最適な実験デザインと適切なサンプルサイズ** \*本田裕紀郎(東大・院・緑地植物実験所),加藤和弘(東大・院・緑地植物実験所)

## 動物繁殖

- P1-106# 絶滅危惧種オオセッカの繁殖生態** \*高橋雅雄(立教大・動物生態),上沖正欣(立教大・動物生態),蛭名純一(NPO おおせっからんど),宮彰男(NPO おおせっからんど),上田恵介(立教大・動物生態)
- P1-107# 野生ニホンザルの交尾行動~メスの配偶者選択とオス間競争~** 藤田志歩(山口大・農),杉浦秀樹,清水慶子(京大・霊長研)
- P1-108# 雌から受ける雄の物理的コストと婚姻贈呈によるコスト緩和** \*栗和田隆(九州大・理・生態),粕谷英一(九州大・理・生態)
- P1-109 茨城県南部とその周辺におけるサギ類のコロニー消長** \*越田智恵子(自然環境研究セ),徳永幸彦(筑波大・生命共存)
- P1-110 三貫島のオオミズナギドリにおける婚外受精** 渡辺国広(東大海洋研),勝又信博(北里大),佐藤克文(東大海洋研),練春蘭(東大アジアセンター),木村恵(東大アジアセンター),島谷健一郎(統数研),塚本勝巳(東大海洋研)
- P1-111# 優劣関係がテナガホンヤドカリの繁殖行動に与える影響** \*安良城百絵(北大院・水産),和田哲(北大院・水産),五嶋聖治(北大院・水産)
- P1-112# ブドウガイの産卵に対する水温と餌の影響** \*尾崎健太郎(北大・水産),和田 哲(北大院・水産)



# ポスター発表 3月15日(土)9:00-17:30

(# : ポスター賞対象発表)

- P1-113# 交尾中のアジアイトトンボにおける雄の交尾器形態と精子置換 \* 田島裕介, 渡辺 守 (筑波大・生命環境)
- P1-114# アゲハ類の雄が生産する精包と精子 \* 佐々木那由太, 渡辺 守 (筑波大・生物)
- P1-115# 複数の繁殖戦略を持つカワズメ科魚類の精子競争 太田和孝, 幸田正典 (大阪市大・理)
- P1-116# 巣場所によって捕食リスクに違いはあるのか? : 三宅島に移入されたニホンイタチによる鳥類の巣の捕食 \* 西松聖乃 (国際基督教大学・理), 濱尾章二 (国立科博・自然教育園), 上遠岳彦 (国際基督教大学・理)
- P1-117# メスの発情の同調性がオスの繁殖戦略に与える影響 \* 布施名利子, 粕谷英一 (九州大・理)
- P1-118# ため池におけるカワバタモロコの繁殖スケジュール \* 鈴木 規慈, 原田 泰志 (三重大・院・生資), 前畑 政善 (琵琶湖博物館)
- P1-119# モテる雌とモテない雌の適応度: アオモンイトトンボの雌に生じる色彩2型 \* 高橋佑磨, 渡辺 守 (筑波大・生命環境)
- P1-120# ヒメオオメアミの生活史と群れ形成 \* 阪本真吾, 青木優和 (筑波大 生命環境)
- P1-121# 寄生バチ Melittobia における処女雌の繁殖戦略 \* 安部 淳 (岐阜大・応用生物), TM Innocent, SE Reece, SA West (エディンバラ大・進化生物)
- P1-122# はばたく雌で釣れる雄: モンキチョウの求愛行動 \* 入江菫子, 渡辺 守 (筑波大・生命環境)
- P1-123 幼サンゴの生存における微地形 (ギャップ) の効果 野澤洋耕 (黒潮生物研究所)
- P1-124 沖縄島北部で同所的に生息するヤモリ属2種間での1次性比の比較 \* 山本友里恵 (琉球大・院理工・海環), 太田英利 (琉球大・熱生研)
- P1-125# サッポロフキバツタ地域集団間の生殖的隔離機構 \* 佐々木有香, 菅野良一, 秋元信一 (北大・農)
- P1-126# 交尾後に塩を摂取したナミアゲハの雄が再交尾時に注入した精子数と精包重量 \* 新原 直, 渡辺 守 (筑波大・院・生命環境)
- P1-127 チゴガニ雌の雄サイズ及び交尾巣穴に対する選好性 \* 野島崇, 逸見泰久 (熊本大・合津マリンステーション)
- P1-128# マルエラワレカラの交尾前ガードにおける性的対立: なぜ雌はガードを嫌がるのか? \* 竹下文雄 (熊本大・院・自然科学研究科), 逸見泰久 (熊本大・沿岸域センター)
- P1-129# カワトンボ属における同所的な近縁種の産卵場所選択—光環境の影響— \* 鮫島由佳, 椿宜高 (京大・生態学研究センター)
- P1-130# オキナワマドボタルの繁殖戦略 \* 名護ほたる (琉球大・農), 辻和希 (琉球大・農)
- P1-131 タナイス目 Zeuxo sp. の雄にみられる鋏脚多型と性成熟 \* 坂本隆太郎, 青木優和 (筑波大・下田臨海)
- P1-132 ミゾゴイの繁殖行動と習性 ~ミゾゴイは夜行性の鳥か?~ 川名 国男 (一般)
- P1-133 エゾシカオスの交尾期に特異的に見られるマイグレーション \* 揚妻直樹 (北大・フィールド科学センター・苫小牧研究林), 揚妻・柳原芳美 (苫小牧市博・友の会)
- P1-134# 孵化後栄養卵がシロヘリツチカメムシ1齢幼虫にとって不可欠な理由 \* 馬場成実1, 弘中満太郎2, 細川貴弘3, 柳孝夫4, 稲富弘一4, 野間口真太郎4, 日下部宜宏5, 河口豊5, 上野高敏1 (1 九大院・生防研, 2 浜松医大・生物, 3 産総研, 4 佐賀大・農, 5 九大・農)
- P1-135# 潜葉虫寄生蜂における最適採餌戦略 ~観察結果のシミュレーションモデルによる検証~ \* 綾部慈子 (名大・森林保護), 津田みどり (九大・生防研), 望月敦史 (基生研・理論生物)
- P1-136 卵排除以外の対托卵行動: 托卵鳥への攻撃と巣場所の選択 濱尾章二 (国立科博・自然教育園)
- P1-137# マルハナバチの'ゆずりあい'採餌: 他人にきびしく, 身内にやさしく? \* 谷中智紀, 牧野崇司, 大橋一晴 (筑波大・生命環境)
- P1-138# コバネイナゴにおける同所的メス色彩二型の異なる適応的行動 \* 鶴井香織 (京大院・農・昆虫生態), 西田隆義 (京大院・農・昆虫生態)
- P1-139# ヌマエビの逃避行動における左右非対称性と捕食被食関係への影響 \* 竹内勇一 (京大・院理), 堀道雄 (京大・院理)
- P1-140 アカミミガメとクサガメの潜水行動の比較 \* 森貴久, 野村邦夫, 山本和哉, 後藤臣平, 藤澤ちはる (帝京科学大)
- P1-141# 協同繁殖魚の巣のサイズ, 親のサイズ, グループサイズと繁殖成功 \* 安房田智司 (北大 F S C), 幸田正典 (大阪市立大学理学研究科)
- P1-142# ヒメヤマトオサガニの allocleaning の進化のモデル — 空間構造による非対称な協力の進化 — \* 稲垣絢子 (奈良女・人間文化), 和田恵次 (奈良女・理), 高橋智 (奈良女・人間文化)
- P1-143# Stimulus summation or numerical competence: what makes hosts' feeding behaviour suboptimal? Keita Tanaka (RIKEN BSI, JSPS PD), Gen Morimoto (Life Sciences, Rikkyo Univ.), Kazuo Okanoya (RIKEN BSI), Keisuke Ueda (Life Sciences, Rikkyo Univ.)
- P1-144# カワトンボ類における精子の質に関する配偶者選択の可能性 \* 土屋香織 (首都大・院・理), 林文男 (首都大)
- P1-145 たちのよいケガ, 悪いケガ—バツタにとっては, 自切は想定内!? \* 本間 淳, 西田隆義 (京大院・農・昆虫生態)
- P1-146# 森林におけるエゾタヌキの季節的な土地利用変化とその要因 \* 荒木奈津子 (北大・院・環境科学), 揚妻直樹 (北大・北方圏センター)
- P1-147# 子の世話をするツチカメムシ類における腸内共生細菌の垂直伝播メカニズム 細川貴弘 (産総研・生物機能工学), 弘中満太郎 (浜松医科大・生物), 稲富弘一 (佐賀大・農), 馬場成実 (九大院・生防研), 深津武馬 (産総研・生物機能工学)
- P1-148# 子の危機に親は配偶行動を変化させるか? ~卵寄生蜂がアメンボに与える影響~ \* 平山寛之, 粕谷英一 (九大・理・生態)
- P1-149# ヒメハダカアリ Cardiocondyla minutior の特異的な繁殖戦略: 有翅雄は分散飛行後近隣巣に受け入れられるのか? \* 吉澤樹理 (岐阜大院・応用生物), 山内克典 (岐阜大学名誉教授), 土田浩治 (岐阜大・応用生物)
- P1-150# ニホンホホビロコメツキモドキの左右非対称な頭部形態とその適応的意義 \* 土岐和多輝, 富樫一巳 (東大院・農)
- P1-151# 温度がアズキゾウムシの交尾と精子移送に与える影響 \* 香月雅子 (岡大・農), 宮竹貴久 (岡大院・環)
- P1-152# 甲虫類の擬死選抜系統間における交尾行動の比較 \* 中山慧 (岡山大院・環境), 宮竹貴久 (岡山大院・環境)
- P1-153# スナネズミの社会的行動に及ぼす匂いの影響 \* 伊藤兼敏, 鈴木惟司 (首都大・理工・生命)
- P1-154# 農地依存型ニホンザルの生息地利用と行動特性 \* 芝原知 (新潟大・院), 望月翔太 (新潟大・農), 村上拓彦 (新

行 動

## ポスター発表 3月15日(土)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

潟大・農),三浦慎悟(早稲田大・人)

- P1-155# 低酸素に対する魚類の反応と溜池の魚類相** \*齊藤仁咲,浅原宏子(弘前大・院・農学生命科学),佐原雄二(弘前大・農学生命科学部)
- P1-156# モツゴの採餌と成長に溜池の低酸素はどのような影響を及ぼすか** \*浅原宏子(弘前大・院・農学生命科学),佐原雄二(弘前大・農学生命科学部)
- P1-157# アカネズミ雌のなわばり争いー dear enemy である時とない時ー** 坂本信介(都立大・院・理)
- P1-158# 新たにレッドリストに記載された在来型コイの生態と行動** \*松崎慎一郎(東京大学院・農),馬淵浩司(東大海洋研),高村典子(国立環境研),西田陸(東大海洋研),鷺谷いづみ(東京大学院・農)
- P1-159 ベニシジミの雌のハラスメント回避行動の日齢に伴う変化** 井出純哉(京大院・農・昆虫生態)
- P1-160# スクミリンゴガイの逃避行動における学習** \*相崎香帆里,遊佐陽一(奈良女子大・理)
- P1-161# チゴガニにおける社会行動の地理的変異と遺伝的集団構造** \*山田有紗,古川文美子,遊佐陽一,和田恵次(奈良女子大・理)
- P1-162 逃げるか留まるか:捕食者の化学刺激に対するクロタマキビの反応** 小島寿恵(北大・水産),\*和田哲(北大院・水産)
- P1-163# アリによる選択的捕食がもたらすアブラムシの進化** \*高橋聖生(信大・理生物),半田千尋(京大・教育),市野隆雄(信大・理生物)
- P1-164 兵庫県で確認されたサギ類コロニー 59 ヲ所** \*遠藤菜緒子 a,奥野俊博 b,新田朋子 b,江崎保男 a (a:兵庫県立人と自然の博物館,b:日本野鳥の会兵庫県支部)
- P1-165# 三宅島産アカネズミの遺伝的特性とクムミに対する採食行動** \*武智玲奈,林文男(首都大・理工・生命科学)
- P1-166# ツキノワグマの食性とクマ棚の関係** \*小池伸介(東京農工大・連大),小坂井千夏(東京農工大・連大),山崎晃司(茨城県自然博物館)
- P1-167# イソギンチャクの形:水流と餌サイズに応じた可塑的变化** \*篠原沙和子(北大・水産),和田哲(北大院・水産)
- P1-168# マメゾウムシ二種における雄による雌の交尾抑制の変異と種間交尾がメスの交尾行動に与える影響** 山根隆史,宮竹貴久(岡大院・環境・進化生態),木村吉伸(岡大院・自然科学),且原真木(岡大・資生研)
- P1-169# 農地環境におけるチュウサギの採食場所選択~空間パターンからの推定~** \*片山直樹(東大・農),天野達也(農環研・生物多様性),藤田剛(東大・農),樋口広芳(東大・農)
- P1-170# マルハナバチの餌選択における他個体の情報的利用~類は友を呼ぶ? Part 2** \*川口利奈,大橋一晴,徳永幸彦(筑波大・生命環境科学)
- P1-171 農地依存型ニホンザルの生息地利用と周辺環境評価** \*望月翔太(新大・農)
- P1-172 石狩川流域におけるムクドリ行動圏利用の長期調査** \*竹中銭・竹中万紀子(北海道東海大)
- P1-173# 水田におけるチュウサギの食物探索経路** \*天野達也(農環研・生物多様性),片山直樹(東大・農)
- P1-174# メダカにおける配偶者獲得競争の緯度間変異に関する研究** \*藤本真悟,山平智寿(新潟大・院・自然科学)
- P1-175 モンゴル・ゴビ地域に同所的に生息するアジアノロバとモウコガゼル**の衛星追跡 \*伊藤健彦,恒川篤史(鳥取大・乾燥地研究セ),B. Lhagvasuren, B. Buuveibaatar (モンゴル科学アカデミー),岡田あゆみ(北里大・獣医),高槻成紀(麻布大・獣医)
- P1-176# オオツノコクヌストモドキにおける雄の大顎の人為選抜と相関反応** \*岡田賢祐,宮竹貴久(岡大院・環境・進化生態)
- P1-177 オオルリの渡りのコースと年齢比の違い** 井戸浩之(愛媛県立衛生環境研究所)
- P1-178# アカウミガメの北太平洋における行動解析** 池田隆美・東正剛(北大院地球環境),亀崎直樹(東大院農),松沢慶将・島達也・水野康次郎(ウミガメ協)
- P1-179# ハシブトウミガラスの餌選択と採餌行動 ~自身の餌 vs 雛の餌~** \*伊藤元裕(北大),高橋晃周(極地研),國分互彦, Alexander Kitaysky (UAF),綿貫豊(北大)
- P1-180# アリ寄生性チョウ,ゴマシジミ幼虫のアリ巣への侵入プロセスにおける化学的役割** \*関諒一(信大・理),市野隆雄(信大・理)
- P1-181 オオニワシドリのディスプレイとあずまや形成:あずまやオーナーと非オーナーとの比較** 遠藤千尋(京大院・理・動物生態),江口和洋(九大・理),高橋雅雄(立教大・理),上田恵介(立教大・理)
- P1-182 捕食リスク認知が円網の上下非対称性に与える影響** 中田兼介(東京経済大)
- P1-183# ウラナミジャンメでは体サイズの小さい世代が大きな卵を産みます** \*鈴木紀之,西田隆義(京大院・農・昆虫生態)
- P1-184# 谷戸田におけるトウキョウダルマガエルの移動追跡** \*戸金大(明治大・院・農)福山欣司(慶應大・生物)倉本宣(明治大・農)
- P1-185# 寄主たちの沈黙: *Dinarmus basalis* は寄主の摂食音を用いて性比調節を行なっているのか?** \*中村智(筑波大・生命共存),徳永幸彦(筑波大・生命共存)
- P1-186 間接・直接的利益の指標となるツバメ雄の形質** \*小島渉(東大・農),北村亘(東大・農),長谷川克(筑波大・生命環境),伊藤洋子(立教大・理),北島幸恵(東大・農),藤田剛(東大・農),中村雅彦(上越教育大・生物),上田恵介(立教大・理),樋口広芳(東大・農)
- P1-187# オスグマの憂鬱ー繁殖期における雌雄のツキノワグマの直接観察事例ー** \*小坂井千夏(東京農工・院),小池伸介(東京農工・院),山崎晃司(茨城自然博),梶光一(東京農工)
- P1-188 給餌場におけるタンチョウの time budgets から見えるもの** \*正富欣之(北大・地球環境),正富宏之(タン保研)
- P1-189# セミの鳴く時間帯と鳴き音の周波数の関係** 遠藤暢(京大院・農・森林生態)
- P1-190 エゾアカヤマアリの敵対性行動の統計モデリング** 岩倉美沙子,\*久保拓弥,藤原慎悟,東正剛(北大・地球環境)
- P1-191# オガサワラオオコウモリの交尾行動とねぐらの構造** \*杉田典正(立教大院・理),上田恵介(立教大・理)
- P1-192 エゾスジグロシロチョウの卵の大きさのバラツキは適応的です** \*大森正揚(京大農・昆虫生態),岸茂樹(生態研)
- P1-193# 給餌時におけるツバメの雛間相互作用** \*北村亘,藤田剛,樋口広芳(東大・農・生物多様性)
- P1-194# コバネヒョウタンナガカメムシ京都雌は岡山雄と交尾すると死ぬ** \*日室千尋・藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態)
- P1-195# トビイロケアリのグルーミング行動に対する病原菌量とアリ密度の影響** \*奥野正樹(京大院・農・昆虫生態),辻和希(琉球大・農),藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態)
- P1-196 アリ-マメアブラムシ共生の地理的変異** \*片山昇,仲澤剛史,大串隆之(京大・生態研セ)
- P1-197 カメムシ類幼虫は脚長を寄主探索に対応させる** \*中嶋祐二(京大院農・昆虫生態),藤崎憲治



# ポスター発表 3月15日(土)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

**P1-198# 小笠原固有種ムニンエンマコオロギの calling song に対する選好性** \*三浦大地, 千葉聡 (東北大・院・生命科学)

**P1-199# 遺伝構造からみたエゾアカヤマアリのスーパーコロニー** \*藤原慎悟, 岩倉美沙子 (北大・院・環境科学), 久保拓弥 (北大・地球環境), 城所碧 (神戸大・理), 東正剛 (北大・地球環境)

**P1-200 多回交尾後のメスが保有する精子量: SNPs 解析を用いた評価** \*中原美理 (東大・農学生命), 五箇公一 (国立環境研), 椿宜高 (京大・生態研センター)

**P1-201# トゲオオハリアリにおける産卵後 worker policing** \*下地博之 (琉球大・農), Alexandra SEBASTIEN (Universite de Paris 6), 佐々木智基 (琉球大・農), 辻和希 (琉球大・農)

**P1-202 アメンボ卵寄生蜂の寄主探索戦略** 片山潤史 (京都大学昆虫生態)

**P1-203# Dulichia sp. (端脚目・ドロノミ科) のマスト状構造物形成行動** \*新居洋吾, 青木優和 (筑波大・下田臨海)

**P1-204# カノコガ (Amata fortunei) は容姿を気にする?** \*近藤勇介 (岐阜大院), 中秀司 (JT 生命誌研究館), 安藤哲 (農工大 BASE), 土田浩治 (岐阜大)

## 社会生態

**P1-205 ニホンザルの群れの空間的な広がりとその変化** 杉浦秀樹 (京都大・霊長研), 下岡ゆき子 (京都大・理・動物), 辻大和 (麻布大・獣医)

**P1-206# アカネズミ個体群の遺伝的空間構造** \*小林まや (首都大・院・理工・生命), 坂本信介 (都立大・院・理), 鈴木惟司 (首都大・院・理工・生命)

**P1-207 チゴガニにおける waving display の求愛機能** \*和田恵次, 大島麻里 (奈良女子大・理・生物科学)

**P1-208 イモゾウムシの幼虫期の飼育条件が交尾行動に与える影響** \*熊野了州・原口大 (沖縄病害虫防除セ), 小濱継雄 (沖縄農研セ)

**P1-209# 働かない働きアリの侵略 - アミメアリの種内社会寄生は2度進化した? -** 森英章 (東北大・生命), 佐々木智基 (琉球大・農), 長谷川英祐 (北海道大・農), 土畑重人 (東京大・総合文化), 千葉聡 (東北大・生命), 辻和希 (琉球大・農)

**P1-210# アリは如何にしてコロニーの大きさを認識するのか?** \*菊地友則 (琉大・農), 中川敬之 (富山大・理), 辻和希 (琉大・農)

**P1-211# アマミシロアリとミヤタケシロアリの種間交雑によるコロニー創設** \*巽真悟, 松浦健二, 矢代敏久 (岡山大院・環境)

**P1-212# 形質転換酵母の発現系を用いたシロアリ卵認識フェロモンの生産** 清水 健, 松浦健二 (岡大院・環), 田村 隆 (岡大院・自), 小林憲正 (岡大院・環)

**P1-213# アリーアブラムシ共生系における化学的コミュニケーション** \*遠藤真太郎 (信州大院・理・生物), 市野隆雄 (信州大・理・生物)

**P1-214# ヤマトシロアリの兵隊分化に伴う額腺形成と幼若ホルモン量との関係** \*渡邊 大・土屋真利子・前川清人 (富山大・院・理)

**P1-215# オキナワシロアリのカースト決定に対する遺伝的効果** 清水愛美 (茨城大院・理工), 林良信, 北出理 (茨城大・理)

**P1-216# カンモンシロアリ初期巣における生殖虫除去後のカースト構成** \*神田紘美 (茨城大院・理工), 北出理 (茨城大・理)

**P1-217# ヤマトシロアリにおけるワーカーの給餌行動は幼虫の要求によって変わるか?** \*川津一隆 (京大院・農・昆虫生態), 松浦健二 (岡大院・環境), 藤崎憲治 (京大院・農・昆虫生態)

昆虫生態), 松浦健二 (岡大院・環境), 藤崎憲治 (京大院・農・昆虫生態)

**P1-218# ゴキブリ類における社会性の発達とセルラーゼ遺伝子発現量の変化** \*嶋田敬介, 前川清人 (富山大院・理)

## 保 全

**P1-219# 奈良市矢田丘陵の大学キャンパスにおけるカスミサンショウウオの生態と保全** \*寺岡 亜里・玉井 優子・坂本 俊一・藤田 理恵子・櫻谷 保之 (近畿大・農・環境生態)

**P1-220# 里山林に伴った大学キャンパスにおける生態系(4) 絶滅危惧種ベニトトンボの生態と保全** 近畿大学農学部 \*稲本雄太, 桜谷保之

**P1-221# ギンランの生育に及ぼす菌根菌の役割** 根本正之 (東京農業大学 造) \*能勢裕子 (東京農業大学 造), 大浦康史 (財団法人公園緑地管理財団 公園管理運営研究所)

**P1-222 シイタケ原木林施業とチョウ類群集の関係** 小林隆人 (宇都宮大)・北原正彦 (山梨環境研)・大久保達弘 (宇都宮大)

**P1-223 水路からの導水による再生湿地の植生変化** \*佐久間智子 (西中国山地自然史研究会), 白川勝信 (高原の自然館)

**P1-224# 里地草地面積の減少が地域の種多様性に及ぼす影響: 草地生の絶滅危惧植物を指標として** \*河野円樹 (東大院・新領域), 河野耕三 (宮崎県立宮崎農業高等学校), 大澤雅彦 (東大院・新領域)

**P1-225 淀川わんど域の魚類に対するイシガイ科貝類グロキディウム幼生の寄生状況** \*石田 惣, 波戸岡清峰 (大阪市自博), 金山 敦, 久加朋子 (新日本環境調査株式会社), 木邑聡美, 内野 透 (いであ株式会社)

**P1-226 里草地における多様性ホットスポットー稀少植物はどこにいるのか?ー** \*丑丸敦史・植松裕太・古賀達郎・大澤剛士 (神戸大)・出口詩乃 (東京大)・三橋弘宗 (兵庫大)

**P1-227 中国地域における絶滅危惧植物の分布と生育地の重要性評価** 堤 道生 (近中四農研), 白川勝信 (芸北高原の自然館), 太田陽子 (北九州自然史・歴史博物館), 井上雅仁 (三瓶自然館), 渡邊園子, 兼子伸吾 (広島大), 佐久間智子 (中外テクノス), 高橋佳孝 (近中四農研)

**P1-228# 西日本におけるタケ類天狗楽病による竹林衰退の現状** 橋本佳延 (兵庫大), 服部 保 (兵庫県立大・自然研)

**P1-229# ボルネオ島の熱帯雨林伐採が野生動物に与える影響の評価法ー糞からの種同定とストレスホルモン** 小野口剛 (京大・生態研), 清水慶子 (京大・霊長研), 松木史弓 (電中研・生物環境領域), 北山兼弘 (京大・生態研), 椿宜高 (京大・生態研), Arther Y.C.Chung (サバ森林研究所)

**P1-230# 日本固有種ニホンテンの保全遺伝学的研究** \*佐藤淳 (福山大・生命工), 細田徹治 (耐久高校), 尾関篤史 (福山大・生命工), 山口泰典 (福山大・生命工), 鈴木仁 (北大・地球環境)

**P1-231# 水田環境と周辺の景観構造がカエル類の卵・幼生・幼体に与える影響** \*加藤倫之, 吉尾政信, 宮下直 (東大・農・生物多様性)

**P1-232 九州で絶滅危惧のニホンリスを探そう - どこでどのように? Part II -** \*安田雅俊 (森林総研・九州), 片岡友美 (リスムササビネットワーク・NPO 法人生態工房)

**P1-233 群馬県内の里山で新たに確認されたヒメアマナ群生地における鱗莖サイズと開花数の関係** \*石川真一 (群馬大・社会情報), 増田和明 (群馬県中之条小学校), 大森威宏 (群馬県立自然史博物館)

**P1-234# 河川域における植物種多様性のホットスポットとしてのワンド** \*山崎梓 (新大・農), 石田真也 (新大院・自然科学), 高野瀬洋一郎 (新大・超域研究機構), 紙谷智彦 (新大院・自然科学)

# ポスター発表 3月15日(土)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

- P1-235** 屋久島生態系保全におけるヤクシカモニタリングのあり方 \*立澤史郎(北大・文・地域),川村貴志(屋久島生物部),松田裕之(横国大・環境情報)
- P1-236** デジタル航空写真を用いた渡良瀬遊水池の植生状態の把握 \*武田知己(国環研),小熊宏之(国環研),石濱史子(国環研),竹中明夫(国環研)
- P1-237#** 草原性植物はため池が支えている? ~ Vincetoxicum 属 2 種の生育分布から~ \*植松裕太(神戸大学),丑丸敦史(神戸大学),三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館),大澤剛士(神戸大学)
- P1-238** 里山の管理再開に伴って起こること 倉本宣,野呂恵子,笹目菜月,榎本大輔(明治大学農学部)
- P1-239** 化学物質の管理政策のための生態リスク評価手法および課題 林 彬勒(産総研)
- P1-240** 岩手県盛岡市近郊におけるミチノクフクジュソウ群落の群落構造と立地環境 島田直明(岩手県大・総合政策)
- P1-241#** 茨城県菅生沼での火入れがオギならびに二次草原の種多様性に与える影響 \*澤田みつ子(筑波大院・環境科学),上條隆志(筑波大院・環境科学),中村徹(筑波大院・環境科学),小幡和男(茨城県自然博物館)
- P1-242#** 渡良瀬遊水池におけるハイパースペクトルリモートセンシングを用いた絶滅危惧植物の生育環境特性の解析 \*石井潤(東大院・農),鷲谷いづみ(東大院・農)
- P1-243** ICレコーダーを用いたトノサマガエルとヌマガエルの音声モニタリングと水田環境との関係 村上裕(愛媛県立衛生環境研究所)
- P1-244#** 千葉県におけるニホンリスの生息分布変化とその要因 松山奈史(東京農工大・農),鎌形哲稔,原慶太郎(東京情報大・院・総合情報),梶光一(東京農工大・農)
- P1-245#** 飯田市よこね田んぼにおける希少水田雑草の保全を目的とした群落生態学的研究 \*三宅慎平,大窪久美子(信州大・農)
- P1-246#** 長野県中南部のため池における水生植物の生育と環境条件との関係 2 \*福島敬彦(信州大院・農),大窪久美子(信州大・農)
- P1-247#** 天竜川水系におけるツメレンゲとクロツバメシジミのハビタットへのオオキンケイギクおよび遷移の影響 \*坪井勇人(信州大院・農),大窪久美子(信州大・農)
- P1-248** 大気汚染物質が立山黒部アルペンルート沿いの森林に及ぼしている影響 \*久米篤(富山大・理),沼田智史(富山大・理),渡辺幸一(富山県立大),朴木英治(富山市科博),中島春樹(富山県林業技術セ),石田仁(岐阜大・応用生物)
- P1-249#** 里山林を伴った大学キャンパスにおける生態系(3) 里山林縁部の管理がチョウ類群集に与える影響 \*東條達哉,桜谷保之(近畿大・農)
- P1-250#** 外来樹木アカギの駆除後、在来種の植栽は必要か? ~実生散布モデルによる Dispersal limitation の予測~ \*深澤圭太(横国大・環境情報),小池文人(横国大・環境情報),田中信行(森林総研)
- P1-251** カヤ場の草原はどこに残ったか? 旧版地形図の読み取りによるスキー場の草原保全機能の評価 \*澤田佳宏(兵庫県大・自然研/淡路景観園芸学校),松村俊和(兵庫県・洲本農林),黒田有寿茂(兵庫県大・自然研/人と自然の博物館),藤原道郎(兵庫県大・自然研/淡路景観園芸学校)
- P1-252#** トンボ相調査それを指標とした棚田の維持・保全活動のあり方 宇都宮大学農学部農業環境工学科 \*木村雄太郎,高橋俊守
- P1-253#** 絶滅危惧種ヒゴタイにおけるマネイジメントユニット-残存集団の網羅的遺伝解析による推定- \*兼子伸吾(広大・院・国際協力) 井鷲裕司(京大・農),瀬井純雄(NPO法人阿蘇花野協会),中越信和(広大・院・国際協力),高橋佳孝(近中四農業研究センター)
- P1-254#** 恵那市におけるハルリンドウの個体密度と遺伝的多様性のデータを利用したHSIモデルの構築 \*味岡ゆい,上野薫,寺井久慈,南基泰(中部大大学院・応生),米村惣太郎,横田樹広,小田原卓郎,那須守(清水建設(株)技術研)
- P1-255#** Stable carbon and nitrogen isotopes analysis for conservation of the coral reef ecosystem in Berau, East Kalimantan, Indonesia \*Handoko Adi Susanto (Kyushu Univ.), Masaaki Yoneda (Japan Wildlife Research Center), and Hiroko Koike (Kyushu Univ.)
- P1-256#** 徳島県におけるカワバタモロコの保全に向けたゾーンニングと“産官学と農家”による取り組み \*田代優秋(環境防災研究セ),佐藤陽一(徳島県博),岡部健士,鎌田磨人,上月康則(環境防災研究セ)
- P1-257#** 生息地破壊による絶滅:面積か分断化か \*中桐齊之(兵庫県立大・環境人間),泰中啓一,吉村仁(静岡大・創造科学技術院)
- P1-258#** 海岸林における道路がアカネズミの行動圏に与える影響 \*石原勇輝(新潟大・農),箕口秀夫(新潟大・自然科学系)
- P1-259** 河川堤防草地の管理が草本群落に与える影響 - ツルボ(Scilla scilloides)は草刈りで増えるか? - \*柳沢直(森林文化アカデミー),井口英人(水研クリエイト)
- P1-260** 統計情報でみるニホンザル屋久島集団の現状~保全にむけて 早石周平(琉大・教育セ)
- P1-261#** 絶滅危惧植物シラタマホシクサの保全に関する研究 \*長谷川万純(静岡大学),岩井貴彦(名古屋工業大学),増田理子(名古屋工業大学)
- P1-262** Ecology of Fordia splendidissima (Fabaceae) in damaged and undamaged forest. Desy Ekawati (\*), Eizi Suzuki, Natsuki M.Watanabe, Herwint Simbolon.
- P1-263#** 水田再生地におけるカエル類の生息地利用 \*豊田大輔(筑波大院・生命環境),藤岡正博(筑波大・井川演習林)
- P1-264** 人工干潟の底質の違いによるトビハゼの営巣状況 \*田辺信吾,橋本浩史,井内岳志,池田正人(葛西臨海水族園)
- P1-265** 野生鳥類の死体から寄生虫の空間分布を探る - 宿主と寄生体の空間分布論 - 長 雄一(北海道環研),浅川満彦,吉野智生,遠藤大二(酪農大・獣),金子正美(酪農大・環)
- P1-266#** 南東北における江戸期のニホンジカの分布について \*伊藤愛(新潟大・院・自然科学),箕口秀夫(新潟大・農),三浦慎悟(早稲田大・人)
- P1-267** 浸透移行性殺虫剤の昆虫群集に対する影響評価 大坂龍(千葉大・園),米田昌浩(環境研),所論史(茨城大・教),Francisco Sanchez-Bayo(千葉大・園),岡田浩明(農環研),広木幹也(環境研),五箇公一(環境研)
- P1-268#** 福岡県津屋崎干潟におけるカブトガニ幼生の成長とモニタリング手法の開発 \*和田年史(鳥取県博・山陰海岸学習館),板谷晋嗣,秀野真理(つやざき海辺の自然学校)
- P1-269** 京都学園大学「かめおか団栗園」による生物調査からみえたこと - 2年間のまとめと展望 \*今村彰生,岡本奈保子,河田裕輝,黒石麻央,下田奈美子,篠原弘嗣,高橋藍子,村山沙穂,大西信弘 京都学園大バイオ環境
- P1-270** Planning and Design for Ecoldge, LEsson learned from EAsT Java Luchman Hakim (IDEC student) and Nobukazu Nakagoshi (IDEC)
- P1-271** 山村における獣害防止のための里山バッファゾーン整備のフレームワーク \*山場淳史(広島総研林技セ),兼子伸吾(広島大・院・国際協力)
- P1-272#** 在来タナゴ類減少への生息環境の悪化と外来種タイリクバラタナゴの影響 諸澤崇裕(筑波大・院・生命環境)



## ポスター発表 3月15日(土)9:00-17:30

(# : ポスター賞対象発表)

- P1-273** 水田の水生昆虫に対する水中ライトトラップの捕獲特性 \* 浜崎健児 (農環研), 本林 隆 (農工大・農業生産技術), 田中幸一 (農環研), 山中武彦 (農環研)
- P1-274** 水管理と土壌攪乱が休耕田の植物種組成に及ぼす影響 \* 高野瀬洋一郎 (新潟大・超域研究機構), 工藤夏実 (新潟大・農), 石田真也 (新潟大・院・自然科学), 紙谷智彦 (新潟大・院・自然科学)
- P1-275#** 里草地草本の宝庫“棚田”の魅力 ~宝塚市におけるワレモコウの生育分布から~ \* 出口 詩乃 (東大院・農), 丑丸 敦史 (神戸大), 三橋 弘宗 (人と自然の博物館), 大澤剛士 (神戸大・院)
- P1-276#** 巨椋池・横大路沼干拓地の土壌中に含まれる水生植物の散布体の鉛直分布 松本仁 (京大・地環), \* 今西亜友美 (京大・地環), 今西純一 (京大・地環), 森本幸裕 (京大・地環), 夏原由博 (京大・地環)
- P1-277#** 列状間伐によるイヌワシの餌場創出効果: 伐採地に対するノウサギの反応 \* 石間妙子 (新潟大・院), 大石麻美 (新潟大・院), 阿部聖哉 (電力中央研究所), 関島恒夫 (新潟大・院)
- P1-278** ツシマヤマメコノ潜在生息域の地図化とその応用 \* 増澤直 (株式会社地域環境計画), 伊勢紀 (株式会社地域環境計画)
- P1-279** 奥日光戦場ヶ原湿原の植物群落におよぼすニホンジカの影響 伊藤祥子, 谷本丈夫 (宇都宮大・農)
- P1-280#** 絶滅危惧種ヒヌマイトトンボの生息地としての機能をもたせた人工的なヨシ群落の構造と動態 寺本悠子 (筑波大院・環境科学), 渡辺 守 (筑波大院・生命環境)
- P1-281#** 対馬におけるアキマドボタルの生息環境要因 \* 榎本大輔 (明治大・農), 倉本宜 (明治大・農)
- P1-282#** 奥能登の里山保全のためのキノコ調査. 予報: キノコ相とマツタケ山の現状. \* 赤石大輔 (能登半島里山里海自然学校), 中村浩二 (金沢大・環日本海研究セ)
- P1-283#** 北陸地域におけるタナゴ類とイシガイ科二枚貝の分布 \* 稲留陽尉 (鹿大・水産), 山本智子 (鹿大・水産)
- P1-284#** 耳石の生元素安定同位体分析を用いた魚類の生息環境履歴推定 \* 菱田達也 (京大生態研), 陀安一郎 (京大生態研), 苅部甚一 (京大生態研), 中野孝教 (地球研), 川端善一郎 (地球研), 岡田直紀 (京大農学研究科), 奥田昇 (京大生態研)
- P1-285#** 2007年9月の大規模出水が多摩川の造成礫河原の植生に及ぼした影響 \* 畠瀬頼子 (自然環境研究センター), 阿部聖哉 (電力中央研究所), 長岡総子 (東京環境工科学園), 和田美貴代 (東京大学), 一澤麻子 (横浜植生研究会)
- P1-286#** 琵琶湖在来魚の生息適地としての内湖の環境特性 \* 大石麻美子, 柴田淳也, 山口真奈, 合田幸子, 奥田昇 (京大 大学生態研センター)
- P1-287#** 根絶へ向けての個体群変動モデルを用いた外来魚の個体群抑制 \* 安部倉完 (京大・理・動物生態), 竹門康弘 (京大・防災研京大・防災研), 堀道夫 (京大・理・動物生態)
- P1-288#** 異なる地盤高へのヨシの移植とその後のヨシ並びに巻貝相の変化 \* 梶原信輔 (熊本大学・自然科学研究科), 赤坂尚子 (熊本大学・理学部), 逸見泰久 (熊本大学・沿岸域センター)
- P1-289** 刈り取りにより管理された自生地におけるエヒメアヤメの個体群動態 内藤和明 (兵庫県立大・自然研)
- P1-290** 山形県における絶滅危惧種イバラトミヨ雄物型の生息環境と営巣特性 \* 伊藤聡・渡邊潔・渡邊英治 (山形県環研セ), 佐藤恒治 (山形県森林課), 河内正行・大井明彦 (山形県内水試), 高田啓介 (信州大・理), 丸吉繁一 (山形県文化財保護室)
- P1-291#** アザミ2種が明かす, 里草地管理の重要性 \* 古賀達朗 (神戸大・発達), 大沢剛士・三橋弘宗 (兵庫県立人と自然の博物館), 丑丸敦史 (神戸大・発達)
- P1-292#** 湧水湿地の保全を目的とした森林伐採が湿原植生に与える影響 \* 福井 聡 (神戸大・院・総合人間科学), 服部 保 (兵庫県立大 自然・環境科学研究所), 武田義明 (神戸大・人間発達環境学)
- P1-293#** 釧路湿原シラルト口湖における沈水植物の分布と環境要因との関係 \* 岡本実希, 西廣淳 (東大・院・農), 赤坂宗光, 中川恵, 佐治あずみ, 高村典子 (国環研)
- P1-294** 兵庫県における土地利用の変遷がツキノワグマの行動に及ぼす影響 \* 横山真弓, 森光由樹, 坂田宏志 (兵庫県立大/森林動物研究セ), 木下裕美子, 齋田絵里奈, 江藤公俊, 米澤里美 (森林動物研究セ)
- P1-295#** 静岡県安倍川におけるカワラニガナの分布と繁殖生態 \* 大野雅彦, 中尾友紀, 山下雅幸, 澤田均 (静岡大・農)
- P1-296** 里山林を伴った大学キャンパスにおける生態系(6) レッドリスト昆虫オオムラサキの越冬生態 \* 前田浩志 (近大・農), 櫻谷保之 (近大・農)
- P1-297#** ミトコンドリア DNA 解析による希少種イトウの遺伝的構造 \* 江戸謙顕 (文化庁・記念物課), 北西滋 (北大・院・地球環境), 小泉逸郎 (北大・院・地球環境), 秋葉健司 (HuchoWorks), 野本和宏 (北大・院・環境科学), 大光明宏武 (酪農学園大・地域環境), 山本俊昭 (日獣大・獣医), 東正剛 (北大・院・地球環境)
- P1-298#** 富士川におけるカワラサイコの集団サイズと種子生産 \* 岩田卓也, 山下雅幸, 澤田均 (静岡大・農)
- P1-299** 九重坊ガツル湿原における植生と水質水質環境との関係 \* 伊豫部勉, 篠原芳海, 中園亜由美, 原口昭 (北九市立大・国環工)
- P1-300#** 糞を用いたアムールヒョウの遺伝的多様性の解明 \* 杉本太郎 (北大・環境科学), 永田純子 (森林総研), Vladimir Aramilev (ISUNR), Alexander Belozor (ISUNR), 東正剛 (北大・環境科学), Dale R. McCullough (California Univ.)
- P1-301** 木津川砂州における河原固有種と外来種の関係 \* 杉本淳, 恵明 (奈良教育大), 梅原徹 (大阪自然史センター), 山崎俊哉, 丸井英幹 (大阪自然史博)
- P1-302** 飼育下におけるトゲスギミドリイシの遺伝的多様性 \* 磯村尚子 (琉球大・院・COE), 山本広美 (沖縄美ら海水族館)
- P1-303#** 植物の多様性のホットスポットである浮島湿原(霞ヶ浦)におけるカモノハシの指標性 \* 野副健司 (東大・農), 西廣 淳 (東大・農), 鷲谷いづみ (東大・農)
- P1-304** 小笠原諸島の河川における固有水生生物の生息域とその環境要因 \* 佐竹 潔, 上野隆平 (国立環境研), 小林哲 (佐賀大), 佐々木哲郎 (小笠原自然文化研), 野原精一 (国立環境研)
- P1-305** 北海道上美唄湿原におけるミズゴケ湿原の復元実験 \* 鳥村崇志, 西川洋子, 宮木雅美, 高田雅之 (北海道環境研)

# ポスター発表 3月16日(日)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

## 送 粉

- P2-001** ケショウヤナギの低密度化が送粉様式に与える効果 \*永光輝義(森林総研),星川健史,戸丸信弘(名古屋大)
- P2-002** ネジバナはなぜ振れているかー花序構造と他家受粉促進戦略ー \*岩田達則(神戸大・人間発達環境学研究所),長崎撰(豊中市立第十四中学校),石井博(東大・農学生命科学研究科),丑丸敦史(神戸大・発達科学部)
- P2-003#** ユキノシタ科チャルメルソウ属における花の匂いの送粉シンドローム 岡本朋子(京大院・人環),奥山雄大(京大院・人環),加藤真(京大院・人環)
- P2-004** 日本産チャルメルソウ属における送粉者が介在した生殖隔離機構とその適応的意義 奥山雄大・加藤真
- P2-005#** 伊豆諸島において同所的に生育するクサギ属2種(Clerodendrum trichotomum & C. izuinsulare)の訪花昆虫相の比較 \*水澤玲子(東邦大・院・理),長谷川雅美(東邦大・院・理)
- P2-006** 送粉者間の相互作用が植物の種子生産に与える影響 \*堂園いくみ,国武陽子(国立環境研),横山潤(山形大・理),五箇公一(国立環境研)
- P2-007#** 深泥池における訪花昆虫群集の変遷 \*鈴木健司・丑丸敦史(神戸大・人間発達環境学)・竹門康弘(京大・防災研)
- P2-008** Battle of flowers: 送粉者誘引戦略の進化に関する数理モデル \*江副日出夫(大阪府大・理・生物),倉本陸子(大阪女大・環境理学)
- P2-009#** ランドスケープレベルにおけるヤブツバキの有効な花粉流動 \*竹内智絵(名大院生命農),中西敦史(名大院生命農),上野真義(森林総研),西村尚之(名産大環境ビジネス),戸丸信弘(名大院生命農)
- P2-010#** 送粉昆虫による花形質の選択ーハマカンゾウとキスゲのF1-F2雑種を使った野外実験 \*廣田峻,新田梢(九大・理・生物),金潤姫,加藤彩,川窪伸光(岐阜大・応用生物),安元暁子,矢原徹一(九大・理・生物)
- P2-011#** 他個体のいる花へのマイマイツツハナバチの訪花行動 \*横井智之(京大院・農・昆虫生態),藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態)
- P2-012#** クリの訪花昆虫に付着した花粉一粒ずつのDNA分析による送粉パターンの解析 \*長谷川陽一,陶山佳久,清和研二(東北大院・農)
- P2-013** ミツバチの花選好性に花卉形質が与える影響 小沼明弘,下野嘉子(農環研),木村澄(畜草研),大澤良(筑波大),田中篤,堀崎敦史,新倉聡(株)トーホク)
- P2-014#** Pollen dispersal distances of eucalyptus pure stands and of remnants at pastures \*Makiko Mimura (Tsukuba Univ.), Robert Barbour (Tasmania Univ.), Rene Vallancourt (Tasmania Univ.), Brad Potts (Tasmania Univ.), and Kazuo Watanabe (Tsukuba Univ.)
- P2-015** マルハナバチの弁別能力:花の形や蜜標のわずかな違いの弁別 \*吉岡洋輔,大澤良,大橋一晴(筑波大),岩田洋佳,二宮正士(中央農研),小沼明弘(農環研)

## 種 子 散 布

- P2-016** 大型種子をもつ樹木 *Canarium euphyllum* における散布後の種子の運命:場所特異的な小型哺乳類による種子食害 \*北村俊平(立教大学・理),湯本貴和(総合地球環境学研究所),Pilal Poonswad(マヒドン大学・理),鈴木俊介(滋賀県立大学・環境科学) Prawat Wohandee(タイ王立森林局)
- P2-017#** 汎熱帯海流散布植物オオハマボウ(アオイ科)の分子系統地理~大洋を越えた種子散布と種分化~ \*高山

浩司,邑田仁,立石庸一,梶田忠

- P2-018#** サクラ属樹木の種子散布に及ぼす鳥の影響 \*澤綾子(筑波大・生命環境),正木隆(森林総研),直江将司(京都大・生態研),鞠子茂(筑波大・生命環境)
- P2-019#** 融雪洪水によるサワグルミ種子の散布 \*五十嵐知宏,上野直人,清和研二(東北大院・農)
- P2-020** アカメガシワを食べる鳥の地域比較,年比較 福井晶子(日本野鳥の会),上田恵介(立教大学)
- P2-021#** 温帯海岸林における陸ガニの種子散布 \*伊藤信一(静大・教),鈴木智和(静大・教),小南陽亮(静大・教)
- P2-022#** コナラの種子と種子食昆虫と野ネズミの関係 \*矢野舞依子(鳥取大・院・農),佐野淳之(鳥取大・農・FSC)
- P2-023#** 森林の分断化は鳥散布樹木の更新に影響を及ぼすか? 直江将司,酒井章子(京大・生態研),澤綾子(筑波大・生物),正木隆(森林総研)
- P2-024#** トビロシワアリによる種子の運搬・巣への搬入・巣からの搬出過程 \*大西義浩(鹿児島大連合農学)鈴木信彦(佐賀大)
- P2-025** カエデ属(Acer)の種子形態と分散能力の関係について \*片桐知之(信州大・理),佐藤利幸(信州大・理)
- P2-026#** アカネズミの社会的地位がドングリの貯食型散布に与える影響ー自動撮影装置の活用ー \*岡怜奈(新潟大院・自然科学),中島卓也(新潟大院・自然科学),箕口秀夫(新潟大・自然科学系)
- P2-027#** 鳥散布植物の果実にみられる形態と栄養成分の関係 \*田中 美那(金沢大学自然科学研究科),木村 一也,木下栄一郎(金沢大学自然計測応用センター),田崎 和江(金沢大学自然科学研科),寺沢 なお子(金沢大学教育学部)
- P2-028#** 都市近郊二次林における、伐採が種子散布に及ぼす影響 \*大塚一紀(滋賀県立大学大学院),近雅博(滋賀県立大学・環境),野間直彦(滋賀県立大学・環境)

## 景 観 生 態

- P2-029#** 鳥類の多様性を損なわない熱帯大規模植林は可能か? \*藤田素子(京大・生存研), Dewi Prawiradilaga (RCB-LIPI), 吉村剛(京大・生存研)
- P2-030#** 広域スケールの環境要因が耕作水田の成立植生に及ぼす影響 \*山田晋(農業環境技術研究所),楠本良延(農業環境技術研究所),徳岡良則(農業環境技術研究所),山本勝利(農業環境技術研究所)
- P2-031#** 伊豆大島における固有種サクユリの分布予測:サクユリは大島のどこにいる? \*菊地哲理(明治大・院・農),倉本宣(明治大・農)
- P2-032** 里山ハビタットマップ作成における衛星画像の利活用に関する研究 高橋俊守(宇都宮大学),一ノ瀬友博(兵庫県立大学),加藤和弘(東京大学),大澤啓志(慶応大学),杉村尚(自然研)
- P2-033** 空間自己相関を用いた生物の分布と生息場所の解析:瀬戸内海における魚類と藻場の関係 \*堀 正和,吉田吾郎,浜口昌巳((独)水研センター・瀬戸内海区),山北剛久,渡辺健太郎,仲岡雅裕(千葉大・理)
- P2-034#** 過去100年に渡る土地利用及び景観構造の変化が林縁部における草原植物の多様性に及ぼす影響 \*小柳知代(東大院),楠本良延(農環研),山本勝利(農環研),武内和彦(東大院)
- P2-035** 迅速測図の広範囲・簡易幾何補正手法の開発 岩崎亘典(農環研),デイビッド スプレイグ(農環研),小柳知代(東大院),山本勝利(農環研)
- P2-036#** 長野県伊那市における児童の自然とのふれあい体



# ポスター発表 3月16日(日)9:00-17:30

(# : ポスター賞対象発表)

験の変化 \*木川紗由美・大窪久美子(信州大学農学部)

P2-037 環境情報の構築による流域の景観構造とその機能評価に関する景観生態学的研究 磯崎由行(広島大・院・国際協力)

P2-038# 分光指標による群落スケールでの葉面積および葉内クロロフィル濃度の個別評価にむけての実験的検討 松本一穂, 太田岳史(名大院・生命農)

P2-039# セイヨウオオマルハナバチの空間分布は侵入圧と景観要素にどのような影響を受けるのか? ~スケール依存的プロセスに注目して~ \*国武陽子, 赤坂宗光, 五箇公一(国環研)

P2-040# 水田・休耕田における植物相保全のための生態学的土地評価 \*荒金恵太(東京大・農), 大久保悟(東京大・農), 山田晋(農業環境技術研究所), 北川淑子(東京大・農), 大黒俊哉(東京大・農)

P2-041# Effect of channel morphology on FPOM transport distance based on dam originated plankters as tracer \*玉基英(京大・工), 竹門康弘(京大・防災研), 山本佳奈(京大・工), 一瀬諭(琵琶湖環境研)

P2-042# Spatial Heterogeneity and Fractal Characteristics of Vegetation in Groundwater-disturbed Ecosystems Pan, Y. (Hiroshima Univ.), Nakagoshi, N. (Hiroshima Univ.), Gong, H. L. (Capital Normal Univ.)

P2-043 長野県小谷村における伝統的茅場の植生動態 \*井田秀行, 池谷友希子(信州大・志賀自然教育研)

P2-044# 都市域における緑地の生態学的価値評価に関する研究 \*森田大也(九工大・工), 伊東啓太郎(九工大・工), 西田貴紀(九工大・工), 橋本大輔(九工大・工), 磯野大(九工大・工), 真鍋徹(北九州市立自然史・歴史博物館)

P2-045 住居地域から海岸クロマツ人工林への非在来植物の移住 \*紙谷智彦, 高橋佳菜子(新潟大・院・自然科学)

P2-046# 常緑広葉樹8種の分布および優占を制限する気候条件 \*中尾勝洋(東京農工大), 松井哲哉(森林総研北海道), 田中信行(森林総研), 福嶋司(東京農工大)

P2-047# Landscape change and its driving forces in Hanoi, Vietnam Nguyen Van Quang

P2-048# GIS とリモートセンシングを用いた竹林拡大域推定手法の提案 \*谷垣悠介(徳島大・院・先端技術教育), 鎌田磨人(徳島大・ソシオテクノサイエンス研究部)

P2-049# 宇都宮市在住カラスの土地利用トレンドとは? 宇都宮大学農学部農業工学科 \*若山睦月, 高橋俊守

P2-050# アマモ類の空間動態: パッチベースの景観指数の有効性 \*山北剛久, 仲間雅裕(千葉大・理)

P2-051 多摩丘陵都市公園の二次林における樹洞の分布 \*保母桂志(明治大・院・農) 倉本宣(明治大・農)

P2-052 中国内モンゴルホルチン砂地における植生回復ポテンシャルの評価 \*大黒俊哉(東大・農), 宮森映理子(東大・農), 宮坂隆文(東大・農), 趙学勇(寒区旱区環境工程研)

P2-053# The effect of vegetation change on river flow in Jungnyang stream in Seoul, Korea \*Lee, H. (Hiroshima Univ.), Nakagoshi, N. (Hiroshima Univ.)

P2-054 開花フェノロジーから植生回復を評価する \*松本雅道(九州共立大・工), 田金秀一郎(九大・生資環)

P2-055# アマモ場の時空間変動に対する周辺環境の影響 \*渡辺健太郎(千葉大・院・自然科学), 仲間雅裕(千葉大・院・理), 石井光廣(千葉県水産総合研究センター), 近藤昭彦(千葉大・環境リモセン)

P2-056# 平野部に分布する二次草地は歴史性を反映している \*楠本良延(農環研), 徳岡良則(農環研), 山田晋(農環研), 小柳知代(東大院), 森田紗綾香(農環研), 平舘俊太郎(農環研),

山本勝利(農環研)

P2-057# 都市域に生息する2種のイトトンボの遺伝構造に影響を与える景観要素 \*佐藤真弓(京大・生態研), 三橋弘宗(人と自然の博物館), 神松幸弘(地球研), 椿 宜高(京大・生態研)

P2-058# 中国内モンゴルにおける砂丘固定技術の適用が植生・土壌の回復に及ぼす効果 宮森 映理子(東京大学農学部緑地環境学専修)

P2-059# 中国ホルチン砂地における耕地の管理・立地・作物種の違いによる土地荒廃パターンの比較 - 土壌特性・雑草群落・作物生産性を指標として \*宮坂隆文, 大黒俊哉, 武内和彦(東大・農), 趙哈林, 趙学勇(中国科学院沙漠研究所)

P2-060# 里山の土地利用履歴とランドスケープレベルでの樹木の繁殖開始サイズ: 更埴地方と屋久島の比較 \*小林慶子(横浜国立大・院・環境情報), 小池文人(横浜国立大・環境情報研究院), 酒井暁子(横浜国立大・環境情報研究院)

P2-061 ウェーブフォーム LiDAR による植生観測の有効性について 武田知己(国立環境研究所), 米康充(島根大), 北田勝紀(中日本航空(株))

## 遷移・更新

P2-062 北海道東大雪北方針葉樹原生林における樹木群集動態と樹種共存 \*西村尚之(名産大), 加藤京子(北大・低温研), 山本進一(名大), 原登志彦(北大・低温研)

P2-063# 湧水湿地内に見られる植生の分布と変化の要因: 土砂の移動が鍵を握るのか? 富田啓介(名古屋大・院・環境)

P2-064# 北海道におけるスキー場放棄地の植生回復パターン \*斎藤達也, 露崎史朗(北大院・環境科学院)

P2-065 亜高山帯アカエゾマツ個体群の直径成長はどのように決まるか \*長谷川成明・北村知洋・甲山隆司(北大・地球環境)

P2-066# 溪畔林構成樹種の攪乱依存性-ギャップと氾濫原の稚樹分布の比較 - \*沖慎司(秋田県立大・生物資源), 秋好達朗(秋田県立大・生物資源), 星崎和彦(秋田県立大・生物資源), 星野大介(森林総研・東北), 柴田鏡江(森林総研・東北), 大住克博(森林総研・関西), 正木隆(森林総研)

P2-067# サロベツ湿原におけるササ群落の拡大 \*藤村善安(北大フィールド科学セ), 富士田裕子(北大フィールド科学セ)

P2-068 カラマツ人工林に天然更新する高木性樹種組成を決定する要因 長池卓男(山梨県森林研)

P2-069 冷温帯地域におけるナラ枯れ跡地の植生変化 小谷二郎・江崎功二郎(石川県林試)

P2-070# 亜高山性針葉樹実生のアロケーションパターン ~不定根発生の生態学的意義 \*土井裕介(京大・農), 森章(サイモンフレーザー大), 武田博清(京大・農)

P2-071# 野辺山高原におけるサクランソウ湿生群落の遷移と立地環境との関係 \*佐野恭子(信州大院・農), 大窪久美子(信州大・農)

P2-072# ブナ二次林における林縁の光傾度とブナ実生の成長特性 \*山田いづみ(新潟大・院・自然科学), 紙谷智彦(新潟大・院・自然科学)

P2-073# 四国・大野ヶ原ブナ林における主要樹種の齢構造と共存機構 \*神岡新也, 二宮生夫(愛媛大・農学研究所)

P2-074# 河川氾濫原におけるコナラ群落の形成過程 \*野田浩(東京農工大学・院・連農), 吉川正人, 福嶋司(東京農工大学)

P2-075# 伊豆天城山ブナ・ヒメシャラ林における樹木の空間構造 畑尚子, 内山憲太郎, 井出雄二(東大・農・森園管理)

# ポスター発表 3月16日(日)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

**P2-076# 落葉広葉樹数種の種子発芽におけるギャップ検出機能 - R/FR 比と変温の相対的重要性 -** \*安藤真理子(東北大・農), 清和研二(東北大・農)

**P2-077 オオシラビソ - コメツガ - ダケカンバ林における森林構造とその更新動態** \*池田圭吾(信大院・工), 井田秀行(信大・教), 高橋耕一(信大・理)

**P2-078# 奥鬼怒地域におけるウラジロモミ個体群のサイズ構造と地形との関係** 別所直樹(筑波大・生命環境), 上條隆志(筑波大・生命環境), 小川みふゆ(森林総研), 津山幾太郎(森林総研)

**P2-079# 照葉樹林下層に生育するクスノキ科 2 種の萌芽更新特性の比較** \*相川真一(森林総研), 河原崎里子(情報シ融合セ), 真鍋徹(北九州自然史博), 島谷健一郎(統数研)

**P2-080 綾葉樹林における主要樹種の実生定着過程の比較** \*小南陽亮(静岡大・教育), 永松大(鳥取大・地域), 真鍋徹(北九州市立自・歴博), 齊藤哲(森林総研), 佐藤保(森林総研)

**P2-081 ブナ実生の生長量と光条件との関係** 西本孝(岡山県自然保護センター)

**P2-082 アカマツ林およびコナラ林におけるコナラ稚樹の定着過程** 阿部聖哉・梨本真(電中研・生物環境)

**P2-083# 火入れ跡地における微地形と植生遷移** \*菅原敬(鳥取大・院・農), 佐野淳之(鳥取大・農・FSC)

**P2-084 年輪判読から推定された釧路湿原南部におけるハンノキの定着と成長の過程** \*石川幸男(専修大道短大・みどりの総合科学), 矢部和夫(札幌市立大・デザイン)

**P2-085 Macaranga および Mallotus の先駆種 - 極相種間にもみられる地上・地下部の相対成長関係の違い** \*平澤建(鹿大院・理工), 鈴木英治(鹿大・理), Herwint Simbolon (LPI)

**P2-086 エゾマツ実生の生残および成長に適した条件～播種後 4 年間の生残動態による評価～** \*飯島勇人, 渋谷正人(北大院農)

**P2-087# 秩父山地天然林に優占するブナとイヌブナの実生と成木の分布** \*石塚航, 梶幹男(東大・演習林)

**P2-088# 太平洋側分布下限域のブナ個体群に与えた気候変動の影響** \*小出大(横国大院・環境情報), 持田幸良(横浜国大)

**P2-089# 人為攪乱による養分利用特性の改変が植生回復に与える影響 - 泥炭採掘跡地での窒素施肥実験による検証** \*西村愛子, 露崎史朗(北大・環境科学)

**P2-090# 蒜山地域における二次林の動態** \*長谷川誠(鳥取大・院・農), 佐野淳之(鳥取大・農・FSC)

**P2-091 放棄された里山におけるブナ・ミズナラ・コナラ実生の動態** \*後藤彩(信大院・工), 井田秀行(信大・志賀自然教育研), 高橋耕一(信大・理)

**P2-092 温帯林における実生の成長と生存のトレードオフ - 発芽タイミングの重要性 -** 清和研二(東北大学 農学研究科)

**P2-093# 山梨県小菅村の冷温帯夏緑樹林における林冠構成種の実生の定着に土砂移動が与える影響** 芝朋美(東京農大・院), 上林 太一, 武生 雅明(東京農大・地域環境), 若松伸彦(東京農大・地域環境), 中村 幸人(東京農大・地域環境)

**P2-094 太平洋型ブナ林大面積プロットにおける十年間の動態** 鈴木牧(東大演習林), 梶幹男(東大演習林), 大久保達弘(宇都宮大学)

**P2-095 積雪環境と針葉樹 - 北米太平洋岸のアマビリスモミにおける形態の変異性 -** 森章(Simon Fraser University), 水町衣里(京都大学大学院農学研究科), Douglas G Sprugel (University of Washington)

**P2-096# 与田切川砂防堰堤堆砂地における樹木群落の変遷**

\*黒河内寛之, 松下範久, 宝月岱造(東大院・農)

**P2-097 江戸時代の伐採以前のヤクスギはいつ更新していたか?** 木村勝彦(福島大・理工)

## 古 生 態

**P2-098 京都盆地および丹波山地における過去 1 万年間の火事史** \*佐々木 尚子(地球研), 岸本 剛(林野庁), 高原 光(京都府大・農)

**P2-099 栗駒山須川湖周辺における最終氷期以降の植生変遷** \*池田重人, 岡本透, 志知幸治(森林総研), 若松伸彦(東京農大)

**P2-100# 房総半島南部の約 8700 年前の大型植物化石群から推定される照葉樹林のレフュージア** \*小林真生子(千葉大院・園), 百原新(千葉大院・園), 清永丈太(東京都建設局), 岡崎浩子(千葉県立中央博), 能城修一(森林総研), 柳澤清一(千葉大・文), 岡本東三(千葉大・文)

**P2-101# Palaeoecological analysis for Elephant Birds (Aepyornithidae) of Madagascar** \*Tsimihole Tovondrafale (Kyushu Univ.), Rasoamiamanana Armand (Antananarivo Univ.), Hiroko Koike (Kyushu Univ.)

**P2-102 極東における最終氷期以降の植生変遷 1 - カムチャツカ半島** \*高原 光(京都府大農), 豊岡康広(京都府大農), 檀原 徹(京都フィッシュン・トラック), 池田重人(森林総研), 竹原明秀(岩手大人文), Dirksen, O. (Inst. of Volcanology and Seismology FEB RAS), Klimin, M. (Inst. of Water and Ecol. Prob. FEB RAS)

**P2-103 極東における最終氷期以降の植生変遷 2 - サハリ** \*五十嵐八枝子(北方圏古環境研究室), 高原 光(京都府大農), 片村文崇(京都府大農), 池田重人(森林総研), 竹原明秀(岩手大人文), Mikishin, Y. (Far East Geological Institute, FEB RAS), Klimin, M. (Inst. of Water and Ecol. Prob. FEB RAS), Bazarova, V. (Pacific Inst. of Geography FEB RAS)

**P2-104# 極東における最終氷期以降の植生変遷 3 - アムール川流域** \*片村文崇(京都府大農), 池田重人(森林総研), 高原 光(京都府大農), 竹原明秀(岩手大人文), 内山 隆(千葉経済短大), Klimin, M. (Inst. of Water and Ecol. Prob. FEB RAS), Bazarova, V. (Pacific Inst. of Geography FEB RAS)

**P2-105# 琵琶湖東岸部における過去 3000 年間の火事および農耕活動に伴う植生の変化** 河野樹一郎(京都府大・農), 西村 亮(京都府大・農), 高原 光(京都府大・農), 中村麻子(京都府大・農), 井上 淳(大阪市大・理), 松下まり子(奈良文化財研究所)

## 動 物 群 集

**P2-106# 森と川をつなぐ細い糸: ハリガネムシに寄生・誘導されたカマドウマの溪流魚による捕食** \*佐藤拓哉(三重大院・生資), 毛戸一仁(近大・農), 渡辺勝敏(京大院・理), 原田泰志(三重大院・生資)

**P2-107# 島の生物地理学と共進化: 種数 - 面積関係で解くカタツムリとカタツムリ食ヘビの共進化過程** 細 将貴(京大・理)

**P2-108# シカが土壌動物群集に与えるインパクトの状況依存性: ギャップ・非ギャップの比較** \*北村智之, 宮下直(東大・農・生物多様性)

**P2-109# 休耕田・耕作放棄水田におけるトンボ目昆虫の分布規定要因** \*土田琢水(東大・農・農学生命科学), 加藤和弘(東大・農・農学生命科学)

**P2-110# ミミズ食オサムシ属幼虫間の体サイズ差はニッチ分化をもたらすか?** \*奥崎嶺(京大・理), 曾田貞滋(京大・理)



# ポスター発表 3月16日(日)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

- P2-111# 魚類の出現と利用形式からみた琵琶湖周辺域の水田地帯の評価** \*金尾滋史(多賀町博/滋賀県大院), 前畑政善(琵琶湖博), 沢田裕一(滋賀県大)
- P2-112# 捕食者-被食者の化学量論に基づく餌選択が食物網構造に与える影響** \*加藤聡史, 占部城太郎, 河田雅圭(東北大・院・生命科学)
- P2-113# 山岳湿原のユスリカ群集: 構造決定に果たす移入・移出の役割** \*富樫博幸, 鈴木孝男, 占部城太郎(東北大・生命科学)
- P2-114# 地表徘徊性甲虫の群集構造に二次林の植生管理が与える影響** \*渋谷園実(東大院・新領域), 久保田耕平(東大院・農), 大澤雅彦(東大院・新領域)
- P2-115 和歌川河口干潟内の10箇所におけるカニ類への二生吸虫の寄生状況と鳥の飛来数** 沖彩矢香,\*古賀庸憲(和歌山大・教育・生物)
- P2-116# 地中海 DHAB (深海高塩分無酸素海盆) におけるメイオベントス群集** \*岩崎藍子(東大・海洋研), 小島茂明(東大・海洋研), 野牧秀隆(JAMSTEC), 北里洋(JAMSTEC)
- P2-117 里山林を伴った大学キャンパスにおける生態系(2) 野鳥群集の季節的・年次的変動** \*桜谷保之, 後藤桃子, 小西恵実, 福原宜美, 岡田絢子, 東寛子, 八代彩子(近畿大・農・環境管理)
- P2-118# 外来捕食者ウシガエルが媒介する『見かけの競争』は生態系を横断するか** \*美濃和駿, 西嶋翔太, 宮下直(東大・院・農)
- P2-119# 土壌層と樹冠層の節足動物群集はリンクしているのか? - 土壌リター量の操作による樹冠層の節足動物への影響 -** \*吉田智弘(森林総研・木曾, 名大院・生命農), 滝藤由貴(名大・農), 肘井直樹(名大院・生命農)
- P2-120# The effect of earthworm casts on plant growth** Sho Mayumi
- P2-121 掃除共生それとも寄生? 安定同位体からのアプローチ** \*奥田昇(京大・生態研), 福森香代子(愛媛大・CMES), 上原子亜紀(愛媛大・理), 近末昌嗣(愛媛大・理), 仲澤剛史(京大・生態研), 柳澤康信(愛媛大・理工)
- P2-122 ラインセンサスにおける確認個体数の時期別変化~釧路湿原温根内の草原性鳥類~** 玉田克巳(道環境研)
- P2-123 渡良瀬遊水池において繁殖鳥類の分布を決める要因** 永田尚志(国環研・生物)
- P2-124# 水生生態系におけるスクミリンゴガイを介した間接効果** \*吉江春子, 遊佐陽一(奈良女子大・理)
- P2-125# アリ随伴性アブラムシがムラサキシジミのアリ随伴に及ぼす影響** \*末次 主幸(佐賀大学農学部), 鈴木 信彦(佐賀大学農学部)
- P2-126# 岡山市半田山における植生と鳥類相** \*奥田圭(岡山理大・総情・生地), 波田善夫(岡山理大・総情・生地)
- P2-127 孤立した都市緑地における草地破壊後のチョウ群集の回復様式** \*大脇淳・中村浩二(金沢大・環日本海環研セ)
- P2-128# 安定同位体を用いた魚類の生息地ネットワークの解明: 琵琶湖と周辺内湖を例に** \*柴田淳也, 大石麻美子, 山口真奈, 合田幸子, 奥田昇(京大生態研セ)
- P2-129# 栃木県奥日光における森林棲コウモリ類の自然林と人工林との捕獲個体数比較** \*吉倉智子, 上條隆志(筑波大・院・生命環境), 安井さち子(茨城県つくば市)
- P2-130# ヨツボシモンシデムシの資源利用におけるアリとハエの影響** \*岸田竜(鹿児島大 連合農), 鈴木信彦(佐大 農)
- P2-131 安定同位体比でみるマラウイ湖シクリッド魚類の群集構造** \*丸山敦, 櫻井康人, 野々松佑佳, 遊磨正秀(龍谷大・理工), Bosco Rusuwa(マラウイ大・生物)
- P2-132# 里山林を伴った大学キャンパスにおける生態(5) ガリ群集について** \*城本啓子, 桜谷保之(近畿大・農・環境生態)
- P2-133 食物資源をめぐるノウサギとニホンジカの種間関係について** \*木村太一, 小金澤正昭(宇大・農)
- P2-134 捕食、分散、生息地面積の相互作用がメタ群形成におよぼす影響** \*村上正志, 平尾聡秀(北大・苫小牧研究林)
- P2-135# 群集・個体群動態の安定性の空間スケール依存性** \*深谷肇一(北大・環境), 仲岡雅裕, 熊谷直喜, 島袋寛盛(千葉大・自然科学), 山本智子(鹿児島大・水産), 堀正和(瀬戸内水研), 野田隆史(北大・地球環境)
- P2-136# 資源密度と生息場所構造の相互作用が寄生蜂群集の種多様性におよぼす影響** \*平尾聡秀, 村上正志(北大・苫小牧研究林)
- P2-137 オイカワの食性に注目した河川食物網構造の変化** \*近藤裕亮, 丸山敦, 吉岡文子(龍谷大・理工)
- P2-138# 由良川中流域の魚類の微生息場所利用** \*中川光(京大院・理)
- P2-139# サンゴ礁に生息する沿岸性ウミアメンボを中心とした生物群集** \*佐々木幹雄, 岩崎洋樹, 入江菫子, 滝 若菜, 青木優和, 渡辺 守(筑波大・院・生命環境)
- P2-140 甲虫種多様性調査で役立つ指標種** 大澤正嗣(山梨森研)
- P2-141 琵琶湖 内湖内・間でみられる環境特性と貝類群集の関係** \*合田幸子, 柴田淳也, 大石麻美子, 山口真奈, 奥田昇(京都市大・生態研センター)
- P2-142# 哺乳類調査におけるヘアトラップ法の可能性** \*東出大志(新潟大・院・自然), 箕口秀夫(新潟大・自然科学系), 三浦慎悟(早大・人)
- P2-143# 琵琶湖沿岸のヨシ帯食物網-炭素・窒素・硫黄安定同位体比からの解析-** \*菊部甚一(京大・生態研), 岡田直紀(京大・農), 陀安一郎(京大・生態研)
- P2-144# ブナ種子豊凶に伴う野ネズミ群集の変動** \*西友香理(新潟大院・自然科学), 箕口秀夫(新潟大・自然科学系)
- P2-145# 岩礁潮間帯固着生物群集の鉛直加入パターンにおける規則性: 空間変異の要因** \*熊谷直喜, 仲岡雅裕(千葉大), 野田隆史(北大環境), 堀正和(瀬戸内水研), 山本智子(鹿児島大水産)
- P2-146 河道特性の異なる谷間における生息場構造と底生動物群集の比較-攪乱前後の違いについて-** 竹門康弘(京都大学防災研究所), 宝馨(京都大学防災研究所), 堤大三(京都大学防災研究所)
- P2-147# オオアシトガリネズミによる土壌生態系に及ぼす影響** 南波興之(北大・低温研), 大館智氏(北大・低温研)
- P2-148 森林利用が小型哺乳類の栄養段階に与える影響** \*中川弥智子(名古屋大), 兵藤不二夫(スウェーデン大), 中静透(東北大)
- P2-149# 鴨川の河道内湧水における底生動物群集の特性** 鈴木淳史(京大・工), 竹門康弘(京都大学防災研究所)
- P2-150# 行列モデルによる岩礁潮間帯群集の遷移動態の解析** \*辻野昌広, 野田隆史(北海道大), 山本智子(鹿児島大), 仲岡雅裕(千葉大), 堀正和(瀬戸内水研)
- P2-151# 溪流の落葉分解系におけるストイキオメトリー** \*佐藤竜一, 加賀谷隆(東大・農学生命・森林動物)
- P2-152# 底生動物群集に及ぼす流域地質の影響: 花崗岩溪流と堆積岩溪流の比較** 山中信彦, 加賀谷隆(東大・農)
- P2-153# 魚食性魚類の捕食-被食関係に見られる左右性の影響とその広がり** \*八杉公基, 堀道雄(京大院・理)
- P2-154 紀伊半島における森林流域植生と底生動物群集**

# ポスター発表 3月16日(日)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

\*吉村真由美

P2-155# 洞窟の生物群集とその構成種を決定する要因 \*新部一太郎(鳥取大院・生物環境科学), 星川和夫(同)

P2-156# 森林ギャップがコウモリ群集におよぼす影響 \*福井大, 平川浩文(森林総研・北海道), 村上正志, 平尾聡秀(北大・苫小牧研究林)

P2-157 堆肥・窒素化学肥料の投入が水田の双翅目昆虫の発生に及ぼす影響 森本信生(中央農研)

P2-158# 空間スケール別に見た樹液食昆虫群集の構造 \*吉本治一郎, 西田隆義(京大院・農・昆虫生態)

P2-159# 動物プランクトン群集の栄養段階の時空間変動とそれをもたらす要因 \*酒井陽一郎(京大生態研), 武山智博(新潟大), 苅部 甚一, 小坂橋 忠俊, 陀安 一郎(京大生態研), 由水 千景(JST), 永田 俊, 奥田 昇(京大生態研)

## 動物個体群

P2-160# カヤネズミ・メタ個体群のサイズと構造に与える景観マトリクスの影響 \*黒江美紗子, 宮下直(東大・農)

P2-161 北関東におけるヒヨドリの子息密度推定法の検討 山口恭弘(中央農研・鳥獣害研)

P2-162 スギカミキリ抵抗性育種における検討事項ーヒノキカワモグリガ幼虫の穿孔がスギカミキリの生存率に及ぼす影響ー 加藤一隆(森総研林育セ)

P2-163 沖縄諸島におけるコキクガシラコウモリのエコーロケーションコールの地域間変異の維持機構の解明(仮) \*吉野 元(東北大・生命科学), Kyle Armstrong(京大・博), 伊澤雅子(琉球大・理), 横山潤(山形大・理), 河田雅圭(東北大・生命科学)

P2-164 秋に大量出沒したツキノワグマはどこに行ったか? 西 信介(鳥取県林試)

P2-165 イノシシ、ニホンジカ、植生、狩猟、農業の相互作用 坂田宏志(兵庫県大), 岸本康隆(森林動物研究セ), 藤木大介(兵庫県大)

P2-166# 真社会性アブラムシの兵隊個体における防衛形態形質の季節変動 \*服部充(信大・理), 市野隆雄(信大・理)

P2-167 ニホンジカ個体群の加入率の年変動 \*宇野裕之・車田利夫(道環境科学研究センター)・横山真弓(兵庫県立大学)

P2-168# アイナメ属3種およびその雑種の耳石を用いた成長速度の比較 \*木村幹子(北大環境科学), 高津哲也(北大水産), 河田雅圭(東北大生命科学), 宗原弘幸(北大FSC)

P2-169# マイクロサテライトマーカーを用いた石西礁湖のコビミドリイシの集団遺伝学的研究 \*中島祐一(琉球大学・理工・海洋環境), 西川昭(ジェームススタック大学・比較ゲノミクスセンター), 酒井一彦(琉球大学・熱帯生物圏研究センター瀬底実験所)

P2-170 温州ミカンの害虫ヤノネカイガラムシの空間動態: 空間配置と植物の質の効果 \*黒岩志穂里, 津田みどり, 高木正見(九大院・農・生防研)

P2-171# Bed site preference of the Bornean orangutan (*Pongo pygmaeus*): the consequences of different forest structure patterns. \*Rayadin, Y., Saitoh, T., (Hokkaido University)

P2-172 エゾシカによる列車運行支障件数の動向 \*稲富佳洋(北海道環境研), 車田利夫(北海道環境研), 玉田克巳(北海道環境研), 北海道旅客鉄道株式会社

P2-173 低温下におけるエゾヤチネズミの免疫機能に及ぼす日長および餌の効果 楠本華織(北大院・農)

P2-174# ゲンゴロウとタガメにおける幼虫の採餌生態 \*大庭伸也, 中筋房夫(岡山大院・環境・昆虫生態)

P2-175 生態化学量論からみた植食性昆虫の生活環 加賀田秀樹(京大・生態学研究センター)

P2-176# アユの縄張り形成・崩壊の履歴効果 \*田中裕美, 中桐齊之(兵庫県立大環境人間), 泰中啓一, 吉村仁(静岡大院創造)

P2-177 絶滅危惧種オガサワラモクズガニの小笠原父島における分布生活様式(予報) 小林 哲(佐賀大学), 佐竹 潔(国立環境研)

P2-178 遺伝多型情報から分布拡大下にあるシカの分散過程を推定する \*藤田 剛(東大・農), 吉尾政信(東大・農), 山道真人(総研大), 浅田正彦(千葉県博), 落合哲二(千葉県博), 宮下直(東大・農), 立田晴記(国立環境研)

P2-179# 沖縄諸島におけるオリオオコウモリの分布と島嶼間移動 \*中本敦, 板部真一, 佐藤亜希子(琉大・理), 金城和三(沖国大・法), 伊澤雅子(琉大・理)

P2-180 谷津田周辺のため池におけるクサガメ *Chinemys reevesii* とミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* の成長の違い \*今津健志(明大・院・農), 倉本 宣(明大・農)

P2-181# マツカサガイの生息環境からみるミヤコタナゴ個体群への影響 秋山吉寛(北大地球環境), 上野山大輔(福島水試), 伊藤寿茂(新江ノ島水族館), 吉田豊(栃木水試), 若熊敏夫(北大地球環境), 丸山隆(東京海洋海洋科学)

P2-182# ブナ豊作翌年の野ネズミ高密度個体群における社会構造: 出現・移入・消失のバランス \*増谷優, 三田瞬一, 星崎和彦(秋田県大・生物資源)

P2-183 資源制限下にあるニホンジカの餌転換 \*高橋裕史(森林総研関西), 梶 光一(東京農工大), 横山真弓(兵庫県森林動物研セ)

P2-184 南九州霧島山地におけるタヌキの疥癬による個体数変動と回復過程 小金澤 正昭(宇都宮大学・農・演習林)

P2-185# 石狩川におけるコウモリ類の空間的分布 \*小島瑛介, 池田透(北大・院・文), 村野紀雄(酪農大・地環)

P2-186# Blue Light Go, Red Light Stop \*中道康文, 徳永幸彦(筑波大生命共存)

P2-187# 滋賀県近江八幡市奥島山に棲息するニホンイノシシの食性および果実落下量との関係 \*萩原久子(滋賀県立大学大学院), 近雅博(滋賀県立大学・環境), 野間直彦(滋賀県立大学・環境)

P2-188 北海道オホーツク地域におけるオジロワシ・オオワシの餌資源利用 田頭政幸(東農大・生物産業), \*白木彩子(東農大・生物産業)

P2-189 溝付き付着板を用いたシマトビケラ類の付着調査ー溝の太さとシマトビケラ類の巣のサイズー \*藤永愛(電中研), 山崎孝史(日本海洋生物研究所), 坂口勇(電中研)

P2-190# イワフジツボの加入量の長期広域変動 \*山下友実, 熊谷直喜, 仲間雅裕(千葉大理), 堀正和(瀬戸内水研), 野田隆史(北大環境), 山本智子(鹿大水産)

P2-191 分布拡大前後の集団遺伝構造の推定: 房総半島のシカを例に \*吉尾政信(東大・生物多様性), 浅田正彦(千葉県博), 落合啓二(千葉県博), 宮下直(東大・生物多様性), 立田晴記(国環研・生態リスク)

P2-192# ミトコンドリア多型情報と階層ベイズモデルによるシカ個体群動態の推定 \*山道真人(総研大), 藤田剛(東大・農), 吉尾政信(東大・農), 鈴木牧(東大・農), 浅田正彦(千葉県博), 落合啓二(千葉県博), 立田晴記(国立環境研), 宮下直(東大・農)

P2-193 ウスバキトンボの巨大デーム \*林文男(首都大・理工・生命)

P2-194# 石狩低地帯周辺部におけるエゾクロテンとホンドテンの分布現状 \*坂田大輔(北大・環境科学院), 東正剛(北



# ポスター発表 3月16日(日)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

大・環境科学院)

- P2-195 2007年度のキシヤスデの大発生と今後の動向について 中澤廣樹(信大・理), 藤山静雄(信大・理), 須賀聡(長野県霧ヶ峰自然保護センター)
- P2-196# 水田生態系における絶滅のおそれのあるゲンゴロウ類の生息の現状と環境要因 \*西原昇吾(東大・農学生命科学), 角谷拓(東大・農学生命科学), 鷺谷いづみ(東大・農学生命科学)
- P2-197# 三宅島2000年噴火被害地におけるイズアオドウガネの捕獲数と植生との関係 \*星元規(筑波大・生物資源), 横原寛(森林総研), 上條隆志(筑波大・生命環境), 高橋俊守(宇都宮大・農)
- P2-198# 生息場所安定性がコバネナガカメムシの翅多型性に及ぼす影響について \*嘉田修平, 藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態学)
- P2-199 サクラマスへの性における遺伝子型と表現型の不一致について 山本俊昭(日獣大), 北西滋(北大大学院)
- P2-200# 無腸類ヒラムシの光退避行動は共生藻光合成に支配されている \*中村崇, 神木隆行, 山崎征太郎, YeongShyan Yuen, 山崎秀雄(琉大・理)
- P2-201# 鏡像体は正常になれるか? ~エピジェネシスの実験進化~ \*清水啓介, 浅見崇比呂(信州大・理)
- P2-202# 巻貝のゆらぎ左右性と発生拘束 \*宇津野宏樹(信大・理), 浅見崇比呂(信大・理)
- P2-203# アカゲラにおける営巣地選択と繁殖成績の関係 森さやか(東大・院・農学生命)
- P2-204# 営巣木の伐採によるサギ類コロニーの個体数変化 \*山口拓男(筑波大・生命共存), 徳永幸彦(筑波大・生命共存)

## 外 来 種

- P2-205 コーカサスオオカブトムシが日本産カブトムシに及ぼす影響 \*岡本八寿祐, 中村雅彦(上越教育大・生物)
- P2-206 海洋島における在来種と外来種との関係:小笠原諸島固有のカミキリムシ類は外来樹種をよく利用する \*杉浦真治(森林総研), 山浦悠一(森林総研), 横原寛(森林総研)
- P2-207 外来種における割込型と便乗型 -特に外来テントウムシについて- \*戸田裕子, 桜谷保之(近畿大・農)
- P2-208# アルゼンチンアリ多数スーパーコロニーの神戸港への侵入:極めて稀な侵入パターンの発見と、それがもたらす新規研究課題の可能性 \*砂村栄力, 鈴木俊, 西末浩司, 寺山守, 田付貞洋(東大・農)
- P2-209# アシナガキアリの系統地理 \*田中涼子(北大・環境科学), 平田真規(北大・環境科学), 菊池友則(琉大・農), 東典子(北大・水産), 緒方一夫(九大・農), 東正剛(北大・環境科学)
- P2-210# ミトコンドリアDNAからみたクマルハナバチの地理的変異 \*所論史(茨大・教), 五箇公一(国立環境研), 山根爽一(茨大・教)
- P2-211# 外来種セイヨウオオマルハナバチの野生化集団における女王の体サイズと適応度 井上真紀(東大・農), 横山潤(山形大・生物), 鷺谷いづみ(東大・農)
- P2-212# ヒロヘリアオイラガの分布に鳥類が与える影響について \*坪井助仁, 西田隆義(京大・農, 昆虫生態)
- P2-213 ソウシチョウはシカの増加で減少するか -四国剣山地の事例- \*佐藤重穂(森林総研四国), 奥村栄朗(森林総研四国)
- P2-214# 外来種コブハクチョウの行動と繁殖成功への給餌の影響 \*土屋結(筑波大・生物資源), 藤岡正博(筑波大・

井川演習林)

- P2-215 兵庫県におけるヌートリアの生息状況と農業被害の解析 \*江草佐和子, 坂田宏志(兵庫県森林動物研究センター)
- P2-216 外来種ヌートリアが池の生態系に及ぼす影響 -捕獲開始後の変化から- 森生枝(岡山県自然保護センター)
- P2-217 小笠原西島におけるクマネズミの根絶 \*橋本琢磨(自然環境研究セ), 藤田昌弘(自然環境研究セ), 常田邦彦(自然環境研究セ), 矢部辰男(ラットコントロールコンサルティング), 牧野俊一(森林総研)
- P2-218# 系外資源の年変動と繁殖価の季節性を考慮した外来種管理 -奄美大島におけるマングース対策試論- \*亘悠哉(東大), 阿部慎太郎(環境省那覇事務所), 山田文雄(森林総研), 宮下直(東大)
- P2-219# アライグマ捕獲におけるエッグトラップと箱ワナの捕獲効率の検証 \*阿部豪(北大・院・文), 池田透(北大・院・文), 立澤史郎(北大・院・文)
- P2-220# 外来種探知犬に関する基礎研究 \*中井真理子, 池田透(北海道大学・院・文・地域)
- P2-221 松本盆地の用水路にひろがるブラウンマス 北野聡(長野環保研)・逸見泰明(松本市)
- P2-222# 炭素・窒素安定同位体比を用いたオオクチバス当歳魚の餌資源解析 \*安野翔, 千葉友紀(東北大・院・生命), 進東健太郎, 藤本泰文, 嶋田哲郎(伊豆沼・内沼環境保全財団), 鹿野秀一, 菊地永祐(東北大・東北アジア研)
- P2-223 遺伝子解析による琵琶湖産淡水魚の人為的分布拡大パターンの推定 \*向井貴彦, 早川明里, 堀川まりな(岐大・地域), 中島淳, 鬼倉徳雄(九大・院農)
- P2-224# 谷津田のウシガエル管理における人為的な環境変化の有効性の検証 \*西嶋翔太, 宮下直(東大・農・生物多様性)
- P2-225# 大和川水系におけるスクミリンゴガイに対する天敵の捕食効果 \*山西陽子(奈良女子大・理), 遊佐陽一(奈良女子大・理)
- P2-226# 外来種4種を含む生物群集における捕食-被食関係 \*三宅もえ, 宮下直(東大・農)
- P2-227# 外来植物シナダレスズメガヤの侵入が砂礫質河原の植食者群集に与える影響 \*吉岡明良, 角谷拓, 須田真一, 鷺谷いづみ(東大院・農学生命科学)
- P2-228 同所的に生息している外来水生生物の駆除効果 \*佐藤方博(生態工房), 林真帆(生態工房)
- P2-229 伊豆諸島の特定外来生物による林床植生へのインパクト評価 郡麻里(国環研・環境リスク)
- P2-230 立山室堂における靴底土から発芽した植物について \*山下寿之, 吉田めぐみ(富山県中央植物園), 大沼進(立山センター)
- P2-231# 外来植物の選択的除去が在来植物および群落構造に及ぼす影響 川田清和(農業環境技術研究所), 池田浩明(農業環境技術研究所)
- P2-232 伊豆諸島八丈小島におけるノヤギ駆除事業開始後の植生回復状況 \*上條隆志(筑波大生命環境), 平田晶子(筑波大生命環境), 川越みなみ(筑波大生命環境), 寺田千里(北大環境), 仲山真希子(筑波大環境), 濱甚吾(八丈町役場), 菊池健(八丈ビジターセンター)
- P2-233 小笠原の外来種モクマオウが優占する森林の林床における在来植物の群集構造 \*畑憲治, 加藤英寿, 可知直毅(首都大院・理工・生命)
- P2-234# 輸入穀物に非意図的に混入する除草剤抵抗性雑草 \*下野嘉子, 小沼明弘(農環研)

# ポスター発表 3月16日(日)9:00-17:30

(# : ポスター賞対象発表)

P2-235 刈り取り管理の時期を変えてオニウシノケグサを減少させるー河川堤防草地の9年間の変化ー 星野義延・根本真理・松波敦・村松篤・小西道子(東京農工大・農)

P2-236# 外来植物の防除に利用する除草剤フルアジホップの生態影響評価ー外来植物ヨシを用いた毒性評価法の検討 \*穂坂尚美, 池田浩明, 相田美喜(農業環境技術研究所)

P2-237# ミヤマシジミ生息地に侵入したシナダレスズメガヤによる食樹コマツナギへの影響 \*萩原陽二郎, 山下雅幸, 澤田均(静大・農)

P2-238 外来植物の防除に利用する除草剤グリホサートの飛散が在来植物に及ぼす影響の評価 \*池田浩明, 林成振, 相田美喜(農環研)

P2-239# 外来木本ナンキンハゼの分布拡大に対する制限要因 \*奥川裕子(広島大・総科), 中坪孝之(広島大・院・生物圏)

P2-240# 多摩川永田地区のハリエンジュ林の植生動態 \*山口善子, 星野義延(東京農工大・農)

P2-241# 栃木県における特定外来生物オオハングソウの分布様式 \*中村昌代・西尾孝佳・小笠原勝(宇都宮大・雑草セ)

P2-242# 関東平野の耕作放棄地における外来植物の繁茂状況の変化 \*大東健太郎, 楠本良延, 小沼明弘, 山本勝利(農業環境技術研究所)

P2-243 都市近郊における外来種ナガミヒナゲシの分布拡大と土地利用の関係 \*秋山葉, 吉川正人(東京農工大・農)

P2-244 分布情報を基にした島嶼生態系における特定外来生物ナルトサワギクの防除可能性 藤原道郎, 大藪崇司, 澤田佳宏, 山本聡(兵庫県大自然研/淡路景観園芸学校)

P2-245# 大阪湾周辺における熱帯性シダ植物3種の都市部への移入と分布拡大 村上健太郎(岸和田市立さしわだ自然資料館), 松井理恵((株)パシフィックコンサルタンツ), 森本幸裕(京都大学大学院地球環境学堂), 堀川真弘(森林総合研究所)

## 物質循環

P2-246# 褐色森林土における地温上昇に伴う土壌有機物の変化 \*今井伸岳(筑波大環境科学), 大瀬健嗣(農環研), 佐藤貴之(産総研), 中村智史(茨城農試), 浅野真希(慶應大), 田村憲司, 東照雄(筑波大生命環境科学)

P2-247 日本での農業生産に伴う温暖化ガス(亜酸化窒素)発生量の推定 \*三島慎一郎, 秋山博子, 八木一行(農環研)

P2-248 落下後の落葉は林床でどのように拡散するのか? 阿部俊夫(森林総研・北海道), 坂本知己(森林総研), 壁谷直記, 萩野裕章, 延廣彦彦, 野口宏典, 田中浩

P2-249 つる植物ツルアダンの落葉が土壌生態系に及ぼす影響 \*唐沢重考(森総研・九州・PD), 仁科一哉(名大院・生命農)

P2-250# 汽水湖沿岸域における土壌炭素フラックスの日変化に与える潮位変動の影響 \*山本 昭範(筑波大・院・生命環境), 廣田 充(筑波大・菅平センター), 遠藤 政弘(環境科学技術研究所), 鈴木 静男(環境科学技術研究所), 鞠子 茂(筑波大・院・生命環境)

P2-251 水田放棄後一年目の植生と炭素循環 下田星児(近畿中国四国農業研究センター)

P2-252# 千曲川中流域におけるハリエンジュ河畔林の窒素蓄積量 \*井出功一, 赤松史一, 高野光司, 戸田任重(信州大・理)

P2-253 ダム湖における温室効果気体の生成・循環過程 \*岩田智也(山梨大・工), 河西瑠美(山梨大・工), 韓哲浩(山梨大・工), 高津文人(京大・生態研), 小島久弥(北大・低温研)

P2-254# 熱帯林生態系におけるポリフェノール動態への樹木種の影響 \*潮雅之, 和穎朗太, 北山兼弘(京大・生態研セ

ンター)

P2-255 Estimation of carbon balance in a wetland ecosystem using the Closed Geosphere Experiment Facility \*Suzuki, S. (Inst. Env. Sci.), Yokozawa, M. (Nat. Inst. Agro. Env. Sci.), Hara, T. (Hokkaido Univ.), Inubushi, K. (Chiba Univ.), Tsuga, S. (Inst. Env. Sci.), Akaishi, M. (ScienTec Co., Ltd.), Nakamura, Y. (Inst. Env. Sci.)

P2-256# 千曲川中流の河畔域における徘徊性節足動物の分布 \*石原正嗣, 赤松史一, 戸田任重(信州大・理)

P2-257 高緯度北極陸上生態系の炭素循環に対する温暖化の影響:モデルによる予測 \*中坪孝之(広島大・院・生物圏), 村岡裕由(岐阜大・流域研), 内田雅己(極地研)

P2-258 高緯度北極陸域の海成堆積物層における二酸化炭素放出と微生物の有機物分解特性 \*内田雅己(極地研), 内田昌男(環境研), 中坪孝之(広島大・院・生物圏), 神田啓史(極地研)

P2-259 カワウの営巣が森林の養分動態と植生に与える長期的影響 \*亀田佳代子(琵琶湖博), 保原達(酪農学園大・環境システム), 石田朗(愛知県カワウ研究会)

P2-260 JAXAの衛星センサーによる生態系研究 西田顕郎(筑波大学・JAXA/EORC), 村上浩(JAXA/EORC), 高田政信(JAXA/EORC)

P2-261 山岳地域生態系の構造・機能の時空間分布解析 \*村岡裕由(岐大・流域圏セ), 吉野純(岐大・工), 斎藤琢, 永井信, 石原光則, 児島利治, 野田響, 中田淳子, 秋山侃, 玉川一郎(岐大・流域圏セ), 安田孝志(岐大・工), 小泉博(早大・教育)

P2-262# 流域圏の生態系機能評価を目指した冷温帯常緑針葉樹林におけるモデルシミュレーション \*斎藤琢, 玉川一郎, 村岡裕由, 吉野純, 小泉博

P2-263 冷温帯落葉広葉樹林の土壌呼吸の季節変化における土壌水分の寄与 \*岸本(莫)文紅(農環研), 米村正一郎(農環研), 李美善(岐阜大・流研), 横沢正幸(農環研), 内田雅己(極地研), 近藤美由紀(岐阜大・流研), 小泉博(早稲田大)

P2-264 カバークロップ草地における草種構成と土壌養分の相互作用 \*平田聡之, 荒木 肇(北大)

P2-265 降雨が土壌呼吸速度に与える影響についての検討 堀田紀文(東大院)

P2-266# ササのないミズナラ林における土壌炭素動態 \*小泉晋(筑波大・院・生命環境), 南雲亮(筑波大・生物), 里村多香美(北大・FSC), 廣田充(筑波大・菅セ), 鞠子茂(筑波大・院・生命環境)

P2-267# 立山高山帯のハイマツ樹冠における水・物質動態 \*上原佳敏(富山大・理・生物圏), 久米篤(富山大・理・生物圏), 張勁(富山大・理・生物圏)

P2-268# 土壌中の無機態窒素と植物の硝酸同化活性の温帯二次林における季節性 \*上田実希(京大・農), 徳地直子(京大・フィ研)

P2-269# 複雑地形上に成立した常緑広葉樹二次林の土壌呼吸 \*宮田義規(宮大・農), 高木正博(宮大・農)

P2-270# 放牧傾度に沿った土壌中の塩類とその移動が植生に与える影響-モンゴル国フスタイ国立公園の事例-\*星野重季(東大・農学生命), 大黒俊哉(東大・農学生命), 藤巻晴行(筑大・生命環境), Undarmaa Jamsran(モンゴル農大), 武内和彦(東大・農学生命)

P2-271# <sup>14</sup>Cを用いた河川生態系の食物網における炭素起源推定 \*石川尚人(京大・生態研), 内田昌男(環境研), 陀安一郎(京大・生態研)

P2-272# 炭素安定同位体比を用いた熱帯性海草ウミシヨウブ群落の健全度の評価 \*田中義幸, 宮島利宏(東大海洋研), 坪井良恵(CERI), 小池勲夫(筑大)



## ポスター発表 3月16日(日)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

- P2-273** 岩手県・安比高原の草地における土壌 CO<sub>2</sub> フラックスの空間依存性 \* 橋本徹, 三浦寛 (森林総研)
- P2-274** ヒノキ人工林へのタケの侵入に伴う土壌化学性の変化 \* 梅村光俊 (名大農), 竹中千里 (名大院生命農)
- P2-275#** 河川の流下に伴う食物網の炭素窒素同位体比の変化 - 仁淀川の例 \* 鎌内宏光 (京大・フィールドセンター), 新井宏受 (京大・農), 福島慶太郎 (京大・農), 福澤加里部 (京大・フィールドセンター), 土居秀幸 (愛媛大・農), 富永浩史 (京大・理), 近藤千真 (ブリジストン), 徳地直子 (京大・フィールドセンター)
- P2-276** モデルによる森林生態系の CO<sub>2</sub> 交換量の推定:「よい」モデルについて考えながら \* 大場真 (環境研)
- P2-277#** 森林集水域における水銀動態に関する研究 \* 鈴木由紀子 (京大・農), 大手信人 (東大・農生), 谷田幸次 (NIC), 三条英章 (NIC), 勝山正則 (地球研), 伊藤雅之 (京大・農)
- P2-278** 放牧草地における牛糞尿が N<sub>2</sub>O 放出に与える影響 \* 八代裕一郎 (岐阜大), 小泉博 (早稲田大)
- P2-279#** マイクロコズムを用いた N 降下物の土壌生態系への影響評価 \* 仁科一哉 (名大院生命農), 竹中千里 (名大院生命農), 石塚成宏 (名大院生命農)
- P2-280#** 森林施業がヒノキ人工林の生態系呼吸に与える影響 \* 横山直人, 小杉緑子, 大久保晋治郎 (京都大学大学院農学研究科)
- P2-281#** モンゴル国ウランバートル市の下水処理場からの排水流出とそれが湿地・河川環境に及ぼす影響 - 安定同位体比による評価 - 伊藤雅之 (京大農), 真壁明子 (東工大), 竹門康弘 (京大防災研), 高津文人, 陀安一郎, 由水千景 (京大生態研)・Tumursukh, (Geocology, Mongolia), 大手信人 (東大農), 木庭啓介 (農工大), 藤田昇 (京大生態研) Javzan, C., Bayansan, T., Sauljegul, A. (Geocology, Mongolia), 永田俊 (京大生態研)
- P2-282** 東ユーラシアにおける冷温帯～寒帯樹木の個葉ガス交換の環境応答特性の収斂とそれに基づいた生態系の水循環の広域的予測 (CREST・WECNoF - 5年間の活動から) 小林剛 (CREST 太田チーム / 香大・農)
- P2-283#** 熱帯林土壌の有機物画分と伐採の関係 - マレーシアサバ州デラマコットの事例 \* 喜多智, 今井伸夫, 北山兼弘 (京大生態研セ)
- P2-284#** 熱帯泥炭湿地林において材分解が泥炭堆積過程に与える影響 \* 嶋村鉄也 (京大・AA 研), 百瀬邦泰 (愛媛大・農)
- P2-285#** 炭素安定同位体比を用いた森林集水域における溶存有機炭素の動態解析 \* 高橋遥 (京大・農), 大手信人 (東大・農), 伊藤雅之, 新井宏受 (京大・農), 松尾奈緒子 (三重大・生物資源), 勝山正則 (地球研), 西本聡志 (京大・農)
- P2-286** 魚眼デジタルカメラ画像による草原の LAI 推定とモニタリング 中川奈美子 (玉川大), \* 関川清広 (玉川大), 三上寛了 (筑波大), 鈴木あづさ (玉川大), 西田顕郎 (筑波大), 鞠子茂 (筑波大)
- P2-287** 隣接する集水域間で水質の違いを生じる要因 \* 阿方智子 (京大・農), 福島慶太郎 (京大・農), 徳地直子 (京大・フィールド科学教育研究センター)
- P2-288** 森林溪流内の窒素・リン動態に関する原位置実験 谷尾陽一 (京大・農), 大手信人 (東大・農), 藤本将光 (京大・農), Rich Sheibley (USGS), 谷誠 (京大・農)
- P2-289#** チベット高山草原の標高傾度に伴う生態系 CO<sub>2</sub> フラックスの特性 \* 廣田充 (筑波大・菅セ), 張鵬程 (筑波大・院・生命環境), 高橋健太 (茨城大・院・理工), 根岸正弥 (茨城大・院・理工学), 下野綾子 (国環研・生物), 沈海花 (国環研・生物), 唐艶鴻 (国環研・生物)
- P2-290#** 青海・チベット高山草原における生態系呼吸の分離 \* 張鵬程 (筑波大・院・生命環境), 唐艶鴻 (国立環境研), 廣田充 (筑波大・菅平実験セ), 鞠子茂 (筑波大・院・生命環境)
- P2-291#** 河口干潟における CO<sub>2</sub> フラックスと微生物群集に対するアナジャコの巣穴形成の影響 \* 中尾拓貴 (広島大・総科), 佐々木晶子 (産総研・中国セ), 萩森優, 吉竹晋平, 中坪孝之 (広島大・院・生物圏)
- P2-292** 佐鳴湖における食物連鎖の解明 \* 戸田三津夫 (静岡大・工), 上原和也 (静岡大院・工)
- P2-293#** 河口干潟における CO<sub>2</sub> 放出量: 温度・潮汐の影響を考慮した推定 \* 佐々木晶子 (産総研・沿岸海洋), 萩森優 (広島大・院・生物圏), 中坪孝之 (広島大・院・生物圏), 星加章 (産総研・沿岸海洋), 湯浅一郎 (産総研・沿岸海洋)
- P2-294** 温暖化環境下での土壌炭素の収支 (1) 落葉枝量と土壌呼吸 \* 中根周歩, 林明姫, 山下智津子, Bahman A. (広大院・生物圏科学)
- P2-295#** 北海道のダケカンバ林の水・炭素循環に対する林床チシマザサ群落の貢献 \* 山口貴広, 山田雅仁, 戸田求, 中井太郎, 小野清美 (北大・低温研), 植村滋 (北大・フィールド科セ), 隅田明洋, 原登志彦 (北大・低温研)
- P2-296#** 遷移段階の異なる森林における土壌呼吸の違いとその要因の解明 \* 高橋健太 (茨城大・理), 廣田充 (筑波大・菅平高原実験センター), 根岸正弥, 大塚俊之 (茨城大・理)
- P2-297#** 富士北麓アカマツ林における根呼吸の評価 根岸正弥, 高橋健太, 大塚俊之 (茨城大・理)
- P2-298#** シカの採食を模したササの摘葉が土壌 micro-foodweb 構造と窒素無機化機能に及ぼす影響 \* 丹羽慈 (横国大・環境情報), 金子信博 (横国大・環境情報), 岡田浩明 (農環研), 坂本一憲 (千葉大・園芸)
- P2-299#** 炭は火入れ後の土壌の養分動態にどのような影響を与えているのか? 北海道の森林における火入れ実験の結果より \* 小林真, Kim Yong-Suk (北大農学院), 柴田英昭, 野村睦, 里村多香美, 高木健太郎, 佐藤冬樹, 笹賀一郎 (北大 FSC), 小池孝良 (北大農学研究院)
- P2-300#** 小笠原諸島の土壌における有効態リン酸の異常な蓄積 \* 森田沙綾香 1, 楠本良延 1, 加藤英寿 2, 岩崎巨典 1, 大東健太郎 1, 藤井義晴 1, 平館俊太郎 1 (1 農環研, 2 首都大学)
- P2-301#** 植物バイオマスは草原の土壌呼吸に影響するか? \* 鈴木あづさ (玉川大・院), 関川清広 (玉川大・農)
- P2-302#** 針広混交林の伐採による窒素循環攪乱機構の安定同位体比による解釈 \* 戸張賀史 (東工大), 木庭啓介 (農工大), 柴田英昭 (北大), 豊田栄 (東工大), 鈴木希実 (東工大), 佐藤冬樹 (北大), 吉田尚弘 (東工大)
- P2-303#** 同一湿地から放出されるメタン同位体比の時空間変動とその要因 \* 鈴木希実 (東工大・総理工), 木庭啓介 (農工大・農), 伊藤雅之 (京大・農), 尾坂兼一 (農環研), 大手信人 (東大・農), 戸張賀史 (東工大・総理工), 勝山正則 (地球研), 山田桂大 (東工大・総理工), 豊田栄 (東工大・総理工), 永田俊 (京大・生態研), 吉田尚弘 (東工大・総理工)
- P2-304** カタクチワシの 2 つのタイプについて - 安定同位体比を用いた食性解析 - \* 宮地俊作 (日大・生物資源), 馬谷原武之 (日大院・生物資源), 河野英一, 笹田勝寛 (日大・生物資源)
- P2-305#** 林齢の異なるスギ人工林土壌における微生物バイオマスと養分循環 福島慶太郎 (京大院・農), 徳地直子 (京大フィールド研)
- P2-306** 森林 \* 藤井一至, 植村真里, 早川智恵, 舟川晋也, 小崎隆
- P2-307** 有田川流域における土地利用が河川水質に及ぼす影響 \* 徳地直子 (京大フィールドセンター), 福島慶太郎 (京大農)
- P2-308** サロベツ湿原泥炭層におけるメタン生成酵素遺伝子 (mcrA) の鉛直的・季節的分布 秋山克, 清水了, 石島洋二 (幌延地圏環境研究所), 長沼毅 (広島大院・生物圏科学)

# ポスター発表 3月17日(月)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

## 植物生理生態

P3-001# 植物の指数関数的成長～成長する葉群の光合成～  
\*小山耕平, 菊沢喜八郎

P3-002 開葉前に被陰解除された落葉広葉樹の光応答性  
田中 裕 (山梨県森林総研)

P3-003# 林冠タイプの違いが林床に生育するケネザサの生産特性に与える影響 石井義朗(岡山大院環境), 竹内小百合, 山塚慶子(岡山大農), 阿拉坦花, 坂本圭児, 三木直子, 廣部 宗, 吉川 賢(岡山大院環境)

P3-004 カシ8種の窒素利用特性 \*香山雅純(森林総研九州), 北岡 哲(森林総研北海道), 梶本卓也(森林総研九州)

P3-005 光合成の光阻害は弱光条件でも起こるのか? 小口理一(東大・理), 寺島一郎(東大・理), Wah Soon Chow (Australian National Univ.)

P3-006 ブナ科4種におけるアクアポリンを阻害した葉の通水性とガス交換 \*原山尚徳, 石田厚

P3-007 常緑樹シラカシの葉における光合成と窒素分配の季節変化 \*安村有子, 石田厚(森林総研)

P3-008# 冠水と乾燥の繰り返しの期間がネコヤナギの成長と水分生理に及ぼす影響 \*中井重理沙, 万木 豊, 木佐貴博光(三重大・生物資源)

P3-009# ヨシの窒素吸収形態と呼吸特性 \*中村元香, 土谷岳令(千葉大院)

P3-010 Seasonal changes in nitrate use of *Salix interior* and *Populus balsamifera* on an early successional floodplain in interior Alaska \*Koyama, L (Kyoto Univ.), Olson, K (Univ. of Alaska, Fairbanks), Kiehl, K (Univ. of Alaska, Fairbanks)

P3-011 ミシシッピ湿地林構成樹種の耐塩性に関する生理生態学的研究 -ハリケーン・カトリーナ災害に関連して- \*岩永史子, 竹内貴裕, 平澤麻紀, 山本福壽(鳥取大・農)

P3-012 落葉樹林の林床に生育する雌雄異株の低木アオキの繁殖器官と葉における炭素バランス \*今井俊輔, 小川一治(名古屋大院・生命農学)

P3-013 環孔材と散孔材の水輸送戦略 \*種子田春彦(東京大・院・理), John Sperry (Utah 大)

P3-014# 異なる地下水位がウラジロハコヤナギの根系分布および成長に及ぼす影響について \*今田省吾, 山中典和, 玉井重信(鳥取大・乾燥地研)

P3-015 高標高域における低大気圧が個葉光合成の温度依存性におよぼす影響 \*坂田剛(北里大), 中野隆志(山梨環境科学研), 可知直毅(首都大)

P3-016 シュートの同化構造と抑制芽の形成との関係 \*伊藤 哲(宮崎大・農), 塚本麻衣子(宮崎大・農)

P3-017# ダケカンバのフェノロジーに対する低温の影響 \*高山縁, 小野清美, 隅田明洋, 原登志彦(北大・低温研)

P3-018# 乾燥ストレスの有無がハダニによるダケカンバの二次開葉に与える影響 \*田畑あずさ, 小野清美, 隅田明洋, 原登志彦(北大・低温研)

P3-019 Is Rubisco a storage protein in winter in evergreens? \*Muller, Onno and Hikosaka, Kouki

P3-020# 冬緑性 vs 常緑性: 寒さに強いのはどっち? \*片畑伸一郎, 向井讓(岐阜大応生)

P3-021 煤塵曝露がハウス内外のヤマザクラの生長に及ぼす影響 \*田上公一郎, 中根周歩, 尹 朝熙(広大・院・生物圏科学)

P3-022 常緑広葉樹の冬の光合成: 個葉-個体レベル \*宮

沢良行(九大熱農研), 大槻恭一(九大演習林)

P3-023 マングローブ植物の根圏酸化機能と土壌環境 \*井上智美(国立環境研究所), 橋爪雅彦(川平ファーム), 高木拓之(川平ファーム), 広木幹也(国立環境研究所), 野原精一(国立環境研究所)

P3-024# 活性の高い葉は老化しやすいか? -一枚の葉で構成される植物を用いて- \*富松 元(茨大理・畜草研), 堀良通(茨大理), 板野志郎(畜草研)

P3-025 栄養条件は植物個体の分枝パターンや枝の成長にどのような影響を与えるのだろうか? - オオオナモミノバアイ \*長田典之, 彦坂幸毅(東北大院・生命科学)

P3-026 一次遷移初期の生産を制限する要因 \*館野正樹, 黒田悠希(東大・院・理・日光植物園)

P3-027# モミとイヌブナ自然环境における光合成と成長 \*宮下彩奈(阪大・理), 館野正樹(日光植物園)

P3-028# 気孔の頻度・サイズの多様性とガス交換特性 \*澤上航一郎(東大・日光植物園), 館野正樹(東大・日光植物園)

P3-029 植物硝酸同化の shoot/root 比の解析 \*1 白井真之, 12 蜂谷卓士, 1 寺島一郎, 1 野口航 (1 東大・院・理, 2 阪大・院・理)

P3-030 高等植物の光合成と水チャネル \*半場祐子(京都市工織大), 且原真木(岡山大・資生研)

P3-031# 中国半乾燥地に生育する2種類のヨモギの水ストレス耐性の比較～通水コンダクタンスと樹体内の水ポテンシャル勾配～ \*佐々木梨華, 李佳陶, 石井義明, 三木直子, 廣部宗, 坂本圭児, 吉川賢(岡山大・院・環境学研究所)

P3-032 個体レベルの物質生産に対する受光体制と個葉光合成特性の効果 \*野田響(岐大・流域圏セ), 村岡裕由(岐大・流域圏セ)

P3-033# 根圏分類における可視-近赤外分光画像の利用 \*中路達郎(国環研), 野口享太郎(森林総研), 小熊宏之(国環研)

P3-034# Size-dependence of the aboveground respiration of *Kandelia obovata* and *Bruguiera gymnorrhiza* trees in Manko Wetland \*A.T.M. Rafiqul Hoque (Graduate School of Engineering and Science, University of the Ryukyus), Rempei Suwa (Faculty of Science, University of the Ryukyus), Mori Shigeta (Forest Research Institute), Akio Hagihara (Faculty of Science, University of the Ryukyus)

P3-035# 都市環境が街路樹の光合成と水利用効率に与える影響 \*藤野 貢祐, 及川 真平, 半場 祐子(京都市工織大・生物資源フ)

P3-036 炭素固定-蒸散のバランスに対するアブシジン酸の影響 辻英人(立命館大・理工)

P3-037# 熱収支から考える林床草本の生存戦略 \*岡島有規, 野口航, 寺島一郎(東大院・理)

P3-038# 雪崩攪乱による環境変化がシラビソ稚樹の光合成に与える影響 \*三田村理子(茨城大・理), 中野隆志(山梨県・環境科学研), 山村靖夫(茨城大・理)

P3-039# ブナの水利用様式の地理変異 立石麻紀子(九大・福岡演習林), 熊谷朝臣(九大・宮崎演習林), 陶山佳久(東北大院・農), 日浦勉(北大・苫小牧研究林)

P3-040# 水の酸素安定同位体比から見た中国毛烏素沙地における植物の水利用様式 \*小山晋平(京大・農), 松尾奈緒子(三重大・生物資源), 大手信人(東大・農), 隠岐健児, 小鹿耕平, 垣本大(三重大・生物資源), 王林和(内蒙古農業大), 吉川賢(岡大・農)

P3-041 温帯アカマツ林における分光反射特性の季節変動 \*高梨聡(森林総研・気象), 溝口康子(森林総研・気象), 岡野通明(森林総研), 大谷義一(森林総研・気象), 岩田拓記(筑波大), 中井裕一郎(森林総研・気象)

P3-042# 樹木実生の根系形態と窒素獲得-異なる遷移段階



# ポスター発表 3月17日(月)9:00-17:30

(# : ポスター賞対象発表)

の種間比較一 \* 藤巻玲路, 酒井暁子, 金子信博 (横浜国大・環境情報)

**P3-043# 風衝ストレス下にある常緑針葉樹ハイマツの光合成特性** 永野聡一郎 (東北大・院・生命科学), 中野隆志 (山梨環境研), 彦坂幸毅 (東北大・院・生命科学), 丸田恵美子 (東邦大・理)

**P3-044 常緑広葉樹稚樹5種の光合成と葉齢・光環境・葉窒素量との関係** \* 梅木清 (千葉大・園芸), 伊達千英 (千葉大・園芸), 水崎大二郎 (千葉大・園芸), 林恩美 (千葉大・園芸), 本條毅 (千葉大・園芸)

**P3-045# 個葉の暗順化と個体の暗順化一異なる被陰方法に対する光合成能力の変化一** 吉村謙一 (神戸大自然科学), 深山浩 (神戸大農), 石井弘明 (神戸大農)

**P3-046# 日立鉱山自生のリョウブに対する内生菌の影響一重金属吸収と生長一** \* 渡部裕美子 (筑波大院・環境科学), 山路恵子 (筑波大院・生命環境), 小林勝一郎 (筑波大院・生命環境), 小崎完 (北大院・工学研究科)

**P3-047# シダレザクラとソメイヨシノの枝における組織構造の比較一水分通導の観点から一** \* 陶山健一郎 (九大・生物資源環境), 作田耕太郎 (九大・農)

**P3-048 温度上昇実験条件下 Gentiana straminea の光合成順応** \* 沈海花 (環境研), 唐艶鴻 (環境研), Klein JA (Colorado State Univ.), 趙新全 (中科院)

**P3-049 タマリスク天然生林の塩分動態について** \* 田村悠旭 (乾燥地研究センター), 安暁亮, 張文軍, 玉井重信, 山中典和

**P3-050 中国毛烏素沙地における樹木の葉の膨圧維持能力と水ポテンシャルの日変化** \* 山本牧子 (鳥取大・乾地研), 吉川賢, 三木直子 (岡山大院・環境), 王林和, 張国盛 (内蒙古農業大), 山中典和 (鳥取大・乾地研)

**P3-051 ブナ林冠木の個葉光合成特性における地理変異** \* 鍋嶋絵里 (農工大), 日浦勉 (北大・苫小牧研究科)

**P3-052# 異なる標高の湿原植物群集における空間構造と光獲得競争の季節変化** \* 神山千穂 (東北大・生命科学), 及川真平 (京都工繊大・生物資源センター), 彦坂幸毅 (東北大・生命科学)

**P3-053 葉の炭素・酸素安定同位体比を用いた乾燥地植物の耐乾性と耐塩性の評価** 松尾奈緒子 (三重大生物資源), 大手信人 (東京大農学生命科学), 小山晋平 (京都大農), 吉川賢 (岡山大環境), 王林和 (内蒙古農業大), 砂田憲吾 (山梨大医学工学), エレーナ・シュイスカヤ (ロシア科学アカデミー), クリステイナ・トデリッチ (ウズベキスタン科学アカデミー)

**P3-054 北海道のダケカンバ林における林冠日蒸散量の制御要因** \* 山田雅仁 (北大低温研), 中井太郎 (JST/北大低温研), Kamil Laska (Masaryk Univ), 戸田求, 隅田明洋, 兒玉裕二, 原登志彦 (北大低温研)

**P3-055# 日立鉱山に自生するドクセリとその重金属吸収に関与する根圏微生物について** \* 長田賢志 (筑波大院 環境科学), 山路恵子 (筑波大院 生命環境), 小林勝一郎 (筑波大院 生命環境), 小崎完 (北大院 工学研究科)

**P3-056# 拡張 big-leaf モデルを用いた温帯ヒノキ林のガス交換特性の解析** \* 宗田智佳 (京大・農), 小杉緑子 (京大・農), 大久保晋治郎 (京大・農)

**P3-057 生態学的な光合成作用スペクトル: 緑色光は光合成に効率よく使われる** 寺島一郎 (東大・院・理・生物科学)

**P3-058# 温帯常緑針葉樹(ヒノキ)林のガス交換過程を反映する分光植生指標** \* 松本卓也, 小杉緑子, 大久保晋治郎 (京大・農), 西田顕郎 (筑波大・農林工), 小熊宏之, 中路達郎 (国環研)

**P3-059 シロザ葉柄の屈曲角の調節メカニズムについて** \* 藤田佳子 (大阪大・院・理), 高木慎吾 (大阪大・院・理),

寺島一郎 (東京大・院・理)

**P3-060 光環境・個体密度がテツカエド稚樹の成長様式に与える影響** \* 齊藤わか (京大・農), 河村耕史 (森林総研), 武田博清 (京大・農)

**P3-061 Germination and growth responses to water stress of *Agropyron cristatum* and *Caragana microphylla* grown in Horqin Sandy land, Inner Mongolia, China** \* Shimizu, H. (NIES), Kobayashi, S. (NIES), Yagasaki, Y. (NIES), Xu, Z. (NIES, IBCAS), Chen, L. (IAECAS)

## 物質生産

**P3-062 中国黄土高原における在来樹種リョウトウナラと外来種ニセアカシアの細根分布特性** \* 館野隆之輔, 川路まり (鹿児島大・農), 張文輝 (西北農技術大), 杜盛, 侯慶春 (中国科学院・水土保持研), 山中典和 (鳥取大・乾燥地セ)

**P3-063 直達散乱分離をおこなった全天空写真の解析手法の検討** \* 宇都木玄, 飛田博順, 北岡哲, 上村章, 北尾光俊 (森総研北海道)

**P3-064# メヒルギ群落内における吸光係数の連続的垂直変化を考慮に入れた群落光合成の推定** \* 諏訪鍊平 (琉球大学), Md. Nabiul Islam Khan (Khulna Univ.), 萩原秋男 (琉球大学)

**P3-065# 照葉樹環境保全林における地上部純一次生産量の推定** \* 宮内大策 (横国大・院・環境情報), 藤原一繪 (横国大・院・環境情報)

**P3-066 森林のバイオマス推定に必要な調査面積は? : 幹断面積の平面分布の解析から** \* 齊藤哲, 佐藤保 (森林総研), 小南陽亮 (静岡大・教育), 真鍋徹 (北九州自・歴博), 西村尚之 (名古屋産業大・環境情報), 永松大 (鳥取大・地域)

## 植物繁殖

**P3-067# 絶滅危惧種タコノアシの種子発芽特性** \* 畑中由紀, 比嘉基紀, 大野啓一 (横国大・院・環情)

**P3-068# オオバノエンレイソウにおける繁殖様式の進化一雄蕊矮小化個体の意義一** \* 久保田涉誠, 大原雅 (北大・院・環境科学)

**P3-069 雪解け傾度を反映したアオノツガザクラの繁殖様式と集団維持** \* 亀山慶晃, 工藤岳 (北大・地球環境)

**P3-070 Masting decreased the amount but not concentration of nitrogen in the winter buds of *Fagus crenata* trees** \* Han, Q (FFPRI), Kabeya, D (FFPRI), Iio, A (Shizuoka Univ.), Kakubari Y (Shizuoka Univ.)

**P3-071 苗場山のブナにおける2005年豊作後の貯蔵炭水化物の変動** \* 壁谷大介 (森林総研・木曾), 韓慶民 (森林総研), 飯尾淳弘 (静岡大), 角張嘉孝 (静岡大)

**P3-072# ナンキンハゼの雌性先熟個体と雄性先熟個体の繁殖特性の違い** \* 角倉惇一・千田雅章・名波哲・伊東明・山倉拓夫 (大阪市大・理)

**P3-073 アオモリトドマツの球果における、受粉の有無と無関係な生存・成長について** \* 関剛 (森林総研東北), 高橋利彦 (木工舎「ゆい」)

**P3-074 雌性両全異株ナニワズノ繁殖特性** \* 山下直子 (森林総研関西), 河原孝行 (森林総研北海道), 倉本恵生 (森林総研北海道), Thomas Lei (龍谷大学理工学部)

**P3-075# サワギキョウにおける花序内花間性投資パターン: 花序サイズによる違い** \* 板垣智之, 酒井聡樹 (東北大・院・生命)

**P3-076# ホオノキ果実内の種子自殖率・遺伝的多様性の個**

# ポスター発表 3月17日(月)9:00-17:30

(# : ポスター賞対象発表)

体・年による変動 松木悠(京都大院・農), 館野隆之輔(鹿児島大・農), 柴田銃江(森林総研), 井鷲裕司(京都大院・農)

## 植物生活史

P3-077# 花粉を介した遺伝子流動の時空間的不均一性 ~ ブナ花粉は風と共にさりぬ~ 花岡創(岐阜大院・連農), 富田基史(東北大院・農), 袴田康子(岐阜大院・農), 陶山佳久(東北大院・農), 向井譲(岐阜大・応生)

P3-097 択伐地ギャップのササ植生におけるブナ稚樹の1次枝形態変異 八木貴信(森林総研・東北)

P3-078# ヤマウルシの繁殖生態:繁殖成功における雌雄異株の花序とジェネラリストポリネーターの役割 \*松山周平(京大院・農), 大澤直哉(京都大・農), 崙元道徳(京大フィールド研)

P3-098# 光環境の季節性が作り出す植物の生産と繁殖のパターン ~落葉広葉樹林の林床植物にみられる資源利用特性~ \*井田崇, 工藤岳(北大・院・環境科学)

P3-079 タマノカンアオイの種子生産に及ぼす光環境要因の解明 坂江格, 東浦(東葉大生態学研究室)

P3-099# 温帯樹木 30種における最大樹高・材密度と樹形の関係 \*饗庭正寛, 中静透(東北大院・生命科学)

P3-080 サラワク州ランビル国立公園におけるリュウノウジュ個体群の遺伝子流 名波哲, 伊東明, 山倉拓夫(大阪市大院・理), Sylvester TAN, Bibian DIWAY(サラワク森林研究所)

P3-100# ホスト樹冠における木本性つる植物の多様な戦略 \*市橋隆自, 館野正樹(東大・院・理・日光植物園)

P3-081# 人工林化が林床性植物に与える影響:ミヤコアオイの遺伝構造の解析 \*松井浩幸(大阪教育大・教員養成), 石田清(森林総研・関西), 岡崎純子(大阪教育大・教員養成)

P3-101# 一回繁殖型多年草ウバユリとオオウバユリの生活史戦略の違い \*谷友和, 館野正樹(東大・日光植物園)

P3-082# ミヤマトベラの交配様式と遺伝的特徴 \*浜 一朗, 齊藤陽子, 井出雄二(東大院・農)

P3-102 冬緑性草本ヒガンバナの成長解析 \*中村敏枝(首都大・生命科学), 西谷里美(日本医大・生物), 可知直毅(首都大・生命科学)

P3-083 シデコブシ集団の交配様式における階層構造 \*玉木一郎, 鈴木節子, 戸丸信弘

P3-103# 生育期間の違いが一回繁殖型多年草ミヤマリンドウのシュート成長と生存に及ぼす影響 \*川合由加, 工藤岳(北大・環境科学)

P3-084# 3 倍体種間雑種シラオイエンレイソウの形成に関わる生態遺伝学的要因 \*石崎智美, 大原雅(北大・院・環境科学)

P3-104 徳之島三京地区天然林におけるオキナウラジロガシの堅果生産 \*平山大輔(三重大・教育(非常勤)), 香山雅純(森林総研・九州), 館野隆之輔, 川路まり, 北岡和彦, 米田健(鹿児島大・農)

P3-085# ニセアカシア種子の種皮の不透水性とその変化 \*唐木貴行(北大農), 近藤哲也(北大農), 渡邊陽子(北大FSC), 門松昌彦(北大FSC), 秋林幸男(北大FSC), 笹賀一郎(北大FSC), 齊藤秀之(北大農), 渋谷正人(北大農), 小池孝良(北大農)

P3-105# 熱帯山地林に生育する19樹種の稚樹の個葉特性と分枝様式との関係 \*塩寺さとみ, 甲山隆司(北大・環境科学)

P3-086 ハクサンシャクナゲ野外集団における近交弱勢の評価 \*平尾章, 工藤岳(北大・院・地球環境)

P3-106# 植物における防御戦略の進化:食害者からうける被害(量、確率)が与える影響 \*伊藤聖(東北大・院・生命科学), 酒井 聡樹(東北大・院・生命科学)

P3-087 雌雄異株低木シロモジの雌性繁殖成功に及ぼす要因 \*松下通也, 戸丸信弘(名大院・生命農)

P3-107 屋久島照葉樹および落葉広葉樹の実生における地上部・地下部関係 \*田辺沙知(北大・環境科学院), 甲山隆司(北大・地球環境)

P3-088# フタバガキ科4種のジーンフローパターンの比較 竹内やよい(京都大), 田中健太(シェフィールド大), 中静透(東北大)

P3-108# 開所に生育する落葉広葉樹の頂部当年枝特性の樹高依存性 \*宮田理恵(北大・環境科学), 久保拓弥, 甲山隆司(北大・地球環境)

P3-089 セイヨウタンポポによる繁殖干渉がカンサイタンポポを駆逐する(2):室内実験による検証・空間スケール \*高倉耕一(大阪市環科研), 松本崇(京大・人環), 西田隆義(京大・農), 西田佐知子(名大・博物館)

P3-109 北タイ・インタノン山のコナラ属2種の発芽と稚樹の光特性 \*野口英之・水野貴司(大阪市大院・理)・Kriangsak Sri-ngernyuang(メジョ大・農)・神崎護(京大・農)・原正利(千葉中央博)・大久保達弘(宇都宮大・農)・伊東明・山倉拓夫(大阪市大院・理)・Pongsak Sahunalu(カセサート大・林)

P3-090 ウミショウブにおける月周リズムに同調した一斉開花と花発生のメカニズム \*中川昌人, 木本行俊, 高相徳志郎(地球研・西表プロジェクト)

## 動物と植物の相互関係

P3-091# アブラナ科ミチタネツケバナにおける雄蕊数多型 \*松橋彩衣子, 工藤洋(神戸大・理)

P3-110# シカはジャコウアゲハの生活史を変えうるか:植物の形質変化がもたらす可塑的休眠 \*高木俊, 宮下直(東大・農・生物多様性)

P3-092# 花はどれだけおいしいか?:花食害と窒素濃度の関係 \*小黒 芳生(東北大・院・生命), 酒井 聡樹(東北大・院・生命)

P3-111 ミミズは森林植物の成長を改変するか? \*日浦勉(北大・苫小牧研究林), 鍋島絵里(農工大), 豊田鮎(自然研), 川口達也, 金子信博(横国大)

P3-093 ムラサキシキブ属2種の繁殖戦略—繁殖器官への資源投資— \*伊藤愛, 二宮生夫(愛媛大・農)

P3-112 ミズナラ林の発達段階に伴うミミズ類の分布と落葉分解の関係 \*豊田鮎(自然環境研究センター), 荒木奈津子, 日浦勉(北大・苫小牧研究林)

P3-094# 蛇紋岩地帯の不規則な環境変動におけるジンリョウユリの繁殖戦略 \*横田静香(九大・理), 矢原徹一(九大・理)

P3-113# 苫小牧研究林におけるミミズ密度操作と窒素無機化の関係 \*川口達也, 大久保慎二, 日浦勉, 金子信博

P3-095 手取川水系に生育する交雑種オオミズヒキモとその両親種フェノロジーと分布パターン \*山口順司, 小藤累美子(金沢大学・院), 木下栄一郎(金沢大学環日本海域環境セ)

P3-114 ゾウムシ・ツバキ共進化は平衡に達したか? 予測進化速度と実現進化速度の不一致 \*東樹宏和(九大・理), 曾田貞滋(京大・理)

P3-096# 北極圏と日本に生育するムカゴトラノオの性質 \*富田美紀, 増沢武弘(静岡大学 大学院)

P3-115# 採食行動の異なる果実食・種子食鳥はどのような



# ポスター発表 3月17日(月)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

果実を利用するのか? : 文献データによる分析 \* 吉川徹朗(京大院・農), 井鷲裕司(京大院・農), 菊沢喜八郎(石川県立大)

P3-116# **サイズとトウモロコシの混作が節足動物群集に及ぼす影響** \* 原勢晶弘, 安田弘法, 佐藤智(山形大・農)

P3-117# **冬、ネズミはドングリしか食べない?** \* 奥村みほ子(新潟大・院・自然), 安田雅俊(森林総研・九州), 福井晶子(日本野鳥の会), 柴田鏡江(森林総研・東北), 正木隆(森林総研), 箕口秀夫(新潟大・自然科学系)

P3-118# **齧歯類の巣穴の空間配置は植生と土壤栄養塩の空間的異質性に影響を与えるか?** 吉原佑(東大・緑地創成), 大黒俊哉(東大・緑地創成), Buuveibaatar(モンゴル科学アカデミー), Undarmaajamsran(モンゴル農業大学), 高槻成紀(麻布大・獣医), 武内和彦(東大・緑地創成)

P3-119 **天敵が誘導する植食者の形質変化と栄養カスケード** 内海俊介, 大串隆之(京大生態学研究センター)

P3-120# **種子を壊さずに成分を測る - 近赤外分光法によるコナラ種子タンニン含有率の測定法 -** \* 高橋明子(京大院・農), 河野澄夫(食品総合研究所), 島田卓哉(森林総研・東北)

P3-121 **森林性齧歯類におけるタンニン耐性の種間比較** \* 島田卓哉(森林総研・東北支所), 田村典子(森林総研・多摩)

P3-122 **岡山県で記録されたモウセンゴケトリバは他地域からの移入種か?** \* 片岡博行(津黒いきものふれあいの里), 西本孝(岡山県自然保護センター)

P3-123 **ヒノキ巻き枯らし木における穿孔性昆虫の飛来と発生** \* 稲田哲治(愛媛県・林技セ), 宮田弘明(高知県・森技セ)

P3-124# **植食者2種に対するアカメガシワの食害防御機構** 山尾 僚(岡山理大・院・総情・生地), 波田 善夫(岡山理大・総情・生地)

P3-125 **河川敷における植食性昆虫によるキク科外来植物の利用様式** 三浦和美(京大農昆虫生態)

P3-126# **ミズナラ堅果に含まれる被食防御物質(タンニン)に対するアカネズミの馴化メカニズム-タンナーゼ産生腸内細菌活性度の季節変動-** \* 西井絵里子(北大・環境科学院), 島田卓哉(森林総合研究所東北支所), 齊藤隆(北大FSC)

P3-127# **東南アジア熱帯雨林狭域(ボルネオ島ランビル)におけるアリ植物とアリの融通性** \* 片岡陽介(信大・理), 市岡孝朗(京大院・人環), 乾陽子(大阪教大・教), 上田昇平(信大院・総工), 村瀬香(東大院・生命), S-P. Quek(Harvard Univ.), 市野隆雄(信大・理)

P3-128# **サドノウサギの冬期の生息地選択** 清水理恵, 島野光司(信州大・理)

P3-129 **ヨシ(原)とヒロクチカノコの相互関係** 大田直友(阿南高専・建設システム工)

P3-130 **河川性グレイザーにとって明るいことはいいことか?** \* 三宅洋, 崎村紀彰, 金澤康史(愛媛大・院理工)

P3-131 **土壤微生物と植食性昆虫の相互作用** \* 上田絏司, 安田弘法, 俵谷圭太郎, 村山秀樹, 佐藤智, 西澤隆, 村山哲也, 豊増知伸

P3-132 **ニホンリスのオニグルミ採食技術における地理的変異** 田村典子(森林総研・多摩)

P3-133# **環境の変化によるエゾシカの餌選択への影響** 廣永拓男, 日野貴文, 揚妻直樹, 日浦勉(北大・苫小牧研究林)

P3-134 **海の動物-植物相互作用~藻場の葉上動物相は藻類種によって異なるか?~** 山本智子(鹿大・水産), 川野昭太(鹿大院・水産)

P3-135# **藻類多様性は藻食者に対する二酸化炭素の化学量効果をなぜ緩和するのか?** \* 清水雄一郎, 占部城太郎(東

北大・生命科学)

P3-136# **藻類のリン/炭素比と藻食者の成長応答: ミジンコ類の種間比較** \* 岩淵翼, 占部城太郎(東北大・生命)

P3-137# **ゴール形成に誘導されるヤナギの二次生長の個体内・個体間変異** \* 倉地 耕平, 大串 隆之(京大・生態学研究センター)

P3-138# **雌雄異株イチジク *Ficus fistulosa* におけるポリネーターの数の検証** \* 片淵正紀(東北大・生命), Rhett Harrison(地球研), 中静透(東北大・生命)

P3-139# **アマゾントチカガミ (*Limnobium laevigatum*) の成長量に根の部分切除が及ぼす影響の定量的評価** 鈴木 観(首都大・理工)

P3-140 **イノシシによる土壤攪乱が実生発生に与える影響** 高橋一秋(長野大・環境ツーリズム), 鷲谷いづみ(東京大院・農学生命)

P3-141 **ニホンザルによる放飼場内植生の樹皮食と選択性** 竹元博幸(京大・霊長研), 大沼学(環境研・基盤ラボ), 山内志乃(京大・霊長研), 千田友和(京大・霊長研), 須田直子(京大・霊長研), 松林清明(京大・霊長研)

P3-142# **新大陸産マメゾウムシ *Mimosestes* 属の寄主植物利用の進化** \* 加藤俊英(東大・広域システム), Arturo Bonet(Instituto de Ecologia, A.C. Mexico), Jesus Romero(Colegio de Postgraduados, Instituto de Fitosanidad, Mexico), 嶋田正和(東大・広域システム), 伊藤元己(東大・広域システム)

P3-143# **クマの好みの木** \* 根本唯(東京農工大学大学院), 小坂井千夏(東京農工大学大学院), 小池伸介(東京農工大学大学院), 山崎晃司(茨城県自然博物館), 梶光一(東京農工大学)

P3-144 **北海道のクスサンはなぜウダイカンバを食べるのか?** \* 松木佐和子, 菊池伸哉(岩大農), 大野泰之, 八坂通泰, 原秀穂(道林試)

P3-145# **林冠木個体への強い食害に対する植物と昆虫群集の時間遅れの応答** \* 小暮慎一郎(北大・環境科学院), 中村誠宏(北大・苫小牧), 日浦勉(北大・苫小牧), 戸田正憲(北大・低温研)

## 進 化

P3-146# **日本産フコシヤク類の系統地理** \* 山本哲史, 曾田貞滋

P3-147# **採食圧に対する植物の矮小化: 表現型可塑性、遺伝変異および適応的意義の検証** 鈴木亮(奈良女・共生セ), 吉田奈美子(奈良女・理), 古川昭雄(奈良女・共生セ)

P3-148 **アカリナリウム(ダニボケット)を持つアトボシキタドロバチと寄主特異的寄生ダニその1-アトボシキタドロバチヤドリコナダニはホストの血を吸う用心棒-** \* 岡部貴美子, 牧野俊一(森林総研)

P3-149 **アオモンイトトンボにおける頻度依存的に変化する雌二型間のサイズ差** \* 澤田 浩司(香椎高校), 粕谷 英一(九大・理・生物)

P3-150# **シロイヌナズナ属自然集団における隠蔽変異の蓄積量** 山口正樹, 工藤洋(神戸大・院理・生物)

P3-151# **異質倍数体によるタネツケバナ属の生育環境変化** \* 広瀬恭祐(神戸大院・理), 工藤洋(神戸大・理), 清水健太郎(チューリヒ大・理)

P3-152# **新しい分岐年代推定法の開発と実装** 田辺晶史(東北大・院・生命科学)

P3-153# **ミカワオサムシの系統地理と交尾器形態の分化** 長太伸章(京都大・院・理), 久保田耕平(東京大・院・農), 高見泰興(京都大・院・理), 曾田貞滋(京都大・院・理)

P3-154# **種内捕食 - 被食相互作用における対抗的表現型可**

# ポスター発表 3月17日(月)9:00-17:30

(# : ポスター賞対象発表)

**塑性** \*井川拓也(北海道大・院・水産科学), 岸田治(京都大・生態研七), 西村欣也(北海道大・院・水産科学研究)

**P3-155# 選択に対する応答性に遺伝的背景が与える影響: 遺伝子制御ネットワークモデルによる解析** 津田真樹\*, 河田雅圭(東北大・院・生命科学)

**P3-156# クワガタムシ科における雌の繁殖形質の進化** \*棚橋薫彦, 久保田耕平(東大院農)

**P3-157# ササ・タケ・ススキに寄生するスゴモリハダニ類の分子系統~防衛形質とのリンク** \*伊藤桂(JST 高知/高知大・農), 福田達哉(高知大・農)

**P3-158 アカリナリウム(ダニポケット)を持つアトボシキタドロバチと寄主特異的寄生ダニその2-アカリナリウムの構造と進化** \*牧野俊一(森林総研), 岡部貴美子(森林総研), James M. Carpenter (American Museum of Natural History)

**P3-159# 形質進化における自然選択と遺伝的浮動の相対的な重要性: ブラウン運動モデルとの比較** \*遠山弘法(九大・理・生態), 矢原徹一(九大・理・生態)

**P3-160# エピジェネシスの種内変異と一般性** 中寺由美, 浅見崇比呂(信州大・理), Somsak Panha, Chirasak Sutcharit (Chulalongkorn Univ.)

**P3-161# 採餌適応が導く琵琶湖固有魚類の進化: ヒガイ属の形態変異に関連した食性の多様化** \*小宮竹史(京都大・院理・動物生態), 奥田昇(京都大・生態研), 陀安一郎(京都大・生態研), 渡辺勝敏(京都大・院理・動物生態)

**P3-162# 植物プランクトンの栄養塩利用に関する形質の進化に対する動物プランクトンの影響** \*水野晃子(東北大・生命), 河田雅圭(東北大・生命)

**P3-163# 左右反転変異の鏡像対称ではない発生が適応度を下げる** \*後藤今日子, 浅見崇比呂(信大・理・生物)

**P3-164# コイ科魚類スゴモロコの移植集団における形態変化と集団遺伝学的特性** \*柿岡諒, 小宮竹史, 渡辺勝敏(京都大・院・理)

**P3-165# リス科の冬眠は、冬眠特異的タンパク質(HP)によって調節される** \*原範和(新潟大・院自然研), 石庭寛子(新潟大・院自然研), 永瀬弘喜(新潟大・院自然研), 山下真理子(新潟大・農), 近藤宣昭(三菱化学生命科学研究所), 関島恒夫(新潟大・院自然研)

**P3-166# オカダトカゲの色彩パタンの地理的変異-色素細胞の発生学的研究** \*栗山武夫(東邦大・理・生物), 宮地和幸(東邦大・理・生物), 杉本雅純(東邦大・理・生物分子), 長谷川雅美(東邦大・理・生物)

**P3-167# 淡水二枚貝類との産卵共生関係を介したタナゴ亜科魚類の卵形の進化** 北村淳一・曾田貞滋(京大・理・動物)・中島淳(九大・農)

**P3-168 アミメアリにおける複数レベル選択の実験的検証** \*土畑重人(東大院総合文化), 佐々木智基(琉大農), 嶋田正和(東大院総合文化), 辻和希(琉大農)

**P3-169# グッピーの体色とメラニン生合成に関わる遺伝子の関連性** \*手塚あゆみ(東北大・院・生命科学), 河田雅圭(東北大・院・生命科学)

**P3-170# 兵隊アブラムシの防衛に対するゴイシジミの産卵戦略** \*松下彩(信州大・理), 市野隆雄(信州大・理)

**P3-171# 複数遺伝子座からみたミヤマタネツケバナの分断分布と進化史** \*池田啓(京都大 人間・環境), 仙仁径(首都大 牧野), 藤井紀行(熊本大 自然科学), 瀬戸口浩彰(京都大 人間・環境)

**P3-172# シオマネキ属の巨大鉗脚の方向性** 寺西肇(京大・理)

**P3-173# 枯葉に擬態した前翅をもつ蛾(Oraesia sp.)に**

**みられる模様の揺らぎと相関構造の解析** \*鈴木誉保(理研・CDB・形態進化), 山口素臣(理研・CDB・形態進化), 倉谷滋(理研・CDB・形態進化)

**P3-174 ババヤステ属の交尾器形態進化** \*田辺力(熊大教育), 曾田貞滋(京大院理)

## 種多様性

**P3-175# キクビアオハムシにおける寄主利用の分化: ホストトレース形成の初期段階?** 甲山哲生(北大・理), 松本和馬(森林総研・昆虫), 片倉晴雄(北大・理)

**P3-176# 1+1>2? 河川の合流点で種多様性が増加する** 大澤剛士\*(神戸大・院), 三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館), 丑丸敦史(神戸大)

**P3-177 沖縄やんばるにおける育成天然林施業がトビムシ群集に与える影響** \*長谷川元洋(森林総研木曾), 佐々木健志(琉球大学風樹館), 佐藤大樹(森林総研九州), 阿部真(森林総研)

**P3-178 ヒメサスライアリに多様化した好蟻性昆虫の形態・行動・体表炭化水素** \*丸山宗利(フィールド自博/海外学振), 秋野順治(京工繊大・応生), Rosli Hashim(マラヤ大・理), 小松貴(信州大・理)

**P3-179# モンゴルの放牧地生態系における中規模攪乱仮説の一般性および土地管理への適用性** \*佐々木雄大, 大久保悟, 岡安智生(東大・農), ジャムスランウングルマ(モンゴル農大), 大黒俊哉, 武内和彦(東大・農)

**P3-180# 島嶼系潮間帯における魚類群集の構造と多様性** \*新垣誠司(琉大・理工), 土屋誠(琉大・理)

**P3-181 大学講義のためのパワポ教材「生物多様性の未来に向けて」の作成** \*畑田彩, 市川昌広(地球研), 中静透(東北大・農)

**P3-182 山梨県上ノ原地区の半自然草原における植生とチヨウ類群集の関係** \*久保満佐子(山梨森林研), 小林隆人(宇大), 北原正彦(山梨環境研), 林敦子(山梨森林研)

**P3-183# 針葉樹林への広葉樹の侵入がササラダニ群集に群集与える影響** \*太田藍乃(横浜国大・環境情報), 長谷川元洋(森林総研・木曾), 伊藤雅道(横浜国大・環境情報)

**P3-184# 琉球列島における種子植物相の分化パターンとその成因-海峡分断仮説の批判的検証** \*中村剛(琉球大 21世紀COE), 諏訪鎌平(琉球大 理), 傳田哲郎(琉球大 理), 横田昌嗣(琉球大 理)

**P3-185# 寄主アリ及びハビタット特異性からみた好犠性昆虫アリツカオコログ属 Myrmecophilus の分子系統** \*小松貴(信州大・理), 丸山宗利(フィールド自然史博), 市野隆雄(信州大・理)

**P3-186# 東濃地方を中心としたヒメタイコウチのミトコンドリアDNAの16S rRNAに認められたハプロタイプについて** \*中村早耶香, 味岡ゆい, 堀川大介, 南基泰(中部大大学院・応生)

**P3-187# マテバシイの野生化** \*中島亜利(横浜国立大学大学院), 小池文人(横浜国立大学大学院)

**P3-188# シロアリの捕食者オオハリアリ種群の分類学的再検討及びUSA 侵入個体群の起源** \*矢代敏久, 松浦健二(岡大院・環境)

**P3-189# 乗鞍岳におけるアリ類の垂直分布および分布決定要因の推定** \*梅井龍一(信大・理), 市野隆雄(信大・理)

**P3-190# 捕食者の餌選択の進化が捕食-被食系の複雑性-安定性関係に与える影響** \*山口和香子(東北大・生命科学), 近藤倫生(龍谷大・理工), 河田雅圭(東北大・生命科学)

**P3-191 水田におけるフナ類の粗放的養成がイネの生育に**



# ポスター発表 3月17日(月)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

与える影響 \*井口恵一朗, 鶴田哲也, 山口元吉(中央水研), 多田翼, 小寺信義(東海大)

P3-192# 滋賀県東部のため池に生息する水生昆虫相と環境条件との関係 \*中西康介, 近雅博(滋賀県大・環境科学)

P3-193# 局所的資源制約は多種共存を促進する 向坂幸雄(茨城県立医療大), 吉村仁(静岡大), 中桐齊之(兵庫県立大), 富樫辰也, 宮崎龍雄(千葉大・海洋バイオ), 泰中啓一(静岡大)

P3-194# 好き嫌いは種分化の始まり: 寄主変更がもたらす集団分化のインパクト \*松林圭(北大・院理), Sih Kahono(LIPI), 片倉晴雄(北大・院理)

P3-195# 集団で行進するクロバネキノコバエ科幼虫 armyworm の分布域と種多様性 \*須島充昭, 加藤俊英, 伊藤元己(東大・総合文化)

P3-196# チョウセンシマリスにおける冬眠様式の変異 \*山下真理子(新潟大・農), 永瀬弘喜(新潟大・院自然研), 原範和(新潟大・院自然研), 近藤宣昭(三菱化学生命科学研究所), 関島恒夫(新潟大・院自然研)

P3-197# サギの営巣が犬上川下流域の地表性コウチュウ相に与える影響 \*藤澤貴弘, 近雅博(滋賀県大・環境科学)

P3-198# 丹沢山地のブナ樹皮に生息するササラダニ群集の多様性評価-ブラッシング法を用いた調査例 \*山本圭美, 尾崎泰哉, 伊藤雅道(横浜国大・環境情報)

P3-199 ため池の連結は水生植物の出現を変化させる? -浮葉植物と沈水植物の比較 \*赤坂宗光(国環研), 高村典子(国環研)

P3-200# 中規模攪乱仮説を拡張する: 促進作用と競争のバランスによって中規模攪乱下の種の共存を説明できるか? \*岡安智生, 佐々木雄大, 大久保悟(東大・農), Undarmaa Jamsran(モンゴル国立農業大学), 大黒俊哉, 武内和彦(東大・農)

P3-201# 伊豆諸島におけるウツギ(Deutzia crenata)の形態変異について \*笛木学, 星野義延(東京農工大学・農)

P3-202 アリ植物オオバギ属に共生するカイガラムシ類が多様化した歴史地理的プロセス \*上田昇平(信大院・総工), Quek, S.P. (Harvard Univ.), 市岡孝朗(京大院・人環), 村瀬香(東大院・生命), Kondo, T, Gullan, P. J. (Univ. of California), 市野隆雄(信大・理)

P3-203# 東南アジア熱帯雨林における多孔菌類の群集構造 \*山下聡(地球研), 服部力(森林総研), 中静透(東北大)

P3-204 アカマツ枯死木に発生する変形菌群集の遷移 \*高橋和成, 波田善夫(岡山理大院・総情・数理環境システム)

P3-205# 落葉表面に定着するバクテリア群集の地理的パターン 森照貴, 村上正志(北大・苫小牧)

## 数 理

P3-206 栄養利用の不連続性は種の共存を促進するか? 岩田繁英(静岡大学創造科学技術大学院), 竹内康博(静岡大学創造科学技術大学院)

P3-207 藍藻類異常発生における群体形成と垂直運動の数理モデル化 \*芹沢浩(横浜国大・環境情報), 雨宮隆(同), 伊藤公紀(同)(\*会員登録中)

P3-208 開始時刻が既知の食害に対する最適防御スケジュール \*高橋大輔(京大・生態研センター), 山内 淳(京大・生態研センター)

P3-209# 湖沼における2種藻類競争系のレジームシフトに関する数理モデル \*川口喬(立命館大・理工), 中島久男(立命館大・理工)

P3-210# 性比配分戦略の進化が結実ダイナミクスに及ぼす

影響 \*秋田鉄也, 松田裕之(横浜国立大学, 環情情報)

P3-211 インターネットオークションの最適戦略 \*大原一華, 高橋智(奈良女人間文化)

P3-212 食物網の進化と侵入に対する脆弱性の関係について 吉田勝彦(国立環境研・生物)

P3-213# ウイルス増殖システムの多様性と適応性 \*佐伯晃一(九州大・数理), 巖佐庸(九州大・数理)

P3-214# 駆虫剤最適散布量に関する数理的な研究 \*加藤直人(横国大・環情), 小谷浩示(横国大・環情), 松田裕之(横国大・環情)

P3-215 ヨツモンマメゾウムシ幼虫間競争のIBM \*真野浩行(環境研), 徳永幸彦(筑波大), 中道康文(筑波大)

P3-216# 樹木の葉寿命最適戦略について \*吉田智彦(北大・環境科学院), 高田社則(北大・地球環境科学研究所)

P3-217# まねをされると得をする!? 捕食者の心理モデルから導く擬態のダイナミクス \*川平清香, 佐々木顕(総研大)

P3-218# 記憶力が適応戦略に与える影響: Levy or not Levy, that is the question \*堀部直人(東大・総文), 池上高志(東大・総文), 嶋田正和(東大・総文)

P3-219# 森林における不規則な一斉開花結実は進化するのか? \*立木佑弥(九大・理), 巖佐庸(九大・理)

P3-220# 戦いの勝ち負け癖: 経験から自己を評価する集団のゲーム \*堂島隆一(九大・理), 上原隆司(九大・理), 巖佐庸(九大・理)

P3-221 貧栄養状況下での消費者の影響 \*福井真(東大広域システム), 三木健(京大生態研センター), 嶋田正和(東大広域システム)

P3-222 生態系の物質循環機能に基づく生態影響評価モデル 田中嘉成(国立環境研究所)

P3-223# 個体群動態規則の導出における周囲との相互作用の役割 大竹洋平

P3-224# 植物病原菌の越冬と分布域の拡大-生活史の違いにみる病原菌と植物の伝播戦略- 鈴木清樹(九大・理・生物), 佐々木顕(総研大・葉山高等研)

## 動物生活史

P3-225 府大池(大阪府堺市)におけるアブラコウモリの活動の季節変化 \*林 義雄(大阪府立大・院理), 谷田一三(大阪府立大・院理)

P3-226 適応的な表現型可塑性間のトレードオフ \*道前洋史(北里・薬), 半杭淳一(北大院・先端生命)

P3-227# 葉を巻けば撒(ま)ける寄生蜂・巻いても撒(ま)けない寄生蜂~オトシブミ科における“葉巻”の進化~ \*小林知里, 奥山雄大, 川添和英, 加藤真(京大・院・人環)

P3-228 夏季の高温がハナビラダカラの体サイズ個体群間変異を生み出す 入江貴博(九大・理・生物)

P3-229# 魚類の代謝量の個体発生的変化・・トラフグ型の代謝スケールは他の魚種でも認められるのか? \*八木光晴, 谷口和希, 福島正豊, 鬼倉徳雄, 及川 信(九大・農・水実)

P3-230 異なる誘引器によって捕獲されたキクイムシ類 衣浦晴生(森林総研関西)

P3-231 オオヒラタシテムシの生態調査 白石恭輔, 山田和史, 藤森大輔, 廣田忠雄(山形大・理・生物)

P3-232# イタチハギマメゾウムシにおける休眠のコスト: 世代間に見られる生活史形質の可塑性 \*定清 爽(大阪府大院・理), 人見奈緒子(大阪女子・理), 石原道博(大阪府大院・理)

P3-233# 釧路湿原に生息するイタチ科哺乳類の季節による

## ポスター発表 3月17日(月)9:00-17:30

(# : ポスター賞対象発表)

食性の違い—アメリカミンクとエゾクロテン— \* 竹下毅, 立澤史郎, 池田透 (北大・院・文), 嶋谷ゆかり (北大・院・理), 増田隆一 (北大・創成研)

分 子

P3-234# マダラスズにおける自切によって誘導される可塑的応答 (1) 生活史形質の変化 \* 松岡暢宏, 石原道博 (大阪府大院・理)

P3-255# クロツラヘラサギ (*Platalea minor*) における脱落羽毛等を用いたミトコンドリア DNA の多型解析 \* 曹炯柱 (九大・比文), 江田真毅 (鳥取大・医), 鄭鐘烈 (朝鮮大・教育), 小池裕子 (九大・比文)

P3-235# 同所 \* 外山雅大 (北大 環境科学院), 齊藤隆 (北大 北方生物圏フィールド科学センター)

P3-256 同一河川に混在する淡水魚オイカワ地理系統の繁殖状況 \* 高村健二, 中原真裕子 (国立環境研・生物圏環境)

P3-236# 両側回遊性ボウズハゼの生活史—流下と加入— \* 飯田碧, 渡邊俊, 塚本勝巳 (東大海洋研)

P3-257# サクラマスの遺伝構造と移動分散 \* 北西滋 (北大・地球環境), 山本俊昭 (日本獣医生命科学大学), 東正剛 (北大・地球環境)

P3-237# ウスキシロチョウにおける翅型決定要因と密度効果 \* 儀間朝宜 (琉球大・農), 辻和希 (琉球大・農)

P3-258 日本産淡水魚類の遺伝的多様性データベースと網羅的系統地理解析の展望 \* 渡辺勝敏 (京大院理), 鹿野雄一 (九大工院), 高橋洋 (水大校), 柿岡諒 (京大院理)

P3-238 アズキゾウムシにおける母親から子への異なる資源投資量に対する子の反応の系統間比較 \* 柳真一, 宮竹貴久 (岡大院・環境・進化生態)

P3-259 日本沿岸に回遊するアオウミガメ *Chelonia mydas* の分子生態 \* 浜端朋子・小池裕子 (九大院比文)・亀崎直樹・石原孝 (東大院農/ウミガメ協)・武内有加 (鹿大院理)・島達也・水野康次郎 (ウミガメ協)

P3-239# 本土と伊豆諸島の筒管巢性ハチ類の利用筒サイズの比較 深澤悟 (東邦大院・理)

P3-260# 母系・両系 DNA 解析からみたカブトガニ日本集団の遺伝的構造 \* 西田伸 (九大・比文), 小池裕子 (九大・比文)

P3-240# キアゲハの季節型に見られる地理的変異: 春型と夏型の違い \* 川喜多愛, 石原道博 (大阪府大院・理)

P3-261# ヒラタシテムシ亜科における食性進化と地理的集団間の遺伝子流動パターン \* 池田紘士 (東大院・農学生命), 曾田貞滋 (京大・理)

P3-241# 両側回遊性ボウズハゼの分布を決める要因—仔魚の分散と成魚の生残— \* 渡邊俊, 飯田碧, 塚本勝巳 (東大海洋研)

P3-262# 閉鎖花の分子基盤: コカイタネツケバナをモデルにしたマイクロアレイと RNAi 解析 \* 森長真一 (九大・理), 宮崎さおり (基生研), 酒井聡樹 (東北大・生命科学), 長谷部光泰 (基生研・総研大)

P3-242# エゾサンショウウオ幼生の生息環境の変化に応じた可塑的な体色パターン \* 浅野由佳理 (北海道大学水産学部), 岸田治 (京大大学生態学研究センター), 西村欣也 (北海道大学水産科学研究院)

P3-263 ヤブツバキの遺伝的多様性と分化 \* 上野真義 (森林総研), 谷口郁也 (野菜茶業研), 津村義彦 (森林総研)

P3-243# 千曲川中流域におけるユスリカ類底生・流下密度の動態—夏期に発生した大規模洪水の影響— \* 井上栄社, 木村悟朗, 豊田大輔, 政田啓輔, 平林公男 (信州大・繊維)

P3-264# チベット高原の矮性低木キンロバイの遺伝的多様性 \* 下野綾子 (環境研), 上野真義 (森林総研), 津村義彦 (森林総研), 古松 (中国科学院), 唐艶鴻 (環境研)

P3-244# 腐肉食性オオヒラタシテムシの雌における餌資源の利用様式 \* 滝若菜, 渡辺守 (筑波大院・生命環境)

P3-265 在来植物種から選抜された造園・園芸用集団と自然集団の遺伝的多様性の比較 \* 矢野初美 (東大・農), 小沼明弘 (農環研), 武内和彦 (東大・農)

P3-245# 周期変動するマイワシとカタクチイワシの生活史の変化 \* 勝川木綿 (東大・海洋研), 渡邊良朗 (東大・海洋研)

P3-266 rDNA-ITS および SSR 配列を用いた外生菌根菌シヨウロの検出 \* 松本晃幸, 船戸知聖, 霜村典宏 (鳥大農)

P3-246 有機農業畑に生息するサクラミミズ (*Allolobophora japonica*) の生活史について \* 雪岡正太 (信大院・工), 藤山静雄 (信大・理), 藤田正雄 (自然農法国際研究センター), 大久保慎二 (自然農法国際研究センター)

P3-267 SSR を用いたオオモミジとイロハモミジの遺伝的多様性 \* 松本麻子, 菊地賢, 津田吉見, 金谷整一, 吉丸博志 (森林総研)

P3-247# オオムカシハナバチの雄間闘争での体サイズへの温度の影響 \* 植崎裕美 (九州大・理・生態), 粕谷英一 (九州大・理・生態)

P3-248# マダラスズにおける自切によって誘導される可塑的応答 (2) 行動の変化 \* 宮川美紗 (大阪女大・理), 松岡暢宏, 石原道博 (大阪府大院・理)

生態系管理

P3-249# 鹿児島県喜入・谷山におけるフトヘナタリの生態学的研究 \* 中島貴幸, 富山清升 (鹿児島大学 理学部)

P3-268 兵庫県猪名川町における里山林管理と林床植生との関係 \* 伊東宏樹 (森林総研多摩), 日野輝明 (森林総研関西), 岩本宏二郎 (森林総研多摩), 島田和則 (森林総研), 勝木俊雄 (森林総研)

P3-250# 島嶼性モズの死亡パターンの雌雄差を引き起こす要因 \* 松井 晋, 日阪万里子, 高木昌興 (大阪市大・院理・動物機能生態)

P3-269 害虫や土着天敵を中心とした水田食物網が農法及び周辺ランドスケープ要素から受ける影響 \* 高田まゆら (東大・農・保全生態), 岩淵成紀 (NPO 田んぼ), 嶺田拓也 (農工研), 鷲谷いづみ (東大・農・保全生態)

P3-251# オオタバコガ幼虫の体色を決定する環境要因 \* 山崎梓 (京大院・農・昆虫生態), 藤崎憲治 (京大院・農・昆虫生態)

P3-270 水循環再生指標としての外来種 \* 増田理子 (名工大・工), 後藤智美 (名工大・都市社会)

P3-252# 鹿児島県喜入のマングローブ干潟におけるヘナタリのサイズ分布の季節変化 \* 片野田裕亮, 富山清升 (鹿児島大学理学部)

P3-271 Kepler を用いたシミュレーションモデルのフレームワーク \* 小川安紀子 (京大・農), 徳地直子 (京大・フィールド研)

P3-253# 里山林内におけるノシメトンボの性比に影響を及ぼす採餌場所をめぐる闘争 \* 岩崎洋樹, 渡辺守 (筑波大・院・生命環境)

P3-272# 直方市新入地区における市民参加による竹林拡大抑制と里山再生に関する研究—地上部バイオマス量推定

P3-254 越冬するオオハラホソバチ 斎藤歩希 (茨城大・理), 小島純一 (茨城大・理), Lien TP Nguyen (ベトナム, IEBR)



# ポスター発表 3月17日(月)9:00-17:30

(#:ポスター賞対象発表)

および伐採計画について— 明石隆宏(九工大・工), 伊東啓太郎(九工大・工), 高嶋紀子(九工大・工), 池田朝二(直方市役所環境整備室), 真鍋徹(北九州市立自然史・歴史博物館)

**P3-273# 札内川における河道の樹林化とダムの影響** \*高橋まゆみ, 中村太士(北大・農)

**P3-274# A model of ecosystem health and its application on grassland** Wang, LX(Hirishima Univ.), Nakagoshi, N(Hiroshima Univ.)

**P3-275 酵素活性から見た、ため池底質の生態系機能** \*広木幹也, 中川 恵, 赤坂宗光, 高村典子(国立環境研)

**P3-276# 国立公園周辺における換金作物栽培の増加が鳥類相に与えた影響** \*片岡美和, 岩田明久(京大・院・ASAFAS), Prawiradilaga, D.M. (LIPI, Indonesia)

**P3-277 関東地方の道路沿いにおける遺伝子組換えセイヨウアブラナの生育状況** 西沢徹(国立環境研), \*中嶋信美(国立環境研), 玉置雅紀(国立環境研), 青野光子(国立環境研), 久保明弘(国立環境研), 佐治光(国立環境研)

**P3-278# 阿寒湖マリモの保全を目的としたマイクロサテライトマーカーの開発** \*西沢徹(国立環境研究所), 村田詩乃(千葉大学理学部), 高山浩司(千葉大学理学部), 中嶋信美(国立環境研究所), 若菜勇(釧路市教育委員会), 綿野泰行(千葉大学理学部)

**P3-279# ニホンジカの過採食圧下で芦生天然林植生はどう変わったか - 大規模防鹿柵実験 1年の効果とあわせて -** \*阪口翔太(京大・農), 藤木大介(兵庫県大), 井上みずき, 高柳敦, 藤崎憲治(京大院・農)

**P3-280 四国南西部の天然落葉広葉樹林におけるニホンジカによる剥皮被害** \*奥村栄朗, 奥田史郎, 伊藤武治(森林総研・四国)

**P3-281# モンゴル草原における放牧による植物群落の変化** \*柿沼薫(東大院・農), 高槻成紀(麻布大・獣医)

**P3-282 樹種と胸高直径構成からの樹洞密度推定** 小野寺賢介(北海道林試)

**P3-283 兵庫県西宮神社社叢の植生管理—林内移植樹の明・暗順化反応—** 大杉祥広, \*石井弘明(神戸大・農)

**P3-284 Effects of forest management and topography on structure, composition and diversity in the lowland forest on Yakushima Island, Japan.** \*Simoes, Cecilia (Kagoshima Univ.), Aiba, Shin-ichiro (Kagoshima Univ.)

**P3-285 自然再生事業, バイオマス活用事業等の失敗事例データの収集と解析** 齊藤修(早大・高等研)

**P3-286 トキの採餌環境整備を目的とした承水路の新規創出効果** \*大石麻美, 石間妙子, 関島恒夫(新潟大・院・自然科学)

**P3-287# 知床世界自然遺産におけるエゾシカ保護管理計画** \*杉本豊彦(横浜国大), 松田裕之(横浜国大)

**P3-288# 県域スケールでの広葉樹林のシカ被害モニタリング法の検討** \*藤木大介, 坂田宏志(兵庫県立大)

**P3-289# 乾燥程度の異なるモンゴル草原生態系において放牧の有無が表層土壌の特性に与える影響** \*近藤順治, 廣部 宗(岡山大・院・環境), Uugantsetseg Khorloo (Institute of Geocology), 藤田 昇(京大・生態研センター), 坂本圭児, 吉川 賢(岡山大・院・環境)

**P3-290# 兵庫県におけるニホンジカ目撃効率と広葉樹林の下層植生衰退度との関係** \*岸本康誉(兵庫県森林動物研究セ), 藤木大介, 坂田宏志(兵庫県立大/兵庫県森林動物研究セ)

**P3-291 摩周湖への魚類の放流と動物プランクトン相の変化** \*五十嵐聖貴(北海道環境研)

**P3-292# 仁淀川流域における地形と土地利用が河川水質に及ぼす影響** \*福澤加里部, 徳地直子, 鎌内宏光, 長谷川尚史, 吉岡崇仁, 柴田昌三, 山下洋(京大フィールド研)

**P3-293 秋吉台お花畑プロジェクト—刈取り試験 1年目の成果—** 太田陽子(北九州市立自・歴博 受託研究員)

**P3-294 小規模林家所有林の分布特性** \*森野真理(吉備国大, 政策), 堀内史朗(岡山理大, 総合情報)

**P3-295# 対照的な二地域におけるエゾシカ生息地の質と量による評価** \*山本悠子(農工大・農), 宮木雅美(道環研), 高橋裕史(森林総研), 小平真佐夫(知床財団), 岡田秀明(知床財団), 山中正実(知床財団), 梶光一(農工大・農)

**P3-296# 出水のツル類の空間分布と利用環境解析** \*松本千香(鹿児島大・理), 富山清升(鹿児島大・理)

**P3-297# 里山林管理がオサムシ科甲虫の多様性を高めるか?** \*近藤慶一(名城大学), 阿部晃久(名城大学), 新妻靖章(名城大学), 日野輝明(森林総研関西)

## 都 市

**P3-298 都市の高層化が鳥類の営巣分布に及ぼす影響** 橋本啓史(名城大・農)

**P3-299# 都市内残存湿地における埋土種子解析と管理・利用計画** \*相澤章仁(千葉大・自然科学), 百原新(千葉大・園芸学), 田代順孝(千葉大・園芸学)

**P3-300# 都市の孤立林を利用する哺乳類における種間関係の検討 - 自動撮影装置によるアプローチ -** \*松田尚子(首都大院・理工・生命), 小林まや(首都大院・理工・生命), 坂本信介(都立大・院・理), 鈴木惟司(首都大・生命科学)

**P3-301# 孤立森林と山地における小型哺乳類相の比較** \*内藤由香子(福井市自然史博物館), 石田惣(大阪市立自然史博物館)

**P3-302# 傷病猛禽類保護記録からみた生物生息地としての都市環境の評価** \*梅野岳(九工大・建社), 伊東啓太郎(九工大・工), 外平友佳理(到津の森公園)

**P3-303 Urban Ecology in Hanoi, Vietnam** \*Nguyen Vu Tiep (IDEC student), Duong Van Nam (IDEC student), Pham Duc Uy (former IDEC student) and Professor Nobukazu Nakagoshi (IDEC)

**P3-304# ハイパースペクトルセンサーによるソメイヨシノおよびヤマザクラの分光反射特性の計測** \*今西純一(京大・地環), 今西亜友美(京大・地環), 宋泳根(京大・地環), 上田佳史(京大・農), 森本幸裕(京大・地環)

**P3-305# 都市域森林群落における常緑低木種の分布特性** \*伊藤千恵, 藤原一繪(横浜国大・院・環境情報)

**P3-306 都市緑地を連結する緑道におけるチョウ類相の分布要因** 横田樹広(清水建設技研/東京大学・院), 小堀洋美(武蔵工業大学), 北川淑子(東京大学・院)

**P3-307 災害時における樹木の防火記録について** 林寿則(国際生態学センター)

**P3-308# 河川における水質と流域植物の関係 - 境川を事例として -** \*三浦佳林, 藤原一繪(横浜国大・院・環境情報)

**P3-309# セミぬけ殻標本による都市近郊部の環境把握の可能性 - 生物安定同位体比を用いた地域環境解析 -** \*馬谷原武之(日本大院・生物資源科学), 笹田勝寛(日本大・生物資源科学), 宮地俊作(日本大・生物資源科学), 河野英一(日本大・生物資源科学)

自由集会 3月14日 14:00-16:00

会場 Room A

### W01 外来生物の分布拡大予報

企画責任者：小池文人（横浜国大）

いろいろな外来生物（哺乳類や昆虫，植物，水生生物など）のリアルタイムな分布把握と拡大予測を行って，天気予報のように定期的に市民に情報提供して行く「外来生物分布拡大予報」を始めようと思います。

市民が日本の地図の中で分布拡大中の外来生物のイメージをもつようになれば，外来生物問題への関心が喚起されるでしょうし，将来の被害拡大に対応した対策を事前にも取ることができます。また根絶をめざすか，対策の資源を他種に配分すべきか，などのトリアージのために使えるかもしれません。将来的には行政機関への事業の移管ができればよいのではないかとおもわれます。

このような試みは，いつかだれかが行う必要のあるものですが，日本では始まったばかりです。企画を紹介して参加者を募集するとともに，予報を実現してゆく上で解決すべき問題を明らかにし，必要となる研究をさぐります。

研究として興味のある方や，ご自身で分布拡大の研究をされていて全国スケールでの調査を行いたい方，などの参加もお待ちしております。

海産・淡水産外来無脊椎動物の分布の把握状況と関連学会の取り組み

岩崎敬二（奈良大学）

外来鳥類の分布の把握状況と鳥類学会での取り組み

発表者未定

外来雑草の分布の把握状況とオーストラリアの市民参加

西田智子（農業環境技術研究所）

外来生物情報のデータベースの紹介と，これを利用したセイヨウオオマルハナバチの分布解析

五箇公一（国立環境研）

外来生物の分布調査での市民参加の可能性

草刈秀紀（WWF ジャパン）

外来生物が分布をひろげる3つの要因：反復野生化，人為的分布拡大，自然の分布拡大

小池文人（横浜国大）

潜在的な分布域や分布拡大カーネルを推定する諸手法のレビュー

深澤圭太（横浜国大）

害虫の分布拡大警報システムはどうなっているか

森本信生（中央農業総合研究センター）

自由集会 3月14日 14:00-16:00

会場 Room B

### W02 第三弾：陸域生態系におけるリン制限仮説と生物の適応

企画責任者：和穎朗太（京大・生態研），北山兼弘（京大・生態研）

炭素・窒素の循環に比べるとリンについては不明な点が多いが，あらゆる生物の代謝活動に必須なこの元素は，生物群集の組成や生態系機能を規定している可能性がある。多くの陸上生態系においてリンの唯一のソースは岩石であり，また地質学的時間の経過を通してリンは溶脱・不動化する。よって，リン規定の検証には，風化や地質・土壌タイプを考慮する必要があるだろう。

本集会では，まず森林生態系の長期的動態と土壌リンの関係についてレビューし，次に，比較的「若い」地質上に発達する生態系と，風化の進んだ熱帯の「古い」生態系におけるリン制限についての研究を紹介する。また，土壌リンの大半を占める非可給態とされるリンの土壌微生物による再利用の可能性を検討し，さらに最新手法からわかりつつある土壌リンの化学形態についての知見を紹介する。

前回同様，分かり易い発表を心がけ，生態系に関心を持つ幅広い分野の方々の知的交流を促進する集会を目指す。

趣旨説明：（和穎朗太）

総合討論：（司会：和穎）

森林生態系動態とリン制限～ Overview

北山兼弘（京大・生態研）

火山灰土壌に発達した「若い」森林生態系におけるリン制限の可能性と窒素循環への影響～北海道のカラマツ林を



例に

中原治（北大・農）

焼畑による強風化土壌地帯のリン制限の一時的緩和～ボルネオ島・サラワク州の熱帯雨林生態系を例に  
櫻井克年（高知大・農）

土壌鉱物へ吸着されたリン酸の微生物による回収の可能性  
和穎朗太・北山兼弘（京大・生態研）

土壌中のリンの化学形態分析～核磁気共鳴法を用いた新しい方法・知見  
平館俊太郎（農業環境技術研・生物多様性）

自由集会 3月14日 14:00-16:00 会場 Room C

### W03 農村計画を知っている？～計画なくして農村の生物多様性は守れない！～

企画責任者：嶺田拓也（農村工学研究所）、大澤啓志（慶應義塾大・総）、大久保 悟（東京大院・農）

農村における生物多様性の減少は、単に生態学的な側面のみならず、農村社会のあり方の変容とも深く関わっている。例えば、近年の水田耕作スタイルの近代化・合理化に伴う景観要素間の分離や自然攪乱の代替性の低下、高齢化や産地間競争の激化による耕作放棄地の増加などが農的景観を変容させ、我が国の農村ランドスケープの生物多様性に大きな影響を与えている。農村に見られた生物の賑わいが、かつての伝統的な生産と生活が一体となった土地利用システム（＝環境容量を超えない土地利用の選択）に依存していたとすると、それに代わる持続可能な新たなシステムの構築と提案が必要となるだろう。食料供給機能のみならず、生活圏として、また生物生息環境を含めた農村の多面的機能をどのようにデザインし、持続的に発揮させていくかを考えていく際に、農村および農村社会のあり方を模索する地域計画学としての「農村計画」の重要性は高まるばかりである。農村の理解および適切なビジョンやプランニングなくして、農村の生物多様性の保全を声高に叫ぶことはできない。そこで本研究会では、現在の農村が抱えている諸課題のなかで特に生物生息環境の提供に関し、農村計画分野からどのようなアプローチがなされているかいくつか紹介したい。その上で、今後の農村における生物多様性保全の方向性について議論を持ちたい。

総合司会は大澤啓志（慶応大）

農村計画における生物多様性のとらえ方の潮流  
大久保 悟（東大院・農）

農村の生物多様性評価に向けたインベントリ構築とそのあり方  
楠本良延，山本勝利（農業環境技術研究所）

オクヤマーマーマーノラ・ムラの現在，過去，未来。～農村と自然の境界領域で起きていること～  
岩崎恒典（農業環境技術研究所）

都市近郊地域のミドロの担い手 ～都市と農村の境界領域で起きていること～  
栗田英治（農村工学研究所）

農業環境プログラムとしての田んぼの生きもの調査  
佐藤剛史（九州大・農）

自由集会 3月14日 14:00-16:00 会場 Room D

### W04 里地・里山・里海の生物多様性インタープリテーション - 合意形成と環境整備 -

企画責任者：中村浩二，日鷹一雅

保全や再生の現場において、地域生活者や市民の合意形成の為のインタープリテーションは生態学の応用場面において重要であろう。松山大会では、里地を中心とした在地・在野の農生態系インタープリターの交流を行った。今回は、今や under use で危機にある農山漁村におけるインプリの在り方を考える。昨今、環境省の改訂に続いて農水省までも相次いで「生物多様性国家戦略」を公表したので、キーワードは生物多様性に絞って集会を持つ。人間の営みで維持されてきたフィールドで、生物多様性の保全・再生を進めるためには、在地の生活者との合意形成は中心的課題である。「この種や多様性を守りましょう」という単なる合意形成だけではなく、具体的な環境整備や生産・資源活用を農山漁村で継続しなければならない。そう「いかにみんなで行動を起こすか？」をモットーに合意形成の在り方、教育方法を探ろうというのが今回のねらいである。

地域に根ざした生物多様性再生を、産学協働で推進しているグループ、生物多様性国家戦略の委員等で、実際に地道で着実な再生に取り組む方々に話題提供をお願いした。「生物多様性をどう伝えていったらいいか?」「環境整備の行動

に結びつくインプリ手法」について、交流を深めたいと思う。

コメント：S.R.Gliessmanら：Participatory Action Research (PAR)

能登にトキを呼び戻すための生態基盤整備と住民合意形成

中村浩二・笠木哲也・宇都宮大輔・小路晋作・赤石大輔・木村一（金沢大・能登里山マイスター・能登里山里海学校）

広島世羅の農生物多様性こだわり米：在所の食農・文化で里の自然再生

日鷹一雅（愛媛大・農）・猪谷信忠（愛媛大・環境ESD・JA世羅）・延安 勇（JA世羅）

在地の里地・里山・里海の生物多様性の大切さをどう伝え、どう行動するか？

浜本奈鼓・立山芳輝・浜本麦（NPO法人くすの木自然館）

自由集会 3月14日 14:00-16:00 会場 Room E

#### W05 溪流の物質循環と生物群集の動態を絡めて考える

企画責任者：大手 信人（東大・農），村上 正志（北大・苫小牧研究林）

考えたいことは、生態系の物質循環システムを駆動するために、生物はどう機能していて、その多様性にどういう意味があるのかを知るために、どんなアプローチをすれば良いのかということである。この自由集会では、溪流や河川という陸域と水域のインターフェイスで、エネルギーや物質の流れの実態と生物群集の動態を調べている人たちのリンクを作り、実際どのような方法で物質循環と生物群集の二つの動態を有機的に捉えることができるのかを溪流周辺の生態系について議論したい。

栄養塩は森林斜面から溪流にどのように供給されるのか、供給された栄養塩はどのように使われるのか、微生物-底生生物-魚類-鳥類と食物網にのって栄養塩の fate はどうなるのか、それが生態系の構造と機能にどう影響しているのか。あるいは、生物群集の動態が栄養塩、エネルギーの流れのどこをレギュレートしているのか、知りたいことは、これまでに個別に現象を追ってきた研究グループ間の協力なくしては明らかにならない。物質の流れと貯留を観測値とする biogeochemical なアプローチと生物群集の動態を追う手法とはどこでどのように融合できるのだろうか？

溪流の周りからの栄養塩供給のメカニズムを調べるには

大手信人（東大・農）

河床微生物膜の構造と機能：河川の物質循環における重要性

中野伸一（愛媛大・農）

底生生物群集の多様性とその生態的機能：分かってきたことと課題

根岸淳二郎（土研・自然共生研）

炭素、窒素の安定同位体比からみた無機物から有機物そして生物までの連環

高津文人（JST・京大生態研）

河川から森林生態系への資源供給を調べた

村上正志（北大・苫小牧研究林）

自由集会 3月14日 18:30-20:30 会場 Room A

#### W06 化学物質の生態影響パート2：生態リスク評価の理想と現実

企画責任者：加茂将史（産総研・CRM），池田浩明（農環研），五箇公一（国立環境研）

現代社会の繁栄は化学物質により支えられていることは明らかであり、私たちが生活する上で欠かせないが、一方で化学物質は生態系に悪影響を及ぼす。化学物質の有用性を享受し、生態系への悪影響を最小にするには、まずリスクの大きさを定量的に評価し、ここまでは許容できるという上限を知り、そして適切なリスク管理・対策を行う必要がある。それには透明性が高く、科学的方法論に基づき、説得力のある「生態リスク評価」が必要となるが、生態系は複雑であるがゆえ、ヒト健康リスク評価のようにエンドポイント（評価軸）を単純に設定できない等の問題がある。限られた試験生物への影響を評価軸とする効率性を重視したリスク評価が行われるが、その方法はあまりにも単純であると、各方面からの激しい攻撃にさらされる。一方で、評価者は現場では使えない攻撃側の理想論に辟易してきているのだ。化学物質管理での意思決定において、生態リスクが重要視されるようになった今だからこそ、多くの人が納得のいく「生態リスク評価」のあり方について、リスク評価側と生態学者とが議論を深めることが必要である。この自由集会では、賛成論と反対論（あるいは理想と現実）の立場から話題を提供し、それを踏まえて今後の化学物質の生態リスク評価・管理のあり方について考えてみたい。聴衆の皆さまのご意見も伺いたい。

理想と現実の生態リスク評価：生態学者への期待  
内藤航（産総研）

やるだけ無駄なの？生態リスク評価システムの盲点  
五箇公一（国立環境研）

日本の河川環境に適した農薬の生態リスク評価：新しい試験法の開発について  
横山淳史（農環研）

みんなで作ろう生態リスク評価の新しいフレームワーク  
岩崎雄一（横国大・環情）

自由集会 3月14日 18:30-20:30 会場 Room B

#### W07 データ解析で出会う統計的問題 -- R プログラミングの基礎

企画責任者：粕谷英一（九州大・理），久保拓弥（北海道大・地球環境）

生態学では観測・実験データを得てから試行錯誤で（観測データにみられるパターンを説明する）統計モデリングする場合が多く、データを何度も抽出・再配列したり、傾向を発見するためにたくさんの作図が必要になります。これを手作業でこなすのはまったくたいへんなことであり、コンピューターによる自動処理 - つまりプログラミングが有効なわざとなります。この自由集会では free な統計ソフトウェアである R を使って、生態学研究の役にたつプログラミングの始めかたを紹介・議論したいと思います。近年、生態学をふくむ多くの分野で R による統計解析が普及してきました。R は単なる統計モデルあてはめ（例：glm () 使う, など）だけでなくさまざまなデータ処理プログラミングが可能です。その中でとくに重要なわざである「データ作図」（竹中）と「乱数を使ったさまざまな実験」（粕谷）についてとりあげ、また「それ以前の準備」（久保）についても紹介します。

R プログラミングの準備  
久保拓弥（北海道大）

R で自動作図 - どんな絵でも、何十回でも、何百枚でも  
竹中明夫（国立環境研）

R の乱数関数プログラミング - 統計の疑問は計算して解決  
粕谷英一（九州大）

自由集会 3月14日 18:30-20:30 会場 Room C

#### W08 蔓延しつつある外来植物をどのようにして抑制するか

企画責任者：村中孝司（牛久自然観察の森），川田清和（農業環境技術研究所）

外来植物は侵入、定着して在来生物の生育や生態系などに影響を引き起こす。なかでも、オオブタクサ、アレチウリ、シナダレスズメガヤ、ホテイアオイ、セイタカアワダチソウ、ハリエンジュなどは全国規模で蔓延し、在来植物の生育環境を脅かすなどの悪影響が知られている。そのような中、日本では2005年6月に「外来生物法」が施行された。現在ではナガエツルノゲイトウ、ボタンウキクサなど12種の外来植物が特定外来生物に指定されている。しかし、すでに蔓延しつつある全ての種が効率的に防除されているとは言い難い。限られた資源や予算の中で、有効な防除策が十分に検討されていないのが実態である。外来植物の侵入影響は時間とともに増大するため、できる限り早急な対策が必要である。また、特定外来生物の指定を受けていない種の中にも生態系等に著しい被害をもたらしている種が含まれる。自由集会では、実現可能な防除策を含めたこれ以上の蔓延を防止する手法と効果について議論したい。

趣旨説明：村中孝司

外来雑草の選択的抜き取り防除とその効果  
川田清和（農業環境技術研究所）

逸出した緑化植物の機械的防除とその効果  
村中孝司（牛久自然観察の森）

除草剤を利用した外来種防除の試み  
村岡哲郎（日本植物調節剤研究協会）

雑草リスク評価 - 概論、適用、将来性  
西田智子（農業環境技術研究所）

自由集会 3月14日 18:30-20:30 会場 Room D  
W09 病原体と人間社会、生態系を結ぶマルチスケールデータベース構築に向けて  
企画責任者：長 雄一（北海道環研）

宿主である野生動物や家畜と、その体内外を「利用」する寄生虫は、しばしば対数スケールで体サイズが異なる。このため、同じ物理的環境にあっても「生きている世界（例：世代時間）」がまったく別であるように見える。しかしながら、これらの時空間スケールの違い（階層性）が宿主と寄生体の相互関係を成り立たせているとも考えられる。

このように宿主-寄生体関係は、マルチスケールの視点が不可欠であるのと同時に、生態学的に見て、研究テーマが豊富なフロンティアである。

本大会自由集会では、富山大学の横畑氏と鳥取大学の岡本氏にフロンティアとしての寄生虫学について話題提供をしてもらい、これらの学問的成果の保全医学・バイオインフォマティクスといった新興・融合領域への適用例を、酪農学園大学の浅川氏らに示してもらおう。

さらに、これらの成果をマルチスケール対応型のデータベースに入力し、GIS化することで、より高度な学問的成果や疾病の予測-制御といった人間社会への貢献が得られるか、について論議を行い、医学・獣医学・生態学・社会学・情報科学等の融合領域の展開方向の明確化を図りたい。

様々な時空間スケールにおける野生哺乳類、鳥類の寄生蠕虫の個体群・群集に関する2、3の考察  
横畑泰志（富山大院・理工学）

ヒト寄生テニア属条虫の遺伝的多様性とリスクファクターとしての家畜  
岡本宗裕（鳥取大・農）

野生鳥獣と蠕虫類の宿主-寄生体関係を基盤情報とした保全医学・バイオインフォマティクス研究事例と専門教育

\* 浅川満彦，遠藤大二，吉野智生（酪農大・獣），長 雄一（北海道環研）

自由集会 3月14日 18:30-20:30 会場 Room E  
W10 フェノロジー研究会「水辺環境の季節性と植物のフェノロジー特性」  
企画責任者：大野啓一（千葉県立中央博物館）

水辺環境では様々な水文条件や攪乱の規模と頻度がある程度の季節的な周期性をもって変化することが多い。そのため、川辺や湖沼沿岸および水田やその周辺に生活の場を持つ植物の生活史には、こうした水辺環境の季節性に整合した特性を見いだすことができる。今回は、発芽をはじめとした水辺の植物のフェノロジー特性を、このような水辺環境の季節的な変動周期性との関係から捉え直すとともに、近年の利水・治水等に伴う水辺環境の季節性的人為的な改変が、フェノロジー特性を通して植物に与える影響についても検討してみたい。

「水辺植物のフェノロジー特性と変動環境の進化的理解に向けて」  
藤井伸二（人間環境大学）

「湖の水位変動の季節性と植物の生活史」  
西廣淳（東大）

「河川環境の季節的変動と河原植物の発芽応答」  
本田裕紀郎（東大）

自由集会 3月14日 18:30-20:30 会場 Room F  
W11 カエルツボカビとカエルの未来  
企画責任者：五箇公一（国立環境研）

2006年12月に日本国内でアジア地域初のカエルツボカビ症が確認された。カエルツボカビ症は真菌の一種カエルツボカビ菌 *Batrachochytrium dendrobatidis* によって引き起こされる両生類専門の感染症で、近年の世界的な両生類の激減をもたらしている要因の一つとされており、IUCNの外来生物ワースト100リストにも掲載されている。

既に中米やオーストラリアでは、本種の蔓延により、多くの野生個体が死滅したことが報告されており、日本においても固有両生類の壊滅的打撃が危惧された。その後の調査で、幸いにして日本の野外および施設環境でこの菌による在来両生類の大量死という事例は確認されておらず、予備的感染実験においても在来種に対する顕著な病原性は認められていない。

果たして、カエルツボカビは本当に両生類にとって壊滅的危機をもたらすのか、それとも日本のカエルは「平気」な



のか？さらに科学的調査を続けていく必要がある。

本集会ではカエルツボカビの世界的情報を整理するとともに、これまでに得られた調査結果について報告して、今後の管理対策について検討する。

カエルツボカビの発見と病理学的特性

\* 宇根有美（麻布大），黒木俊郎（神奈川県衛生研）

日本および世界の両生類の多様性と絶滅の危機

福山欣司（慶応大）

カエルツボカビの分子遺伝学的検査と遺伝的変異の実態

五箇公一（国立環境研）

環境省におけるカエルツボカビの今後の対策

環境省自然環境局

自由集会 3月14日 18:30-20:30 会場 Room G

### W12 植物群落からみたシカ食害問題（群落談話会・植生地理学の視点）

企画責任者：吉川正人（東京農工大・共生科学技術），星野義延（東京農工大・共生科学技術）

シカ個体群の増大は各地でますます顕著になっており，農林業被害にとどまらず，自然植生にも深刻な影響が出ている。いまや生態系管理のうえで，シカ食害への対策はもっとも緊急な課題のひとつである。被害が深刻化する前に対策を講じるためには，植物群落の質的な変化から，シカの影響をいち早く感知することが必要であろう。そこで本集会では，日本各地でシカによる植生への影響を調査している研究者から話題提供をしてもらい，シカの影響によって生じる植生変化の共通性や地域性を明らかにしていく。そのうえで，植物群落保護のうえで重視すべき問題を浮かび上げさせ，今後の研究や対策の方向を考える機会としたい。とくに次のような点に焦点をあてたい。

1. 異なる植生帯を比較したときのシカ食害の共通点と相違点
2. 植物群落の構造や種組成に対する影響の特徴
3. シカの嗜好性や採食様式と植生変化の関係

なお，本集会は「群落談話会」と「植生地理学の視点」の2グループによる共同開催とする。

知床半島における過去約300年間のエゾシカの増減傾向と近年の爆発的増加による植物への影響

石川幸夫（専修大・北海道短大）

奥多摩地域におけるニホンジカの過密度化と植物群落の変化

\* 大橋春香（東京農工大・農）・星野義延（東京農工大・共生科学技術）・大野啓一（千葉中央博）

照葉樹林に拡大する外来樹木とシカとの関係

前迫ゆり（大阪産業大・人間環境）

コメント：ハマナツメの個体群衰退とシカ食害の関係

藤井伸二（人間環境大・環境保全）

コメント：日本の絶滅危惧種の現状について～減少要因としての食害～

\* 藤田卓（九州大・理），小川誠，勝山輝男，角野康郎，川窪伸光，芹沢俊介，高橋英樹，高宮正之，藤井伸二，松田裕之，宗田一男，横田昌嗣，米倉浩司，矢原徹一

自由集会 3月14日 18:30-20:30 会場 Room H

### W13 JapanFlux/AsiaFlux 東南アジア熱帯林タワー観測ネットワーク

企画責任者：三枝信子（産業技術総合研究所）

1990年代後半以降、東南アジア各地の熱帯林で気象観測タワーを用いたCO<sub>2</sub>・水・熱フラックスの長期観測が行われてきた。また近年では、JapanFlux/AsiaFluxの一環として観測サイト間のデータ交換や統合的研究が始まっている。これまでに、東南アジア熱帯林では年間光合成総生産量が日本の温帯林の2～3倍に達すること、また生産量は2～数年に一度発生するエルニーニョ／南方振動やアジアモンスーン変動の影響を直接受け、光量子密度や土壌水分量、大気飽差等の物理的環境要因と、展葉・落葉のタイミングや各種生態系機能の変化を通して大きく変動していることなどがわかってきた。

本集会では、東南アジア熱帯林で明らかになった炭素・水・エネルギー循環と生態系機能、及びその年々変動等に関

する新しい知見を紹介すると共に、炭素・水・エネルギー循環の広域評価をめざす研究ネットワークの今後の展開について討論を行う。熱帯林で生理生態・物質循環・フェノロジー・モデル・リモートセンシング等の研究を実施中の方からのコメントや問題提起を期待する。

共同企画者：平野高司（北大・農）

半島マレーシア熱帯雨林（パソ）におけるガス交換

\* 小杉緑子（京大・農），高梨聡（森林総研），大久保晋治郎（京大・農），松尾奈緒子（三重大・生物資源），伊藤雅之（京大・農）

ボルネオ熱帯雨林の水・炭素循環—これまでわかったこと、これからわかること

熊谷朝臣（九大・農）

タイ・メクロンおよびサケラートにおけるタワー観測

\* 前田高尚，蒲生稔，近藤裕昭，三枝信子（産総研），Samreong PANUTHAI（タイ野生動物植物保護局）

熱帯季節林の蒸発散と吸水システム

田中克典（地球環境フロンティア）

熱帯泥炭林におけるCO<sub>2</sub>収支

平野高司（北大・農）

衛星データと気象データを用いた東南アジアのNPP推定

\* 小林秀樹（海洋研究開発機構），松永恒雄（国環研）

自由集会 3月16日 10:30-12:30

会場 Room B

#### W14 侵略的外来アリ類の脅威

企画責任者：辻 和希（琉球大学農学部）

外来アリ類は体サイズが小さく、物資に随伴するなどして容易に移送されるとともに、社会性昆虫という生態的特性により、旺盛な繁殖力を示すことから極めて侵略性の高い外来生物と考えられる。特に南米原産のヒアリ *Solenopsis invicta* は、攻撃性および毒性が高く、世界的にもその生態影響および健康影響が大きな問題となっている。我が国でも既に本種は環境省・外来生物法において規制対象種である「特定外来生物」に指定されているが、実際には防除対策は皆無に等しい状況にある。既にアジア地域においては台湾や中国南部まで侵入が確認されており、日本への上陸も時間の問題とされる。北米で年間100人もの死者を出しているこの脅威的な外来生物に対して、日本の生態学者および行政はより強い危機意識を持つ必要がある。本集会では、ヒアリを含む外来アリ類の生態的特性および生態リスクに関する知識・情報の共有化を図り、今後の外来アリ類の防除・管理策について具体的議論を展開する。

The Fire Ant *Solenopsis invicta*: A Threat to the Ecology and People of Japan?

Sanford Porter (USDA-ARS)

ヒアリは、なぜ21世紀に入って環太平洋諸国へ侵入し始めたのか？

東正剛（北海道大学）

外来アリ類はなぜ侵略的となるのか？

辻和希（琉球大学）

アルゼンチンアリの侵入と生態系への影響

寺山守（東京大学）

台湾におけるヒアリの侵入影響実態

岸本年郎（自然環境研究センター）

外来アリ類の防除～検疫・分布拡大予測・駆除～

五箇公一（国立環境研究所）

自由集会 3月16日 10:30-12:30 会場 Room C  
W15 生物間相互作用における形質変化の役割：その統合的な理解を目指して  
企画責任者：内海 俊介（京大生態研），岸田 治（京大生態研）

従来、生物群集の相互作用ネットワークは「捕食-被食」関係に基づく食物網で捉えられてきた。しかし、近年の研究の蓄積によって、捕食者と被食者の関係はより複雑な様相を示すことが明らかになっている。その中核を担うのが、個体が示す形質の変化である。たとえば、捕食の危険にさらされた被食者は生存率を高めるために行動や形態を変化させるが、その結果しばしば、他種との相互作用が変わる。動物-植物の間では、植食者によって誘導された植物の構造的な変化や防御物質の増加が、植食者の密度を変化させるだけでなく、植物上に広がる動物群集の多様性にまで影響を及ぼすことが知られている。さらには、細菌やウイルスの世界でさえも形質変化を介した相互作用が存在するという。

しかし、これらの研究は、動物生態学、動植物相互作用、微生物生態学など異なる分野で個別に進められてきたため、形質変化の実態やその生態学的な意義について、分野をまたぐ統合的な理解にはほど遠い。そこで本集会では、異なる分野を対象とする研究者にそれぞれの成果と問題点をレビューしてもらい、共通点や相異点を整理する。その上で、われわれが今後取り組むべき課題や研究の方向性を提案する。本集会では、演者を京大生態研センターの若手研究者を中心に構成し、論点を明確にするため事前に議論を重ねておいた。現状の総括と将来展望についてのわれわれの提案をもとに、参加者の皆さんと活発な議論を展開したい。

演者： 岸田治（京大生態研）、中村誠宏（北大苫小牧）、三木健（京大生態研）、内海俊介（京大生態研）  
コメンテータ： 難波利幸（大阪府大）、近藤倫生（龍谷大）、大串隆之（京大生態研）

自由集会 3月16日 10:30-12:30 会場 Room D  
W16 長野県における狩猟による鳥獣の捕獲  
企画責任者：高橋聖生（信大・生物）

シカやイノシシなどの有害鳥獣の増加による農林業の被害が増加し、また一方で地域的に生息数の減少が指摘されている鳥獣もいる。こうした背景の中で生態系の保全と狩猟のバランスの重要性はますます高くなってきていると考えられる。狩猟に関する法令は「鳥獣の保護ならびに狩猟の適正化に関する法律」で定められ、鳥獣の捕獲数などは国や県からの統計によって知ることができる。例えば長野県ではここ数年はシカは年間数千頭ずつ捕獲されている。しかし、日本国内の狩猟免許保持者は十数万人いるにも関わらず、ほとんどの人は狩猟の制度、技術はもちろん場合によっては日本国内で狩猟が行われていることすら知られていないことがある。特に捕獲技術や獲物の処理の実際については知識はほとんどないのが現状である。本集会では長野県における狩猟の実際の様子や技術、狩猟者の狩猟に対する考え方などを3シーズンにわたり取材し体験したことを現場のレベルから紹介する。鳥獣の捕獲方法は銃器、罠、網による捕獲の3つがあり、これを対象の鳥獣や時期、周囲の環境などに合わせて使い分ける。捕獲技術は各狩猟者が個人で長年をかけて培ってきた技術なので他者には秘密にしている部分が多く、そのため体系化されていないが、その例を狩猟者から具体的に聞き取ったことや現地での写真を多用して紹介する。また冬に行われる通常の狩猟と夏季に行われる有害鳥獣駆除、個体数調整について一日の動きを具体的に紹介する。

最近数十年の長野県における狩猟、有害鳥獣駆除について  
布野兼一（長野県猟友会）

長野県における鳥獣の捕獲の実際  
高橋聖生（信大・生物）

自由集会 3月16日 10:30-12:30 会場 Room E  
W17 希少植物の絶滅リスクに影響する遺伝的要因-近交弱勢・自家不和合性・交雑の影響を探る-  
企画責任者：石田清（森林総研）

我が国の希少植物の絶滅危険性は個体数とその減少率に基づいて判定されているが、遺伝的要因の影響は考慮されていない。しかしながら個体数や個体密度が減少した植物の集団では自家不和合性遺伝子の多様性減少や近親交配の増加、他種との交雑が起こりやすく、こうした遺伝的要因によって繁殖量や生存率が減少し、個体数の減少に拍車がかかる可能性が高い。希少植物の集団を効果的・長期的に保全管理していくためには、このような遺伝的要因を種ごとに明らかにしていく必要がある。また、保全生物学の分野では、こうした遺伝的要因による集団の衰退を回避するための増殖や移植などの管理法も考案されているが、そのなかには遺伝的攪乱や異系交配弱勢を起す可能性のあるものがあり、最適な保全管理を行うためにはこのような弊害を予測することも重要である。以上の視点にたち、本集会では絶滅危惧種の繁殖や生存、個体群動態に及ぼす自家不和合性・近親交配・交雑・異系交配弱勢などの遺伝的要因の影響を報告する

とともに、遺伝的管理の可能性について議論したい。

絶滅危惧種マメナシにおける自家不和合性遺伝子の多様性が種子生産に及ぼす影響

\* 加藤珠理, 今井淳, 西岡理絵, 向井謙 (岐阜大・応用生物)

絶滅危惧種シデコブシにおける交配様式と後期近交弱勢

\* 玉木一郎 (名大院生命農), 石田清 (森林総研), 鈴木節子, 戸丸信弘 (名大院生命農)

種間交雑による繁殖干渉? : 希少樹種アポイカンバの種子生産に対するダケカンバの影響

\* 永光輝義, 河原孝行, 金指あや子 (森林総研)

希少木本種における遺伝的荷重と異系交配弱勢

\* 石田清, 平山貴美子, 菊地賢, 金指あや子 (森林総研)

自由集会 3月16日 10:30-12:30 会場 Room F

W18 sexual conflict や配偶者選択がもたらす種分化～最近の動向～

企画責任者: 木村幹子 (北大・環境科学), 安元暁子 (九大・理・生物)

配偶者選択による生殖隔離は、同所的種分化、隔離の強化、繁殖形質置換などの種分化研究の未解決テーマに解決の糸口を与え得るものとして、古くから注目されてきた。その中心となる問題は、分化の過程にある集団を再び均一化させるように働く遺伝的交流がある中で、いかに集団の差異を維持・促進するか、ということにある。同類交配を促進する配偶者選択は、どのようにして生じ、どのようにしてこの均一化させる力に対抗しているのだろうか。

最近になって、これまで配偶者選択の範疇外とされてきた交配後の過程にも、**cryptic female choice** と呼ばれる隠蔽的な配偶者 (配偶子) 選択が生じていることが明らかになった。この交配後-接合前の生殖隔離では、配偶者選択だけではなく性的対立 (sexual conflict) との関わりも示唆されているが、性的対立は生殖隔離の成立にはどのように寄与しているのだろうか?

また、環境への適応と配偶者選択が多面発現的に生じるときに種分化が促進されるという、生態的種分化との関係の中での配偶者選択の重要性も注目されている。

本自由集会では、**sexual conflict** がもたらす生殖隔離や、環境への適応と配偶者選択の関連がもたらす種分化について、最近の動向を整理し、理論研究・実証研究の両側面から今後の展望を議論したいと思う。

コメンテータ: 浅見崇比呂 (信州大・理)

Sexual conflict による遺伝的多様化: その帰結の一つとして

林岳彦 (産総研)

生態的な環境への適応と配偶者選択がもたらす種分化

伊藤洋 (東大・総合文化)

性的対立がもたらす交尾前集団間生殖隔離: サッポロフキバツタの事例

秋元信一 (北大・農)

自由集会 3月16日 10:30-12:30 会場 Room G

W19 植物生態学のための地形の扱い方ー木本植物の生活史と地形のスケールー

企画責任者: 若松伸彦 (東京農大・地域環境), 川西基博 (立正大・ORC)

木本植物は種子の発芽から成木、そして枯死するまでの生活史の中で、時間、空間スケールの異なる様々な現象の影響を受ける。発芽直後の実生や稚樹の段階では、その生育は微細なものから大きなものまで様々な現象の影響を受けるが、成長するにしたがって小さなスケールの現象よりも大きなスケールの現象によって主に影響を受けることとなる。同じ立地であっても、生活史のどの段階にあるかによって生育規制要因が異なっており、なぜそこにその植物種が分布するのかを理解するためには、その立地がもつ環境要因をスケールごとに整理して理解しなければならない。特に、植物の生育基盤である地形の適切な観察、記載を行い、同じ空間内に存在する様々なスケールの地形を複合的に整理することが必要不可欠である。

当自由集会では、植物の生活史と地形スケールとの関係に着目した研究を紹介し、生活史の各段階における環境要因が、どのスケールの地形現象によってもたらされるのか、またそれを統括して理解していくにはどのような点に注意を払うべきかを検討する。



栗駒山オオシラビソ小林分の更新パターンと分布規定要因

若松伸彦（東京農大・地域環境）

絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの立地環境

永松大（鳥取大・地域）

樹木の定着および成長と立地環境の空間スケール — 照葉樹林と人工林の事例から —

伊藤哲（宮崎大・農）

## 参加登録者一覧

発表	懇	名	前	所 属	発表	懇	名	前	所 属
P2-079		相川	真一	森林総研	E2-07		安東	義乃	京大生態研セ
P1-097		相川	慎一郎	神戸大学理学研究科	P2-086	○	飯島	勇人	北大院農
P1-160		相崎	香帆里	奈良女子大・理			飯田	滋生	森林総研北支
P3-299		相澤	章仁	千葉大・自然科学	A2-10	○	飯田	知彦	広島希少鳥類研究会
P3-099	○	饗庭	正寛	東北大院・生命科学	P3-236	○	飯田	碧	東大海洋研
		青井	俊樹	岩手大学農学部	P3-291		五十嵐	聖貴	北海道環境研
	○	青木	優和	筑波大・下田臨海	P2-019	○	五十嵐	知宏	東北大学大学院農学研究科
P1-282		赤石	大輔	金沢大学	P2-103		五十嵐	八枝子	北方圏古環境研究室
T08-2		赤木	右	九州大学理学研究院地惑	P3-154	○	井川	拓也	北海道大・院・水産科学
P3-199	○	赤坂	宗光	(独)国立環境研究所	P3-191		井口	恵一郎	中央水研
P3-272		明石	隆宏	九州工業大学大学院	P2-077		池田	圭吾	信州大学院工学系研究科
P2-287		阿方	智子	京都大学 農学部	P2-099		池田	重人	森林総合研究所
		赤嶺	大有	岐阜大学 農学研究科	P1-178	○	池田	隆美	北大院地球環境
F2-10		赤嶺	真由美	滋賀県立大	S03-2	○	池田	透	北大・院文・地域システム
P3-210	○	秋田	鉄也	横浜国立大学環境情報	P3-171	○	池田	啓	京都大人間・環境学研究科
		秋山	耕治	京大・院・農	P2-238	○	池田	浩明	農業環境技術研究所
P2-308		秋山	克	幌延地圏環境研究所	P3-261	○	池田	紘士	東大院・農学生命
P2-181	○	秋山	吉寛	北大地球環境	S09-1	○	池田	啓	兵庫県立大学
P2-243		秋山	葉	東京農工大学		○	池田	正人	葛西臨海水族園
P1-133		揚妻	直樹	北大 FSC 苫小牧研究林		○	井坂	友一	信州大・理・生物
		浅枝	隆	埼玉大学理工学研究科	S14-4	○	井鷲	裕司	京都大学大学院農学研究科
P3-242	○	浅野	由佳理	北海道大学水産学部 4 年			伊澤	雅子	琉球大学理学部
P1-156		浅原	宏子	弘前大・院・農学生命科学	P1-242		石井	潤	東京大学農学生命科学
	○	浅見	崇比呂	信州大・理・生物	P3-283		石井	弘明	神戸大・農
P1-254		味岡	ゆい	中部大大学院応生	C2-11	○	石井	宏昌	横浜国大・院・環境情報
P1-050		芦澤	和也	明治大学大学院農学研究科	P3-003		石井	義朗	岡山大院・環境学研究科
		足立	直樹	株) レスポンスアビリティ	P1-020		石岡	亮	北教大・札幌・生物
H2-06	○	安立	美奈子	農環研	P2-271	○	石川	尚人	京大・生態研
P2-219	○	阿部	豪	北大・院・文	E1-03		石川	恵	九大・理・生態研
P1-121	○	安部	淳	岐阜大・応用生物	P2-084	○	石川	幸男	専修大学北海道短期大学
P2-082		阿部	聖哉	電力中央研究所	P1-233	○	石川	真一	群馬大学社会情報学部
P2-248	○	阿部	俊夫	森林総研・北海道	P3-084	○	石崎	智美	北大・院・環境科学
E2-09	○	阿部	晴恵	日本モンキーセンター		○	石田	厚	森林総合研究所
P1-287	○	安部倉	完	京大・理・動物生態		○	石田	清	森林総合研究所
A1-06	○	安部	哲人	森林総研	A2-12		石田	健	東京大学
P1-173	○	天野	達也	農環研・生物多様性	C1-06	○	石田	真也	新潟大院・自然科学
I2-05	○	雨宮	隆	横国大・環境情報	P1-225	○	石田	惣	大阪市立自然史博物館
P1-135	○	綾部	慈子	名大・森林保護	P2-087	○	石塚	航	東大・演習林
P3-180	○	新垣	誠司	琉球大学理工学研究科	T09-3	○	石濱	史子	国立環境研究所
P2-040	○	荒金	恵太	東京大学大学院	P2-256	○	石原	正嗣	信州大院
P1-049	○	荒木	希和子	北大・院・環境科学		○	石原	道博	大阪府大院・理・生物科学
C1-15		荒木	悟	島根大・汽水域研究セ	P1-258	○	石原	勇輝	新潟大学農学部
P1-146		荒木	奈津子	北大・院・環境科学	P1-277	○	石間	妙子	新潟大・院
P1-111		安良城	百絵	北大院・水産		○	石若	礼子	九州大・農・家畜飼料
P1-141	○	安房田	智司	北大 FSC	P1-004		出本	和也	東大・新領域
	○	安溪	貴子	山口大医非常勤	H2-09	○	伊勢	武史	ハーバード大学生物学部
	○	安溪	遊地	山口県立大		○	伊勢	紀	株式会社地域環境計画
P2-076	○	安藤	真理子	東北大・農	G2-12	○	井磧	直行	九大・理

発表	懇 名 前	所 属	発表	懇 名 前	所 属
P2-037	磯崎 由行	広島大学国際協力研究科		今井 淳	岐阜大学農学研究科
P1-302	○ 磯村 尚子	琉球大学	P1-099	○ 今治 安弥	東北大・院・農
P3-098	○ 井田 崇	北大・院・環境科学	P3-014	今田 省吾	鳥取大学乾燥地研
P2-043	井田 秀行	信州大・志賀自然教育研	P2-180	今津 健志	明大・院・農
P3-075	板垣 智之	東北大・院・生命	P1-276	今西 亜友美	京都大学地球環境学堂
	○ 猪谷 信忠	世羅郡水田農業推進協議会	P3-304	今西 純一	京都大学地球環境学堂
	○ 一條 みろ	屋久島環境文化研修財団	P1-269	今村 彰生	京都学園大学バイオ環境
	市野 隆雄	信州大学理学部生物科学科	P1-299	伊豫部 勉	北九市立大・国環工
P3-100	○ 市橋 隆自	東大・院・理・日光植物園	P1-122	○ 入江 菫子	筑波大・生命環境
	市原 優	森林総研東北	P3-228	○ 入江 貴博	九大・理・生物
P1-054	○ 市原 実	岐阜大院・連合農学	S04-4	○ 入山 義久	雪印種苗(株)
P2-252	○ 井出 功一	信州大院	P1-056	岩泉 正和	森林総研林育セ
P1-159	○ 井出 純哉	京大院・農・昆虫生態	S02-1	○ 巖佐 庸	九州大学大学院理学研究院
P1-177	井戸 浩之	愛媛県立衛生環境研究所	P2-116	岩崎 藍子	東京大学海洋研究所
P1-266	○ 伊藤 愛	新潟大・院・自然科学		岩崎 敬二	奈良大学教養部
P3-093	○ 伊藤 愛	愛媛大・農学研究科	P3-253	○ 岩崎 洋樹	筑波大・院・生命環境
H2-05	○ 伊藤 昭彦	国立環境研究所		岩崎 雄一	横国大・環境情報
P1-096	○ 伊東 明	大阪市大・院・理	P1-091	岩崎(葉田野) 郁	岡山県生物科学総合研究所
P3-157	○ 伊藤 桂	JST 高知 / 高知大・農	P2-035	○ 岩崎 亘典	農環所
P1-153	○ 伊藤 兼敏	首都大・院・理工・生命	P3-206	○ 岩田 繁英	静岡大学
P3-106	伊藤 聖	東北大 院 生命	P1-298	○ 岩田 卓也	静岡大学農学研究科
	○ 伊藤 公一	鳥取大学農学部	P2-002	岩田 達則	神戸大学
A2-01	○ 伊藤 浩二	東大院・農	T11-5	○ 岩田 智也	山梨大学工学部
P3-016	伊藤 哲	宮崎大学農学部	P2-253		
P1-290	伊藤 聡	山形県環境科学研究センタ	P3-011	岩永 史子	鳥取大学農学部
P2-021	伊藤 信一	静岡大学教育学研究科	P3-136	岩淵 翼	東北大学生命化学研究科
P1-175	伊藤 健彦	鳥取大・乾燥地研究セ		○ 上田 恵介	立教大学・理学部
P3-305	伊藤 千恵	横浜国大・院・環境情報	P3-131	上田 紘司	山形大農
P3-268	○ 伊東 宏樹	森林総研多摩	P3-202	○ 上田 昇平	信大院・総工・山岳
	○ 伊藤 洋	東大・総合文化	P2-268	上田 実希	京都大学農学研究科
	○ 伊藤 正仁	森林総研北海道・学振 PD	P3-263	○ 上野 真義	森林総研
P2-281	伊藤 雅之	京都大学農学研究科	D2-04	○ 上野 裕介	北大院・水産
P1-179	○ 伊藤 元裕	北海道大学水産科学院	I2-10	○ 上原 隆司	九大・理
T04-1	○ 伊藤 元己	東大・院・総合文化	P2-267	上原 佳敏	富山大・理・生物圏
S04-6	○ 伊東 啓太郎	九州工業大学工学部	P1-237	植松 裕太	神戸大学発達科学部
P1-142	稲垣 絢子	奈良女・人間文化・情報		○ 宇梶 徳史	北大 低温研
P3-123	稲田 哲治	愛媛県林業技術センター	P2-254	潮 雅之	京大・生態学研究センター
B1-12	○ 稲継 理恵		P1-226	丑丸 敦史	神戸大学
P2-172	稲富 佳洋	北海道環境研	G2-01	内井 喜美子	総合地球環境学研究所
P1-283	稲留 陽尉	鹿大・水産	P2-258	内田 雅己	国立極地研究所
P1-220	○ 稲本 雄太	近畿大学農学部	P3-063	宇都木 玄	森林総研北海道支所
P3-243	井上 栄壮	信州大・繊維	P2-202	○ 宇津野 宏樹	信州大・理・生物
P1-076	井上 貴文	九州大学大学院	T20-2	○ 宇都宮 大輔	金沢大学里山プロジェクト
P3-023	井上 智美	(独) 国立環境研究所	P3-119	内海 俊介	京大生態学研究センター
P2-211	井上 真紀	東大・農・保全	P2-167	宇野 裕之	道環境科学研究センター
	○ 今井 絢子	東大・緑地植物実験所	P3-044	○ 梅木 清	千葉大・園芸
P3-012	今井 俊輔	名古屋大院・生命農学	P3-302	梅野 岳	九工大・建社
T15-2	今井 伸夫	京大・生態学研究セ	T14-1	梅原 徹	(特) 大阪自然史センター
P1-039			P2-274	梅村 光俊	名古屋大学農学部
P2-246	今井 伸岳	筑波大環境科学	P1-059	○ 浦田 悦子	横浜国立大学院

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P1-070	浦野 翔吾	秋田県立大学	P2-024	○ 大西 義浩	鹿児島大連合農学
H2-07	○ 浦野 忠朗	筑波大学大学院	B2-09	○ 大西 智佳	岡山大・院・環境
G2-02	○ 浦部 美佐子	滋賀県立大・環境科学		大沼 あゆみ	慶應義塾大学経済学部
	○ 占部 城太郎	東北大学生命科学	E2-03	大野 啓一	千葉県立中央博物館
P2-215	○ 江草 佐和子	兵庫県森林動物研究セ	P1-295	○ 大野 雅彦	静岡大学農学研究科
S11-1	○ 江口 和洋	九大大学院理学研究院	G1-02	大野 啓一	横浜国大大学院環境情報
	江崎 保男	兵庫県立大学	P2-174	○ 大庭 伸也	岡山大院・環境・昆虫生態
T06-2			T03-4	大場 信義	横須賀市自然・人文博物館
P2-008	○ 江副 日出夫	大阪府大・理・生物	P2-276	○ 大場 真	環境研アジア自然共生研G
P1-297	江戸 謙顕	文化庁・記念物課		大橋 一晴	筑波大・生命環境科学
	○ 榎木 勉	九州大学演習林		○ 大橋 春香	東京農工大・植生管理学
P1-281	榎本 大輔	明治大・農	P1-025	大橋 賢	明治大・院・農
E1-04	恵良 拓哉	千葉大・自然科学	H2-11	○ 大橋 瑞江	兵庫県立大学環境人間学部
	○ 遠藤 彰	立命館大・理工		大島 麻里	奈良女子大・院・人間文化
P1-213	○ 遠藤 真太郎	信州大院・理・生物	P1-192	○ 大秦 正揚	京大農・昆虫生態
P1-181	○ 遠藤 千尋	京大院・理・動物生態		○ 大原 雅	北大・院・地球環境
P1-164	遠藤 菜緒子	兵庫県立人と自然の博物館	P3-211	○ 大原 一華	奈良女人間文化研究科
P1-189	○ 遠藤 暢	京大院・農・森林生態	P2-242	○ 大東 健太郎	農業環境技術研究所
	大塚 俊之	茨城大学理学部	A1-10	○ 大平 裕	福岡県温防セ
	○ 及川 信	九大・農・水実	F2-14	○ 大森 亮介	九州大学数理生物学研究室
B1-01	及川 真平	京工繊大・生物資源フ	T03-3	大森 雄治	横須賀市自然・人文博物館
P1-286	大石 麻美子	京都大学 生態研センター	P2-127	○ 大脇 淳	金沢大学環日本海環研セ
I2-08	大石 優	上智大・地球環境	P2-026	○ 岡 怜奈	新潟大院・自然科学
P3-286	大石 麻美	新潟大・院・自然科学	B1-14	○ 岡崎 純子	大阪教育大学教員養成課程
	○ 大串 隆之	京都大学生態研	P3-037	○ 岡島 有規	東大院・理
	大窪 久美子	信州大学農学部	P1-176	岡田 賢祐	岡大院・環境・進化生態
P1-008	大久保 悟	東大院・農		岡田 真樹	農工大・農
A1-11	○ 大久保 奈弥	東京工業大学	T19-1	岡田 直紀	京都大学農学研究科
P2-052	○ 大黒 俊哉	東京大学	F1-11	○ 岡 奈理子	山階鳥類研究所
S03-4	○ 大河内 勇	森林総研	P3-148	○ 岡部 貴美子	森林総合研究所
P1-267	○ 大坂 龍	千葉大・応動昆	P2-003	○ 岡本 朋子	京大院 人環
G2-05	大沢 晃	京大農	P1-293	岡本 実希	東京大学・農学生命科学
	大澤 啓志	慶應義塾大学総合政策学部	P2-205	○ 岡本 八寿祐	上越教育大学・生物
P3-176	○ 大澤 剛士	神戸大・院	P3-200	○ 岡安 智生	東大・農
P2-140	大澤 正嗣	山梨森研	P3-271	小川 安紀子	京大・農
S15-2	大住 克博	森林総合研究所関西支所	H2-03	小川 一治	名大・生命農学
G2-01	大園 享司	京都大学大学院農学研究科	P2-066	○ 沖 慎司	秋田県立大学生物資源科学
P3-183	太田 藍乃	横浜国立大学環境情報学府	P1-013	沖 宗一郎	広島大学総合科学部
P1-115	○ 太田 和孝	大阪市立大学理学研究科	T10-3		
	太田 謙	岡山理大院数理・環境	G1-03	○ 沖津 進	千葉大学園芸学研究科
P3-129	○ 太田 直友	阿南高専・建設システム工	P2-041	玉 基英	京都大学大学院 工学科
P3-293	○ 太田 陽子	北九州市立自・歴博研究員	P2-239	○ 奥川 裕子	広島大・総科
P3-223	○ 大竹 洋平	東大・情報理工	P2-110	奥崎 穰	京都大学動物生態学研究室
	○ 大館 智志	北大低温研	P2-126	奥田 圭	岡山理大・総情・生地
P1-060	大谷 雅人	森林総研	T01-1		
P1-098	大谷 達也	森林総研九州	E1-05	○ 奥田 武弘	北海道大学環境科学院
P2-028	大塚 一紀	滋賀県立大学大学院	P2-121	○ 奥田 昇	京大生態研センター
F1-01	○ 大塚 公雄	東医歯大・生材研	P3-005	○ 小口 理一	東京大学理学系研究科
T12-2	大手 信人	東京大学・農	P1-195	○ 奥野 正樹	京大院・農・昆虫生態
D1-15	○ 大西 尚樹	森林総研・関西	P1-093	奥原 勲	信州大学院・工学系研究科
			P2-061	○ 小熊 宏之	国立環境研究所

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P3-280	○ 奥村 栄朗	(独) 森林総研・四国	S07-7	加藤 朗子	首都大・理工
P3-117	○ 奥村 みほ子	新潟大 自然研		加藤 珠理	岐阜大学応用生物科学部
P2-004	○ 奥山 雄大	京都大院人間・環境学	P3-142	○ 加藤 俊英	東大・広域システム
S06-1	○ 小椋 純一	京都精華大学人文学部	T18-2	加藤 知道	地球環境フロンティア
P1-062	小椋 剛	大阪市立大学大学院	P3-214	加藤 直人	横国大・環情
P3-092	小黒 芳生	東北大・院・生命	P1-231	○ 加藤 倫之	東大・農・生物多様性
P1-265	○ 長 雄一	北海道環境研	S07-2	加藤 英寿	首都大学東京 牧野標本館
P1-112	尾崎 健太郎	北大水産学部	E1-09	加藤 元海	京都大学
	○ 尾崎 有紀	奈良女子大・院・人間文化	P1-064	○ 加藤 優希	北大・院・環境科学
S09-4	○ 尾崎 清明	山階鳥類研究所	C1-04	加藤 ゆき恵	北大・院・農
A2-08	○ 尾崎 研一	森林総合研究所	P2-162	加藤 一隆	森総研林育セ
P3-025	○ 長田 典之	東北大院・生命科学	P2-112	○ 加藤 聡史	東北大・院・生命科学
P1-051	尾関 雅章	長野県環境保全研究所	E1-08	加藤 義和	京大・院・理
	小野 清美	北大・低温研	T09-5 T01-6	角谷 拓	東大・農学生命科学
T15-4 P1-229	小野口 剛	京大・生態研センター	P2-111	○ 金尾 滋史	多賀町立博／滋賀県立大院
H2-12	小野 賢二	森林総研東北		金指 あや子	森総研
P3-282	小野寺 賢介	北海道林試	P1-253	○ 兼子 伸吾	広大・院・国際
	小山田 智彰	岩手県環境保健	H2-13	○ 金子 信博	横浜国大環境情報
	○ 恩地 実	甲南高校	A1-01	金子 有子	琵琶湖環境科学研究セ
P2-175	加賀田 秀樹	京大・生態学研究センター	C1-05	○ 鹿野 雄一	九大工院
	加賀谷 隆	東大・農学生命・森林動物	P1-021	○ 加部 祐介	宇都宮大・雑草セ
P3-164	柿岡 諒	京都大・院・理	P3-071	壁谷 大介	森総研・木曾
P3-281	○ 柿沼 薫	東京大学大学院	P2-275	○ 鎌内 宏光	京大・フィールドセンター
B2-01	○ 梶 光一	東京農工大・農	B1-04	鎌倉 真依	奈良女大・院・人間文化
	○ 加治 孝洋	筑波大学生物学類		○ 鎌田 直人	東大・農・演習林
	○ 梶田 忠	千葉大・院・理		○ 鎌田 磨人	徳島大・工・建設
	梶本 卓也	森林総研九州		上赤 博文	佐賀自然史研究会
P1-288	梶原 信輔	熊本大学大学院自然科学科	P2-073	神岡 新也	愛媛大・農学研究科
	○ 梶原 毅	岡山大学環境学研究所	P2-232	○ 上條 隆志	筑波大生命環境
S13-1	○ 粕谷 英一	九大・理・生物	P2-045	○ 紙谷 智彦	新潟大・院・自然科学
P1-058	粕谷 絵美子	明治大学大学院農学研究科		○ 上村 了美	瀬戸内海区水産研究所
P2-198	○ 嘉田 修平	京大院・農・昆虫生態学		神谷 要	中海水鳥国際交流基金財団
S15-4	○ 嘉田 良平	横浜国立大学	P3-052	神山 千穂	東北大学・院・生命科学
P3-122	○ 片岡 博行	津黒いきものふれあいの里	P2-259	○ 亀田 佳代子	滋賀県立琵琶湖博物館
P3-276	片岡 美和	京大・院・ASAFAS	P3-069	○ 亀山 慶晃	北大・地球環境
P3-127	○ 片岡 陽介	信州大・理・生物		○ 加茂 将史	産総研・CRM
P2-025	○ 片桐 知之	信州大学理学部生物科学科	E2-11	○ 鴨井 環	愛媛大・農
T13-4	片野 修	中央水産研究所	P3-220	○ 萱島 隆一	九大・理
P3-252	片野田 裕亮	鹿児島大学 理学部	S04-3	萱場 祐一	自然共生研究センター
P3-020	片畑 伸一郎	岐阜大学 応用生物科学部	P3-004	○ 香山 雅純	森林総合研究所九州支所
P3-138	片淵 正紀	東北大・生命	P3-085	○ 唐木 貴行	北海道大学・農
P2-104	片村 文崇	京都府大農	P2-249	唐沢 重考	森総研・九州・PD
P1-202	片山 潤史	京都大学昆虫生態	S13-4	○ 狩野 賢司	東京学芸大・生物
P1-169	○ 片山 直樹	東大・農	P2-143	○ 苅部 基一	京大・生態研
P1-196	○ 片山 昇	京大・生態研セ	S07-6	苅部 治紀	神奈川県博
S07-8	○ 可知 直毅	首都大院・理工・生命科学	G1-11	○ 河合 潮	京大 理院
P3-245	勝川 木綿	東大・海洋研	E1-12	○ 河井 崇	九大院・理・生態研
P1-006	柿木 里美	静岡大・理・生	P3-103	川合 由加	北大・環境科学
P1-151	○ 香月 雅子	岡大・農	A1-04	川上 清久	秋田県立大院生物資源科学



発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
S07-4	川上 和人	森林総研	P2-108	○ 北村 智之	東大・農・生物多様性
P3-240	川喜多 愛	大阪府大院・理	P1-193	○ 北村 亘	東大・農・生物多様性
S12-5	川北 篤	京大・院・人環	G2-13	北村 系子	森林総研北海道
P3-209	川口 喬	立命館大学大学院		○ 北本 悠子	鳥取大・農
P3-113	川口 達也	横浜国大・環境情報		北山 兼弘	京大生態研センター
P1-078	川口 英之	島根大・生物資源	P3-230	衣浦 晴生	森林総研関西
S04-2	○ 河口 洋一	九州大学工学研究院	P3-237	儀間 朝宜	琉球大学・農・院
P1-170	○ 川口 利奈	筑波大・生命環境科学	P1-102	木村 一也	金沢大・環日本海域環境セ
P1-066	川越 哲博	神戸大・理・生物	P2-133	木村 太一	宇都宮大学・農
A2-06	○ 川崎 菜実	東京大学・農・生物多様性	P2-168	○ 木村 幹子	北大院・環境科学
	川路 則友	森林総合研究所東北支所	P1-252	○ 木村 雄太郎	宇都宮大学農学部
F2-12	○ 川尻 舞子	新潟大・院・自然科学	P2-097	○ 木村 勝彦	福島大・理工
P2-231	○ 川田 清和	農業環境技術研究所	T02-3	吉良(岡) 恵利佳	東大・院・理
S12-1	○ 河田 雅圭	東北大生命科学		桐谷 圭治	なし
P1-217	○ 川津 一隆	京大院農昆虫生態		草刈 秀紀	WWF ジャパン
P1-132	川名 国男	一般	P2-173	楠本 華織	北大院・農
P1-028	川西 基博	立正大 ORC	P1-080	○ 楠本 聞太郎	九州大学生資環
D2-07	川野 浩一	高知大院・農	P2-056	○ 楠本 良延	(独) 農業環境技術研究所
P2-105	河野 樹一郎	京都府立大学		沓掛 展之	理研・脳科学
P1-224	○ 河野 円樹	東大・院・新領域	T11-1	○ 工藤 岳	北大・地球環境
G2-04	○ 川之辺 素一	長野県水産試験場諏訪支場	S12-4	工藤 洋	神戸大・理・生物
	河原 孝行	森林総研北海道		○ 國井 秀伸	島根大汽水域研究センター
P3-217	○ 川平 清香	総合研究大学院大学	P2-039	国武 陽子	国立環境研究所・侵入生物
T16-1	河村 功一	三重大学生物資源学部	P1-190	○ 久保 拓弥	北大・地球環境
B1-08	河村 耕史	INRA	P3-182	久保 満佐子	山梨県森林総合研究所
P1-055	河原崎 里子	情報システム融合センター		○ 久保田 聡	広島大・理
P1-216	神田 紘美	茨城大学理学部	P3-068	○ 久保田 涉誠	北大・院・環境科学
P2-036	木川 紗由美	信州大学農学部		窪山 恵美	横浜国大・院・環境情報
H2-02	○ 菊沢 喜八郎	石川県立大	S05-3	熊谷 朝臣	九州大学演習林
C1-11	○ 菊池 亜希良	広島大・院・国際協力	P2-145	○ 熊谷 直喜	千葉大院理学
	○ 菊池 多賀夫	なし	P1-208	○ 熊野 了州	沖縄病害虫防除セ
P2-031	菊地 哲理	明治大・院・農	P1-248	久米 篤	富山大・理・生物圏
	菊池 佑介	島根大学生物資源	S05-2	久米 朋宣	九州大学農学研究院
P1-210	菊地 友則	琉球大学農学部	P1-063	久山 尊息	大阪市立大学
	木佐貫 博光	三重大院生資	P3-137	倉地 耕平	京大・生態学研究センター
T05-2	○ 岸 茂樹	京大・生態研	P1-238	○ 倉本 宣	明治大学農学部
F1-03				栗田 英治	農村工学研究所
D1-11	○ 岸田 治	京大生態研センター	E2-01	○ 栗元 美代子	九州大学・天草臨海
P2-130	○ 岸田 竜	鹿児島大(連合農)	P3-166	○ 栗山 武夫	東邦大学・理・生物
G2-07	岸本 年郎	自然環境研究センター	P1-108	○ 栗和田 隆	九州大・理学部・生態
P3-290	○ 岸本 康誉	兵庫県森林動物研究セ	P2-170	黒岩 志穂里	天敵昆虫学教室
P2-263	岸本(莫) 文紅	農業環境技術研究所	P2-160	○ 黒江 美紗子	東大・農・生物多様性
P2-283	○ 喜多 智	京大生態研セ	E2-08	○ 黒川 紘子	東北大・生命
P1-061	北岡 和彦	鹿児島大・農	P2-096	黒河内 寛之	東大院・農
F1-14	○ 北出 理	茨城大学理学部	D1-12	○ 黒田 啓行	水研セ・遠洋水研
P3-257	北西 滋	北大・地球環境		○ 黒田 悠希	東大院・理・日光植物園
P2-221	北野 聡	長野環保研	P1-094	小池 繁幸	信州大学院・工学系研究科
	北橋 倫	熊本大・理		○ 小池 裕子	九大院比文
P3-167	北村 淳一	京大・理・動物	P1-166	小池 伸介	東京農工大・連大
P2-016	○ 北村 俊平	立教大学理学部	S03-6	○ 小池 文人	横浜国大・環境情報



発表	懇 名 前	所 属	発表	懇 名 前	所 属
F2-03	○ 小泉 逸郎	北大・地球環境	P1-206	○ 小林 まや	首都大・院・理工・生命
P2-266	小泉 晋	筑波大・院・生命環境	P2-060	○ 小林 慶子	横浜国立大・院・環境情報
P2-088	○ 小出 大	横浜国大・院・環境情報	C2-08	小林 頼太	東大・農・生物多様性
G1-08	瀬瀬 涉	応用地質(株)	P1-052	小林 幹夫	宇都宮大学農学部森林
T12-5	高津 文人	独) 科学技術振興機構	D2-14	○ 小平 真佐夫	知床財団
P2-141	合田 幸子	京都大・生態研センター	P3-185	○ 小松 貴	信州大学大学院
P1-086	幸田 良介	京大・生態研	S05-4	小松 光	九州大学福岡演習林
H2-14	河内 香織	埼玉大学大学院	P2-080	小南 陽亮	静岡大・教育
T11-2 P1-007	甲山 隆司	北大地球環境	P3-161	小宮 竹史	京都大・院理・動物生態
P3-175	○ 甲山 哲生	北大・理・自然史	P2-034	小柳 知代	東大院農学生命科学研究科
P2-229	○ 郡 麻里	国立環境研	P3-001	○ 小山 耕平	石川県立大学
S03-5	五箇 公一	国立環境研	P3-040	小山 晋平	京大森林水文
P1-291	古賀 達朗	神戸大学	P3-010	小山 里奈	京大・情報
P2-115	○ 古賀 庸憲	和歌山大・教育・生物	P3-297	○ 近藤 慶一	名城大学環境動物学研究室
P2-184	○ 小金澤 正昭	宇都宮大学	P1-043	近藤 健太	龍大・理工
S06-6	○ 小串 重治	徳島大・院・工	P3-289	近藤 順治	岡大・院・環境
P3-145	小暮 慎一郎	北大・環境科学院		近藤 高貴	大阪教育大学
P1-187	小坂井 千夏	東京農工・院・連合農		近藤 万里	島根大学動物生態学研究室
P1-109	越田 智恵子	自然環境研究センター	E1-10	○ 近藤 倫生	龍谷大学理工学部
P2-185	○ 小島 瑛介	北大・院・文	P1-204	○ 近藤 勇介	岐阜大院・昆虫生態
	○ 小島 寛	北方生態環境研究学房	P2-137	近藤 裕亮	龍谷大学理工学部
	○ 五嶋 聖治	北大院水産		紺野 康夫	帯広畜産大学
T11-4	小島 久弥	北大・低温研		三枝 信子	産業技術総合研究所
	○ 小島 裕美	岡山理科大院・総情・生地	P3-285	齊藤 修	早稲田大学高等研究所
P1-186	○ 小島 涉	東大・農・生物多様性	P3-066	齊藤 哲	森林総研
I2-04	小嶋 雄太	横浜国立大学大学院	E1-14	齋藤 星耕	京大院・農・森林生態
S01-3	五條堀 孝	国立遺伝学研究所		○ 齋藤 隆	北大フィールド科学センタ
D1-13	○ 小関 右介	中央水研	B1-02	齋藤 隆実	東大・院・理・生物科学
S03-7 T17-2	小谷 浩示	国際大学	P2-064	齋藤 達也	北大院・環境科学院
P2-069	小谷 二郎	石川県林試	P1-084	齋藤 智之	森林総研木曾
	○ 児玉 直美	総合地球環境学研究所	P3-254	齋藤 歩希	茨城大学理学部
S11-5	○ 小寺 祐二	長崎県農林部農政課	A2-04	○ 齋藤 昌幸	横国大・環境情報
P2-091	後藤 彩	信州大学院・工学系研究科	P3-060	齊藤 わか	京大農学部森林生態
P3-163	後藤 今日子	信州大学理学部生物科学科	P2-262	齋藤 琢	岐阜大・流域圏
P1-095	○ 後藤 龍太郎	京都大学 人間・環境学	P1-155	齊藤 仁咲	弘前大・院・農学生命科学
P1-011	後藤 亮太	北教大・札幌・生物	P3-213	○ 佐伯 晃一	九州大 数理
P2-013	小沼 明弘	農業環境技術研究所	S15-3	○ 酒井 暁子	横浜国大 環境情報
	木庭 啓介	農工大・共科技院	D1-03	○ 酒井 一彦	琉球大学・瀬底実験所
F2-06	小林 亜玲	京大・院・理	B1-15	○ 酒井 聡樹	東北大生命科学
C1-13	○ 小林 悟志	新領域融合研究センター	A1-15	佐賀井 寛	東大・農
P2-177	○ 小林 哲	佐賀大学農学部	S02-4	酒井 章子	京大生態研
P1-279	○ 小林 祥子 (旧姓: 伊藤)	国環研	P1-092	○ 酒井 徹	森林総合研究所
P1-222	小林 隆人	宇都宮大学農学部	P2-159	○ 酒井 陽一郎	京大生態研
P3-227	○ 小林 知里	京大・院・人環	P3-079	坂江 格	東葉大 生態学研究室
P2-282	○ 小林 剛	香川大学 農学部	P3-279	阪口 翔太	京都大学農学部
	小林 秀樹	JAMSTEC-FRCGC	P2-194	○ 坂田 大輔	北海道大学大学院環境科学
P2-100	小林 真生子	千葉大学園芸学研究科	P3-015	坂田 剛	北里大 一般教育部
P1-034	小林 誠	北大・環境科学	F1-04	○ 坂田 はな	東京大学広域システム
P2-299	○ 小林 真	北大農学院	P2-165	○ 坂田 宏志	兵庫県大
			T02-2	坂田 有紀子	都留文科大学

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P1-120	○ 阪本 真吾	筑波大・生命環境	D1-14	○ 三田 瞬一	秋田県立大学・森林科学
P1-157	○ 坂本 信介	都立大・院・理	P3-105	塩寺 さとみ	北大・環境科学
P1-131	○ 坂本 隆太郎	筑波大・下田臨海	P1-026	○ 塩野 貴之	横国大・院・環境情報
	○ 坂山 英俊	東京大・院・総合文化	D1-08	鹿野 秀一	東北大・東北アジア
A1-12	○ 佐川 志朗	土研自然共生研究センター		重川 樹	岐阜大学応用生物科学部
B1-11	○ 崎尾 均	埼玉県農総研	P1-010	○ 志津 庸子	岐阜大学流域圏センター
P3-193	○ 向坂 幸雄	茨城県立医療大・人間科学	P1-167	篠原 沙和子	北大・水産
	作田 耕太郎	九大 農	P2-093	芝 朋美	東京農大・院
S11-3	作野 広和	島根大学教育学部		柴尾 晴信	東大・総合文化
	佐久間 大輔	大阪市立自然史博物館	P2-128	柴田 淳也	京大生態研セ
P1-223	○ 佐久間 智子	西中国山地自然史研究会		柴田 展江	岡山理大・総情・生地
P1-036	櫻井 一彦	成城大学	T08-1	柴田 英昭	北海道大学・北方生物圏セ
F2-07	櫻井 玄	九州大学理学部		柴田 鏡江	森林総研東北支所
P2-117	○ 桜谷 保之	近畿大・農・環境生態	○ 柴田 吉男		宇都宮大・農学部・雑草セ
P2-293	佐々木 晶子	産総研・沿岸海洋	S14-6	柴田 昌三	京大フィールド研
I2-12	○ 佐々木 顕	総研大・生命共生体進化学	P1-154	○ 芝原 知	新潟大学大学院
P3-179	○ 佐々木 雄大	東大・農・緑地創成		柴山 弓季	高松市
I2-11	○ 佐々木 徹	岡山大学環境学研究科	P2-114	○ 渋谷 園実	東京大学大学院
P2-098	佐々木 尚子	総合地球環境学研究所	F2-01	○ 渋谷 浩之	東薬大・生命
A2-13	○ 佐々木 浩	筑紫女学園大学短期大学部		○ 島田 和則	森林総合研究所
P2-139	○ 佐々木 幹雄	筑波大・院・生命環境	P1-218	嶋田 敬介	富山大院・理
P1-125	佐々木 有香	北大・農	P3-121	○ 島田 卓哉	森林総研・東北
P3-031	佐々木 梨華	岡山大学大学院	P1-240	○ 島田 直明	岩手県大・総合政策
P1-114	○ 佐々木 那由太	筑波大・生物		○ 嶋田 正和	東大・総合文化・広域
P3-232	○ 定清 奨	大阪府大院・理	P1-057	○ 島谷 健一郎	統計数理研究所
S02-5	○ 佐竹 暁子	eawag		島谷 幸宏	九州大学
P1-304	佐竹 潔	国立環境研究所	P1-042	島野 光司	信州大・理
F1-02	佐藤 綾	琉球大学理学部	P1-305	○ 島村 崇志	北海道環境研
I2-07	佐藤 一憲	静岡大学工学部	P2-284	嶋村 鉄也	京大 (AA 研)
T10-2	○ 佐藤 謙	北海学園大学工学部	P2-201	○ 清水 啓介	信州大・理・生物
T13-2	佐藤 智	山形大学農学部	P1-212	○ 清水 健	岡大院・環・昆虫生態
P2-213	佐藤 重穂	森林総研四国	S01-1	○ 清水 健太郎	University of Zurich
P1-230	○ 佐藤 淳	福山大学生命工学部	P3-061	清水 英幸	国立環境研究所
P2-106	○ 佐藤 拓哉	三重大院・生資	P1-215	清水 愛美	茨城大学理学部
C1-12	○ 佐藤 永	(独) 海洋研究開発機構	P3-135	清水 雄一郎	東北大学生命科学研究科
P2-228	佐藤 方博	生態工房	P3-128	清水 理恵	信州大学理学部
P2-057	佐藤 真弓	京大・生態学研究センター	P1-201	下地 博之	琉球大 農
P2-151	佐藤 竜一	東大・農学生命・森林動物		下園 寿秋	鹿県森林技術総合センター
S11-4	○ 佐藤 宣子	九州大学大学院農学研究院	P2-251	下田 星児	近畿中国四国農研センター
P2-071	佐野 恭子	信州大学大学院農学研究科	P1-012	下田 勝久	畜産草地研究所
	○ 佐野 淳之	鳥取大・農・FSC	P3-264	○ 下野 綾子	国立環境研究所
T15-5	○ 鮫島 弘光	京大生態研	P2-234	○ 下野 嘉子	農環研
P1-129	○ 鮫島 由佳	京大生態学研究センター	S07-3	朱宮 丈晴	財団法人日本自然保護協会
P2-018	○ 澤 綾子	筑波大・生命環境	S06-4	小路 敦	九州沖縄農業研究センター
P3-028	○ 澤上 航一郎	東大・日光植物園	F1-10	○ 城野 哲平	京都大・院理・動物
P3-149	○ 澤田 浩司	香椎高校		上村 真由子	農業環境技術研究所
P1-241	○ 澤田 みつ子	筑波大院・環境	P3-029	○ 白井 貴之	東大・院・理
P1-251	澤田 佳宏	兵庫県大自然研 / 淡路景観	B2-13	白井 洋一	農業環境技術研究所
C1-09	澤田 佳美	東京農大・院・林学	C2-05	白岩 豊和	広島大学教育学研究科
P1-089	澤村 恵	京大院・人環	S06-5 T03-2	○ 白川 勝信	高原の自然館

発表	懇 名 前	所 属	発表	懇 名 前	所 属
P2-188	白木 彩子	東京農業大学生物産業学部		須田 大祐	高知大・理
P1-047	○ 白崎 仁	新潟薬大・薬・生物	C2-14	○ 須田 隆一	福岡県保健環境研究所
P1-022	白水 由季	信州大学理学部		○ 須藤 正彬	京大人環
D2-01	○ 城田 徹央	北大農	P3-195	須島 充昭	東大・総合文化
P2-132	○ 城本 啓子	近畿大学農学部	P2-208	○ 砂村 栄力	東大・農
T04-5	○ 神保 宇嗣	東大・院・総合文化	P3-072	角倉 惇一	大阪市立大学理学部
P2-125	末次 主幸	佐賀大学農学部		○ 隅田 明洋	北大・低温研
	○ 末広 喜代一	香川大・教育・生物	A1-03	墨谷 祐子	栃木県林業センター
E2-14	○ 末吉 昌宏	森林総研九州	P3-047	陶山 健一郎	九大生物資源環境科学府
S06-2	須賀 丈	長野県環境保全研究所	S14-7	○ 陶山 佳久	東北大院・農
P2-083	○ 菅原 敬	鳥取大・院・農	P3-064	○ 諏訪 鎌平	琉球大学・理
B2-02	管家 千誠	横浜国立大学	S06-3	瀬井 純雄	NPO 法人阿蘇花野協会
	○ 杉 緑	信州大・理・生物	T19-5	○ 清野 達之	筑波大・生命環境
P2-206	○ 杉浦 真治	森林総合研究所	P1-002	○ 清和 研二	東北大学(院) 農学研究科
	○ 杉浦 大輔	東大・院・理	P2-092	○ 関 剛	森林総研東北
P1-205	杉浦 秀樹	京都大・霊長類研究所	P3-073	○ 関 剛	信大・理・生
P1-191	○ 杉田 典正	立教大院・理	P1-180	○ 関 諒一	玉川大学農学部
D2-05	○ 杉田 久志	森林総合研究所東北支所	P2-286	関川 清広	信州大学工学系研究科
A2-11	杉村 乾	森林総合研究所	D2-08	○ 関口 伸一	新潟大学・院・自然科学
P1-300	杉本 太郎	北海道大学 環境科学院		○ 関島 恒夫	九大・地球惑星
P3-287	○ 杉本 豊彦	横浜国立大学大学院	G1-09	○ 瀬戸 繭美	広島大学総合科学部
A2-07	杉本 寛	横浜国大・院・環境情報		銭谷 純平	横浜国大・環境情報
P3-139	鈴木 観	首都大学植物生態学研究室	P3-207	○ 芹沢 浩	鳥取大・農
P2-301	鈴木 あづさ	玉川大学農学研究科		○ 善波 史恵	京都大学大学院農学研究科
P2-007	鈴木 健司	神戸大学大学院	P3-056	宗田 智佳	龍谷大・理工
E1-01	鈴木 豪	京都大学農学研究科	E1-11	高井 健太	北大 環境科学院
P1-048	○ 鈴木 智之	首都大院・理工・生命	P1-100	○ 高井 孝太郎	東大・農・生物多様性
P3-224	○ 鈴木 清樹	九大・理・生物	P3-110	○ 高木 俊	大阪市立大学大学院
A2-02	○ 鈴木 重雄	広島大学国際協力研究科	S13-2	高木 昌興	大阪市環科研
P2-255	鈴木 静男	(財) 環境科学技術研究所	T05-4	○ 高倉 耕一	東京農業大学生物産業学部
	鈴木 準一郎	首都大・理工・生命	P3-089		奈良女子大学理学部
G1-01	鈴木 伸一	国際生態学センター	T06-3	○ 高須 夫悟	北大・地球環境
T17-3	○ 鈴木 真介	筑波大システム情報工学	G1-06	○ 高田 壮則	東大・農・保全生態
A1-08	鈴木 孝男	東北大院生命科学	P3-269	○ 高田 まゆら	森林総研・気象
P3-173	○ 鈴木 誉保	理研・CDB・形態進化	P3-041	高梨 聡	新潟大・超域研究機構
I2-14	鈴木 孝治	千葉大学大学院	P1-274	○ 高野瀬 洋一郎	京大院・農
P2-303	○ 鈴木 希実	東工大・総理工	P3-120	○ 高橋 明子	国立遺伝研・集団遺伝
	○ 鈴木 信彦	佐賀大・農学部	S12-2	○ 高橋 文	長野大・環境ツーリズム
P1-118	○ 鈴木 規慈	三重大・院・生物資源	P3-140	○ 高橋 一秋	岡山理大院・総情
P1-183	○ 鈴木 紀之	京大院・農・昆虫生態	P3-204	高橋 和成	茨城大学・理
	鈴木 晴美	東京農工大学大学院農学府	P2-296	高橋 健太	奈良女子大・人間文化
P2-094	鈴木 牧	東大演習林	F2-13	○ 高橋 智	信大・理生物
P1-046	○ 鈴木 まほろ	岩手県立博物館	P1-163	○ 高橋 聖生	京大・農
P2-277	○ 鈴木 由紀子	京都大学大学院農学研究科	T19-4	○ 高橋 さやか	奈良大学
P3-147	鈴木 亮	奈良女子大・共生センター	S11-2	○ 高橋 春成	生態学研究センター
B1-10	鈴木 和次郎	森林総研	P3-208	○ 高橋 大輔	宇都宮大学農学部
P2-149	鈴木 淳史	京都大学工学部	P2-032	○ 高橋 俊守	京都大学農学部森林科学科
T17-4	○ 鈴木 ゆかり	九大・理	B1-05	高橋 直大	遠洋水産研究所
B2-03		東京大学	F1-05	高橋 紀夫	水大校
T14-3	須田 真一	東京大学	T16-3	高橋 洋	

発表	懇 名 前	所 属	発表	懇 名 前	所 属
P2-183	○ 高橋 裕史	森林総研関西		田中 信行	森林総合研究所
P1-071	高橋 誠	森林総研林育セ	P2-027	田中 美那	金沢大学自然科学研究科
P1-106	○ 高橋 雅雄	立教大・理・動物生態	P2-176	○ 田中 裕美	兵庫県立大環境人間
P3-273	○ 高橋 まゆみ	北海道大学 農学院	P2-272	○ 田中 義幸	東大 海洋研
P1-119	○ 高橋 佑磨	筑波大・生命環境	P2-209	田中 涼子	北海道大学
P2-285	高橋 遥	京都大学農学研究科	S14-5	田中 浩	森林総研
	○ 高橋 里英子	京都大学理学研究科	P3-222	田中 嘉成	国立環境研究所
G1-12	○ 高橋 一男	国立遺伝学研究所	P3-152	○ 田辺 晶史	東北大・院・生命科学
D2-06	○ 高橋 耕一	信州大学理学部生物科学科	P3-107	田辺 沙知	北大・環境科学院
S01-4	高畑 尚之	総研大・先導科学	P1-264	○ 田辺 信吾	葛西臨海水族園
P2-102	○ 高原 光	京都府大農	P3-174	○ 田辺 力	熊大教育
P3-021	○ 田上 公一郎	広大院・院・生物圏科学	P3-101	○ 谷 友和	東大・日光植物園
S13-6	○ 高見 泰興	京大・理・動物生態	P2-288	谷尾 陽一	京都大学農学研究科
P3-256	○ 高村 健二	国立環境研究所	P2-048	○ 谷垣 悠介	徳島大・院・先端技術教育
B2-05	高村 典子	国立環境研究所	G1-03	○ 谷口 義則	名城大・理工・環境
P2-017	○ 高山 浩司	千葉大・院・理	P3-013	○ 種子田 春彦	東京大学理学部生物学科
P3-017	高山 縁	北大 低温科学研究所		田内 裕之	(独) 森林総研 植生領域
P3-244	○ 滝 若菜	筑波大院・生命環境	P3-018	田畑 あずさ	北大 低温科学研究所
T01-2			P3-156	○ 棚橋 薫彦	東大院農・森林動物
T13-1	瀧本 岳	東邦大学	E2-12	○ 田淵 研	学振 PD/UNB
A1-14	○ 田口 勇輝	京大院・地球環境	E2-15	玉置 昭夫	長崎大学水産学部
P2-009	竹内 智絵	名大院 森林生態生理学	P3-083	○ 玉木 一郎	名大院生命農
P3-088	竹内 やよい	京都大・農	P2-122	○ 玉田 克巳	道環境研
P1-139	○ 竹内 勇一	京大・院理・動物生態		○ 田村 裕	琉球大院・理工
P3-233	○ 竹下 毅	北海道大学 院 文	P3-049	田村 悠旭	乾燥地研究センター
P1-128	竹下 文雄	熊本大学院自然科学研究科	P3-132	田村 典子	森林総研・多摩
P1-068	竹下 雄平	熊大院	T12-4	○ 陀安 一郎	京大・生態研センター
B2-08	武田 英祐	埼玉大学大学院	S07-5	千葉 聡	東北大
P1-236	武田 知己	国立環境研究所	G1-07	千葉 幸弘	森林総合研究所
	○ 武田 義明	神戸大・人間発達環境学	P3-255	○ 曹 炯柱	九大 比文
P1-165	○ 武智 玲奈	首都大・理工・生命科学	P2-290	○ 張 鵬程	筑波大学・院・生命環境
	○ 竹中 明夫	国立環境研	S05-1	智和 正明	九州大学演習林
P1-172	○ 竹中 踐	北海道東海大・工	P3-048	沈 海花	国立環境研究所
P1-015	竹原 明秀	岩手大・人文社会・生物		○ 辻 和希	琉球大学農学部
P3-141	○ 竹元 博幸	京大霊長研	P3-036	辻 英人	立命館大・理工
	○ 竹門 康弘	京都大学防災研究所	P2-150	辻野 昌広	北海道大学・環境科学院
	武山 智博	新潟大・院・自然科学	P1-044	辻野 亮	地球研
P1-113	○ 田島 裕介	筑波大・生命環境		辻村 希望	京大生態研センター
P1-256	○ 田代 優秋	徳島大・環境防災研究セ		○ 津田 智	岐阜大流研センター
P3-219	○ 立木 佑弥	九大・理	E2-02	津田 みどり	九大院・農
	○ 館田 英典	九大・理	P1-081	○ 津田 吉晃	森林総合研究所
A1-07	○ 立川 賢一	横国大・環境情報	P3-155	○ 津田 真樹	東北大・院・生命科学
P1-235	○ 立澤 史郎	北大院・文・地域	P2-109	○ 土田 琢水	東大・農・農学生命科学
P1-211	○ 巽 真悟	岡山大院・環境・昆虫生態	P2-214	○ 土屋 結	筑波大・生物資源
P3-039	立石 麻紀子	九州大学大学院	P1-144	○ 土屋 香織	首都大・院・理
G2-02	館野 納	京大・農	P1-227	○ 堤 道生	近中四農研
P3-026	○ 館野 正樹	東大・院・理・日光植物園		都野 展子	金沢大自然科学科生態
P3-062	○ 館野 隆之輔	鹿児島大学農学部		○ 椿 宜高	京大生態研センター
P1-143	田中 啓太	理研 BSI	P1-247	坪井 勇人	信州大院・農学
P3-002	田中 格	山梨県森林総合研究所	P2-212	○ 坪井 助仁	京大・農・昆虫生態



発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
S01-2	津村 義彦	森林総研	S03-1	中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館
P1-138	○ 鶴井 香織	京大院・農・昆虫生態	E2-04	○ 長井 宏賢	高知大学・農・暖地FSセ
	鶴田 哲也	中央水研	P2-220	○ 中井 真理子	北海道大学・院・文
P1-275	出口 詩乃	東大院・農	P3-008	中井 亜理沙	三重大・生物資源
P3-169	手塚 あゆみ	東北大学生命科学	P2-068	長池 卓男	山梨県森林研
P1-067	寺井 学	大林組技術研究所	P2-291	○ 中尾 拓貴	広島大・総科
P1-219	○ 寺岡 亜里	近畿大学農学部環境生態		○ 仲岡 雅裕	千葉大学理学研究科
P3-057	○ 寺島 一郎	東大院理生物	P2-046	中尾 勝洋	東京農工大学
P3-172	寺西 肇	京都大学理学研究科	P2-138	○ 中川 光	京大院・理
P1-280	○ 寺本 悠子	筑波大学院環境科学	P3-090	中川 昌人	地球研・研究部
	寺山 守	東大・農	P2-148	○ 中川 弥智子	名古屋大学
T01-4	土居 秀幸	愛媛大・農		○ 中北 ねり	奈良教育大学
P2-070	土井 裕介	京大・農	P1-257	○ 中桐 斉之	兵庫県立大・環境人間
T19-2	東郷 真波	京都大学・農	A2-05	○ 中越 信和	広島大・院・国際協力
B1-06			D1-05	○ 仲澤 剛史	京大・生態研セ
P3-114	東樹 宏和	九大・理	P2-195	中澤 廣樹	信州大学理学部生物科学科
P1-249	○ 東條 達哉	近畿大・農	T18-1	○ 中路 達郎	国環研
P2-006	堂園 いくみ	国立環境研究所	P3-033	○ 中島 亜美	東京農工大学
P3-159	○ 遠山 弘法	九大・理・生態	P1-090	○ 中島 亜利	
P3-189	○ 梶井 龍一	信大・理	P3-187	中島 亜利	
P2-113	富樫 博幸	東北大学生命科学研究科		長島 啓子	九州大学農学研究院
P1-184	戸金 大	明治大・院・農学	P3-249	中島 貴幸	鹿児島大学 理学部
P1-150	○ 土岐 和多瑠	東大院農学生命	P3-277	中嶋 信美	国立環境研究所
G1-07	○ 時田 恵一郎	阪大サイバー	P2-169	中嶋 祐一	琉球大学・理工
P1-001	○ 徳岡 良則	(独) 農業環境技術研究所	P1-197	○ 中嶋 祐二	京大院・農・昆虫生態
T04-3	徳田 誠	農業生物資源研	T13-3	仲島 義貴	帯広畜産大・昆虫
P2-307	徳地 直子	京都大学フィールド研	D1-07	○ 中嶋 美冬	ハワイ大・動物
	○ 徳永 幸彦	筑波大学生命共存科学専攻	P3-055	長田 賢志	筑波大学院 環境科学
P2-210	所 諭史	茨城大学教育学部		中田 淳子	岐阜大・流域
P2-292	戸田 三津夫	静岡大・工	T12-1	○ 永田 俊	京大生態学研究センター
C2-09	○ 戸田 光彦	自然環境研究センター		中田 望	首都大・院・理工
P2-207	○ 戸田 裕子	近畿大学	P3-153	○ 長太 伸章	京都大・院・理
P3-168	○ 土畑 重人	東大院・総合文化	P2-123	○ 永田 尚志	(独) 国立環境研究所
P2-302	○ 戸張 賀史	東京工業大学総合理工	P1-182	○ 中田 兼介	東京経済大学
P2-063	○ 富田 啓介	名古屋大・院・環境	S11-6	○ 仲谷 淳	中央農業総合研究センター
D1-02	○ 富田 直樹	大阪市大・院理		中田 将人	岡山理大院・総情・生シス
T09-2	○ 富田 基史	東北大・院・農	P2-257	○ 中坪 孝之	広島大・院・生物圏
P1-079			P3-160	○ 中寺 由美	信州大・理
P3-096	富田 美紀	静岡大学 大学院	P3-192	○ 中西 康介	滋賀県大・環境科学
	○ 富永 光	筑波大・生物資源	P2-294	○ 中根 周歩	広大・院・生物圏科学
P3-024	富松 元	茨城大理学部・畜草研	F2-09	○ 中野 進	広島修道大学人間環境学部
	○ 富山 清升	鹿児島大学理学部	P3-043	永野 聡一郎	東北大・院・生命科学
P3-235	○ 外山 雅大	北海道大学環境科学院	T03-1	○ 永野 昌博	里山科学館キョロロ
	豊田 明日香	東京農工大		長野 康之	国際アウトドア専門学校
P3-112	○ 豊田 鮎	自然環境研究センター		○ 長野 義春	越前市エコビレッジセンタ
P1-263	○ 豊田 大輔	筑波大学院生命環境科学		○ 中野 <sup>(北村)</sup> 真理子	石川県立自然史資料館
T15-1	内藤 大輔	京大院AA研	P1-200	中原 美理	東京大学大学院
P1-065	○ 内藤 弥生	北大・院・環境科学	P1-082	永松 大	鳥取大・地域・地域環境
P3-301	内藤 由香子	福井市自然史博物館	T06-1	○ 中丸 麻由子	東京工業大学
P1-289	内藤 和明	兵庫県立大・自然研	F1-12		
P2-023	○ 直江 将司	京大・生態学研究センター	P2-186	○ 中道 康文	筑波大学生命共存



発表	懇 名 前	所 属	発表	懇 名 前	所 属
P2-001	○ 永光 輝義	森林総研	P1-116	○ 西松 聖乃	国際基督教大学・理
P3-184	○ 中村 剛	琉球大学 21世紀COE	P2-089	西村 愛子	北大・環境科学
	○ 中村 浩二	金沢大学	D2-13	○ 西村 欣也	北大・水産
P1-185	○ 中村 智	筑波大・生命共存	P2-062	○ 西村 尚之	名古屋産業大学
P3-186	中村 早耶香	中部大応生	P2-081	○ 西本 孝	岡山県自然保護センター
P2-200	○ 中村 崇	九州大学大学院理学研究院	S09-5	○ 西山 理行	環境省野生生物課
I2-13	○ 中村 琢磨	横浜国大・院・環境情報	C2-13	○ 西脇 亜也	宮崎大学農学部
P3-102	中村 敏枝	首都大学東京・生命科学	T07-4	○ 新田 梢	九州大・院理・生物
	○ 中村 雅彦	上越教育大学・生物	D2-10	入村 信博	千葉県立磯辺高校
E2-06	中村 誠宏	北大苫小牧	P2-298	○ 丹羽 慈	横国大・環境情報
P2-241	○ 中村 昌代	宇都宮大・雑草セ	B2-06	○ 根岸 淳二郎	自然共生研究センター
	○ 中村 満理恵	宇都宮大雑草センター	P2-297	根岸 正弥	茨城大学 理学部
P3-009	中村 元香	千葉大学大学院理学研究科		○ 根本 正之	東京農業大学
T10-1	中村 幸人	東京農業大学地域環境	S15-5	○ 根本 真理	東京農工大学農学部
P1-073	○ 中村 亮二	首都大・理	P3-143	根本 唯	東京農工大学大学院農学府
P2-179	中本 敦	琉大・理	P3-109	野口 英之	大阪市立大院・理
	○ 仲山 真希子	筑波大・院・環境科学	D2-03	野口 麻穂子	森林総合研究所 四国支所
P1-152	○ 中山 慧	岡大院環境学進化生態学	P1-123	○ 野澤 洋耕	黒潮生物研究所
P1-130	名護 ほたる	琉球大学・農・院	P1-127	野島 崇	熊本大学・院
S04-1	○ 夏原 由博	京都大学地球環境学堂	P1-221	○ 能勢 裕子	東京農業大学
P1-101	夏目 暁子	名大院生命農	P1-303	野副 健司	東大・保全生態学研究室
P3-080	○ 名波 哲	大阪市立大学大学院		○ 野田 隆史	北海道大学地球環境
P3-051	銅嶋 絵里	東京農工大		○ 野田 周央	大阪市立大学
	並川 寛司	北教大・札幌・生物	P3-032	○ 野田 響	岐阜大学・流域圏センター
P3-247	檜崎 裕美	九州大・理・生態	P2-074	野田 浩	東京農工大・院・連農
T13-5	○ 難波 利幸	阪府大院・理	B2-04	○ 野原 精一	国立環境研究所
P2-147	南波 興之	北海道大学低温科学研究所	F1-06	○ 野間口 眞太郎	佐賀大農
P1-203	○ 新居 洋吾	筑波大 下田臨海	F2-11	○ 野村 尚史	総合地球環境学研究所
P1-126	○ 新原 直	筑波大・院・生命環境	P2-146	野村 理絵	京都大学工学研究科
P2-155	新部 一太郎	鳥取大院・生物環境科学		○ 野元 加奈	宇都宮大学農学部
B2-15	○ 新穂 千賀子	兵庫県立大環境人間学部	G1-05	○ 萩野 友聡	北大 環境科学院
P2-164	○ 西 信介	鳥取県林業試験場	P2-187	萩原 久子	滋賀県立大学大学院
P2-144	○ 西 友香理	新潟大院・自然科学	P2-237	○ 萩原 陽二郎	静岡大学農学研究科
P3-126	○ 西井 絵里子	環境科学院	P1-053	○ 萩原 陽介	首都大・院・生命
P1-075	○ 西尾 孝佳	宇都宮大・雑草セ	I2-06	○ 箱山 洋	中央水産研究所
	西岡 理絵	岐阜大学応用生物科学部	P2-217	橋本 琢磨	自然環境研究センター
T16-2	○ 西川 潮	国立環境研究所	P3-298	○ 橋本 啓史	名城大・農
P1-027	○ 西川 博章	株式会社ラーゴ	P1-228	○ 橋本 佳延	兵庫県立人と自然の博物館
P3-278	西沢 徹	国立環境研究所	P2-273	橋本 徹	森林総研
A2-03	西澤 まり	千葉大学自然科学研究科		ハス 其木格	鳥取大学
P2-224	○ 西嶋 翔太	東大・農・生物多様性	P2-065	○ 長谷川 成明	北大・地球環境
P3-260	○ 西田 伸	九大・比文	P1-031	長谷川 奈美	東京農工大院・農
T05-3	○ 西田 隆義	京大農・昆虫生態	D1-06	長谷川 洋美	奈良女子大・理
E1-13			P2-090	○ 長谷川 誠	鳥取大・院・農
	西谷 里美	日本医大・生物	P3-177	長谷川 元洋	森林総研木曾
P2-260	西田 顕郎	筑波大学・JAXA	P2-012	○ 長谷川 陽一	東北大院・農
P2-279	仁科 一哉	名大院生命農	P1-261	長谷川 万純	静岡大学
E1-07	西野 麻知子	琵琶湖環境科学研究センタ	P2-233	○ 畑 憲治	首都大学東京理工学研究科
P2-196	○ 西原 昇吾	東大・農学生命科学		波田 善夫	岡山理大総情生地
T14-2	○ 西廣 淳	東京大学・農学生命科学	P2-075	畑 尚子	東大・農・森園管理

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P1-285	島瀬 頼子	自然環境研究センター	P2-085	平澤 建	鹿大院理工学
P3-181	○ 畑田 彩	地球研	P1-016	○ 平田 晶子	筑波大・生命環境
P3-067	○ 畑中 由紀	横国大・院・環情	○ 平田 和彦	北大・水産	
P2-166	○ 服部 充	信大・理・生物	P2-264	平田 聡之	北大FSC
F1-15	初見 聡子	茨城大院・理工	H2-08	平田 竜一	環境研
P3-077	花岡 創	岐阜大院・連農	E2-10	平田 令子	鹿児島農連大
P1-134	馬場 成実	九大・生防研	P3-104	○ 平山 大輔	三重大・教育 (非常勤)
F2-05	○ 馬場 友希	東大院・農・生物多様性	P1-148	○ 平山 寛之	九大・理・生態
P3-082	浜 一郎	東大・農・森園管理	P3-275	○ 広木 幹也	国立環境研究所
P1-136	濱尾 章二	国立科博・自然教育園	○ 広木 詔三	名大・情報科学	
P1-273	浜崎 健児	農業環境技術研究所	P3-151	広瀬 恭祐	神戸大学大学院理学研究科
P3-259	浜端 朋子	九大院比文	D1-10	○ 広瀬 義躬	九大
P1-260	早石 周平	琉球大学教育センター	P2-010	○ 廣田 峻	九大・理・生物
S13-3	○ 早川 洋一	国際基督教大学	P3-231	廣田 忠雄	山形大・理・生物
D1-01	○ 林 岳彦	産総研	P2-289	廣田 充	筑波大学菅平高原センター
D2-09	林 珠乃	龍谷大学里山 ORC	P3-133	廣永 拓男	北大苫小牧研究林
P3-307	林 寿則	国際生態学センター	廣部 宗	岡山大・院・環境	
P2-193	林 文男	首都大・理工・生命	P3-201	笛木 学	東京農工大学
A2-09	○ 早矢仕 有子	札幌大学法学部	T09-1	○ 深澤 圭太	横国大・環境情報
	林 雄太	東京農工大学	P1-250		
P3-225	林 義雄	大阪府立大・院理	P3-239	深澤 悟	東邦大学
	原 慶太郎	東京情報大学・環境情報	G2-03	深澤 遊	京大・農
P3-165	○ 原 範和	新潟大・院自然研	○ 深町 加津枝	京都府立大学	
P3-116	原勢 晶弘	山形大・農	P2-135	○ 深谷 肇一	北海道大学環境科学院
S13-5	原野 智広	岡山大院・環境・進化生態	P2-020	福井 晶子	日本野鳥の会
F1-09	○ 原村 隆司	京都大学・理・動物行動	P1-292	○ 福井 聡	神戸大・院・総合人間科学
P3-006	原山 尚徳	森林総研	P3-221	○ 福井 眞	東大広域システム
P3-070	韓 慶民	森林総合研究所	P2-156	福井 大	森林総研・北海道
P3-030	○ 半場 祐子	京都工繊大	福井 学	北海道大学低温科学研究所	
P3-111	日浦 勉	北大・苫小牧研究林	P3-292	福澤 加里部	京大フィールド
T14-5	日置 佳之	鳥取大学	P2-305	福島 慶太郎	京大院・農
A1-02	○ 比嘉 基紀	横国大・院・環情	P1-246	福島 敬彦	信州大院・農学
	東 正剛	北大・地球環境	福嶋 司	東京農工大学院	
	東 敬義	三重県埋蔵文化財センター	P1-023	福島 万紀	京都大学農学研究科
P2-142	○ 東出 大志	新潟大・院・自然	B2-11	○ 福山 研二	森林総研
	樋口 伸介	神戸大学理学部	F1-08	福山 欣司	慶応大学生物学教室
T11-3	彦坂 幸毅	東北大・院・生命科学	P2-306	○ 藤井 一至	京都大学農学部
	肥後 睦輝	岐阜大地域	藤井 伸二	人間環境大学・環境保全	
T02-4	○ 菱 拓雄	九大・演習林	B2-12	藤井 芳一	横浜国大・環境情報
	肘井 直樹	名大・生命農・森林保護	D1-09	○ 藤井 恒	日本チョウ類保全協会
P1-284	菱田 達也	京都大学	○ 藤岡 正博	筑波大・井川演習林	
B1-09	日高 周	京大・生態学研究センター	P3-288	藤木 大介	兵庫県立大学
S10-1	○ 日鷹 一雅	愛媛大学農学部	P3-197	○ 藤澤 貴弘	滋賀県大・環境科学
T20-3			P2-178	○ 藤田 剛	東大・農
	日野 貴文	北大 苫小牧研究林	P1-107	○ 藤田 志歩	山口大学 農学部
B2-10	○ 日野 輝明	森林総研関西	S07-1	○ 藤田 卓	九州大学理学部生物学科
P1-194	○ 日室 千尋	京大院・農・昆虫生態	○ 藤田 昇	京大生態研	
E1-15	○ 兵藤 不二夫	スウェーデン農科大学	T14-4	富士田 裕子	北大・FSC・植物園
P3-086	平尾 章	北大・地球環境	B2-14	○ 藤田 正雄	自然農法セ・農試
P2-136	平尾 聡秀	北大・苫小牧研究林	○ 藤田 真梨子	神戸大学農学研究科	

発表	懇 名 前	所 属	発表	懇 名 前	所 属
P2-029	藤田 素子	京都大学・生存圏研究所	P1-019	○ 増井 太樹	鳥取大・農
P3-059	藤田 佳子	大阪大学大学院理学研究科	P1-278	○ 増澤 直	株式会社地域環境計画
P2-189	藤永 愛	電中研		増田 和明	中之条町立中之条小学校
P3-035	○ 藤野 貢祐	京都工繊大・生物資源フ	P3-270	増田 理子	名古屋工業大学工学研究科
E1-06	藤野 毅	埼玉大学理工学研究科	P2-182	○ 増谷 優	秋田県大・生物資源
P2-244	藤原 道郎	兵庫県大自然研/淡路景観	P1-301	○ 松井 淳	奈良教育大
P3-042	藤巻 玲路	横浜国大・環境情報	P3-250	○ 松井 晋	大阪市大院理
P2-067	藤村 善安	北大フィールド科学セ		松井 哲哉	森林総研北海道
P1-174	○ 藤本 真悟	新潟大・院・自然科学	P3-081	○ 松井 浩幸	大阪教育大学大学院
	藤山 静雄	信州大・理・生物	F1-13	○ 松浦 健二	岡大院・環境・昆虫生態
P1-199	藤原 慎悟	北大・院・環境科学	S14-2	○ 松尾 歩	東北大学大学院農学研究科
	藤原 宣夫	国際園芸アカデミー	P3-053	松尾 奈緒子	三重大生物資源
P1-117	布施 名利子	九州大・生態研		松岡 憲吾	植物生態学
B1-03	古川 昭雄	奈良女・共生センター	P3-234	○ 松岡 暢宏	大阪府大院・理・生物科学
P1-035	古川 拓哉	横国大院・環境情報	P3-144	松木 佐和子	岩手大学農学部
	古屋 達規	岡山理科大学	P3-076	○ 松木 悠	京都大院・農
G2-10	○ 別所 和博	千葉大・理	P1-158	○ 松崎 慎一郎	東京大学院農学生命科学
P2-078	○ 別所 直樹	筑波大・生命環境	P3-170	○ 松下 彩	信州大学 理 生物
A1-09	逸見 泰久	熊本大・沿岸域センター	P3-087	○ 松下 通也	名大院・生命農
	包 文学	鳥取大学	P3-300	○ 松田 尚子	首都大院・理工・生命
P2-236	穂坂 尚美	農業環境技術研究所	S15-1	○ 松田 裕之	横浜国大・環境情報
G2-06	○ 保崎 有香	東大・院・農	P3-091	松橋 彩衣子	神戸大学理学部生物
P2-197	○ 星 元規	筑波大・生物資源	P3-194	○ 松林 圭	北大・院理
P2-270	星野 亜季	東大・農学生命		松原 史	熊本大・理
P2-235	○ 星野 義延	東京農工大学	T07-2	松本 顕	九州大学高等教育センター
P2-107	○ 細 将貴	京都大学 理学研究科	P2-038	松本 一穂	名大院・生命農
P1-103	細川 真也	港湾空港技術研究所	B1-13	○ 松本 崇	京大・人環
P1-147	○ 細川 貴弘	産総研・生物機能工学	P1-005	松本 隆史	北海道大学 環境科学院
S04-5	細木 大輔	国土技術政策総合研究所	P3-058	松本 卓也	京都大学大学院農学研究科
P2-265	堀田 紀文	東大院	P3-296	松本 千香	鹿児島大学理学部
H2-15	保原 達	酪農学園大	P3-266	松本 晃幸	鳥大農
P2-051	保母 桂志	明治大・院・農	P2-054	松本 雅道	九州共立大・工
P2-033	○ 堀 正和	水産総合研究センター	P3-267	松本 麻子	森林総合研究所
	○ 堀 道雄	京都大学大学院理学研究科	P3-078	松山 周平	京大院・農
	○ 堀 良通	茨城大学理学部生態研	P1-244	松山 奈央	東京農工大・農
P3-218	○ 堀部 直人	東大院・総合文化	T03-5	真鍋 徹	北九州自・歴博
	○ 堀本 なな子	筑波大学生物学類	P3-215	○ 真野 浩行	国立環境研究所
P1-105	○ 本田 裕紀郎	東大・院・緑地植物実験所	P3-309	○ 馬谷原 武之	日本大院・生物資源科学
T05-1	○ 本間 淳	京大院・農・昆虫生態	P2-120	真弓 翔	苫小牧研究林
P1-145				鞠子 茂	筑波大・院・生命環境科学
	○ 前川 光司	北大フィールドセンター		○ 麻里府商事 安田昌明	展示業者として参加
	○ 前迫 ゆり	大阪産大・院・人間環境	P2-131	丸山 敦	龍谷大・理工
P1-296	○ 前田 浩志	近畿大学農学部	P3-178	丸山 宗利	フィールド自博/海外学振
P1-038	前田 由香	富山大・理・生物圏	T04-4	三浦 一芸	近中四農研
T12-3	○ 眞壁 明子	東工大総理工	P3-125	三浦 和美	京大農昆虫生態
S14-1	蒔田 明史	秋田県立大・生物資源科学	P3-308	三浦 佳林	横浜国大・院・環境情報
P3-158	○ 牧野 俊一	森林総合研究所	P1-198	三浦 大地	東北大・院・生命科学
	牧野 崇司	筑波大・生命環境	P1-037	三浦 弘之	淡路景観園芸学校
F2-02	○ 牧野 渡	東北大・生命科学	T01-3	○ 三木 健	京大・生態学研究センター
	○ 正木 隆	森林総合研究所		三木 直子	岡山大学院環境学
P1-188	正富 欣之	北大院地球環境			

発表	懇 名 前	所 属	発表	懇 名 前	所 属
H2-04	右田 千春	森林総研	P2-245	村上 健太郎	市立きしわだ自然資料館
	○ 箕口 秀夫	新潟大学自然科学系	S03-3	村中 孝司	牛久自然観察の森
P2-247	○ 三島 慎一郎	(独)農環研	P1-030	村中 希望	横浜国立大学
	○ 三島 伸治	熊本大・沿岸域センター	P1-029	村山 卓郎	東京農工大学農学部
P2-005	水澤 玲子	東邦大学院理学研究科	P1-014	目黒 伸一	国際生態学センター
P3-162	○ 水野 晃子	東北大学生命科学研究科	I2-03	○ 舞木 昭彦	北大水産
A1-13	○ 水野 敏明	琵琶湖博物館	F2-08	○ 持田 浩治	京大・理・動物
F2-15	水幡 正蔵	在野の研究者	P1-041	○ 持田 幸良	横浜国大教育人間科学部
	水町 衣里	京都大学大学院	P1-171	○ 望月 翔太	新潟大学 農学部
T07-3	溝口 剛	筑波大学	I2-15	百原 新	千葉大院・園芸学研究科
T17-1	三谷 羊平	コロラド大学、早稲田大学	P2-095	森 章	Simon Fraser University
P3-038	三田村 理子	茨城大学大学院理工学	P2-203	森 さやか	東大・院・農学生命
P3-226	○ 道前 洋史	北里大学薬学部	H2-01	森 茂太	森林総研東北
P1-087	○ 三井 裕樹	京大 人間・環境	P3-205	○ 森 照貴	北大・苫小牧研究林
T20-1	○ 三橋 弘宗	兵庫県立大学	P1-209	○ 森 英章	東北大学 生命科学
S08-2	○ 三中 信宏	農業環境技術研究所	P1-140	○ 森 貴久	帝京科学大学
A2-14	○ 湊 秋作	キープやまねミュージアム	P1-017	森井 悠	国大・植生学研究室
	南 基泰	中部大応生	P2-216	○ 森 生枝	岡山県自然保護センター
D1-04	○ 南谷 幸雄	愛媛大・院・連合農	D2-12	○ 森田 健太郎	北海道区水産研究所
S10-3	○ 嶺田 拓也	農村工学研究所	P2-300	○ 森田 沙綾香	農環研
P2-118	美濃和 駿	東大・院・農	P2-044	森田 大也	九州工業大学工学部
P2-014	○ 三村 真紀子	筑波大学生命環境研究科		守田 益宗	岡山理大・自然植物園
P3-065	宮内 大策	横国大・院・環境情報	P3-262	○ 森長 真一	九大・理・生物
P3-248	○ 宮川 美紗	大阪女大・理	P3-294	森野 真理	吉備国際大学
P1-245	三宅 慎平	信州大学農学部	P1-018	森広 信子	なし
P2-226	○ 三宅 もえ	東大・農・生物多様性		○ 森本 元	立教大・院理
P3-130	三宅 洋	愛媛大学	P2-157	○ 森本 信生	中央農業研究センター
P2-059	宮坂 隆文	東京大学	P1-272	○ 諸澤 崇裕	筑波大・院・生命環境
G1-10	宮崎 智史	北大院・地球環境	P2-199	山本 俊昭	日本獣医生命科学大学
S14-3	○ 宮崎 祐子	奈良県森林技術センター		八尾 泉	北大院理 COE
C2-03	○ 宮崎 智博	名城大院・農	P1-024	矢ヶ崎 朋樹	IGES 国際生態学セ
P3-022	宮沢 良行	九大熱農研	P1-088	○ 矢ヶ崎 泰海	国環研・アジアG
P3-027	○ 宮下 彩奈	日光植物園	P3-097	八木 貴信	森林総研・東北
E2-13	○ 宮下 直	東大・農・生物多様性	P3-229	○ 八木 光晴	九大・農・水実
G1-04	○ 宮園 誠二	Mississippi State Univ.	P1-069	○ 矢澤 佳子	北大・環境科学
P2-269	宮田 義規	宮崎大学 農学部	P2-278	○ 八代 裕一郎	岐阜大
T07-1	宮竹 貴久	岡大院・環境・進化生態	P3-188	○ 矢代 敏久	岡山院・環境学・昆虫生態
P3-108	宮田 理恵	北大・環境科学院		安川 武彦	あらた監査法人
P2-304	○ 宮地 俊作	日大・生物資源	P2-153	八杉 公基	京都大学大学院理学研究科
P1-003	○ 宮本 和樹	森林総研四国	F2-04	○ 安河内 彦輝	九大・比文
P2-058	宮森 映理子	東京大学農学部	P1-040	安田 泰輔	山梨県環境科学研究所
	○ 宮脇 成生	建設環境研究所	P1-232	安田 雅俊	森林総研・九州
P2-223	○ 向井 貴彦	岐阜大学地域科学部	P2-222	安野 翔	東北大・院・生命科学
	向 草世香	九州大学・理学部	P3-007	安村 有子	森林総合研究所
P1-077	宗原 慶恵	林木育種センター		○ 安元 暁子	九州大・理・生物
T02-1	村井 麻理	東北農研	I2-02	○ 谷内 茂雄	地球研
P2-261	○ 村岡 裕由	岐阜大・流域圏センター	P1-137	谷中 智紀	筑波大・生命環境科学
P1-243	村上 裕	愛媛県立衛生環境研究所	P1-259	柳沢 直	岐阜県立森林文化アカデミ
P2-134	村上 正志	北大・苫小牧研究林	P3-238	○ 柳 真一	岡大院・環境・進化生態
P1-009	村上 雄秀	国際生態学センター	P3-265	矢野 初美	東大大学院農学生命科学



発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P2-022	○ 矢野 舞依子	鳥取大・院・農	P3-198	山本 圭美	横浜国大・環境情報
F1-07	八幡 知基	北大院・環境科学	P3-134	○ 山本 智子	鹿大・水産
S08-1	○ 矢原 徹一	九大理生物	P3-295	○ 山本 悠子	東京農工大学農学部
	矢部 和夫	札幌市立大学デザイン学部	P1-124	○ 山本 友里恵	琉球大・院理工・海環
I2-09	○ 山内 淳	京大・生態研センター		○ 山本 勝利	(独) 農業環境技術研究所
	山内 貴義	岩手県	P3-050	山本 牧子	乾燥地研究センター
P3-124	山尾 僚	岡山理大院総情生地	P3-246	雪岡 正太	信州大学院工学系研究科
P1-072	○ 山岸 洋貴	北大・院・環境科学		○ 遊佐 陽一	奈良女大・理
S09-3	○ 山岸 哲	山階鳥類研究所		○ 湯本 貴和	総合地球環境学研究所
P2-050	○ 山北 剛久	千葉大・理	P1-032	○ 尹 鍾学	東京農工大
D2-11	○ 山口 幸	奈良女大院・人間文化	P2-011	○ 横井 智之	京大院・農・昆虫生態
P3-095	山口 順司	金沢大学・院	P1-033	○ 横川 昌史	滋賀県大・環境科学
P2-295	山口 貴広	北大 低温科学研究所	P3-306	横田 樹広	清水建設/東京大学・院
P2-204	○ 山口 拓男	筑波大・生命共存	P3-094	○ 横田 静香	九大・理
P3-150	山口 正樹	神戸大・院理・生物	G2-12	○ 横畑 泰志	富山大学理工学研究部
T01-5	山口 真奈	京都大学 CER	P1-294	○ 横山 真弓	兵庫県立大学
	○ 山口 祥神	神戸大学大学院	P2-280	横山 直人	京都大学大学院農学研究科
P2-161	○ 山口 恭弘	中央農研・鳥獣害研	P2-124	吉江 春子	奈良女子大・理
P2-240	山口 善子	東京農工大学	P2-191	○ 吉尾 政信	東京大学大学院
P3-190	山口 和香子	東北大学生命科学研究科	P2-227	吉岡 明良	東大院・農学生命科学
C1-08	山倉 拓夫	大阪市大	P2-015	○ 吉岡 洋輔	農研機構野茶研
P1-234	○ 山崎 梓	新潟大・農	P3-115	○ 吉川 徹朗	京大院・農
P3-251	○ 山崎 梓	京大院・農・昆虫生態	B2-07	吉川 正人	東京農工大・共生科学技術
P1-083	○ 山崎 実希	東北大院・農	P2-129	○ 吉倉 智子	筑波大学・院・生命環境
	山路 恵子	筑波大院生命環境	P1-149	○ 吉澤 樹理	岐阜大応用生物昆虫生態学
P3-203	○ 山下 聡	総合地球環境学研究所	G1-10	○ 吉田 圭一郎	横浜国大教育人間科学部
G1-14	○ 山下 大輔	九大・理・生物	A1-05	吉田 聡子	横浜国大・環境
P2-230	○ 山下 寿之	富山県中央植物園		○ 吉田 丈人	東大・広域システム
P2-190	山下 友実	千葉大学理学研究科	P3-216	○ 吉田 智彦	北海道大学環境科学院
P3-074	山下 直子	森林総研関西	T15-3	○ 吉田 智弘	森林総研・木曾
P3-196	○ 山下 真理子	新潟大・農	P2-119		
P2-072	○ 山田 いずみ	新潟大・院・自然科学		吉田 洋	山梨県環境科学研究所
P2-030	○ 山田 晋	農業環境技術研究所	P3-212	吉田 勝彦	国立環境研・生物
G1-14	○ 山田 俊弘	広島大学大学院総合科学	P1-045	○ 吉竹 晋平	広島大・院・生物圏
	○ 山田 文雄	森林総合研究所	T04-2	吉武 啓	東大・院・総合文化
P3-054	山田 雅仁	北海道大学低温科学研究所	P2-163	吉野 元	東北大・生命科学
P1-085	山田 義裕	岡大・環境学	P3-118	○ 吉原 佑	東京大学
P1-161	山田 有紗	奈良女子大・理		吉丸 博志	森林総研
P2-152	山中 信彦	東大・農・森林動物	P3-045	吉村 謙一	神戸大自然科学
P2-225	○ 山西 陽子	奈良女子大学大学院	D2-15	○ 吉村 仁	静大・創造院
P1-168	○ 山根 隆史	岡山大・院・環境	P2-154	吉村 真由美	森林総合研究所 関西支所
P1-271	山場 淳史	広島総研林技セ		○ 吉村 友里	岐阜大 院農
	山平 寿智	新潟大・理・自然環境		吉本 敦子	金沢大・院
T09-4	○ 山道 真人	総研大生命共生体進化学	P2-158	吉本 治一郎	京大院・農・昆虫生態
P2-192				○ 米川 修平	鳥取大、農
	山村 靖夫	茨城大学理学部	T16-5	米倉 竜次	岐阜県河川環境研究所
I2-01	○ 山村 則男	総合地球環境学研究所		米崎 史郎	遠洋水産研究所
P2-250	山本 昭範	筑波大・院・生命環境	D2-02	○ 米田 健	鹿児島大学農学部
S10-4	○ 山本 勝利	農業環境技術研究所	B1-07	米田 吉宏	奈良県森技セ
P3-146	山本 哲史	京都大・理・院	G2-10	米田 昌浩	環境研



発表	懇 名 前	所 属
E2-05	○ 米谷 衣代	京大・生態研
	梁 乃申	国立環境研究所
P1-239	林 彬勸	(独) 産業技術総合研究所
H2-10	○ 和穎 朗太	京都大学・生態研
	○ 若松 伸彦	東京農大・地域環境
P2-049	○ 若山 睦月	宇都宮大学農学部
	鷺谷 いづみ	東京大学農学生命科学
P1-162	和田 哲	北大院・水産
P1-268	○ 和田 年史	鳥取県博・山陰海岸学習館
P1-207	和田 恵次	奈良女子大学理学部
P3-258	○ 渡辺 勝敏	京大院理
P1-110	渡辺 国広	東大海洋研
P2-055	○ 渡辺 健太郎	千葉大・院・自然科学
	○ 渡辺 信	琉球大学熱生研西表実験所
	○ 渡邊 園子	広島大・国際協力
P1-214	渡邊 大	富山大・院・理
P1-104	渡辺 卓也	龍谷大学理工学研究科
	渡辺 肇	高岡法科大・教養
	○ 渡辺 守	筑波大・院・生命環境
P3-046	渡部 裕美子	筑波大院・環境科学
T19-3	渡邊 陽子	北海道大学北方生物圏七
P3-241	○ 渡邊 俊	東京大学 海洋研究所
P2-218	○ 亘 悠哉	東大・農・生物多様性科学
P3-034	A. T. M. Rafiqul Hoque	Univ. Of the Ryukyus.
G2-04	○ Bainah Sari Dewi	東京農工大学連合大学院
G1-02	Byomkesh Talukder	Hiroshima University
S08-4	○ Campbell Webb	Harvard University
P3-284	Cecilia G. Simoes	Kagoshima University
S08-3	○ Daniel Faith	Australian Museum
P1-262	Desy Ekawati	Kagoshima University
	DUONG VAN NAM	IDEC-Hiroshima University
G2-06	EUTQUIO DE LEON ROTAQUIO, JR.	HIROSHIMA UNIVERSITY
	Fiona Matsushima	Kyoto University
G2-07	○ Gomes P. I. A.	Saitama University
S09-2	○ Han, Sang-Hoon	WILDLIFE INSTITUTE
P1-255	○ Handoko Adi Susanto	Kyushu University
T16-4	Hiroshi Kawai	Kobe University
P2-053	○ Hyojin Lee	Hiroshima Univ.
S08-5	○ John Wiens	Stony Brook University
	○ Joji Muramoto (村本 穰司)	UC Santa Cruz
E1-02	Jusak Daud	AMBL-Kyushu Universty
P1-074	Kangkuso Analuddin	University of the Ryukyus
G1-01	Karuniawan Puji Wicaksono	Hiroshima University
S12-3	○ Kuhlemeier, Cris	Inst. Plant Sciences
G2-09	Lei Thomas	龍谷大学
P3-274	Lixin Wang	IDEC
G1-13	○ Lucero MARIANI	Yokohama Nat. Univ.
P1-270	Iuchman hakim	IDEC
S02-2	○ Maja Schlueter	Centre for Env. Research

発表	懇 名 前	所 属
S08-6	○ Michael Donoghue	Yale University
P3-019	Muller Onno	Tohoku University
P2-047	Nguyen Van Quang	Hiroshima University
P3-303	Nguyen Vu Tiep	IDEC
G2-11	Oguntimhin Ilombayo Ifedayo	University
S10-2	○ Stave Gliessman	UC Santa Cruz
G2-08	Tohru Nakajima	The University of Tokyo
P2-101	○ Tsimihole Tovondrafale	Kyushu Univ.
S02-3	○ Wolfgang Haider	Simon Fraser University
P2-171	○ Yaya Rayadin	Hokkaido University
P2-042	Yun Pan	Hiroshima University

(2007年12月11日現在)

## 第 56 回日本生態学会大会（2009 年 3 月 盛岡）のご案内

2009 年の第 56 回日本生態学会大会は、盛岡で開催されることになりました。1995 年 8 月の第 42 回大会以来、14 年ぶりの開催となります。この間の学会活動の変わりようは目を見張るばかりです。参加者総数の大幅な増加はもとより、ポスター講演が圧倒的多数を占め、集会も多彩で、数も多くなっております。参加の方々に十分な活動時間とスペースを保障すべく、精一杯努力したいと思っております。そんな中で、東北らしい企画も考えていく所存です。主会場は盛岡市近郊の岩手県立大学、キャンパスは緑ゆたかで、快適です。

3 月はまだ雪の心配がありますが、東北地区会（青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島）あげて、ご来盛をお待ちしております。

賢治、啄木、岩手山、・・・、冷麺、ジャジャ麺、わんこそば、どんとはれ！

大会会長 由井 正敏

**大会日程**：2009 年 3 月 17 日(火)～3 月 21 日(土)

**主会場**：岩手県立大学

〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-52

**問い合わせ連絡先**：taikai@mail.esj.ne.jp

